

Tivoli System Automation for Multiplatforms
4.1.0.7

リファレンス・ガイド



お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[277 ページの『特記事項』](#)に記載されている情報をお読みください。

「*System Automation for Multiplatforms* リファレンス・ガイド」のこの版は、IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms バージョン 4 リリース 1 モディフィケーション 0、プログラム番号 5724-M00、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本書は、SA88-7251-04 の改訂版です。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典：

SC34-2700-05
Tivoli System Automation for Multiplatforms 4.1.0.6
Reference Guide

発行：

日本アイ・ビー・エム株式会社

担当：

トランスレーション・サービス・センター

© Copyright International Business Machines Corporation 2006, 2021.

目次

| | |
|---|-------------|
| 図..... | vii |
| 表..... | ix |
| 本書について..... | xi |
| 本書の対象読者..... | xi |
| 詳細情報の参照先..... | xi |
| 表記規則..... | xi |
| ISO 9000..... | xii |
| RSCT 関連情報..... | xii |
| 資料の入手方法..... | xii |
| 連絡先電子メール・アドレス..... | xii |
| このリリースの新機能..... | xiii |
| 第 1 章トラブルシューティングおよびサポート..... | 1 |
| トラブルシューティング..... | 1 |
| 自動化の働き方..... | 1 |
| トラブルシューティング情報の入手方法..... | 3 |
| エラー分析..... | 12 |
| 問題分析..... | 16 |
| クラスターをセットアップできない..... | 22 |
| ノードの破損後にリモート・ノードが共用ディスクにアクセスできない..... | 22 |
| 問題の報告..... | 22 |
| 既知の問題と制限..... | 22 |
| 一般的な誤りとユーザー・エラー..... | 23 |
| Offline 状態であるドメインの ManualMode を使用可能または使用不可にする方法..... | 24 |
| リソース検証中のリモート・リソース・マネージャーの応答時間を改善する方法..... | 24 |
| SAP 高可用性ソリューションのトラブルシューティング..... | 25 |
| SAP Central Services 高可用性ポリシーのアクティブ化時に有効なライセンスを使用できない..... | 25 |
| Oracle 高可用性ポリシーのトラブルシューティング..... | 25 |
| Oracle データベース・リスナーが開始されない..... | 25 |
| Oracle データベース・プロセスが不明としてモニターされる..... | 26 |
| NFS タイ・ブレイカーのトラブルシューティング..... | 27 |
| Linux の NFS タイ・ブレイカー..... | 27 |
| AIX の NFS タイ・ブレイカー..... | 27 |
| IBM Support Assistant の使用..... | 27 |
| IBM Support Assistant および Tivoli System Automation for Multiplatforms プラグインのイン ストール..... | 27 |
| 第 2 章リファレンス..... | 29 |
| コマンド・リファレンス..... | 29 |
| RSCT RMC コマンドおよびファイル..... | 30 |
| 環境変数の設定..... | 31 |
| addrgmbr..... | 32 |
| cfgsamadapter..... | 35 |
| chequ..... | 37 |
| chrel..... | 40 |
| chrg..... | 46 |

| | |
|-------------------------------|-----|
| chrgmbr..... | 48 |
| installSAM..... | 52 |
| lsequ..... | 54 |
| lsrel | 57 |
| lsrg | 62 |
| lsrgreq..... | 67 |
| lssam..... | 70 |
| lssamctrl..... | 74 |
| mkequ..... | 76 |
| mkrel..... | 80 |
| mkrq..... | 84 |
| pidmon..... | 87 |
| prereqSAM..... | 89 |
| rgmbrreq..... | 90 |
| rgreq..... | 93 |
| rmequ..... | 96 |
| rmrel..... | 97 |
| rmrg..... | 101 |
| rmrgmbr..... | 103 |
| samadapter..... | 106 |
| samcc..... | 107 |
| samctrl..... | 111 |
| samdiag..... | 114 |
| samlicm..... | 116 |
| samlog | 118 |
| sampolicy..... | 122 |
| samsimul..... | 125 |
| samwhy..... | 127 |
| setupAdapterNonRoot..... | 128 |
| samnonrootuser | 131 |
| uninstallSAM..... | 132 |
| 式の使用..... | 133 |
| ポリシー XML リファレンス..... | 141 |
| XML 特殊文字..... | 143 |
| AutomationPolicyTemplate..... | 143 |
| var..... | 144 |
| include | 145 |
| AutomationPolicy..... | 145 |
| PolicyInformation..... | 146 |
| ControlInformation..... | 147 |
| リソース..... | 148 |
| グループの移動..... | 148 |
| ConcurrentGroup..... | 149 |
| ConstituentResource..... | 150 |
| リソース・グループ..... | 151 |
| 関係..... | 152 |
| 同値..... | 154 |
| ResourceReference..... | 155 |
| IBM.AgFileSystem..... | 156 |
| IBM.Application..... | 157 |
| IBM.ServiceIP..... | 159 |
| IBM.Test..... | 160 |
| IBM.TieBreaker..... | 160 |
| Members..... | 162 |
| 説明..... | 163 |
| Owner..... | 163 |
| InfoLink..... | 163 |
| XML ポリシーの例..... | 164 |

| | |
|--|------------|
| 第 3 章メッセージ | 167 |
| System Automation for Multiplatforms メッセージ..... | 167 |
| sampolicy のメッセージ..... | 219 |
| エンドツーエンド自動化アダプターのメッセージ..... | 242 |
| 高可用性ポリシーのメッセージ..... | 253 |
| Extended Disaster Recovery (xDR) フィーチャーのメッセージ..... | 261 |
| アダプター・メッセージ..... | 261 |
| IBM Support Assistant の使用 | 275 |
| IBM Support Assistant および Tivoli System Automation for Multiplatforms プラグインのインストール | 275 |
| 特記事項 | 277 |
| 商標..... | 278 |
| 索引 | 279 |



| | |
|-----------------------------------|-----|
| 1. このガイドで使用するシンボル | xii |
| 2. WebServerGroup リソース・グループ | 164 |

表

| | |
|--|-----|
| 1. 本書の強調表示の規則..... | xi |
| 2. System Automation for Multiplatforms コマンド | 29 |
| 3. スtring内で使用できる演算子 | 136 |
| 4. 演算子を使用するときのデフォルトの優先順位のルール | 139 |
| 5. XML ファイルでの式の指定..... | 141 |
| 6. 製品バージョン別 XML エレメントの使用可能性 | 142 |
| 7. XML 特殊文字..... | 143 |

本書について

本書では、IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms (System Automation for Multiplatforms) が提供するポリシー・ベースの自動リカバリー機能を実装および使用方法について説明します。

System Automation for Multiplatforms を使用すると、AIX® クラスタ (IBM® System p 上)、Linux® クラスタ (IBM System x、System z®、System i®、System p 上)、および Windows クラスタ (IBM System x 上) のリソースの可用性が高くなります。

本書の対象読者

本ガイドは、System Automation for Multiplatforms の自動化機能およびフェイルオーバー機能を使用する必要があるシステム管理者およびオペレーターを対象としています。

詳細情報の参照先

Tivoli System Automation ライブラリーは、本書 (Tivoli System Automation for Multiplatforms について説明しています) を含め、以下の資料から構成されています。

- *System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイド (SA88-7250-01)
- *Tivoli System Automation for Multiplatforms* インストールと構成のガイド (SA88-7249-01)
- *Tivoli System Automation for Multiplatforms* リファレンス・ガイド (SA88-7251-01)
- *Tivoli System Automation for Multiplatforms* 高可用性ポリシー・ガイド (SA88-7252-01)

資料一式を、次のサイトからダウンロードできます。

<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSRM2X/welcome>

Tivoli System Automation ライブラリーには、System Automation Application Manager について説明する以下の資料が用意されています (本書も含まれています)。

- *System Automation Application Manager Administrator's and User's Guide* (SC34-2701-00)
- *System Automation Application Manager Installation and Configuration Guide*、SC34-2702-00
- *System Automation Application Manager Reference and Problem Determination Guide*、SC34-2703-00

これらの資料は、以下のページからダウンロードすることができます。

<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSPQ7D/welcome>

IBM Tivoli System Automation ホーム・ページには、サポート・リンクおよび保守パッケージのダウンロードなど、役に立つ最新情報が記載されています。IBM Tivoli System Automation のホーム・ページは以下からアクセスできます。

www.ibm.com/software/tivoli/products/sys-auto-multi/

表記規則

本書では、以下の強調表示の規則を使用しています。

| 表 1. 本書の強調表示の規則 | |
|-----------------|--|
| 太字 | コマンド、サブルーチン、キーワード、ファイル、構造体、ディレクトリー、およびシステムによって名前が事前に定義されているその他の項目を示します。また、ユーザーが選択するボタン、ラベル、およびアイコンなどのグラフィカル・オブジェクトも示します。 |

| 表 1. 本書の強調表示の規則 (続き) | |
|----------------------|--|
| イタリック | ユーザーが指定する実際の名前または値のパラメーターを示します。 |
| モノスペース | 具体的なデータ値の例、画面に表示されるものと同様のテキスト例、プログラマーが作成するものと同様のプログラム・コードの一部の例、システムからのメッセージ、または実際に入力する必要がある 情報を示します。 |

本資料では、リソース、リソース・グループ、同値、および関係を示すためにシンボルを使用します。使用するシンボルは以下のとおりです。

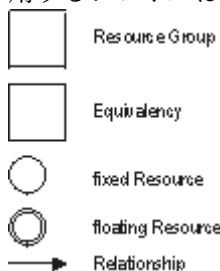


図 1. このガイドで使用するシンボル

ISO 9000

本製品の開発および製造において、ISO 9000 審査登録済みの品質システムが使用されました。

RSCT 関連情報

以下の IBM Reliable Scalable Cluster Technology (RSCT) の資料は System Automation for Multiplatforms CD として入手できます。

- RSCT 管理ガイド
- RSCT for AIX 5L: テクニカル・リファレンス
- RSCT for Multiplatforms: テクニカル・リファレンス
- RSCT メッセージ
- RSCT Diagnosis Guide

RSCT について詳しくは、『[IBM Cluster systems](#)』を参照してください。

詳しくは、『[Linux on IBM zSeries and S/390®: High Availability for z/VM® and Linux](#)』 IBM Redpaper を参照してください。

資料の入手方法

System Automation for Multiplatforms の資料は、以下の Web サイトでも入手可能です (リリース時点で有効)。

www.ibm.com/servers/eserver/clusters/library/
www.ibm.com/servers/eserver/zseries/software/sa/
www.ibm.com/software/sysmgmt/products/support/

連絡先電子メール・アドレス

以下は英語のみの対応となります。電子メールでのご連絡を希望される場合は、eservdoc@de.ibm.com までコメントをお寄せください。

このリリースの新機能

System Automation for Multiplatforms バージョン 4.1.0 の新機能について概説します。

新規 **samcc** コマンドによるコマンド行での操作の向上

System Automation for Multiplatforms バージョン 4.1.0.2 には新規コマンド **samcc** が追加されました。このコマンドをコマンド行インターフェースでの操作コンソールとして使用できます。詳しくは、「」を参照してください。

追加プラットフォーム・サポート

System Automation for Multiplatforms バージョン 4.1.0.1 では以下の新規プラットフォームをサポートします。

- SUSE SLES 12 (64 ビット)
- Red Hat RHEL 7 (64 ビット)
- Ubuntu 14.04 (64 ビット): System x、Power Systems (リトル・エンディアンのみ)

System Automation for Multiplatforms バージョン 4.1.0.2 では以下の新規プラットフォームをサポートします。

- Red Hat RHEL 7.1 on Power Systems Little Endian (64 ビット)

System Automation for Multiplatforms バージョン 4.1.0.3 では以下の新規プラットフォームをサポートします。

- AIX 7.2

System Automation for Multiplatforms バージョン 4.1.0.4 では以下の新規プラットフォームをサポートします。

- Ubuntu 16.04 (64 ビット): System x、Power Systems (リトル・エンディアンのみ)。

詳しくは、「*System Automation for Multiplatforms* インストールと構成のガイド」を参照してください。

System Automation for Multiplatforms バージョン 4.1.0.5 では以下の新規プラットフォームをサポートします。

- SUSE SLES 15 (64 ビット)
- Ubuntu 18.04 (64 ビット): System x、Power Systems (リトル・エンディアンのみ)。

System Automation for Multiplatforms バージョン 4.1.0.5 では以下のサポートが追加されました。

- SAP Netweaver 7.5.3 ENSA2

System Automation for Multiplatforms バージョン 4.1.0.6 では以下の新規プラットフォームをサポートします。

- Red Hat RHEL 8 (64 ビット)
- Ubuntu 20.04 (64 ビット): System x、Power Systems (リトル・エンディアンのみ)

System Automation for Multiplatforms バージョン 4.1.0.6 では以下のサポートが追加されました。

- S/4HANA 1809 の SAP NetWeaver サポートの追加
- S/4HANA 1909 の SAP NetWeaver サポートの追加
- Oracle 19c のサポートの追加
- SAP HANA 2.0 SPS 04 リビジョン 046 のサポートの追加

System Automation for Multiplatforms バージョン 4.1.0.7 では次の新規プラットフォームがサポートされます。

- AIX 7.2 TL5

System Automation for Multiplatforms バージョン 4.1.0.7 では次のサポートが追加されました。

- S/4HANA 2020 の SAP NetWeaver サポートの追加
- SAP HANA 2.0 SPS 05 リビジョン 050 のサポートの追加

SAP の高可用性ポリシーの改善

SAP Central Services 高可用性ポリシーは、別個に課金される System Automation for Multiplatforms のオプション・フィーチャーとして使用可能です。この SAP Central Services 高可用性ポリシーが、SAP Netweaver テクノロジーに適応するようになりました。

ユーザーは、システム自動化ポリシーに干渉することなく、SAP ユーザー・インターフェースを使用して SAP Netweaver スタックの開始と停止を実行することができます。SAP Software Update Manager では、更新プロセス中にシステム自動化を使用不可にすることなく、Netweaver ソリューションを更新できます。

サポートされる SAP 構成オプションは、SAP Central Services のフェイルオーバーの Java、ABAP、および DUAL スタック・サポートです。また、以下の構成オプションもサポートされます。

- アプリケーション・サーバー (主要アプリケーション・サーバーと追加のアプリケーション・サーバーの代わりに再始動)
- SAProuter のフェイルオーバー
- SAP Web ディスパッチャーのフェイルオーバー
- データベースに対する依存関係サポートを行ってからの始動

System Automation for Multiplatforms バージョン 4.1.0.2 では以下のサポートが追加されました。

- SAP HANA System Replication フェイルオーバー

サポートされる SAP カーネルのバージョンは 7.20 以上です。

詳しくは、「*System Automation for Multiplatforms* 高可用性ポリシー・ガイド」を参照してください。

アプリケーション障害に関する情報の収集

samwhy プログラムは、System Automation で制御されているアプリケーションに関してアプリケーション障害の検出とその障害の分析ができるようになっている、使いやすい簡易ツールです。samwhy は、発生した事象についてオペレーターが把握するのを支援し、それに対する System Automation の対応の仕方について理由を明らかにするものです。

詳しくは、「*System Automation for Multiplatforms* リファレンス・ガイド」を参照してください。

エンドツーエンド自動化アダプターの高可用性の単純化

追加の自動化ポリシーおよび仮想 IP アドレスが不要になっています。

詳しくは、「*System Automation for Multiplatforms* インストールと構成のガイド」を参照してください。

非 root ユーザーでのエンドツーエンド自動化アダプターの実行

デフォルトでは、エンドツーエンド自動化アダプターは root ユーザーで実行されます。このリリースでは、非 root ユーザーで実行されるようにアダプターをセットアップすることもできるようになりました。

詳しくは、「*System Automation for Multiplatforms* インストールと構成のガイド」を参照してください。

第1章 トラブルシューティングおよびサポート

System Automation for Multiplatforms のトラブルシューティングおよびサポートの情報では、問題の理解、切り分け、および解決を支援します。

トラブルシューティングおよびサポートの情報では、IBM® 製品に付属する 問題判別リソースの使用について説明します。自力で問題を解決するために、問題の原因を特定する方法、診断情報の収集方法、フィックスの入手方法、および検索する知識ベースについて説明します。IBM サポートに問い合わせる必要がある場合は、問題への対処を支援するためにサービス技術員が必要とする診断情報を確認することができます。

トラブルシューティング

このセクションでは、次のトピックを扱います。

- [1 ページの『自動化の働き方』](#)

このトピックは、System Automation の重要な概念の要約です。

- [3 ページの『トラブルシューティング情報の入手方法』](#)

このトピックを使用して、自動化グループおよびリソース・グループに関する情報の収集方法を学習します。

- [12 ページの『エラー分析』](#)

このトピックで説明するエラーのシナリオを使用して、System Automation によって報告されるエラーの理解、特定、ならびに解決の方法を学習します。以下のエラーについて説明します。

- [12 ページの『リソースの OpState が「オフラインに失敗」である』](#)
- [13 ページの『リソース・グループの OpState が「オフラインに失敗」である』](#)
- [14 ページの『リソースの OpState が「オンライン中」である』](#)
- [14 ページの『タイムアウト・メッセージがシステム・ログ内で検出』](#)

- [16 ページの『問題分析』](#)

このトピックで説明する問題のシナリオを使用して、一般的にはエラー・メッセージによって示されない System Automation に関連する問題を効果的にトラブルシューティングします。以下の問題について説明します。

- [16 ページの『リソースが開始しない』](#)
- [18 ページの『リソース・グループが開始しない』](#)
- [18 ページの『リソースが停止しない』](#)
- [19 ページの『リソース・グループが停止しない』](#)
- [19 ページの『リソースに対する開始/停止要求で、StartCommand または StopCommand が実行されない』](#)
- [20 ページの『ノードの除外後フェイルオーバーが発生しない』](#)
- [20 ページの『ノードの破損またはリブート後フェイルオーバーが発生しない』](#)
- [21 ページの『開始制御操作のタイムアウト後にリセットされない』](#)
- [22 ページの『その他の問題』](#)

自動化の働き方

このトピックは、System Automation の重要な概念の要約です。詳細は、System Automation for Multiplatforms 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

自動化マネージャー

自動化マネージャーは、バインド・プログラムと論理デッキから構成されます。

バインド・プログラム

バインド・プログラムがリソース・グループのメンバーの所属先を検索するのは、リソース・グループを開始するとき、または以前稼働していたノードが破損していたかリブートされるために別ノードで開始する必要があるときです。対応するタスクは、いわゆるバインディング・ステップで、そのタスクの結果はリソースの `BindingState` に反映されます。

以下のリソースの `BindingStates` があります。

Unbound

リソースは結合されず、したがって、`Offline` です。System Automation for Multiplatforms は、リソースの配置の検索をまだ試みていません。

Bound

リソースがノードに結合されていて、そのノードで稼働中か、あるいは他のリソースへのすべての依存関係が満たされた後に System Automation for Multiplatforms がそのノードのリソースを開始します。

Sacrificed

System Automation for Multiplatforms は、リソースの配置を検索できません。リソースを開始できるノードがありません。そのため、リソースは System Automation for Multiplatforms によって開始されません。

Sacrificial

リソースはオンラインであり、結合されていますが、より高い優先順位のリソースが未結合になっているため、そのリソースを停止し、未結合にする必要があります。

複数のリソース・グループの配置で競合が発生した場合は、優先度の値が、競合に負けるグループを制御します。つまり、そのグループは配置されず、その結合状態は `Sacrificed` に設定されます。以下の例を確認してください。

2つのノード・クラスターにおいて、リソース・グループ `RG1` にはリソース `R1`、リソース・グループ `RG2` にはリソース `R2` が含まれています。リソース `R1` はリソース `R2` に依存しています。両方が開始されます。次に、`R1` が失敗します。その結果の動作は、リソース・グループの優先順位によって異なります。

- `RG1` および `RG2` が同じ優先順位である場合、`R1` は再始動されません。
- `RG1` の最低優先順位が 21 (かつ `RG2` の優先順位が 0) の場合、`R2` は停止され、`R2` および `R1` は別のノードで開始されます。

論理デッキ

論理デッキは、個々のリソースを「オンライン」または「オフライン」にするための開始および停止順序の送受を受け持ちます。順序を送出する際、論理デッキは、自動化ポリシーで定義されたすべての開始および停止の依存関係が満たされていることを確認します。

重要な内部リソース状態

System Automation for Multiplatforms は、リソースごとの多数の内部状態に関する情報を保持します。

最も重要な内部状態を以下に示します。

DesiredState

System Automation が予期するリソースの状態は、`DesiredState` と呼ばれます。これは、他のリソースからの要求およびポートが考慮される際のリソースのあるべき状態です。`DesiredState` は「オンライン」か「オフライン」のいずれかです。

リソースの `DesiredState` は、リソースを含むリソース・グループの `NominalState` 属性の値と必ずしも同じではありません。なぜなら、リソースに対して実行依頼される要求およびポートの優先順位が `NominalState` より高いためです。要求優先順位について詳しくは、System Automation for Multiplatforms 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

ObservedState

ObservedState は、リソースの実際の状態です。これは、リソースのリソース・マネージャーによって、例えば、クラス IBM.Application のリソースの MonitorCommand を使用してモニターされ、状態変更があれば自動化マネージャーに報告されます。

System Automation の目標は、すべてのリソースの **ObservedState** 値をその **DesiredState** に確実に一致させることです。

状態をテキストで表示するコマンドもあり、別のコマンドおよび監査ログは対応する整数値を表示します。マッピングは以下のとおりです。

- 0 - 不明
- 1 - オンライン
- 2 - オフライン
- 3 - オフラインに失敗
- 4 - オンライン中
- 5 - オンラインの保留中
- 6 - オフラインの保留中
- 8 - 不適格

トラブルシューティング情報の入手方法

デバッグ・データおよびトレース・データの収集

操作の任意の時点で、System Automation for Multiplatforms および RSCT のサブシステムは、デバッグおよびトレース・データをローカル・ディスクのトレース・ファイルに書き込みます。トレース・ファイルは、リング・バッファとして作成され、ファイルが占有するスペース量を制限します。使用可能なスペースが超過すると、トレース・ファイルは上書きされます。リソース数とノード上のアクティビティによっては、これらのファイルに大量のデータを記録し、ファイルに随時上書きできます。

デバッグおよびトレース・データが失われないようにし、IBM サポートに連絡する必要がある場合に、必要なすべての診断情報ができるだけ使用可能になるように、トレース出力を生成する可能性があるすべてのトレース・データを、トラブルシューティング・アクティビティの開始前に収集することをお勧めします。

System Automation for Multiplatforms に表示される getsadata スクリプトを使用して、関係するすべてのトレース・データおよびデバッグ・データを収集します。

getsadata スクリプトは次のディレクトリーにあります。

```
/usr/sbin/rsct/install/bin/getsadata
```

以下のパラメーターはサポートされています。

- すべての収集オプションを含む、すべての最大データ収集を以下にリストします。
- **ctsnap**: getsadata のデフォルト動作です。ctsnap ツールを実行し、その出力を収集します。
- **logs**: ログおよびその他の一般情報を収集します。
- **traces**: すべての IBM.RecoveryRM トレースおよび IBM.GlbResRM トレースをフォーマットし、収集します。
- **spooldays**: traces と同じですが、収集対象は指定した日数 <# of days> に限定されます。
- **spoolmbytes**: traces と同じですが、収集対象はデーモン当たりの最大サイズ (MB 単位) <# of MB> に限定されます。
- **skipspool**: traces と同じですが、スプールされた多数のトレース・ファイルに対する rpttr の実行は行われません。

- **cores:** 存在する可能性のある IBM.RecoveryRM および IBM.GblResRM のすべてのコア・ファイルを収集します。
- **env:** System Automation for Multiplatforms にも RSCT にも関連しないシステム環境情報を収集します。
- **rsct** RSCT 環境の詳細を収集します。
- **sam** IBM.RecoveryRMd が稼働しているかどうかに応じて、System Automation for Multiplatforms ポリシーの詳細を収集します。
- **scripts:** すべてのポリシー・スクリプトおよび sampolicy の出力を収集します
- **install:** すべての installSAM ログおよび prereqSAM ログを /tmp ディレクトリーから収集します。
- **db2:** 可能であれば、db2 関連の詳細を収集します。
- **outdir <path>:** データ収集に使用される場所を指定します。デフォルトは /tmp です。
- **timer <seconds>:** 個別のコマンドの実行を待機するデフォルトの時間制限を指定します。
- **verbose:** 詳細モード。実行するコマンドを stdout にエコー出力します。
- **noprompt:** これにより、このスクリプトは、ユーザー・プロンプトなしで実行される可能性があります。
- **nojava:** Java™ に依存するコマンドが実行されないようにします。
- **ftphelp:** FTP の説明を表示して終了します。

このコマンドは、/tmp ディレクトリー内に圧縮ファイルを作成します。

注: 重要なトレース情報の上書きを回避するために、スクリプト getsadata は常に、RecoveryRM master デーモンを先に実行しているノード上で実行してください。スクリプトが RecoveryRM マスターを実行しているノード上で実行されていない場合、確認のプロンプトが表示されます。

RecoveryRM マスター・デーモンが稼働するノードを検索するには、以下のコマンドを発行します。

```
lssrc -ls IBM.RecoveryRM | grep Master
```

アプリケーション障害に関する情報の収集

samwhy コマンドは、システム自動化によって制御されるアプリケーションのアプリケーション障害を検出および分析する、使いやすい簡易ツールです。

詳細については、System Automation for Multiplatforms 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

情報源としてのシステム・ログの使用

System Automation のすべてのサブシステムおよび RSCT によって生成されるメッセージは、トラブルシューティングおよび問題判別の最初の情報源です。

- **Linux:** メッセージはシステム・ログ (/var/log/messages) に書き込まれます。
- **AIX:** システム・ロガーは、デフォルトでは構成されません。メッセージは、エラー・ログに書き込まれます。

デバッグ・データを入手できるようにするため、ファイル /etc/syslog.conf でシステム・ロガーを構成することをお勧めします。必要な変更を完了した後で、コマンド **refresh -s syslogd** を使用して syslogd をリサイクルする必要があります。ログ・ファイルのロケーションは /etc/syslog.conf に定義されています。

メッセージは、以下のイベントのシステム・ログに記録されています。

- サブシステムの開始。例えば、次のとおりです。

```
Mar 10 13:04:15 node1 RecoveryRM[5482]: (Recorded using libct_ffdc.a cv
2):::Error ID: 824....zgK22/WNI/8cU0B.....:::Reference
ID: :::Template ID: 0:::Details File: :::Location:
```

```
RSCT,IBM.RecoveryRmD.C,1.21.1.2,135      :::RECOVERYRM_INFO_0_ST
IBM.RecoveryRM daemon has started.
```

- サブシステムの停止。例えば、次のとおりです。

```
Mar 10 13:04:28 node1 RecoveryRM[5482]: (Recorded using libct_ffdc.a cv
2)::Error ID: 822...AhK22/osT18cU0B.....::Reference
ID: :::Template ID: 0:::Details File: :::Location:
RSCT,RecoveryRMDaemon.C,1.14,177          :::RECOVERYRM_2621_402_ER
IBM.RecoveryRM daemon stopped by SRC command or exiting due to an error
condition . Error id 0
```

- サブシステムのエラー。例えば、次のとおりです。

```
Mar 10 13:04:14 node1 srcmstr: src_error=-9035, errno=0,
module='srschev.c'@line:'251', 0513-035 The IBM.RecoveryRM Subsystem ended
abnormally. SRC will try and restart it.
```

- サブクラスターの Quorum 状態に関連するメッセージ。例えば、次のとおりです。

```
Mar 9 16:13:07 node1 ConfigRM[31411]: (Recorded using libct_ffdc.a cv
2)::Error ID: :::Reference ID: :::Template ID: 0:::Details
File: :::Location:
RSCT,PeerDomain.C,1.99.11.1,15510        :::CONFIGRM_HASQUORUM_ST The
operational quorum state of the active peer domain has changed to
HAS_QUORUM. In this state, cluster resources may be recovered and
controlled as needed by management applications.
```

- IBM.ServiceIP リソースの開始および停止。例えば、次のとおりです。

```
Mar 8 09:41:08 node1 GblResRM[1886]: (Recorded using libct_ffdc.a cv 2)::Error
ID: :::Reference ID: :::Template ID: 0:::Details File: :::Location:
RSCT,ServiceIP.C,1.2.5,1360              :::GBLRESRM_IPONLINE IBM.ServiceIP
assigned address on device. IBM.ServiceIP 10.67.78.89 eth1:1
```

```
Mar 8 09:42:44 node1 GblResRM[1886]: (Recorded using libct_ffdc.a cv 2)::Error
ID: :::Reference ID: :::Template ID: 0:::Details File: :::Location:
RSCT,ServiceIP.C,1.2.5,1434              :::GBLRESRM_IPOFFLINE
IBM.ServiceIP は、アドレスを除去しました。IBM.ServiceIP 10.67.78.89
```

- クラス IBM.Application のリソースの StartCommand、StopCommand、または MonitorCommand はタイムアウトになります。例えば、次のとおりです。

```
Mar 13 10:25:55 node1 GblResRM[24275]: (Recorded using libct_ffdc.a cv
2)::Error ID: :::Reference ID: :::Template ID: 0:::Details File: :::Location:
RSCT,Application.C,1.2.1,2434            :::GBLRESRM_MONITOR_TIMEOUT
IBM.Application のモニター・コマンドがタイムアウトになりました。Resource name resource1
```

ヒント: デフォルトでログに記録されるデータに加えて、IBM.Application リソースの StartCommand および StopCommand の実行を特定のロケーションに記録することをお勧めします。

System Automation 用の既製のポリシーが備えるスクリプトは、デフォルトでは、リソースの StartCommand および StopCommand のすべての実行をシステム・ログに記録します。以下の出力例で、リソースが NFS サーバー用の既製のポリシーの StartCommand から開始される際に、システム・ログに書き込まれるデータを示します。

```
Mar 13 10:34:31 node1 /usr/sbin/rsct/sapolicies/nfssserver/nfssserverctrl-
server:[27230]: NFS server started
```

情報源としての監査ログの使用

IBM.RecoveryRM マスター・デーモン監査ログ

IBM.RecoveryRM マスター・デーモンは、すべての要求、要求に対するエラー応答、現行ポリシーに関する重要情報、バインディングの問題、およびリソースの OpState の変更を記録する監査ログを保守します。現行 RecoveryRM マスターの前日の監査ログを表示するには、ドメインの任意のノードで次の samlog コマンドを入力します。

```
samlog -n <master node name> -s R -i
```

ドメインの全ノードについてマージされた IBM.RecoveryRM 監査ログを表示するには、次のように入力します。

```
samlog -s R
```

samlog コマンドについて詳しくは、「System Automation for Multiplatforms リファレンス・ガイド」を参照してください。

例:

以下の例は、次の 4 つのイベントの監査ログに表示される 4 つのレコードを示しています。

- オペレーターがリソース・グループ「A」に対する開始要求を発行した。
- これによって、そのメンバー・リソース「RA」に対する開始要求が影響を受けた。
- 停止要求がリソース・グループ「A」に対して発行された。
- これによって、そのメンバー・リソース「RA」に対する停止要求が影響を受けた。
- リソース „RA“ の OpState の変更。

```
12:16:20.168613 T(1096711088) _RCD Online request injected: A/ResGroup/IBM.ResourceGroup
12:16:20.181285 T(1096711088) _RCD Online Request against RA on node saxb02
12:16:35.722675 T(1096711088) _RCD Offline request injected: A/ResGroup/IBM.ResourceGroup
12:16:35.727970 T(1096711088) _RCD Offline Request against RA on node saxb02
12:16:37.264652 T(1096711088) _RCD ReportState: Resource : RA/Fixed/IBM.Application/saxb02
reported state change: 2
```

GblResRM デーモン監査ログ

すべてのノードで、GblResRM デーモンは、開始コマンド、停止コマンド、またはリソースのリセット操作の実行、ServiceIP リソースのすべての開始または停止、およびリソースのすべての OpState の変更を記録する、監査ログを保守します。特定のノードについて前日のそのような監査ログを表示するには、ドメインの任意のノードで次の samlog コマンドを入力します。

```
samlog -n <node name> -s G -r
```

samlog コマンドについて詳しくは、「System Automation for Multiplatforms リファレンス・ガイド」を参照してください。

例:

以下の例は、リソース appfloata および IBM.ServiceIP リソース ip が停止したときに監査ログに表示されるレコードを示しています。

```
12:51:08.864796 T(4152898784) _GBD Taking application resource offline: Name=appfloata
Handle=0x6028 0xffff 0xff2f99d1 0x13fbb275 0x1046ca5c 0x98691b60
12:51:10.877355 T(4152603872) _GBD Stop command for application resource "appfloata"
(handle 0x6028 0xffff 0xff2f99d1 0x13fbb275 0x1046ca5c 0x98691b60)
succeeded with exit code 0
12:51:12.888128 T(4150719712) _GBD Monitor detect OpState change for resource Name=appfloata
OldOpState=6 NewOpState=2
Handle=0x6028 0xffff 0xff2f99d1 0x13fbb275 0x1046ca5c 0x98691b60
12:51:12.961970 T(4152898784) _GBD Resource "ip"
(handle 0x6029 0xffff 0xff2f99d1 0x13fbb275 0x1046ca62 0x544260f8):
IP address 10.47.77.97 has been successfully taken offline
on network interface "eth0:0"
12:51:12.962272 T(4152898784) _GBD Monitor reports: No network device flagged UP
with IP address 10.47.77.97.
Taking resource "ip" (handle 0x6029 0xffff 0xff2f99d1
0x13fbb275 0x1046ca62 0x544260f8) offline.
```

稼働中リソース・マネージャーからのスタック・ダンプの取り出し

System x または System z 上の Linux および AIX 5.3 以上の稼働中リソース・マネージャーから、スタック・ダンプを作成できます。現在稼働中の IBM.RecoveryRM または IBM.GblResRM のスタック・ダンプを取得するには、以下のようにします。

1. PID を取得します。以下を入力します。

```
ps -ef | grep RMD
```

または

```
lssrc -l -s <resource manager>
```

2. 次のように入力して、リソース・マネージャー・プロセスに SIGUSR1 シグナルを送信します。

```
kill -SIGUSR1 <pid>
```

3. リソース・マネージャーは、スレッドごとに `stackdump_<resource manager>_tid_-<thread ID>.xml` というスタック・ダンプ・ファイルを作成し、そのファイルをデフォルトの実行ディレクトリーである `/var/ct/<domain>/run/mc/<resource manager>` に格納します。スタック・ダンプ・ファイルは、リソース・マネージャーの実行状態に関する情報を含んでいる XML ファイルです。このファイルは、IBM サポートによって使用されます。

コマンド・ヒストリーの使用

ファイル `/var/ct/IBM.RecoveryRM.log` は、IBM Tivoli® System Automation のコマンド・ヒストリーを記録するために使用されます。このファイルには、ノードでローカルに実行されたすべての System Automation コマンドの項目が含まれています。

例:

```
User root invoked "chrg -o Online samadapter-rg on Thu Mar 1 16:51:53 CET 2007  
User root invoked "chrg -o Offline samadapter-rg on Thu Mar 1 17:00:14 CET 2007  
User root invoked "chrg -o Online samadapter-rg on Thu Mar 1 17:00:20 CET 2007
```

コマンドを使用した情報収集

システム・ログにある情報では問題の解決に不十分な場合は、このセクションで説明するコマンドを使用して、リソースおよびリソース・グループに関する詳細情報を入手します。最善の結果を得るには、コマンドの呼び出しをそのリスト順に行う必要があります。コマンドの詳細については、*System Automation for Multiplatforms* リファレンス・ガイドを参照してください。

リソースおよびリソース・グループに関する情報を収集する場合は、次のコマンドを使用できます。

lssam -V

`lssam` コマンドは、ノード単位の管理対象リソースの動作状態に関する要約情報を表示します。このコマンドは、リソースまたはリソース・グループに対して出された除外またはオフライン・ノードおよび要求に関する追加情報を提供します。

オプション `-V` を指定すると、以下の情報が表示されます。

- 関係とリソースの詳細。例えば、`IBM.ServiceIP` リソースの `IPAddress` や、`IBM.AgFileSystem` リソースのマウント・ポイントです。
- リソースのより詳細な状態。例えば、問題のある値またはデフォルト以外の値が設定された場合の、リソースまたはリソース・グループの `BindingState` や `ControlState` など。
- System Automation の機能しないサブシステムに関するエラー・メッセージや、ユーザーがコマンドを実行するための十分な権限を持っていない状況におけるエラー・メッセージ。

例:

この例では、リソース「`app1`」がメンバーであるリソース・グループ「`rg1`」の公称状態が「オンライン」であるのに、そのリソースがオフラインである理由を調べるのに、`lssam` コマンドが使用されました。

```
node1:~ # lssam  
Online IBM.ResourceGroup:rg1 Nominal=Online  
  |- Online IBM.ServiceIP:ip1  
    |- Online IBM.ServiceIP:ip1:node1  
    '- Offline IBM.ServiceIP:ip1:node2 Node=Excluded  
  '- Offline IBM.Application:app1 Request=Offline
```

```

|- Offline IBM.Application:app1:node1
|- Offline IBM.Application:app1:node2 Node=Excluded
Offline IBM.ResourceGroup:rg2 Nominal=Offline
|- Offline IBM.Application:app2
|- Offline IBM.Application:app2:node2 Node=Excluded

```

この出力は、リソース・グループ「rg1」の名目状態が「オンライン」(Nominal=Online)であるのに、「app1」がオフラインである理由を示します。

- ノード「node2」は除外ノード (Node=Excluded) のリスト内にあり、これが「app1」を含むノード上のすべてのリソースがオフラインである理由です。
- 「app1」(Request=Offline) に対して「オフライン」要求が出されたことは、これもノード「node1」でオフラインである理由の説明です。

注: 最重要情報は、出力内で色付きで強調表示されます。

オプション -V を使用すると、リソース間の関係などのより詳細な情報も表示されます。例えば、以下のようになります。

```

node1:~ # lssam -V
Online IBM.ResourceGroup:rg1 Nominal=Online
|- Online IBM.AgFileSystem:fs1 MNT=/fs1
|- Online IBM.AgFileSystem:fs1:node1
|- Offline IBM.AgFileSystem:fs1:node2
|- Online IBM.Application:app1
|- Online IBM.Application:app1:node1
|- Offline IBM.Application:app1:node2
Online IBM.ResourceGroup:rg2 Nominal=Offline
|- Online IBM.ResourceGroup:rg3 Nominal=Offline
|- Online IBM.Application:app3
|- Offline IBM.Application:app3:node1
|- Online IBM.Application:app3:node2
|- Online IBM.Application:fs3
|- Offline IBM.Application:fs3:node1
|- Online IBM.Application:fs3:node2
|- Online IBM.ResourceGroup:rg4 Nominal=Offline
|- Online IBM.ResourceGroup:rg5 Nominal=Offline
|- Online IBM.AgFileSystem:fs5 MNT=/fs5
|- Offline IBM.AgFileSystem:fs5:node1
|- Online IBM.AgFileSystem:fs5:node2
|- Online IBM.Application:app5
|- Offline IBM.Application:app5:node1
|- Online IBM.Application:app5:node2
|- Online IBM.ResourceGroup:rg6 Nominal=Offline
|- Online IBM.Application:app6
|- Offline IBM.Application:app6:node1
|- Online IBM.Application:app6:node2
|- Online IBM.ServiceIP:ip1 IP=10.1.1.23
|- Offline IBM.ServiceIP:ip1:node1
|- Online IBM.ServiceIP:ip1:node2
Online IBM.Equivalency:niequ
|- Online IBM.NetworkInterface:eth0:node1
|- Online IBM.NetworkInterface:eth0:node2

```

lsrg -Ab -V -g <resource-group-name>

lsrg -Ab コマンドは、自動化ポリシーに定義されたリソース・グループに関するすべての情報を表示します。DesiredState、ObservedState および BindingState を含む、最も重要な自動化の詳細も表示するには、-V オプションを追加します。出力を分析する際、ConfigValidity 属性の値が構成問題を示しているか確認します。ConfigValidity 属性の詳細については、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

以下の例で、「オフライン」であるリソース・グループの場合に表示される情報を示します。

```

node1:~ # lsrg -Ab -V -g rg1
Starting to list resource group information.

Displaying Resource Group information:
All Attributes
For Resource Group "rg1".

Resource Group 1:
  Name           = rg1
  MemberLocation = Collocated

```

```

Priority = 0
AllowedNode = ALL
NominalState = Offline
ExcludedList = {}
Subscription = {}
Owner =
Description =
Instruction =
ActivePeerDomain = domain1
OpState = Offline
TopGroup = rg1
MoveStatus = [None]
ConfigValidity =
AutomationDetails[CompoundState] = Satisfactory
                  [DesiredState] = Offline
                  [ObservedState] = Offline
                  [BindingState] = Unbound
                  [AutomationState] = Internal
                  [StartableState] = Yes
                  [HealthState] = Not Applicable

```

以下の例で、「オンライン」であるリソース・グループの場合に表示される情報を示します。

```

node1:~ # lsrg -Ab -V -g rg1
Starting to list resource group information.

```

```

Displaying Resource Group information:
All Attributes
For Resource Group "rg1".

```

```

Resource Group 1:
Name = rg1
MemberLocation = Collocated
Priority = 0
AllowedNode = ALL
NominalState = Online
ExcludedList = {}
Subscription = {}
Owner =
Description =
Instruction =
ActivePeerDomain = domain1
OpState = Online
TopGroup = rg1
MoveStatus = [None]
ConfigValidity =
AutomationDetails[CompoundState] = Satisfactory
                  [DesiredState] = Online
                  [ObservedState] = Online
                  [BindingState] = Bound
                  [AutomationState] = Internal
                  [StartableState] = Yes
                  [HealthState] = Not Applicable

```

lsrg -m

このコマンドは、すべての管理対象リソースの動作状態および必須リソース・メンバー対非必須リソース・メンバーを表示します。

例:

```

node1:~ # lsrg -m

Displaying Member Resource information:
Class:Resource:Node[ManagedResource] Mandatory MemberOf OpState WinSource Location
IBM.ServiceIP:ip1 True rg1 Online Nominal node1
IBM.Application:app1 True rg1 Online Nominal node1
IBM.Application:app2 True rg2 Offline

```

lssamctrl

コマンド **lssamctrl** は、グローバル自動化パラメーターを表示します。例えば、自動化が現在有効かどうか、除外ノードのリスト、RetryCount などです。RetryCount は、リソースが最初の試みで開始しないときの StartCommand の最大再試行回数を指定します。

例:

```
node1:~ # lssamctrl
Displaying SAM Control information:

SAMControl:
TimeOut = 60
RetryCount = 3
Automation = Auto
ExcludedNodes = {}
  ResourceRestartTimeOut = 5
ActiveVersion = [4.1.0.0,Thu Apr 24 11:10:58 METDST 2014]
EnablePublisher = Disabled
TraceLevel = 31
ActivePolicy = []
```

lsrgreq -L コマンドは、リソース・グループに対して出されたすべての要求をリストします。この種の要求は、**rgreq** コマンドを使用してコマンド行から直接出される場合もあれば、**System Automation Application Manager** エンドツーエンド自動化マネージャーによって暗黙に出される場合もあります。後者の場合、要求の「ソース」は「自動化」です。

例:

```
node1:~ # lsrgreq -L

Displaying Resource Group request information:
All request information
ResourceGroup Priority Action Source NodeList Active UserID MoveStatus
rg1 low Start Operator {} Active None
```

このコマンドが **-m** オプションを指定して実行されると、リソース・グループ・メンバーに対するすべての要求が表示されます。

例:

```
node1:~ # lsrgreq -L -m

Displaying Member Resource request information:
All request information

Member Resource 1:
Class:Resource:Node[ManagedResource] = IBM.Application:app1
Priority = low
Action = Start
Source = Operator
ActiveStatus = Active
UserID =
```

lsequ -Ab コマンドは、自動化ポリシーで定義された「同値」タイプのすべてのリソースを表示する場合に使用されます。一般的に、同値は、タイプ **IBM.ServiceIP** のリソースが使用できるネットワーク・インターフェースを定義する場合に使用されます。

コマンドの出力を分析するときは、**ConfigValidity** 属性の値が構成問題を示しているか、必ず確認してください (**ConfigValidity** 属性について詳しくは、**System Automation for Multiplatforms** 管理者とユーザーのガイドを参照)。

例:

```
node1:~ # lsequ -Ab
Displaying Equivalency information:
All Attributes

Equivalency 1:
Name = eq1
MemberClass = IBM.NetworkInterface
Resource:Node[Membership] = {eth0:node1,eth0:node2}
SelectString = ""
SelectFromPolicy = ANY
MinimumNecessary = 1
Subscription[Consumer,...] = {[EEZ,All,None]}
ActivePeerDomain = domain1
Resource:Node[ValidSelectResources] = {eth0:node1,eth0:node2}
Resource:Node[InvalidResources] = {}
```



```
ConfigValidity =  
AutomationDetails[CompoundState] = Undefined
```

特に動的 SelectString が使用される際は、属性 Resource:Node[ValidSelectResources] にリソースが含まれている必要があります。次に、有効なリソースの OpState を調べる必要があります。

```
# lsrsrc IBM.<MemberClass-attribute-value> Name NodeNameList OpState
```

lsrgreq -L {-m}

lsrel -Ab

lsrel -Ab コマンドは、自動化ポリシーで定義されたすべての関係を表示する場合に使用されます。

例:

```
node1:~ # lsrel -Ab  
Displaying Managed Relationship Information:  
All Attributes  
  
Managed Relationship 1:  
Class:Resource:Node[Source] = IBM.Application:app1  
Class:Resource:Node[Target] = {IBM.Application:app2}  
Relationship = StartAfter  
Conditional = NoCondition  
Name = app1_StartAfter_app2  
ActivePeerDomain = domain1  
ConfigValidity =
```

コマンドの出力を分析するときは、完全性の関係を調べ (例えば、関係のソースとターゲットの両方の定義が必要です)、ConfigValidity 属性の値が構成問題を示しているか確認してください (ConfigValidity 属性の詳細については、System Automation for Multiplatforms 管理者とユーザーのガイドを参照してください)。

このコマンドは、自動化エンジン自体を表す CHARMControl クラスの公開属性をリストします。コマンドは、現在 **Automating** 属性の値 (通常、**1**) のみを戻します。まれに、リソース・グループの構成と関係が損傷し、自動化が正しく機能しなくなることがあります。この場合は、**Automating** 属性の値を、自動化が停止されていることを示す **0** に変更します。

RecoveryRM をリサイクルする (リリース 2.3 より前の System Automation for Multiplatforms の場合) 代わりに自動化を停止すると、診断情報を収集して、さらに構成を訂正することが可能です。存在しないターゲットとの関係は、例えば、損傷した構成であると見なされます。そのような関係を訂正または削除すると、コマンド **stopsrc** および **startsrc** を使用して現行のマスター RecoveryRM を停止して再始動することによって、自動化を再開できます。

lsrsrc -A d -c IBM.CHARMControl

samdiag コマンドは、個々のリソースの詳細状態情報を表示する場合に使用されます。このコマンドは、リソースのすべての内部変数を自動化マネージャーから外部化する場合にも使用できます。このコマンドは、問題分析では非常に役立ちますが、大量の情報を生成するため、日常的な使用を意図したものではありません。

例:

```
node1:~ # samdiag -g rg1  
  
Displaying information for the following:  
Resource Group "rg1":  
  
Diagnosis::Resource: rg1/ResGroup/IBM.ResourceGroup  
type: CHARM Resource Group  
Status -  
Observed: Online - Available  
Desired: Online - Requested Online  
(Nominal: Online - Nominal State: Online)  
Automation: Idle - CharmBase trigger linked  
Startable: Yes - Resource is startable  
Binding: Bound - Bound  
Compound: Satisfactory - Satisfactory  
  
Resource Based Quorum: Not Supported - CharmBase trigger linked
```

```

Members and Memberships:
+---HasMember          ---> app1/Fixed/IBM.Application/node1
+---HasMember          ---> ip1/Fixed/IBM.ServiceIP/node1
+---bind/HasMember     ---> app1/Float/IBM.Application
+---bind/HasMember     ---> ip1/Float/IBM.ServiceIP
Group Constraint: Collocated
Binding Constraints:
Flags:
  None
Orders:
  Outstanding Order: None          - Resource is Available
Dependencies:
  Start: Satisfied
  +---InCluster                  ---> Cluster
  Stop: Satisfied
Binding exceptions:
  None
Static Relationships:
+---InCluster          ---> Cluster
Dynamic Relationships:
+---bind/HasMember     ---> app1/Float/IBM.Application
+---bind/HasMember     ---> ip1/Float/IBM.ServiceIP"

```

```
samdiag IBM.<resource-class-name>:<resource-name>:<node-name>
```

特定のリソースの詳細を照会する場合は、このコマンドを以下のように実行する必要があります。

例えば、ノード「node1」上のリソース「app1」の場合は以下のとおり。

```

node1:~ # samdiag IBM.Application:app1:node1
Displaying information for the following:
  Resource "IBM.Application:app1:node1":

Diagnosis::Resource: app1/Fixed/IBM.Application/node1
  type: Fixed Resource
  Status -
    Reported: Online          - Online
    Observed: Online          - Online
    Desired: Online           - Requested Online
    (Nominal: Offline         - Defaulted: offline)
    Automation: Idle          - Idle - Online completed
    Startable: Yes            - Resource is startable
    Binding: Bound            - Bound
    Compound: Satisfactory    - Satisfactory

Resource Based Quorum: Not Supported - CharmBase trigger linked
Groups and Aggregates:
  <---HasMember              ---- rg1/ResGroup/IBM.ResourceGroup
  <---bind/HasMember         ---- rg1/ResGroup/IBM.ResourceGroup
Binding Constraints:
Flags:
  None
Orders:
  Outstanding Order: None    - Idle - Online completed
Dependencies:
  Start: Satisfied
  +---RunsOn                 ---> node1/Node/IBM.PeerNode
  Stop: Satisfied
  <---HasMember              ---- rg1/ResGroup/IBM.ResourceGroup
Static Relationships:
  +---RunsOn                 ---> node1/Node/IBM.PeerNode
Dynamic Relationships:
  <---bind/HasMember         ---- rg1/ResGroup/IBM.ResourceGroup"

```

samdiag

深く掘り下げた分析用。

エラー分析

このトピックで説明するエラーのシナリオを使用して、System Automation for Multiplatforms によって報告されるエラーの効果的なトラブルシューティングの方法を学習します。

リソースの OpState が「オフラインに失敗」である

このエラーには、考えられる原因が3つあります。

クラスター・ノードが「オンライン」でない

クラスター・ノードが「オンライン」でない場合、ノードに定義されたすべてのリソースが「オフラインに失敗」の OpState になります。このような場合は、問題はリソースではなく、ノード関連です。

リソースの MonitorCommand が、戻りコード 3 (=「オフラインに失敗」) で戻る

このような場合を見つけるには、手動で MonitorCommand を実行して、コマンドの戻りコードを調べます。以下のステップを実行します。

1. リソースの MonitorCommand 属性の値を得ます。

```
# lsrsrc -s 'Name="<resource_name>" ' IBM.Application Name MonitorCommand
```

2. MonitorCommand を実行します。
3. MonitorCommand の戻りコードを得ます。

```
# echo $?
```

戻りコードが 3 (「オフラインに失敗」) の場合は、MonitorCommand 自体がこの値を戻した理由を調査して、問題を解決します。問題の解決後、リソースの OpState は「オフライン」でなければなりません。

リソースを開始する前の試みが失敗したため、System Automation がリソースを「オフラインに失敗」に設定しました

MonitorCommand が 2 (「オフライン」) を戻しても、リソースの OpState が「オフラインに失敗」の場合は、このリソースの StartCommand の実行がエラー (0 ではなく、タイムアウト) を戻したか、あるいは System Automation が、RetryCount 属性で定義された試行回数以内にリソースを開始できなかったことを示します (上記の **lssamctrl** コマンドの説明を参照)。

この問題を調査するため、以下のことを行います。

1. このリソースの StartCommand のタイムアウトを示しているメッセージのシステム・ログを調べます。
2. この種のメッセージがない場合は、リソースの背後にあるアプリケーションの該当するログ・ファイルを調べます。すべての問題を特定し、訂正します。
3. 監査証跡を調べます。

以下の監査証跡項目が、開始スクリプトの問題を示します。

```
12:16:35.727970 T(1096711088) _RCD RMC
    Rejected online request against RA on node saxb02
12:16:35.727970 T(1096711088) _RCD
    Failed Offline Request against RA on node saxb02
```

以下の項目が、開始コマンドが繰り返しタイムアウトになったことを示します。

```
12:16:35.727970 T(1096711088) _RCD
    Maximum timer cancelled for RA on node saxb02
12:16:35.727970 T(1096711088) _RCD
    Failed Offline Request against RA on node saxb02
```

4. 最後に、以下のコマンドを使用して、リソースを「オフラインに失敗」状態からリセットします。

```
# resetrsrc -s 'Name="<resource_name>" && NodeNameList={"node_name"}' IBM.Application
```

リソースの本来あるべき状態が「オンライン」の場合、これで、リソースの OpState は「オフライン」となり、System Automation for Multiplatforms はリソースを再度開始するはずですが。

リソース・グループの OpState が「オフラインに失敗」である

リソース・グループのリソースが開始せずに、リソース・グループの OpState が「オフラインに失敗」の場合、これは、バインド・プログラムがリソースの配置を検出できなかったうえ、リソース・グループの

BindingState が Sacrificed であることを示します。lssam -V または以下のコマンドを使用して、これを調べます。

```
# lssrg -Ab -V -g <resource_group_name>
```

BindingState が Sacrificed の場合は、以下のようにします。

- 以下の例の場合のような項目について、監査証跡を検査します。

```
9:22:46.520729 T(229390) _RCD Online request injected:
  A/ResGroup/IBM.ResourceGroup
09:22:46.522817 T(229390) _RCD RIBME-Hist for <NULL>:
  BINDER: Bind A/ResGroup/IBM.ResourceGroup
09:22:46.532464 T(229390) _RCD RIBME-Hist for <NULL>:
  BINDER: Resource RA/Fixed/IBM.Test/saxb02 hsa no usable options
09:22:46.532467 T(229390) _RCD RIBME-Hist for <NULL>:
  BINDER: Resource RB/Fixed/IBM.Test/saxb03 hsa no usable options
  Resource RB/Fixed/IBM.Test/saxb02 hsa no usable options
  Resource RA/Fixed/IBM.Test/saxb03 hsa no usable option
```

この例では、連結していても、異なるノード上に2つの固定メンバーがあってバインド・プログラムがリソースを配置できない、リソース・グループを示します。これは、「使用可能なオプションがない (having no usable option)」と表現されます。

- lssam -V オプションを使用して、そのグループ内に OpState が「オフラインに失敗」のリソースがないことを確認します。
- ノードは除外されていません。
- グループを開始するすべての関係が満たされています。
- 自動化ポリシーの同値のすべてに、「オンライン」のメンバーがあります。

リソースの OpState が「オンライン中」である

リソースの OpState が「オンライン中」であることには、2つの考えられる理由があります。

- まれなケースとして、リソースの MonitorCommand が戻りコード 4 (=「オンライン中」) で戻ります。これは、手動で MonitorCommand を実行し、コマンドの戻りコードを調べて確認できます。

1. このリソースの MonitorCommand 属性の値を検索します。

```
lssrsrc -s 'Name="<resource_name>" ' IBM.Application Name MonitorCommand
```

2. MonitorCommand を実行します。
3. MonitorCommand の戻りコードを検索します。

```
echo $?
```

戻りコードが 4 (「オンライン中」) の場合は、MonitorCommand 自体がこの値を戻した理由を調査します。問題の解決後、リソースの OpState は「オフライン」でなければなりません。

- リソースの OpState が「オンライン中」になっている理由で上記以外に考えられることは (MonitorCommand が 1 (「オンライン」) または 6 (「オフラインの保留中」) を戻し、しかしリソースの OpState は「オンライン中」である場合)、リソースが以前 System Automation for Multiplatforms によって停止できなかったうえ、System Automation for Multiplatforms は最終的に、リソースを「オンライン中」に設定したことです。これは、このリソースの StopCommand の実行と、そのリソースに対する後続のリセットで、リソースをオフラインにできなかった場合です。

このエラーは System Automation for Multiplatforms によってリカバリーできず、手操作による介入が必要です。リソースが停止しなかった理由を調査した後、オペレーターはリソースを停止する必要があります。リソースの OpState が、MonitorCommand の次の実行で「オフライン」と評価されると、System Automation for Multiplatforms は再度このリソースを制御でき、それ以上の人手によるステップは必要ありません。

タイムアウト・メッセージがシステム・ログ内で検出

StartCommand タイムアウト

リソースの StartCommand がこのリソースの StartCommandTimeout 属性で定義された期間内に終了しなかった場合は、システム・ログにメッセージが記録されます。この問題の考えられる原因は2つあります。

- StartCommandTimeout 属性で定義された値が低すぎます。

属性の値を確認するには、以下のタスクを実行します。

1. このリソースのこの属性の実際の設定値を判別します。

```
# lsrsic -s 'Name="<resource_name>" ' IBM.Application Name ¥  
StartCommandTimeout
```

2. このリソースの StartCommand を実行するのに掛かる時間を判別します。

重要: これは、保守の間のみ、または別のテスト・システムで行うべきであり、稼働中の実動システムで行ってはなりません。

コマンドの実行に要する時間は、システムのロード中は増加する可能性があることに留意してください。

3. タイムアウト値の実際の設定値とコマンドの実行に要する時間を比較します。
4. 必要があれば、StartCommandTimeout 値を調整します。

```
# chrsic -s 'Name=="<resource_name>" ' ¥  
IBM.Application StartCommandTimeout=<new_value_in_seconds>
```

この変更は動的に行えます。

- StartCommand を実行すると、実行されたスクリプト内のいずれかのステートメントが停止するので、ハング状態になります。

- 調査には、人手により StartCommand を実行する必要があります。

重要: これは、保守の間のみに行うべきであり、稼働中の実動システムで行ってはなりません。

- その結果スクリプトが終了しない (ハング) 場合は、StartCommand スクリプトの2番目行として set -x を追加して、追加のデバッグを活動化できます。
- ハングになったステートメントを見分けて、問題を訂正します。これは System Automation のスコープ外であることに注意してください。

StopCommand タイムアウト

リソースの StopCommand がこのリソースの StopCommandTimeout 属性で定義された期間内に終了しなかった場合は、システム・ログにメッセージが記録されます。この問題の考えられる原因は2つあります。

- StopCommandTimeout 属性で定義された値が低すぎます。

これがその場合に相当するかどうかを確認するには、次のようにします。

1. このリソースのこの属性の実際の設定値を判別します。

```
# lsrsic -s 'Name="<resource_name>" ' IBM.Application Name ¥  
StopCommandTimeout
```

2. このリソースの StopCommand を実行するのに掛かる時間を判別します

重要: これは、保守の間のみ、または別のテスト・システムで行うべきであり、稼働中の実動システムで行ってはなりません。

コマンドの実行に要する時間は、システムのロード中は増加する可能性があることに留意してください。

3. タイムアウト値の実際の設定値とコマンドの実行に要する時間を比較します。
4. 必要な場合は、SopCommandTimeout 値を調整します。

```
# chrsrc -c 'Name="<resource_name>" ' IBM.Application ¥  
StopCommandTimeout=<new_value_in_seconds>
```

この変更は動的に行えます。

- StopCommand を実行すると、実行されたスクリプト内のいずれかのステートメントが停止するので、ハング状態になります。
 - 調査には、人手により StopCommand を実行する必要があります。

重要: これは、保守の間のみに行うべきであり、稼働中の実動システムで行ってはなりません。
 - その結果スクリプトが終了しない (ハング) 場合は、StopCommand スクリプトの 2 番目行として set -x を追加して、追加のデバッグを活動化できます。
 - ハングになったステートメントを見分けて、問題を訂正します。これは System Automation のスコープ外であることに注意してください。

MonitorCommand タイムアウト

リソースの MonitorCommand がこのリソースの MonitorCommand 属性で定義された期間内に終了しなかった場合は、システム・ログにメッセージが記録されます。この問題の考えられる原因は 2 つあります。

- MonitorCommandTimeout 属性内で定義された値が低すぎます。

これがその場合に相当するかどうかを確認するには、次のようにします。

1. このリソースの MonitorCommand 属性の実際の設定値を判別します。

```
# lsrsrc -s 'Name="<resource_name>" ' IBM.Application Name ¥  
MonitorCommand MonitorCommandTimeout MonitorCommandPeriod
```

2. 直接コマンド行に MonitorCommand を発行して、このリソースの MonitorCommand を実行するのに掛かる時間を判別します

コマンドの実行に要する時間は、システムのロード中は増加する可能性があることに留意してください。

3. タイムアウト値の実際の設定値とコマンドの実行に要する時間を比較します。
4. 必要な場合は、MonitorCommandTimeout 値を調整します。

```
# chrsrc -c 'Name="<resource_name>" ' IBM.Application ¥  
MonitorCommandTimeout=<new_value_in_seconds>
```

この変更は動的に行えます。

- MonitorCommand を実行すると、実行されたスクリプト内のいずれかのステートメントが停止するので、ハング状態になります。
 - 調査には、人手により MonitorCommand を実行する必要があります。
 - その結果スクリプトが終了しない (ハング) 場合は、MonitorCommand スクリプトの 2 番目行として set -x を追加して、追加のデバッグを活動化できます。
 - ハングになったステートメントを判別して、問題を訂正します。これは System Automation のスコープ外であることに注意してください。

問題分析

このセクションは、問題の分析および解決方法を学習する場合に使用します。

リソースが開始しない

リソースが開始しない場合は、以下のステップを実行します。

1. システム・ログ、該当するアプリケーション・ログ、および処理プログラム・テーブル (ps -ef) 内のそのリソースの StartCommand の実行に関連するメッセージを確認します。StartCommand がまった

く実行されなかった場合は、ステップ 2 に進み、そうでない場合は、アプリケーションが「オンライン」にならない理由を調査します。

2. 操作クォーラムを確認します。

```
# lssrc -ls IBM.RecoveryRM | grep Quorum
```

操作クォーラム == HAS_QUORUM の場合は、ステップ 3 に進みます。そうでない場合は、以下を使用して、「オンライン」のノード数を調べます。

```
# lsipnode
```

操作クォーラムの場合は、クラスター内の半数を超えるノードがオンラインであるか、正確に半数のノードがオンラインであり、かつタイ・ブレーカーが予約されていることが必要です。

- オンラインのノードが半数未満の場合は、追加のノードを開始します。
- 正確に半数のノードがオンラインの場合は、アクティブなタイ・ブレーカーの属性を確認します。

```
# lsrsrc -c IBM.PeerNode OpQuorumTieBreaker
```

この属性の値が Operator の場合は、タイ・ブレーカーを手動で設定する必要があります。

- a. ノードへのタイ・ブレーカーの所有権は、それを獲得してはならない場合は否認します (他のノードが依然「オンライン」の場合)。

```
# runact -c IBM.PeerDomain ResolveOpQuorumTie Ownership=0
```

- b. ノードへのタイ・ブレーカーの所有権は、それを取得すべき場合は認可します。

```
# runact -c IBM.PeerDomain ResolveOpQuorumTie Ownership=1
```

問題を再発させないための最良の方法は、確実にタイ・ブレーカーが自動的に予約される、自動ディスクまたはネットワーク・タイ・ブレーカーを定義することです。

この場合、アクティブ・タイ・ブレーカーの設定を確認します。

```
# lsrsrc -s 'Name="<name-of-active-tiebreaker>"' IBM.TieBreaker
```

ディスクがディスク・タイ・ブレーカーに正しく割り振られているか、あるいは IP アドレスがネットワーク・タイ・ブレーカーに使用可能かを確認します。これらの設定を変更できるのは、半分を超えるノードがオンラインでなければならないことを意味する、**構成クォーラム**が確立されている場合のみであることに注意してください。

3. リソースまたはそれを含むリソース・グループに対する要求を確認します。

```
# lssam -V  
# lsigrreq -L  
# lsigrreq -L -m
```

リソースまたはリソース・グループに停止要求が出されていた場合、これが、リソースがオフラインにとどまる理由を説明します。問題を解決するには、要求をキャンセルします。

4. クラスターが自動化モードにあって、手動モードにはなく、そのため System Automation はリソースを開始できないこと、ならびに System Automation が除外ノード上のリソースを開始できないため、ノードが除外ノードのリスト内にあることを確認します。次のいずれかのコマンドを使用します。

```
# lssam  
# lssamctrl
```

「Automation (自動化)」属性の値が「Manual (手動)」ならば、クラスターは手動モードにあります。モードは、以下を使用して「Auto (自動)」に設定できます。

```
# samctrl -M F
```

除外ノードのリストにノードがある場合、それらは以下を使用してリストから削除できます。

```
# samctrl -u d <node_name>
```

5. すべてのノードにこのコマンドを使用して、リソースの **DesiredState**、**ObservedState**、および **BindingState** を確認します。

```
# samdiag IBM.<resource-class>:<resource-name>[:<node-name>]
```

リソースの **BindingState** がすべてのノード上で **Sacrificed** の場合、これは、他のリソースへのすべての関係を満たすこのリソースの配置をバインド・プログラムが検出できなかったことを示します。一般的にこの問題が発生するのは、自動化ポリシーが作成または変更される時点です。

リソース・グループが開始しない

リソース・グループは、いくつかのリソースから構成します。開始するグループのリソースがない場合は、以下のステップを実行します。

1. 関係性を評価して、最初に開始すべきリソースを識別します。
2. セクション 16 ページの『リソースが開始しない』で説明した手順によって、リソースが開始しない理由を調べます。必ずリソース・グループに対する要求を調べ、リソース・グループがソース・リソースとして定義されたすべての関係性を評価します。リソース・グループの **BindingState** を判別するには、以下のいずれかのコマンドを使用します。

```
# lssam -V  
# lsrg -Ab -V -g <resource-group-name>  
# samdiag -g <resource-group-name>
```

リソースが停止しない

リソースが停止しない場合は、以下のステップを実行します。

1. リソースが **StopCommand** が実行された後停止しない場合、**System Automation for Multiplatforms** はそのリソースに対してリセット操作を出し、その結果、**StopCommand** が実行されます。リソースが依然「オフライン」の **OpState** に達しない場合、リソースの **OpState** は最終的に「オンライン中」に設定されます。この問題を解決するには、14 ページの『リソースの **OpState** が「オンライン中」である』の説明に従って進めます。
2. リソースの **StopCommand** が実行されなかった場合は、以下のいずれかのコマンドを使用して、リソースまたはそれを含むリソース・グループに対する要求を確認します。

```
# lssam -V  
# lsrgreq -L  
# lsrgreq -L -m
```

リソースまたはリソース・グループに対する開始要求がある場合は、要求をキャンセルできるか確認します。

3. クラスタが自動化モードにあって、手動モードにないか確認します。

```
# lssamctrl
```

「Automation (自動化)」属性の値が「Manual (手動)」ならば、クラスタは手動モードにあり、**System Automation** はリソースを停止しません。これは、以下を使用して「Auto (自動)」に設定できます。

```
# lssam  
# samctrl -M F
```

4. このリソースを停止させない他のリソースからの関係の有無を調べ、特に以下の関係について確認します。
 - **StartAfter** (**StartAfter** 関係は従属リソースをオンラインにしたままにします)
 - **DependsOn** および **DependsOnAny** (両方の関係には、暗黙的に **StartAfter** 関係が含まれ、それが従属リソースをオンラインにしたままにします)

5. このリソースを停止させない他のリソースへの StopAfter 関係があるか確認します (ターゲット・リソースがオンラインにとどまる必要がある場合は、ソース・リソースもオンラインにとどまります)。

リソース・グループが停止しない

リソース・グループは、いくつかのリソースから構成します。停止するグループのリソースがない場合は、以下のステップを実行します。

1. 関係性を評価して、最初に停止すべきリソースを識別します。
2. セクション 18 ページの『リソースが停止しない』で説明した手順によって、リソースが停止しない理由を調べます。必ずリソース・グループに対する要求を調べ、リソース・グループがターゲット・リソースとして定義されたすべての関係性を評価します。

リソースに対する開始/停止要求で、StartCommand または StopCommand が実行されない

System Automation for Multiplatforms では、同じリソースに対して、StartCommand と StopCommand を同時に実行することはできません。

- System Automation for Multiplatforms は、前のコマンドが終了するまで、次のコマンドの実行をブロックします。

リソースの停止または開始要求が、実際にはまだ実行中の StartCommand または StopCommand によってブロックされているが、製品がハングしているように見える一定の条件があります。以下にこのような状況の例を挙げます。

- リソースに対する MonitorCommand では、このリソースの OpState をオンラインとしてモニターするが、リソースの StartCommand が長い時間実行中である。
- lssam およびその他のコマンドが、そのリソースをオンラインとして示す。しかし、StartCommand が終了するまで、またはタイムアウトになるまでは、このリソースに対する停止要求が正常に実行されない。
- この間に、リソースに対して samdiag を実行すると、「Automation」状態として「Ordered - Online sent」が示され、「Compound」状態として「InAutomation - In Automation」が示される。ただし、リソースの OpState は常に「Online」を示している。

以下に、この状況を表す samdiag の完全な出力を示します。

```
samdiag IBM.Application:R1:node1
Displaying information for the following:
Resource "IBM.Application:R1:node1":

Diagnosis::Resource: R1/Fixed/IBM.Application/node1
type: Fixed Resource
Status -
Reported: Online          - Online
Observed: Online         - Online
Desired: Online          - Requested Online
(Nominal: Offline       - Defaulted: offline)
Automation: Ordered      - Online sent
Startable: Yes           - Resource is startable
Binding: Bound           - Bound
Compound: InAutomation   - In Automation
Move: None               - Resource Move State is None

Resource Based Quorum: Not Supported - CharmBase trigger linked

Cleanup Flag:
Groups and Aggregates:
<---HasMember          ---- R1/Float/IBM.Application
<---Selects/1          ---- R1/Float/IBM.Application
Binding Constraints:
Flags:
None
Orders:
Outstanding Order: Online          - Online sent
Progress: None                    - Online sent
Reason: None                       - Online sent
Dependencies:
```

```

Start: Satisfied
+---RunsOn          ---> node1/Node/IBM.PeerNode
Stop: Satisfied
<---HasMember      ---- R1/Float/IBM.Application
Static Relationships:
+---RunsOn          ---> node1/Node/IBM.PeerNode
Dynamic Relationships:"

```

実行中のコマンドが完了すると、次のようになります。

- 「Automation」状態が「Idle」に変わります。
- 「Compound」状態が「Satisfactory」に変わります。
- リソースに対する停止要求が可能になります。

この状況が発生しないようにするためには、StartCommand および StopCommand のスクリプトがタイムアウトにならないようにします。

ノードの除外後フェイルオーバーが発生しない

ノードの除外後フェイルオーバーが発生しない場合は、以下のステップを実行します。

1. クラスターが自動化モードにあって、手動モードにないか確認し、かつリソースを以下を使用して開始できるノードが使用可能であるか確認します。

```
# lssam
```

「Automation (自動化)」属性の値が「Manual (手動)」ならば、クラスターは手動モードにあり、System Automation はリソースを開始しません。これは、以下を使用して「Auto (自動)」に設定できます。

```
# samctrl -M F
```

オンラインのノードのリストを表示して、それを、以下を使用して除外ノードのリストと比較します。

```
# lsipnode
```

除外ノードのリストにあるノードが多過ぎるか、あるいはすべてのノードがある場合は、以下のコマンドを使用して、ノードをリストから削除できます。

```
# samctrl -u d <node_name>
```

2. OpState が「オフラインに失敗」のリソースがあるか確認します。ある場合は、[セクション 16 ページの『リソースが開始しない』](#)の説明に従って進めます。
3. OpState が「オンライン中」のリソースがあるか確認します。ある場合は、[14 ページの『リソースの OpState が「オンライン中」である』](#)の説明に従って進めます。
4. 最初に開始するリソース・グループの BindingState を確認します。

- BindingState が「Sacrificed」の場合、System Automation はリソースの配置を検出できません。

以下を使用して、有効なメンバー・リソースの同値を確認し、これらのリソースの OpState が「オンライン」であることを確認します。

```
# lssam -V
# lsequ -Ab
```

ValidSelectResources 属性を確認します。

- BindingState が「Bound」の場合、System Automation はリソースを開始できません。 [セクション 16 ページの『リソースが開始しない』](#)の説明に従って進めます。
5. 除外ノードなしには充足できない関係を調べます。

ノードの破損またはリブート後フェイルオーバーが発生しない

この問題を分析し解決するには、以下のステップを実行します。

1. 操作クォーラムを確認します。

```
# lsrsrc -ls IBM.RecoveryRM | grep Quorum
```

操作クォーラム == HAS_QUORUM の場合は、ステップ 2 に進みます。そうでない場合は、以下を使用して、「オンライン」のノード数を調べます。

```
# lsipnode
```

操作クォーラムの場合は、クラスター内の半数を超えるノードがオンラインであるか、正確に半数のノードがオンラインであり、かつタイ・ブレーカーが予約されていることが必要です。

- オンラインのノードが半数未満の場合は、追加のノードを開始します。
- 正確に半数のノードがオンラインの場合は、アクティブなタイ・ブレーカーの属性を確認します。

```
# lsrsrsrc -c IBM.PeerNode OpQuorumTieBreaker
```

この属性の値が Operator (オペレーター) の場合は、タイ・ブレーカーを手動で設定する必要があります。

- a. ノードへのタイ・ブレーカーの所有権は、それを獲得してはならない場合は否認します (他のノードが依然「オンライン」の場合)。

```
# runact -c IBM.PeerDomain ResolveOpQuorumTie Ownership=0
```

- b. ノードへのタイ・ブレーカーの所有権は、それを取得すべき場合は認可します。

```
# runact -c IBM.PeerDomain ResolveOpQuorumTie Ownership=1
```

問題を再発させないための最良の方法は、確実にタイ・ブレーカーが自動的に予約される、自動ディスクまたはネットワーク・タイ・ブレーカーを定義することです。

この場合、アクティブ・タイ・ブレーカーの設定を確認します。

```
# lsrsrsrc -s 'Name="<name-of-active-tiebreaker>"' IBM.TieBreaker
```

ディスクがディスク・タイ・ブレーカーに正しく割り振られているか、あるいは IP アドレスがネットワーク・タイ・ブレーカーに使用可能かを確認します。これらの設定を変更できるのは、半分を超えるノードがオンラインでなければならないことを意味する、**構成クォーラム**が確立されている場合のみであることに注意してください。

2. クラスターが自動化モードにあって、手動モードではなく、そのため System Automation はリソースを開始できないこと、ならびに System Automation が除外ノード上のリソースを開始できないため、ノードが除外ノードのリスト内にあることを確認します。次のいずれかのコマンドを使用します。

```
# lssam -V  
# lssamctrl
```

「Automation (自動化)」属性の値が「Manual (手動)」ならば、クラスターは手動モードにあります。モードは、以下を使用して「Auto (自動)」に設定できます。

```
# samctrl -M F
```

ノードが除外ノードのリスト内にある場合は、以下のコマンドを使用して、ノードをリストから削除できます。

```
# samctrl -u d <node_name>
```

3. 開始しないのがリソース・グループ全体なのか、それともそのいずれかのメンバーのみなのかによって、上記の該当するセクションの説明に従って進めます。

開始制御操作のタイムアウト後にリセットされない

IBM Tivoli System Automation がリソースに対してリソース開始制御操作を最初に送信した時点で、操作タイマーが開始されます。リソースがタイムアウト期間内に本来あるべき状態 (オンライン) に到達せず、

IBM Tivoli System Automation がリソースに対してリセット操作を実行できない場合は、以下のステップを実行します。

1. **stoprpdomain** コマンドを使用して、クラスターを停止します。
2. **starttrpdomain** コマンドを使用して、クラスターを再始動します。

その他の問題

問題が自動化マネージャーに関連する可能性が最も高い場合は、IBM サポートに連絡する前に、自動化マネージャーのリサイクル (IBM.RecoveryRM) を試みてください。これは、以下のコマンドを使用して行えます。

1. 以下のコマンドを使用して、RecoveryRM マスター・デーモンが稼働するノードを検索します。

```
lssrc -ls IBM.RecoveryRM | grep Master
```

2. マスターが稼働するノードでは、PID を検索し、自動化マネージャーを強制終了します。

```
lssrc -ls IBM.RecoveryRM | grep PID  
kill -9 <PID>
```

その結果、ドメインの別のノードの自動化マネージャーがマスターの役割を引き継ぎ、自動化の決定を進めます。強制終了された自動化マネージャーは、**src** サブシステムが即時に再始動します。

クラスターをセットアップできない

クラスターのセットアップに関する問題を回避する方法については、System Automation for Multiplatforms 管理者とユーザーのガイドを参照してください。典型的な障害 (例えば、環境変数 CT_MANAGEMENT_SCOPE が設定されない) についても説明されています。

ノードの破損後にリモート・ノードが共用ディスクにアクセスできない

AIX ノードが破損したときにリモート・ノードで共用ディスクにアクセスできない (つまり共用ディスクがロックされた) 場合は、共用ボリューム・グループが拡張並行対応でないことが原因であると考えられます。AIX 上で共用ボリューム・グループを拡張並行対応にする手順については「*IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms* インストールと構成のガイド」を参照してください。

問題の報告

トラブルシューティング情報が入手できない場合の問題は、製品 IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms に対して PMR として報告する必要があります。問題を報告する際は、以下の情報を提供してください。

- [トラブルシューティングの前に収集したデバッグおよびトレース・データ \(3 ページの『デバッグ・データおよびトレース・データの収集』を参照\)](#)
- エラー発生前に行ったタスクの簡略説明

既知の問題と制限

表形式の出力がマルチバイト言語で正しく位置合わせされない

行コマンドの表形式の出力は、マルチバイト言語のロケールに設定されたシェルで表示すると正しく位置合わせされないことがあります。これは、マルチバイト文字の幅が正しく計算されない Perl スクリプト言語の問題が原因で発生します。

メッセージが予期しない言語で表示される

System Automation for Multiplatforms および RSCT の一部のコマンドにはユーザー・シェル環境で定義された言語と異なる言語で表される関連メッセージがあります。

RSCT リソース・マネージャーと通信するコマンドは、システム・ロケールに基づいた環境で開始されます。ユーザー・シェルのロケールがシステム・ロケールと異なり、リソース・マネージャーがメッセージをユーザー・シェルに返す場合、このメッセージは、リソース・マネージャーのロケールで表されます。

システム・ロケールを変更するには、「IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms インストールと構成のガイド」の説明に従います。

samlog が threads.pm を検出できない

samlog の実行中に「threads.pm が見つかりません」のようなメッセージが表示された場合は、システム上の Perl インストール済み環境で ithreads がサポートされていません。クラスターで samlog を使用する場合は、クラスターの全ノードに対して threads を有効にした Perl のバージョンをインストールし、それをデフォルトの Perl 環境としてください。

一般的な誤りとユーザー・エラー

このセクションでは一般的な誤りとユーザー・エラーについて説明します。

クラス IBM.AgFileSystem のリソースの作成

クラス IBM.AgFileSystem のリソースは、ドメイン開始時とその後 StorageRM リソース・マネージャーによって自動的に取得されます。

この取得をサポートするには、ファイル・システムのマウント・ポイントをすべてのノードのファイル・システム・テーブルに追加します。マウント・ポイントは、クラス IBM.AgFileSystem のファイル・システム・リソースの属性 SysMountPoint にあります。取得後にリソースの属性 MountPoint を変更してマウント・ポイントを指定することも可能です。完全なリソース (フローターおよびすべての構成要素) に対して変更を行ってください。/etc/fstab (Linux の場合) および /etc/filesystems (AIX の場合) にあるファイル・システム・テーブルにファイル・システムを追加するときには、すべてのノードで新しく作成された項目に対して以下の構成変更を行ってください。

- マウント・オプション noauto を指定して、ファイル・システムがシステム始動中にマウントされないようにします。
- このファイル・システムのオプション file system check at startup を無効にします。

クラス IBM.Application のリソースの作成

アプリケーション・リソースを開始、停止、またはモニターするには、クラス IBM.Application のリソースに、スクリプトまたはコマンドが必要です。スクリプトには以下の要件があります。

- すべてのシステム上で開始スクリプト、停止スクリプト、およびモニター・スクリプトを同じディレクトリーにコピーします。
- リソース属性の UserName で指定されたユーザーがスクリプト実行の権限があることを確認します。
- オペレーティング・システムによって開始されるシステムの始動およびシャットダウン中に、アプリケーション・リソースが自動的に開始または停止しないことを確認します。inittab または init.d が異なる実行レベルにあることを確認します。System Automation for Multiplatforms が管理するリソースの自動開始のオフに失敗した場合、ノードをリポートした後にリソース停止が起こります。System Automation for Multiplatforms が同時に両方のノードでリソースがオンラインになっていることを検出し、その結果、両方のノードのリソースを停止します。

クラス IBM.ServiceIP のリソースの作成

IBM.ServiceIP のリソースには以下の要件があります。

- システム始動中にオペレーティング・システムが IP アドレスをアクティブにしないことを確認します。System Automation for Multiplatforms が管理するリソースの自動開始のオフに失敗した場合、ノードをリポートした後にリソース停止が起こります。System Automation for Multiplatforms が同時に両方のノードでリソースがオンラインになっていることを検出し、その結果、両方のノードのリソースを停止します。

オンラインであることが認められた新規リソースのリソース・グループへの追加

リソース定義は、すべてのアプリケーションがオフラインのときに行われます。System Automation for Multiplatforms は、リソースがオンラインのときもリソースの追加、変更、および削除を許可します。「ロック」要求を使用して、対応するリソース・グループを凍結します。

Offline 状態であるドメインの ManualMode を使用可能または使用不可にする方法

クラスターがオフラインである場合、手動モードを使用可能にしたり使用不可にしたりすることはできません。samctrl コマンドは使用できません。

リソースが不可視となるように、クラスターを制限モードで開始することができます。クラスターが制限モードで開始されると、IBM.CHARMControl クラスのみが、samctrl コマンドを実行するように初期化されます。グループ、関係、および同値などの他のクラスのリソースは、自動化エンジンから隠されています。

クラスターが Offline である間に ManualMode を使用可能または使用不可にするには、各クラスター・ノードで以下のステップを実行します。

1. テンプレート構成ファイル /usr/sbin/rsct/share/RecoveryRM.cfg を /var/ct/cfg にコピーします。
2. コピーされたファイル /var/ct/cfg/RecoveryRM.cfg を編集します。
3. #activate_charm_control_only 0 を activate_charm_control_only 1 に変更します。
4. 各クラスター・ノードの構成ファイルを調整した後で、クラスターを開始します。これで samctrl インターフェースを使用できますが、lsrg のようなコマンドは機能しません。
5. samctrl -M T を使用して ManualMode を設定するか、samctrl -M F を使用して ManualMode を設定解除します。
6. クラスターを停止します。
7. 各クラスター・ノードで、編集されたファイル /var/ct/cfg/RecoveryRM.cfg を削除します。
8. クラスターを再度開始します。クラスターは通常モードで開始されます。

リソース検証中のリモート・リソース・マネージャーの応答時間を改善する方法

リソース検証中に、IBM.RecoveryRM は、クラスターが管理するすべてのリソースの状況を判別しようとします。ドメインの始動後、またはマスター IBM.RecoveryRM デーモンが新規ノードに移動した後に、リソース検証が行われます。大規模なクラスターでは、一部のリソース・マネージャーが、割り当てられた時間フレーム内にマスター IBM.RecoveryRM に応答を戻すことができない可能性があります。そのマスター IBM.RecoveryRM デーモンは終了し、クラスター内の別の IBM.RecoveryRM デーモンが、リソース検証の完了を見込んでマスターの役割を取り込みます。このようになっているため、リモート・リソース・マネージャーの 1 つがタイムアウト期間内にマスター IBM.RecoveryRM に応答できない場合、マスター IBM.RecoveryRM デーモンが何度もノードからノードへスワッピングする連鎖反応が発生する可能性があります。

時間設定は、以下の手順を使用して調整できます。

- テンプレート構成ファイル /usr/sbin/rsct/share/RecoveryRM.cfg を /var/ct/cfg にコピーします。
- コピーされたファイル /var/ct/cfg/RecoveryRM.cfg を編集します。以下のエントリーのコメントを外して、デフォルトの期間を長くします。例:

```
#resource_verification_allowed_retries 200 から、例えば  
resource_verification_allowed_retries 300 に変更します。
```

- ファイルを保管します。

デフォルトの再試行期間が 200 ミリ秒である場合、全体の待機時間は以下のように計算されます。

resource_verification_allowed_retries x resource_verification_retry_period

デフォルト値を使用する場合、全体の時間は 200 x 200 ミリ秒 = 40 秒になります。

この例の値を使用する場合、全体の時間は 200 x 300 ミリ秒 = 60 秒になります。

各ノードで構成ファイルを調整してから、変更後の値を使用してクラスターを開始します。

SAP 高可用性ソリューションのトラブルシューティング

SAP Central Services 高可用性ポリシーのアクティブ化時に有効なライセンスを使用できない

SAP Central Services 高可用性ポリシーをアクティブにしたときに、メッセージ SAMP0096E が戻された場合は、SAP Central Services 高可用性ポリシーの IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms ライセンスがクラスター内のすべてのノードにインストールされていることを確認してください。ライセンスがインストールされていないノードがある場合は、SAP Central Services 高可用性ポリシーをアクティブにすることはできません。

```
SAMP0096E: There is no valid license available for the policy you are trying
           to activate.
EXPLANATION: The policy you are trying to activate requires a separate license
              that is currently not installed.
USER ACTION: Install the license and resubmit the command.
Policy has been verified.
```

Oracle 高可用性ポリシーのトラブルシューティング

Oracle データベース・リスナーが開始されない

問題

IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms ポリシーによって Oracle データベース・リスナーが正常に開始されない場合は、以下を確認してください。

1. Oracle コマンドを使用してデータベース・リスナーを開始します。

```
#su - <oracle_user>
#lsnrctl start
```

2. 次のメッセージが表示されるはずですが。

```
The command completed successfully.
```

説明

コマンド `tnslsnr` を使用して Oracle データベース・リスナーを手動で開始した場合は、リスナー・ポートが別のプロセスによってブロックされていないことを確認してください。デフォルトのポートは 1521 です。System Automation for Multiplatforms ポリシーを使用する場合、このコマンドはサポートされません。

ソリューション

1. 次のコマンドを使用して、`tnslsnr` プロセスを停止します。

```
#ps -ef | grep tnslsnr
```

以下に示すようなエントリーが見つかった場合、Oracle リスナーは、コマンド `tnslsnr` を使用して手動で開始されています。

```
#oracle 13749 13708 0 19:21 pts/2 00:00:00 tnslnr
```

2. このプロセスを終了し、必要に応じて IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Oracle データベース・リスナー・リソースをリセットします。
3. Oracle ユーザーとしてログオンします。
4. 以下のコマンドを入力して、手動でデータベース・リスナーを開始します。

```
lsnctl start
```

このような開始は、IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms によって検出されます。

ポートがブロックされていないことを確認したにもかかわらずリスナーが開始されない場合は、Oracle データベース資料を参照してください。

Oracle データベース・プロセスが不明としてモニターされる

説明

以下の状態が発生すると、Oracle データベース・プロセスが不明としてモニターされます。

Oracle データベースの MonitorCommandScript により、プロセス `ora_pmon_<Oracle_SID>` が検索されます。このプロセスが見つかった場合、このスクリプトは、「不明」状態がモニターされたノードで以下のコマンドを使用して、データベースが要求用に開かれているかどうかを検査します。

```
#su - <Oracle_user>
#sqlplus /nolog
#connect / as sysdba
#select status from v$$instance;
#exit
```

選択ステートメントが状況 `OPEN` を返した場合、MonitorCommandScript は状況「オンライン」(データベースでトランザクションが許可される状態)を返します。

状況 `OPEN` の出力例:

```
sqlplus /nolog
SQL*Plus: Release 11.2.0.1.0 Production on Fri Feb 4 17:56:37 2011
Copyright (c) 1982, 2009, Oracle. All rights reserved.
SQL> connect / as sysdba
Connected.
SQL> select status from v$instance;
STATUS
-----
OPEN
```

その他の状態 (`STARTED` など) の場合、MonitorCommandScript は状況「不明」を返します。これは、データベースが「オンライン」でも「オフライン」でもなく、「開始中」や「停止中」のような中間状態でもないためです。

状況 `STARTED` の出力例:

```
sqlplus /nolog
SQL*Plus: Release 11.2.0.1.0 Production on Fri Feb 4 17:53:39 2011
Copyright (c) 1982, 2009, Oracle. All rights reserved.
SQL> connect / as sysdba
Connected.
SQL> select status from v$instance;
STATUS
-----
STARTED
```


ソリューション

「不明」状態を解決するには、「不明」とモニターされたノードで以下のステップを実行してください。

```
#su -<Oracle_user>
#sqlplus /nolog
#connect / as sysdba
#shutdown immediate
```

NFS タイ・ブレーカーのトラブルシューティング

System Automation for Multiplatforms の NFS タイ・ブレーカーを、オプション Log=2 を指定して開始した場合、syslog に追加のトレース情報が書き込まれます。

Linux の NFS タイ・ブレーカー

NFS v4 サーバー・システムでは、コマンド `rpcinfo -u localhost nfs` の出力に以下の行が含まれている必要があります。

```
program 100003 version 4 ready and waiting
```

`nfsstat -s` コマンドは、NFS の現在の状況の詳細を返します。コマンド `dmesg|grep -i nfs` は、過去数分間の NFS 関連のカーネル・メッセージを表示します。

AIX の NFS タイ・ブレーカー

NFS v4 サーバー・システムでは、コマンド `rpcinfo -u localhost nfs` の出力に以下の行が含まれている必要があります。

```
program 100003 version 4 ready and waiting
```

`nfsstat -m` コマンドは、NFS の現在の状況の詳細を返します。以下のコマンドを使用して、NFS 関連のデーモンを再始動することができます。

```
stopsrc -g nfs
startsrc -g nfs
```

IBM Support Assistant の使用

以下は英語のみの対応となります。IBM Support Assistant は、任意のワークステーションにインストールできる、フリーのスタンドアロン・アプリケーションです。IBM Support Assistant を使用することで、製品、サポート、および教育リソースを検索する時間が節約され、問題管理レコード (PMR) または Electronic Tracking Record (ETR) を開く必要がある場合に情報を収集するために役立ちます。これらのレコードは問題の追跡に使用できます。

次に、ご使用の IBM 製品に対応する製品固有のプラグイン・モジュールをインストールして、このアプリケーションを機能強化できます。Tivoli System Automation for Multiplatforms 用の製品固有プラグインは、以下のリソースを提供します。

- サポート・リンク
- 教育リンク
- 問題管理レポートを送信する機能
- トレース収集機能

IBM Support Assistant および Tivoli System Automation for Multiplatforms プラグインのインストール

IBM Support Assistant V 4.1 をインストールするには、以下のステップを実行します。

- IBM Support Assistant Web サイトにアクセスします。

www.ibm.com/software/support/isa/

- ご使用のプラットフォームに対応するインストール・パッケージをダウンロードします。IBM のユーザー ID (例えば、MySupport または developerWorks® ユーザー ID) およびパスワードを使用してサインインする必要があることに注意してください。IBM ユーザー ID をお持ちでない場合は、登録処理 (無料) を完了することにより入手できます。
- インストール・パッケージを一時ディレクトリーに解凍します。
- インストール・パッケージに含まれている「*Installation and Troubleshooting Guide*」の指示に従って、IBM Support Assistant をインストールします。

Tivoli System Automation for Multiplatforms のプラグインをインストールするには、以下の手順を実行します。

1. IBM Support Assistant アプリケーションを始動します。IBM Support Assistant は、システムに構成されているデフォルトの Web ブラウザーに表示される Web アプリケーションです。
2. IBM Support Assistant 内の「**アップデーター(Updater)**」タブをクリックします。
3. 「**新規製品およびツール (New Products and Tools)**」タブをクリックします。製品ファミリーごとにプラグイン・モジュールがリストされます。
4. 「**Tivoli**」 > 「**Tivoli Tivoli System Automation for Multiplatforms**」を選択します。
5. インストールする機能を選択し、「**インストール**」をクリックします。ライセンス情報および使用法の説明を必ずお読みください。
6. IBM Support Assistant を再始動します。

第2章 リファレンス

System Automation for Multiplatforms コマンドの構文および使用法を参照してください。適切な XML エレメントの指定による自動化ポリシーの定義については、自動化ポリシー XML リファレンスを参照してください。

コマンド・リファレンス

次の表に、本書で説明されている System Automation for Multiplatforms コマンドをリストします。

| コマンド | 説明 |
|--|---|
| 32 ページの『addrgmbr』 | 1つ以上のリソースをリソース・グループに追加します |
| 35 ページの『cfgsamadapter』 | SA MP アダプターを構成する |
| 37 ページの『chequ』 | リソースの同値を変更します |
| 40 ページの『chrel』 | リソース間の1つ以上の管理対象関係を変更します |
| 46 ページの『chrg』 | リソース・グループの永続属性値を変更する(リソース・グループの開始および停止を含む) |
| 48 ページの『chrgmbr』 | リソース・グループ内の管理対象リソースの永続属性値(1つ以上)を変更する |
| 52 ページの『installSAM』 | すべてのインストール前提条件が満たされていることを検証し、(エンドツーエンド自動化アダプターを含む) System Automation for Multiplatforms をインストールする |
| 54 ページの『lsequ』 | 同値およびその属性をリストします |
| 57 ページの『lsrel』 | 管理対象関係をリストします |
| 62 ページの『lsrg』 | リソース・グループまたはそのリソース・グループ・メンバーの永続属性値をリストする |
| 67 ページの『lsrgreq』 | リソース・グループまたは管理対象リソースに対して適用される未解決の要求をリストする |
| 70 ページの『lssam』 | リソース・グループおよびそのメンバーをツリー形式でリストする |
| 74 ページの『lssamctrl』 | System Automation for Multiplatforms 制御をリストする |
| 76 ページの『mkequ』 | 同値リソースを作成します |
| 80 ページの『mkrel』 | リソース間の管理対象関係を作成します |
| 84 ページの『mkrq』 | リソース・グループを作成します |
| 87 ページの『pidmon』 | 処理リストで指定されたコマンド・ストリングを検索する |
| 89 ページの『prereqSAM』 | System Automation for Multiplatforms をインストールするための前提条件がすべて満たされているかどうかを検査する |
| 90 ページの『rgmbrreq』 | 管理対象リソースの開始または停止を要求するか、要求をキャンセルする |
| 93 ページの『rgreq』 | リソース・グループの開始、停止、または移動を要求するか、要求をキャンセルする |

| コマンド | 説明 |
|---|---|
| 96 ページの『rmequ』 | 1つ以上のリソース同値を削除します |
| 97 ページの『rmrel』 | リソース間の管理対象関係を削除する |
| 101 ページの『rmrg』 | リソース・グループを削除します |
| 103 ページの『rmrgmbr』 | 1つ以上のリソースをリソース・グループから削除する |
| 106 ページの『samadapter』 | SA MP アダプターの状況を始動、停止、またはモニターする |
| 107 ページの『samcc』 | 定義済みのリソース・グループとそのメンバーをツリー形式で制御する |
| 111 ページの『samctrl』 | System Automation for Multiplatforms 制御パラメーターを設定する |
| 114 ページの『samdiag』 | リソースに関するスナップショット情報を収集する |
| 116 ページの『samlicm』 | 製品ライセンスをインストール、リスト、およびアップグレードする |
| 118 ページの『samlog』 | 関連するログを収集、フォーマット設定、マージ、および表示する |
| 122 ページの『sampolicy』 | ポリシー XML の活動化、非活動化、および検証を行い、構成を保管し、ポリシー情報を検索する |
| 125 ページの『samsimul』 | 一連の要求または状態変更をシミュレートし、その結果を表示する |
| 127 ページの『samwhy』 | アプリケーション障害に関する情報の取得 |
| 128 ページの『setupAdapterNonRoot』 | 「root」以外のユーザーを使用して実行するようにエンドユーザー自動化アダプターを構成します。 |
| 131 ページの『samnonrootuser』 | System Automation for Multiplatform リソースを管理 (操作または管理) するようにローカル (非 root) システム・ユーザーを構成します。 |
| 132 ページの『uninstallSAM』 | System Automation for Multiplatforms の全コンポーネントをアンインストールする |

RSCT RMC コマンドおよびファイル

次の表に、IBM Tivoli System Automation で作業するために必要な RSCT コマンドをリストします。詳しくは、『RSCT peer domain configuration commands』を参照してください。

| コマンド | 説明 |
|------------|--------------------------------|
| addrpnode | クラスターにノードを追加する |
| chrsrc | 指定されたリソース・クラス内のリソースの永続属性値を変更する |
| lsrpdomain | クラスターに関する情報をリストする |
| lsrpnnode | クラスター内のノードに関する情報をリストする |
| lsrsrc | リソース・クラスのリソースをリストする |
| lssrc | サブシステムの状況をリストする |
| mkrpdomain | 新規クラスターを作成する |

| コマンド | 説明 |
|---------------|---------------------------------------|
| mkrsrc | 指定されたリソース・クラスのリソースを作成する |
| preprnode | クラスターを作成する前にノードを準備する (セキュリティー・セットアップ) |
| resetrsrc | 指定されたリソース・クラスのリソースをリセットする |
| rmrpdomain | クラスターを除去する |
| rmrpnode | クラスターからノードを除去する |
| rmrsrc | 指定されたリソース・クラスのリソースを除去する |
| runact | リソース・クラスに対してアクションを実行する |
| startrpdomain | クラスターをオンラインにする |
| startrpnode | クラスター内のノードをオンラインにする |
| startsrc | 個々のリソースをオンラインにする |
| startsrc | 個々のサブシステムを始動する |
| stoprpdomain | クラスターをオフラインにする |
| stoprpnode | クラスター内のノードをオフラインにする |
| stoprsrc | 個々のリソースをオフラインにする |
| stopsrc | 個々のサブシステムを停止する |

環境変数の設定

CT_CONTACT

CT_CONTACT 環境変数をホスト名または IP アドレスに設定すると、コマンドは指定されたホスト上の Resource Monitoring and Control (RMC) デーモンに通知します。環境変数が設定されていない場合、コマンドは、コマンドが実行されているローカル・システムの RMC デーモンに通知します。コマンドによって表示/変更されるリソース・クラスまたはリソースは、接続の確立先であるシステム上にあります。

CT_LOCAL_SCOPE

CT_LOCAL_SCOPE 環境変数は、RMC サブシステムのスコープをスタンドアロン環境に設定します。デフォルトでは、RMC サブシステムはクラスター内のすべてのノード上のリソースとリソース・クラスをモニターおよび制御します。1つのクラスターは、1つ以上のノードで構成できます。クラスターが1つのノードで構成されている場合、スタンドアロン環境での操作であると見なされます。スタンドアロン環境におけるコマンドのスコープはローカル・ノードです。複数ノードのクラスター環境におけるコマンドのスコープは、クラスター全体です。複数ノードのクラスターの場合、RMC が稼働しているノード上のリソースまたはリソース・クラスのみを戻したり、変更するには、以下のように CT_LOCAL_SCOPE 環境変数を 1 に設定します。

```
export CT_LOCAL_SCOPE=1
```

例えば、クラスターがノード A、B、および C で構成されており、以下のコマンドを実行すると想定します。

```
lsrsrc IBM.FileSystem
```

ノード A、B、および C に関連付けられたファイルシステムの リソースが戻されます。

CT_LOCAL_SCOPE を 1 に設定し、ノード A で **lsrsrc** コマンドを実行した場合、ノード A に関連付けられたファイルシステム・リソースのみが戻されます。

CT_MANAGEMENT_SCOPE

CT_MANAGEMENT_SCOPE 環境変数は、IBM Tivoli System Automation のすべてのユーザーに対してすべてのノードで設定する必要があります。**CT_MANAGEMENT_SCOPE=2** と入力します (ピア・ドメインの範囲)。変数は、プロファイルに永続的に設定できます。

addrgmbr

名前

addrgmbr - リソース・グループに1つ以上のリソースを追加します。

概要

```
addrgmbr [-h] [-f data_input_file] [-T] [-V]
```

```
addrgmbr [-h] -s [-m T | F] [-p A | O[,Failback] [-T] [-V] -g Resource_group  
Resource_class:"selection_string" [Resource_class:"selection_string" [...]]
```

```
addrgmbr [-h] [-m T | F] [-p A | O[,Failback] [-T] [-V] -g Resource_group  
Resource_class:Resource_name[:Node][,Resource_name[:Node][, ...]]  
[Resource_class:Resource_name[:Node] [,Resource_name[:Node][, ...]] [...]]
```

```
addrgmbr [-r 0 | AutomaticRecovery | 1 | LockOnResFailure | 2 | LockOnAnyFailure]
```

説明

addrgmbr コマンドは、リソース・グループに1つ以上の新規リソースを追加します。*data_input_file* および *-f* オプションが指定されていない場合、このコマンドを使用するときに選択文字列またはリソース名を指定する必要があります。リソース名または選択文字列は、その所属先であるリソース・クラスとともに指定してください。固定リソースの場合、リソース・クラスおよびそれが存在するノード名を含める必要があります。メンバー・リソースを、同時に複数のリソース・グループに含めることはできません。メンバー・リソースを、リソース・グループおよび同値に同時に含めることはできません。リソース・グループの各メンバーは、リソース・グループに追加される前に RMC リソースとして存在していなければなりません。リソース・グループ・メンバーは、クラスター内のオンライン・ノード上でのみ定義できます。

リソースがオフラインである場合、およびリソース・グループの公称状態がオフラインである場合は、リソース・グループに複数のリソースを追加することが実行可能です。追加するリソースの OpState がオンラインの場合、そのリソースを追加すると即時にリソースが停止します。リソースが停止中の場合、別のリソースの追加は拒否されます。

メンバー・リソースおよびその属性フラグは、コマンド・プロンプトで構文に示されたとおりに指定するか、*-f* オプションを指定するときにはファイルから指定できます。値は、このリソース属性について定義したものと同一データ・タイプでなければなりません。lsrsrdef コマンドを使用して、各属性のデータ・タイプおよび属性フィールドを検査します。

オプション

-f data_input_file

メンバー・リソースの属性情報を含むファイルの名前。

-g Resource_group

メンバー・リソースを追加するリソース・グループの固有の名前。これは管理対象リソースの MemberOf 属性を表します。

-h

ヘルプ。標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-m T|F

Mandatory 属性。リソース・グループにこの管理対象リソースが必要であるかどうかを指定します。

T
真 (デフォルト)。これらの管理対象リソースはリソース・グループに必要です。

F
使用しない。これらの管理対象リソースはリソース・グループに必要ではありません。

-p A|O[,Failback]

リソースを配置するノードが選択されるときに使用する方法を指定します。以下の値を使用します。

A
Any

O
Ordered。デフォルト値。

Failback

オプションです。コンマ区切りの値として使用します。O (Ordered) との組み合わせのみです。

-s
リソース名の代わりに使用する選択文字列を指定します。

-T
標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V
標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

-r 0 | AutomaticRecovery | 1 | LockOnResFailure | 2 | LockOnAnyFailure

グループ・メンバーを障害から回復する方法を定義する RecoveryPolicy 属性を指定します。以下の値を使用します。

0 | AutomaticRecovery
障害から自動的に回復します。デフォルト値。

1 | LockOnResFailure
メンバーで障害が起きた場合は、リソース・グループに対するロック要求を処理します。メンバーをホストするノードで障害が起きた場合は、メンバーを自動的に回復します。

2 | LockOnAnyFailure
メンバーまたはホスト・ノードで障害が起きた場合は、リソース・グループに対するロック要求を処理します。

パラメーター

Resource_class:"selection_string"

選択文字列を指定します。-s オプションでこのパラメーターを決定します。各選択文字列の前にリソース・クラスを記述する必要があります。指定された選択文字列は、対応する Resource_class 属性に適用され、どのリソースを Resource_group のメンバーにするかが決定されます。selection_string とそのリソース・クラスは、コロン (:) 区切り文字で区切る必要があります。

選択文字列は、二重引用符または単一引用符で囲む必要があります。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。例:

```
-s IBM.Application:'Name == "testing"'
```

```
-s IBM.Application:'Name ?= "test"'
```

```
-s IBM.Application:'Name like "%"' ( For all resources)
```

Resource_class:Resource_name[:Node]

メンバー・リソースは、対象となる 1 つ以上のメンバー・リソースを指定します。この構文を使用して、異なるリソース・クラスに属するリソースも指定できます。異なるクラスに属するメンバー・リソースは、スペースで区切る必要があります。メンバー・リソースは、リソースのクラス Resource_class、リソースの名前 Resource_name、およびオプションで、リソースが存在するノード Node によって識別

されます。*Resource_class*、*Resource*、および *Node* はコロンで区切る必要があります。*Resource_class* は、メンバー・リソースが属するリソース・クラスの名前です。*Resource* は、そのクラス内の実際のメンバー・リソースの名前です。固定メンバー・リソースに対してアクションを試行する場合は、ノードを指定する必要があります。ノードとそのリソースは、コロン (:) 区切り文字で区切る必要があります。以下のように、同じリソース・クラスに属する複数のリソースをコマンドで区切って指定することもできます。*Resource_class:Resource[:Node][,Resource[:Node][,...]]* 要求したアクションを実行するには、メンバー・リソースがリソース・グループに存在している必要があります。

終了状況

0

コマンドは正常に実行されました。

1

RMC でエラーが発生しました。

2

CLI スクリプトでエラーが発生しました。

3

コマンド・プロンプトに不正なフラグがあります。

4

コマンド・プロンプトに不正なパラメーターがあります。

5

RMC で誤ったコマンド・プロンプト入力に基づくエラーが発生しました。

6

指定されたリソースが見つかりませんでした。

7

このリソースは存在しています。

セキュリティー

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

例

1. データ入力ファイルを使用するメンバー・リソースを作成するには、以下のようにします。
 - a. ファイルでこれらのリソースを定義するのに役立つテンプレートを生成するには、以下のコマンドを入力します。

```
lsrsrdef -i IBM.ManagedResource >/tmp/MgdR.rdef
```

- b. 任意のファイル・エディターを使用して、ファイル `/tmp/MgdR.rdef` を編集します (タイプの適切な値を代入してすべての属性値を入力するか、デフォルト値が適切な場合はブランクのままにします)。
- c. 以下のように、ファイルを使用して `addrgmbbr` コマンドを実行します。

```
addrgmbbr -f /tmp/MgdR.rdef
```

`addrgmbbr` のサンプル・データ入力ファイル:

すべての属性の値を入力して以下に示す値を変更するか、デフォルト値が適切な場合はその属性が含まれる行を除去できます。

```
PersistentResourceAttributes::  
resource 1:  
ManagedResource = IBM.Application:App1  
MemberOf = "charmC"  
resource 2:  
ManagedResource = IBM.Application:Res2:saopt02
```



```
MemberOf = "charmC"  
Mandatory = false
```

- リソース・クラス IBM.Application に属する浮動リソース testerA をリソース・グループ resA のメンバーとして追加するには、以下のように入力します。

```
addrgmbr -g resA IBM.Application:testerA
```

- リソース・クラス IBM.Application に属する浮動リソース testerA と testerB、およびノード node1 にあるクラス IBM.ServiceIP の固定リソース ip1 をリソース・グループ resA のメンバーとして追加するには、以下のように入力します。

```
addrgmbr -g resA IBM.Application:testerA,testerB IBM.ServiceIP:ip1:node1
```

- リソース・クラス IBM.Application の選択済みメンバー・リソースを必須リソースとしてリソース・グループ resA に追加するには、以下のように入力します。

```
addrgmbr -m T -g resA IBM.Application:testerA,resA
```

サンプル・データ入力ファイル:

```
PersistentResourceAttributes::  
resource 1:  
ManagedResource = "0x001b 0xffff 0x35c05b13 0x00000000  
0x9a6ee5e0 0x0de8934c"  
MemberOf = "charmC"  
resource 2:  
ManagedResource = "0x001b 0xffff 0x35c05b13 0x00000000  
0xb4d7e1b0 0x0def4ba2"  
MemberOf = "charmC"  
Mandatory = 0  
NominalState = 0
```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/addrgmbr

addrgmbr コマンドのロケーション。

data_input_file

関連情報

samctrl、chrel、chrg、chrgmbr、lsrg、mkrg、mkrel、rmrel、rmrg、rmrgmbr コマンド。

rmcli 一般情報ファイル。

Resource_Data_Input ファイル。

cfgsamadapter

名前

cfgsamadapter - エンドツーエンド自動化アダプターを構成します。

概要

cfgsamadapter [-h]

cfgsamadapter [-s]

cfgsamadapter [-s[-g|-gr] [-l location]]

説明

`cfgsamadapter` コマンドは、エンドツーエンド自動化アダプターの構成ダイアログの開始、サイレント・モードでのエンドツーエンド自動化アダプターの構成、またはサイレント構成の入力プロパティ・ファイルの生成を行います。

オプション

<no option>

オプションが指定されていない場合のデフォルト・アクションとして構成ダイアログを開始します。

-s

- `-g` または `-gr` オプションが指定されていない場合に、サイレント・モードで構成ユーティリティーを開始します。
- `-g` または `-gr` オプションが指定されている場合に、サイレント構成の入力プロパティ・ファイルを生成します。

-g

サイレント構成の入力プロパティ・ファイルを生成します (まだ存在しない場合)。

-gr

サイレント構成の入力プロパティ・ファイルを生成します。既存のファイルは置き換えられます。

-l *location*

`-g` および `-gr` オプションと併用された場合にサイレント構成の入力プロパティ・ファイルが、*location* で指定したディレクトリーに生成されます。

サイレント構成を実行するために、*location* で指定されたディレクトリーから入力プロパティ・ファイルが取得されます。

`-l` を省略すると、デフォルト・ディレクトリーが使用されます (『例』セクションを参照)。

-h

標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

終了状況

`-s` オプションを使用して、コマンドがサイレント・モードで実行された場合、ゼロより大きいすべての戻りコードが適用されます。

0

コマンドは正常に実行されました。

1

コマンドは正常に実行されましたが、コマンド出力に警告が含まれています。

2

コマンドが失敗しました。サイレント入力プロパティ・ファイルで、入力が無効であるか、欠落していることが検出されました。コマンド出力に、対応するエラー・メッセージが含まれています。

3

コマンドが失敗しました。1つ以上のターゲット構成ファイルを更新しようとしたが、失敗しました。コマンド出力には、失敗した更新試行に関するファイルとエラー・メッセージがリストされます。

9

予期しないリカバリー不能エラーにより、コマンドが失敗しました。コマンド出力に、対応するエラー・メッセージが含まれています。

セキュリティ

このコマンドには、`root` 権限か、`/etc/opt/IBM/tsamp/sam/cfg` および `/etc/Tivoli` ディレクトリーに対する書き込み権限のいずれかが必要です。

例

1. サイレント構成の入力プロパティ・ファイルを生成するには、次のように入力します。

```
cfgsamadapter -s -g
```

出力:

```
----- Generate silent configuration input properties file -----  
Silent configuration input properties file /etc/opt/IBM/tsamp/sam/cfg/silent.samadapter.properties  
has been created.
```

2. デフォルト・ロケーション以外のロケーションでサイレント構成の入力プロパティ・ファイルを生成するには、次のように入力します。

```
cfgsamadapter -s -g -l /var/config
```

出力:

```
----- Generate silent configuration input properties file -----  
Silent configuration input properties file /var/config/silent.samadapter.properties has been created.
```

3. サイレント・モードでエンドツーエンド自動化アダプターを構成するには、次のように入力します。

```
cfgsamadapter -s
```

出力:

```
Configuration completed successfully. ----- Configuration update status -----  
Configuration file: /etc/opt/IBM/tsamp/sam/cfg/sam.adapter.properties Update: OK  
Configuration file: /etc/opt/IBM/tsamp/sam/cfg/sam.adapter.ssl.properties Update: OK  
Configuration file: /etc/opt/IBM/tsamp/sam/cfg/sam.adapter.conf Update: No change  
Configuration file: /etc/opt/IBM/tsamp/sam/cfg/sam.adapter.jaas.properties Update: No change  
Configuration file: /etc/opt/IBM/tsamp/sam/cfg/sam.adapter.jlog.properties Update: No change  
Configuration file: /etc/opt/IBM/tsamp/sam/cfg/sam.adapter.plugin.properties Update: No change  
Configuration file: /etc/Tivoli/samPublisher.conf Update: No change  
Configuration file: /etc/opt/IBM/tsamp/sam/cfg/EEZPublisher.conf Update: No change  
Configuration file: /etc/opt/IBM/tsamp/sam/cfg/JDBCPublisher.conf Update: OK  
----- End configuration update status -----
```

ファイル

/opt/IBM/tsamp/sam/bin/cfgsamadapter

cfgsamadapter コマンドのロケーション。

chequ

名前

chequ - 定義済みリソース同値を変更します。

概要

```
chequ [-h] [-i] -u a | d | r [-p A[,NoFailure | NoControl] | O[,Failback |  
NoFailure | NoControl]] [-m Minimum_Necessary] [-T] [-V] -S "Static_select_string" Equivalency  
Resource_class
```

```
chequ [-h] [-i] -u r [-p A[,NoFailure | NoControl]] [-m Minimum_Necessary] [-T] [-V] -D  
"Dynamic_select_string" Equivalency Resource_class
```

```
chequ [-h] [-i] [-u a | d | r] [-p A[,NoFailure | NoControl] | O[,Failback |  
NoFailure | NoControl]] [-m Minimum_Necessary] [-c New_Equiv] [-T] [-V] Equivalency  
[Resource_class:Resource_name[:Node] [,Resource_name[:Node]][,...]]
```

説明

chequ コマンドは、リソース同値を変更します。同値内でリソースを追加、除去、または置き換えることができます。同値内のすべてのリソースは、同じリソース・クラスでなければなりません。このコマンドを使用して、同値の名前も変更できます。

同値およびその属性フラグは、コマンド・プロンプトで構文に示されたとおりに指定できます。値は、リソース属性について定義したものと同一データ・タイプでなければなりません。lsrsrcdef コマンドを使用して、各属性のデータ・タイプおよび属性フィールドを検査します。

選択文字列なしのリソース名の明示的指定は、IPv6 が有効な IBM.NetworkInterface 同値メンバーではサポートされません。

オプション

-u a | d | r

同値リソースを更新します。

a

指定されたリソースを指定された同値に追加します。

d

指定されたリソースを指定された同値から削除します。

r

同値リソースを置き換え/上書きします。同値リソースを指定された同値リソースに置き換えます。

-c *New_Equiv*

現在の *Equivalency* パラメーターを置き換える新規の名前を指定します。

-D "*Dynamic_selection_string*"

指定された選択文字列は、関連する同値の *SelectString* 属性として保管されます。オプション *dynamic_selection_string* は、リカバリー・マネージャーによって指定されたリソース・クラスのすべてのリソースに適用され、指定された同値にどのメンバーを含めるかを動的に決定します。このオプションは *r* オプションとともに使用する必要があります。また、*Resource_name [:Node]* オペランドと組み合わせることはできません。選択文字列は、二重引用符または単一引用符で囲む必要があります。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。
例:

```
-D 'Name == "testing"'
```

```
-D 'Name ?= "test"'
```

-D オプションは、-S オプションとも -p 0 オプション (ORDERED SelectFromPolicy) と組み合わせることはできません。

-h

ヘルプ。標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-i

対話式プロンプト。同値の変更前にプロンプトを出します。

-p **A | O [,Failback | NoFailure | NoControl]**

同値の選択ポリシーを指定します。以下の値を使用します。

A

Any。デフォルト値。

O

Ordered。この値は、-D オプションと一緒に使用することができません。

オプションのコンマ区切り値は以下のとおりです。

- Failback: Ordered との組み合わせでのみ。

- NoFailure
- NoControl

-m *Minimum_Necessary*

必要最小数の同値。同値を有効にするための必要最小数のメンバーを指定します。

-S "*Static_selection_string*"

指定された選択文字列は、指定されたリソース・クラスに適用され、同値を構成するリソースが決定されます。これらのリソースは、関連する同値の `MemberShip` 属性として保管されます。このオプションを `Resource_name [:Node]` オペランドと組み合わせることはできません。この文字列を使用すると、リソースを追加、削除、および置き換えることができます。選択文字列は、二重引用符または単一引用符で囲む必要があります。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。例:

```
-S 'Name == "testing"'
```

```
-S 'Name ?= "test"'
```

-S は、-D と組み合わせることはできません。

-T

標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V

標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

パラメーター

Equivalency

変更する定義済み同値の固有の名前を指定します。

Resource_class:Resource_name[:Node]

指定された同値について追加または削除する 1 つ以上のリソースを指定します。すべてのリソースは、同じリソース・クラスでなければなりません。同値リソースは、リソース・クラス (`Resource_class`)、リソース名 (`Resource_name`)、およびオプションで、リソースが存在するノード (`Node`) によって識別されます。`Resource_class`、`Resource_Name`、および `Node` はコロンで区切る必要があります。`Resource_class` は、同値リソースが属するリソース・クラスの名前です。最初のリソース (`Resource_name[:Node]`) の前にリソースが属する `Resource_class` を記述し、これをコロン (:) 区切り文字で区切る必要があります。複数のリソースを指定でき、これらはコンマで区切ります。すべてのリソースが同じクラスでなければならないため、構文に示されたように `Resource_class` は 1 回のみ指定します。

この構文は、IPv6 が有効な `IBM.NetworkInterface` 同値メンバーではサポートされません。選択文字列の構文を使用してください。

終了状況

0

コマンドは正常に実行されました。

1

RMC でエラーが発生しました。

2

CLI スクリプトでエラーが発生しました。

3

コマンド・プロンプトに不正なフラグがあります。

4

コマンド・プロンプトに不正なパラメーターがあります。

- 5 RMCで誤ったコマンド・プロンプト入力に基づくエラーが発生しました。
- 6 指定されたリソースが見つかりません。
- 7 このリソースは存在しています。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。(詳細は *System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイド を参照してください。)

例

1. リソース・クラス `IBM.Application` に属する別のリソース `tester` を `resA` という同値に追加するには、以下のように入力します。

```
chequ -u a resA IBM.Application:tester:node-name
```

2. リソース・クラス `IBM.Application` に属するリソース `tester1` を `test` という同値から削除するには、以下のように入力します。

```
chequ -u d test IBM.Application:tester1:node-name
```

3. 選択文字列を使用して選択されたリソース・クラス `IBM.Application` のメンバーを持つ `Jfoo` という同値を追加するには、以下のように入力します。

```
chequ -u a -S "ResourceType==0" Jfoo IBM.Application
```

4. 動的選択文字列を使用して選択されたリソース・クラス `IBM.Application` のメンバーで、`Jfoo` という同値を上書きするには、以下のように入力します。

```
chequ -u r -D "ResourceType==0" Jfoo IBM.Application
```

ファイル

`/usr/sbin/rsct/bin/chequ`

`chequ` コマンドのロケーション。

関連情報

`samctrl`、`lsequ`、`mkequ`、`rmequ` コマンド。

`rmcccli` 一般情報ファイル。

chrel

名前

`chrel` - リソース間の1つ以上の管理対象関係を変更します。

概要

```
chrel [-h] [-i] [-u a | d | r] -s "Selection_string" [-c relation_name] [-p relationship]
[-o condition] [-W New_Target_Class[:Resource_name[:Node]][,New_Target_Class
[:Resource_name[:Node][,...]]]] [-w "New_Target_string"] [-T] [-V]
```

```
chrel [-h] [-i] [-u a | d | r] [-c relation_name] [-p relationship] [-o condition] [-W
New_Target_Class[:Resource_name[:Node]][,New_Target_Class[:Resource_name[:Node]]]
```

```
[,...]]]] [-w "New_Target_string"] [-T] [-V] Managed_Relation
chrel [-h] [-i] [-u a | d | r] [-c relation_name] [-p relationship] [-o condition] [-W
New_Target_Class[:Resource_name[:Node][,New_Target_Class[:Resource_name[:Node][,...]]]] [-w
"New_Target_string"] -S Source_Class
[:Resource_name[:Node]] [-s "Source_string"] [-G Target_Class[:Resource_name[:Node]]
[,Target_Class[:Resource_name[:Node][,...]]]] [-g "Target_string"] [-P Current_relationship] [-O
Current_condition] [-T] [-V]
```

説明

chrel コマンドは、リソース間の管理対象関係を変更します。管理対象関係は、1つのソース・リソースと1つ以上のターゲット・リソースの間に存在します。ソース・リソースは、リソース・グループのメンバーであるか、それ自体がリソース・グループである、管理対象リソースでなければなりません。ターゲット・リソースは、リソース・グループに属している必要はありません。管理対象関係およびその属性は、コマンド・プロンプトで構文に示されたとおりに指定できます。属性値は、リソース属性について定義したものと同一データ・タイプでなければなりません。lsrsrdef コマンドを使用して、各属性のデータ・タイプおよび属性フィールドを検査します。

オプション

-u a | d | r

ターゲットを更新します。

a

ソース・リソースについて定義された関係に、指定された新規ターゲット・リソースを追加します。

d

ソース・リソースについて定義された関係から、指定された新規ターゲット・リソースを削除します。

r

ソース・リソースについて定義された関係を、指定された新規ターゲット・リソースで置き換えます(上書きします)。

-o condition

位置関係 (Collocated、AntiCollocated、Affinity、または AntiAffinity) あるいは StartAfter 関係 (IfPossible 条件のみ) が定義されているときに使用する新規条件を指定します。この値は、数値またはワードで指定できます(大/小文字の区別はありません)。

0x0000 または NoCondition

無条件位置関係を指定します。

0x0001 または IfOnline

ターゲット・リソースがオンラインであることを指定します。

0x0002 または IfOffline

ターゲット・リソースがオフライン、オフラインに失敗、または不明であることを指定します。

0x0003 または IfNotOnline

ターゲット・リソースがオンラインでないことを指定します。

0x0004 または IfNotOffline

ターゲット・リソースが「オフライン」または「オフラインに失敗」のいずれでもないことを指定します。

0x0005 または IfPossible

StartAfter 関係との組み合わせで使用します。ターゲット・リソース・グループがバインドできない場合はバイパスされることを指定します。その場合、Sacrificed 状態で終了し、StartAfter 関係は無視されます。

-o condition

既存の条件で一致するものを検索するために、すべての定義済み関係を照会するための条件値を指定します。この値は、数値またはワードで指定できます (大/小文字の区別はありません)。

0x0000 または NoCondition

無条件位置関係を指定します。

0x0001 または IfOnline

ターゲット・リソースがオンラインであることを指定します。

0x0002 または IfOffline

ターゲット・リソースがオフライン、オフラインに失敗、または不明であることを指定します。

0x0003 または IfNotOnline

ターゲット・リソースがオンラインでないことを指定します。

0x0004 または IfNotOffline

ターゲット・リソースが「オフライン」または「オフラインに失敗」のいずれでもないことを指定します。

0x0005 または IfPossible

StartAfter 関係との組み合わせで使用します。ターゲット・リソース・グループがバインドできない場合はバイパスされることを指定します。その場合、Sacrificed 状態で終了し、StartAfter 関係は無視されます。

-g Target_string

-G オプションで指定されたリソース・クラスの全リソースに *Target_string* が適用され、関係のターゲットが決定されます。

ターゲット選択文字列を指定するために -g オプションを使用する場合、-G オプションに *Resource_name* および *Node* を指定することはできません。

-G Target_class:[Resource_name[:Node]]

関係に対して追加、削除するか、または置き換えるターゲット・リソースを指定します。すべての定義済み関係から一致するものを検索するために、ターゲット・リソース (1 つ以上) がソース照会およびその他の指定された照会で使用されます。ターゲット・リソースは、リソースのクラス (*Target_class*)、リソース名 (*Resource_name*)、およびオプションで、リソースが存在するノード *Node* によって識別されます。*Target_class*、*Resource_name*、および *Node* はコロンで区切る必要があります。複数のターゲット・リソースを指定でき、これらはコンマで区切ります。コロンは必要ですが、複数のターゲット・リソースを指定する場合に *Target_class* または *Resource_name* を省略すると、以前に指定されたクラスまたは名前が使用されます。

ターゲット選択文字列を指定するために -g オプションを使用する場合、-G オプションに *Resource_name* および *Node* を指定することはできません。

-h

標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-i

対話式です。関係の変更前にプロンプトを出します。

-c relation_name

指定された管理対象関係の新規の名前を指定します。名前の変更は、1 つの関係にのみ適用できます。名前の変更が必要な場合、照会および選択文字列が 1 つの関係にのみ一致しなければなりません。

-p relationship

適用する新規の管理対象関係を指定します。この値は、数値またはワードで指定できます (大/小文字の区別はありません)。

0x0001 または Collocated

ソース・リソースおよびターゲット・リソースが同じノードに配置されることを指定します。

0x0002 または AntiCollocated

ソース・リソースおよびターゲット・リソースが異なるノードに配置されることを指定します。

0x0003 または Affinity

ソース・リソースおよびその指定された親和性のあるリソースが、可能な場合は同じノードに配置されることを指定します。

0x0004 または AntiAffinity

ソース・リソースおよびその指定された親和性のあるリソースが、可能な場合は異なるノードに配置されることを指定します。

0x0005 または IsStartable

ソース・リソースおよびそのターゲット・リソースが始動可能であることを指定します。

0x0006 または StartAfter

ソース・リソースがターゲット・リソースより後に開始されることを指定します。

0x0007 または DependsOn

ソース・リソースが開始される前にターゲット・リソースをオンラインにすることを指定します。

- DependsOn 関係には、ソース・リソースとターゲット・リソースとの間の暗黙的なコロケーションも含まれます。詳しくは、「*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイド」の Collocated relationship に関する説明を参照してください。
- ターゲット・リソースで障害が発生すると、ソース・リソースも停止します。

0x0008 または DependsOnAny

ソース・リソースが開始される前にターゲットをオンラインにすることを指定します。これは、開始シーケンスの連結制約が提供されない点を除いて DependsOn 関係と同じです。このため、ソース・リソースとターゲット・リソースは同じノードで開始できません。

0x0009 または StopAfter

ターゲット・リソースがオフラインになるまでソース・リソースを停止できないことを指定します。

0x000A または ForcedDownBy

ターゲット・リソースが予期せずオフラインになるか、ターゲット・リソース自体が強制的にオフラインになるかのいずれかの場合に、ソース・リソースを強制的にオフラインにすることを指定します。

-P relationship

すべての定義済み関係を照会して一致するものを検索するために使用する 管理対象関係の値を指定します。この値は、数値またはワードで指定できます (大/小文字の区別はありません)。

0x0001 または Collocated

ソース・リソースおよびターゲット・リソースが同じノードに配置されることを指定します。

0x0002 または AntiCollocated

ソース・リソースおよびターゲット・リソースが異なるノードに配置されることを指定します。

0x0003 または Affinity

ソース・リソースおよびその指定された親和性のあるリソースが、可能な場合は同じノードに配置されることを指定します。

0x0004 または AntiAffinity

ソース・リソースおよびその指定された親和性のあるリソースが、可能な場合は異なるノードに配置されることを指定します。

0x0005 または IsStartable

ソース・リソースおよびそのターゲット・リソースが始動可能であることを指定します。

0x0006 または StartAfter

ソース・リソースがターゲット・リソースより後に開始されることを指定します。

0x0007 または DependsOn

ソース・リソースが開始される前にターゲット・リソースをオンラインにすることを指定します。

- DependsOn 関係には、ソース・リソースおよびターゲット・リソース間の暗黙的なコロケーションも含まれます。詳細は *System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドの Collocated の Collocated 関係に関する説明を参照してください。

- ・ターゲット・リソースで障害が発生すると、ソース・リソースも停止します。

0x0008 または DependsOnAny

ソース・リソースが開始される前にターゲットをオンラインにすることを指定します。これは、開始シーケンスの連結制約が提供されない点を除いて DependsOn 関係と同じです。このため、ソース・リソースとターゲット・リソースが同じノードで開始できません。

0x0009 または StopAfter

ターゲット・リソースがオフラインになるまでソース・リソースを停止できないことを指定します。

0x000A または ForcedDownBy

ターゲット・リソースが予期せずオフラインになるか、ターゲット・リソース自体が強制的にオフラインになるかのいずれかの場合に、ソース・リソースを強制的にオフラインにすることを指定します。

-w *New_Target_string*

関係に対して追加、削除するか、または置き換えるリソースのターゲット選択文字列を指定します。-G オプションで指定されたリソース・クラスの全リソースに *New_Target_string* が適用され、関係のターゲットが決定されます。

ターゲット選択文字列を指定するために -g オプションを使用する場合、-G オプションに *Resource_name* および *Node* を指定することはできません。

-W *New_Target_Class: Resource_name[: Node]*

新規ターゲット・リソースです。これらのリソースは、一致する関係のターゲット・リソースの現行リストに対して、必要に応じて追加、削除されるか、または置き換えられます。ターゲット・リソースは、リソースのクラス *Resource_class*、リソース名 *Resource_name*、およびオプションで、リソースが存在するノード *Node* によって識別されます。*Resource_class*、*Resource_name*、および *Node* は、コロンで区切る必要があります。複数のターゲット・リソースを指定でき、これらはコンマで区切ります。コロンは必要ですが、複数のターゲット・リソースを指定する場合に *Resource_class* または *Resource_name* を省略すると、以前に指定されたクラスまたは名前が使用されます。

ターゲット選択文字列を指定するために -g オプションを使用する場合、-G に *Resource_name* および *Node* を指定することはできません。

-s *Selection_string*

変更する関係のソース選択文字列を指定します。-S オプションで指定されたリソース・クラスの全リソースに *Selection_string* が適用され、関係のソースが決定されます。選択の結果には1つ以上のリソースが含まれる可能性があります。

ソース選択文字列を指定するために -s オプションを使用する場合、-S オプションに *Resource_name* および *Node* を指定することはできません。

-S *Source_class:[Resource_name[:Node]]*

変更する関係のソース・リソースを指定します。ソース・リソースは、リソースのリソース・クラス (*Resource_class*)、リソース名 (*Resource_name*)、およびオプションで、リソースが存在するノード (*Node*) を示します。選択の結果には1つ以上のリソースが含まれる可能性があります。

ソース選択文字列を指定するために -s オプションを使用する場合、-S オプションに *Resource_name* および *Node* を指定することはできません。

-T

標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V

標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

パラメーター

Managed_Relation

変更する管理対象関係の名前。-c オプションを使用して、関係の名前も変更できます。

終了状況

0

コマンドは正常に実行されました。

1

RMC でエラーが発生しました。

2

CLI スクリプトでエラーが発生しました。

3

コマンド・プロンプトに不正なフラグがあります。

4

コマンド・プロンプトに不正なパラメーターがあります。

5

RMC で誤ったコマンド行入力に基づくエラーが発生しました。

6

指定されたリソースが見つかりません。

7

このリソースは存在しています。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

例

1. リソース・クラス IBM.Application に属するリソース tester について、ResourceType が 0 に設定されているリソース・クラス IBM.Application のターゲット・リソースとの関係を追加するには、以下のように入力します。

```
chrel -u a -S IBM.Application:tester -W IBM.Application
-w "ResourceType==0" -G IBM.Application
-g "ResourceType==1"
```

2. リソース・クラス IBM.Application に属するソース・リソース narten についての関係を変更し、リソース・クラス IBM.NetworkInterface のリソース tr0 および en0 を追加するには、以下のように入力します。

```
chrel -u a -S IBM.Application:narten
-W IBM.NetworkInterface:tr0,:en0
```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/chrel

chrel コマンドのロケーション。

関連情報

addrgmbr、chequ、chrg、chrgmbr、lsrg、mkequ、mkrel、mkrq、rmequ、rmrel、rmrg、rmrgmbr コマンド。

rmcccli 一般情報ファイル。

chrg

名前

chrg - 1つ以上のリソース・グループの永続属性値を変更します (リソース・グループの開始および停止を含む)。

概要

```
chrg [-h] [-i] [-u a | d | r] -s "selection_string" [-l relationship] [-n node_name | -e equiv_name] [-o nominal_state] [-p priority] [-N Owner] [-D Description] [-I InfoLink] [-T] [-V] [-x node1, ...noden]
```

```
chrg [-h] [-i] [-u a | d | r] [-c new_name] [-l relationship] [-n node_name | -e equiv_name] [-o nominal_state] [-p priority] [-N Owner] [-D Description] [-I InfoLink] [-T] [-V] [-x node1, ...noden] Resource_group [ ... ]
```

説明

chrg コマンドは、1つ以上のリソース・グループの永続属性値を変更します。リソース・グループの名前は、*Resource_group* を使用して指定します。変更するリソース・グループは、**-s** オプションで選択文字列を使用して決定することもできます。**-c** オプションを指定してこのコマンドを使用することにより、リソース・グループの名前を変更することもできます。System Automation for Multiplatforms は、この変更内容で関連するすべてのメンバー・リソースを更新します。System Automation for Multiplatforms がこれらのリソース・グループをモニターおよび制御するには、リソース・グループの公称状態がオンラインでなければなりません。

オプション

-c new_name

新規 *Resource_group* 名を指定します。*Resource_group* 名を *new_name* に名前変更します。

-e equiv_name

Resource_group が稼働可能なノードの同値名を指定します。このオプションを **-n** オプションと組み合わせることはできません。クラスター内のすべてのノードの同値を使用してリソース・グループを設定するには、*equiv_name* をストリング ALL と設定します。

-h

標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-i

対話式です。リソース・グループの変更前にプロンプトを出します。

-u a | d | r

指定されたノード・リストについて実行する処理を指定します。これらのオプションを指定する場合は、**-x** オプションが必要です。

a

除外ノードのリストに指定されたノードを追加します。

d

リストから指定されたノードを削除します。

r

除外リストを指定されたノードに置き換えます。

-x node1, ...noden

除外ノード・リストを指定します。**-u a | d | r** との組み合わせのみで使用します。

-l relationship

リソース・グループのメンバー間の位置関係を指定します。位置関係の値は、数値またはワードとして入力できます (大/小文字の区別はありません)。

0x0000 または **None**

なし。リソース・グループのメンバー・リソースが任意のノードに配置できることを指定します。

0x0001 または Collocated

リソース・グループのメンバー・リソースが同じノードに配置されることを指定します。

-n node_name

Resource_group が稼働可能なノードを指定します。このオプションを **-e** オプションと組み合わせることはできません。

-o nominal_state

リソース・グループの公称状態を指定します。オンラインまたはオフラインにすることができます。公称状態の値は、数値またはワードとして入力できます(大/小文字の区別はありません)。

0x0000 または Online

オンライン。*Resource_group* の本来あるべき状態がオンラインであることを指定します。

0x0001 または Offline

オフライン。*Resource_group* の本来あるべき状態がオフラインであることを指定します。

-p priority

他のリソース・グループと比較したこのリソース・グループの相対的な重要度を指定します。優先順位は 0 から 200 までの任意の整数に指定できます。整数が大きいほど優先順位が高くなります。デフォルトの優先順位の値は 0 です。

-N Owner

グループの所有者または連絡先の名前のストリング。

-D Description

グループの目的を説明するストリング。

-I InfoLink

リソース・グループについての追加情報を示す、HTML ページの URL を含む文字列

-s Selection_string

変更する永続属性値のソース選択文字列を指定します。*Selection_string* は、既存のすべてのリソース・グループに適用されます。

選択文字列は、二重引用符または単一引用符で囲む必要があります。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。例:

```
-s 'Name == "testing"'
```

```
-s 'Name ?= "test"'
```

```
-s 'Name like "%"' ( For all resources)
```

-T

標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V

標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

パラメーター

Resource_group

変更するリソース・グループの固有の名前。この操作を正常終了させるには、このリソース・グループが既に存在していなければなりません。複数のリソース・グループを指定できますが、スペースで区切る必要があります。

終了状況

0

コマンドは正常に実行されました。

1

RMC でエラーが発生しました。

- 2 CLI スクリプトでエラーが発生しました。
- 3 コマンド行に不正なフラグがあります。
- 4 コマンド行に不正なパラメーターがあります。
- 5 RMC で誤ったコマンド行入力に基づくエラーが発生しました。
- 6 指定されたリソースが見つかりません。
- 7 このリソースは既に存在しています。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

例

1. 永続属性の位置関係を `Collocated` に、公称状態をオンラインに、`resA` というリソース・グループの優先順位の値を 34 に変更するには、以下のように入力します。

```
chrg -l collocated -o 0 -p 34 resA
```

2. 位置関係が `None` に変更されており、許可されたノード名が `cluster` であるとする場合、リソース・グループ `resA` の名前を `clusterfoo` に変更するには、以下のように入力します。

```
chrg -c clusterfoo -l 0 -n cluster resA
```

3. `resA` という名前を含むすべてのリソース・グループの許可されたノード名が `cluster` であるとする場合、位置関係を `None` に変更するには、以下のように入力します。

```
chrg -l none -n cluster -s 'Name like "%resA%''
```

ファイル

`/usr/sbin/rsct/bin/chrg`

`chrg` コマンドのロケーション。

関連情報

`addrgmbr`、`samctrl`、`chrgmbr`、`lsrg`、`mkrig`、`rimg`、`rimgmbr` コマンド。

`Resource_Data_Input` ファイル。

`rmcccli` 一般情報ファイル。

chrgmbr

名前

`chrgmbr` - リソース・グループ内の管理対象リソースの永続属性値 (1 つ以上) を変更します。

概要

```
chrgmbr [-h] [-i] [-c New_group] [-m T | F] [-T] [-V] -g Resource_group [-p A | O]
```

```
chrgmbr [-h] [-i] -s [-c New_group] [-m T | F] [-T] [-V] [-g Resource_group] [-p A |O[,Failback] "selection_string"
```

```
chrgmbr [-h] [-i] [-c New_group] [-m T | F] [-T] [-V] -s [-g Resource_group] [-p A |O[,Failback] Resource_class:"selection_string" [Resource_class:"selection_string" [... ]]
```

```
chrgmbr [-h] [-i] [-c New_group] [-m T | F] [-T] [-V] [-g Resource_group] [-p A |O[,Failback] Resource_class:Resource_name[:Node][,Resource_name[:Node][,...]] [Resource_class:Resource_name[:Node ][,Resource_name[:Node][, ...]] [...]]
```

```
chrgmbr [-r 0 | AutomaticRecovery | 1 | LockOnResFailure | 2 | LockOnAnyFailure]
```

説明

chrgmbr コマンドは、指定されたメンバー・リソースの属性を変更します。選択文字列が唯一のパラメーターである場合、これは `IBM.ManagedResource` クラスに直接適用されます。そうでない場合、リソース名または選択文字列を、それが属するクラスとともに指定する必要があります。このコマンドにより、ユーザーは、`-m` オプションを指定して管理対象リソースの `Mandatory` 属性に対する変更を指定できるようになり、また `-c` オプションを指定してリソースが属するリソース・グループを変更することができるようになります。固定リソースの場合、リソース・クラスおよびそれが存在するノード名を含める必要があります。リソース・クラスとリソース名、リソース名とノードは、コロンで区切る必要があります。

オプション

-c New_group

新規リソース・グループ名を指定します。これにより管理対象リソースの `MemberOf` 属性が変更されます。このオプションは、`Resource_group` を指定するか、この管理対象リソースがメンバーとなっている `Resource_group` を `New_group` に変更します。

-g Resource_group

リソースがメンバーであるリソース・グループの名前を指定します。これは管理対象リソースの `MemberOf` 属性を表します。

-h

標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-i

対話式です。リソース・グループの変更前にプロンプトを出します。

-m T | F

リソース・グループにこの管理対象リソースが必要であるかどうかを指定します。

T

真。これらの管理対象リソースはリソース・グループに必要です。

F

使用しない。これらの管理対象リソースはリソース・グループに必要ではありません。

-p A|O[,Failback]

リソースを配置するノードの選択時に使用する方法を指定します。以下の値を使用します。

A

Any

O

Ordered。これはデフォルトです。

Failback

オプションです。コンマ区切りの値として使用します。O (Ordered) との組み合わせのみです。

-s

使用する選択文字列を指定します。

-T

標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V

標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

-r 0 | AutomaticRecovery | 1 | LockOnResFailure | 2 | LockOnAnyFailure

グループ・メンバーを障害から回復する方法を定義する `RecoveryPolicy` 属性を指定します。以下の値を使用します。

0 | AutomaticRecovery

障害から自動的に回復します。これはデフォルトです。

1 | LockOnResFailure

メンバーで障害が起きた場合は、リソース・グループに対するロック要求を処理します。メンバーをホスティングするノードに障害が発生した場合は、そのメンバーを自動的に回復します。

2 | LockOnAnyFailure

メンバーまたはホスト・ノードで障害が起きた場合は、リソース・グループに対するロック要求を処理します。

パラメーター

Resource_class

メンバー・リソースが属するリソース・クラスの名前を指定します。リソースとリソース・クラスは、コロン(:)区切り文字で区切る必要があります。また、`selection_string` とその `resource_class` もコロン(:)区切り文字で区切る必要があります。

Resource_class:"selection_string"

-s オプションでこのオペランドを決定します。各選択文字列の前にリソース・クラスを記述する必要があります。`Resource_class` は、`selection_string` が適用されるリソース・クラスの名前を示します。`selection_string` とその `Resource_class` は、コロン(:)で区切ります。指定された選択文字列は、対応する `Resource_class` 属性に適用され、どのメンバー・リソースを変更するかが決定されます。選択文字列は、二重引用符または単一引用符で囲む必要があります。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。例えば以下のようになります。

```
-s 'Name == "testing"'
-s 'Name ?= "test"'
-s 'Name like "%"' ( For all resources)
```

Resource_class:Resource_name[:Node]

これは、変更する1つ以上のメンバー・リソースを指定します。この構文を使用して、異なるリソース・クラスに属するリソースも指定できます。ただし、異なるクラスに属するメンバー・リソースは、スペースで区切る必要があります。メンバー・リソースは、リソースのクラス (`Resource_class`)、リソースの名前 (`Resource_name`)、およびオプションで、リソースが存在するノード (`Node`) によって識別されます。`Resource_class`、`Resource_name`、および `Node` はコロンで区切る必要があります。

`Resource_class` は、メンバー・リソースが属するリソース・クラスの名前です。`Resource_name` は、そのクラス内の実際のメンバー・リソースの名前です。`Node` は、リソースが存在するノードの名前です。`Node` は、固定メンバー・リソースを変更する場合に必要です。`Node` とそのリソースは、コロン区切り文字(:)で区切ります。同じリソース・クラスに属する複数のリソースも指定でき、これらはコンマで区切ります。この場合、最初のリソースまたはリソース・クラスの `Resource_name[:Node]` の前に、リソースが属する `Resource_class` を記述し、これをコロン区切り文字(:)で区切る必要があります。残りのリソースはコンマで区切ります。

Resource_class:Resource_name[:Node][Resource_name[:Node]][,...]

メンバー・リソースを変更するには、リソース・グループに存在する 必要があります。

Selection_string

選択文字列を指定します。**-s** オプションでこのパラメーターを決定します。これが唯一のパラメーターである場合、選択文字列はメンバー・リソースに適用されます。ただし、`Resource_class` とともに指定される場合、この場合の各選択文字列は、対応する `Resource_class` 属性に適用され、`Resource_group` のどのリソースを変更するかが決定されます。`Selection_string` とその `Resource_class`

は、コロン (:) で区切ります。選択文字列は、二重引用符または単一引用符で囲む必要があります。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。例:

```
-s 'Name == "testing"'
```

```
-s 'Name ?= "test"'
```

```
-s 'Name like "%"' ( For all resources)
```

終了状況

- 0 コマンドは正常に実行されました。
- 1 RMC でエラーが発生しました。
- 2 CLI スクリプトでエラーが発生しました。
- 3 コマンド行に不正なフラグがあります。
- 4 コマンド行に不正なパラメーターがあります。
- 5 RMC で誤ったコマンド行入力に基づくエラーが発生しました。
- 6 指定されたリソースが見つかりません。
- 7 このリソースは既に存在しています。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

例

1. リソース・クラス `IBM.Application` に属するメンバー・リソース `tester` の `Mandatory` 属性を `TRUE` に変更するには、以下のように入力します。

```
chrgmbr -m T IBM.Application:tester
```

2. リソース・クラス `IBM.Application` のメンバー・リソース `testerA`、`testerB`、および `testerC` が属するリソース・グループを、現在のリソース・グループ `resA` からリソース・グループ `resAtest` に変更するには、以下のように入力します。

```
chrgmbr -c resAtest -g resA IBM.Application:testerA,testerB,testerC
```

3. `ResourceType` 属性が `1` に設定され、リソース・クラス `IBM.Application` に属している場合、リソース・グループ `resA` の選択されたメンバー・リソースの `Mandatory` 属性を `FALSE` に変更するには、以下のように入力します。

```
chrgmbr -m F -s -g resA IBM.Application:"ResourceType==1"
```

ファイル

`/usr/sbin/rsct/bin/chrgmbr`

`chrgmbr` コマンドのロケーション。

関連情報

addrgmr、samctrl、chrel、chrg、lsrg、mkrel、mkrig、mkrig、rmrel、rmrgmr コマンド。
rmcccli 一般情報ファイル。

installSAM

名前

installSAM - すべてのインストールまたはアップグレードの前提条件が満たされていることを検査し、System Automation for Multiplatforms (エンドツーエンド自動化アダプターを含む) をインストールまたはアップグレードします。

概要

```
installSAM [--nolicheck] [--nonls] [--noupgrade] [-d inst_pkg_dir] [-l log_file] [-n language]
[--silent]
```

説明

installSAM コマンドは、最初に prereqSAM コマンドを呼び出します。このコマンドは、System Automation for Multiplatforms をインストールまたはアップグレードするための前提条件がすべて満たされていることを検査します。システムが検査に合格すると、installSAM は、ライセンス・ファイルが使用可能であることを検査し、エンドツーエンド自動化管理アダプターを含む製品をインストールまたはアップグレードします。前提条件検査とインストールの間に実行されるアクションに関する情報は、ログ・ファイルに記録されます。デフォルトのログ・ファイルは /tmp/installSAM.<#>.log です。ここで、<#> は連続番号であり、最も高い番号が最近のログ・ファイルであることを示します。

通常、オプションを指定する必要はありません。選択可能なオプションでは、使用可能なライセンス・ファイルがなくても製品をインストールまたはアップグレードしたり (--nolicheck)、アップグレードを防止したり (--noupgrade)、installSAM スクリプトがパッケージ・ディレクトリになくても製品をインストールしたり (-d)、/tmp/installSAM.<#>.log 以外のログ・ファイルの使用を指定する (-l) ことができます。

installSAM コマンドは、Windows 上で System Automation for Multiplatforms に適用されません。Windows での System Automation for Multiplatforms のインストールおよびアップグレードについて詳しくは、「System Automation for Multiplatforms インストールと構成のガイド」を参照してください。

オプション

--nolicheck

使用可能なライセンス・ファイルがない場合でも、IBM Tivoli System Automation をインストールまたはアップグレードすることができるようにします。このオプションは、System Automation for Multiplatforms がバンドルされ、ライセンスを個別にインストールする製品で使用します。ライセンスがインストールされていない場合、System Automation for Multiplatforms は使用できないことに注意してください。このオプションを指定すると、ファクトがログ・ファイルに記録されます。

--nonls

英語の言語サポートのみでパッケージをインストールします。すべてのメッセージは英語で表示されます。このオプションを指定した場合、オプション -n を指定しないでください。

--noupgrade

アップグレードが必要な場合でも、System Automation for Multiplatforms のアップグレードを防止します。このオプションは、例えば初期インストールのみが望ましい場合、またはオプションが指定されない場合にアップグレードが行われるかどうかを調べる場合に使用できます。

-d inst_pkg_dir

installSAM スクリプトをディレクトリーで使用できない場合でも、指定されたディレクトリーからパッケージをインストールできます。このオプションは、System Automation for Multiplatforms をバンドルする製品で使用します。

-l log_file

installSAM コマンドによって生成された情報を、指定されたログ・ファイルに記録します。

-n language

英語に加えて、指定した言語をサポートするためにすべての利用可能なパッケージをインストールします。前提条件として、同一のバージョンおよびリリースの言語非依存パッケージをあらかじめインストールしておく必要があります。複数の言語をインストールするには、各言語についてインストールを繰り返す必要があります。このオプションを指定した場合、オプション `-nonls` を指定しないでください。 *language* の有効な値は以下のとおりです。

BR

ポルトガル語 (ブラジル)

DE

ドイツ語

ES

スペイン語

FR

フランス語

IT

イタリア語

JP

日本語

KR

韓国語

CN

中国語 (簡体字)

TW

中国語 (繁体字)

--silent

コマンド行への出力を抑制し、ご使用条件の同意などのプロンプトが出されません。

終了状況

これらは、ライセンス検査およびインストールの間に installSAM コマンドによって戻された戻りコードです。前提条件検査中に戻された戻りコードについて詳しくは、prereqSAM コマンドのマニュアル・ページを参照してください。

0

インストールまたはアップグレードが正常に完了しました。

1

<package installer> が、0 以外の戻りコードを戻しました。戻りコードおよび対応するメッセージはログ・ファイルに記載されています。パッケージ・インストーラーは次のとおりです。

- **AIX:** installp
- **Linux:** rpm

2

パッケージ sam は、同じバージョンで既にインストールされています。

3

パッケージ sam は、より高いバージョンで既にインストールされています。

- 4 オプション `--noupgrade` が指定され、パッケージ `sam` がパッケージ・バージョンより低いバージョンでインストールされていることが検出されました。アップグレードは実行されませんでした。
- 5 インストール・タスクを実行する必要があるノードは、System Automation for Multiplatforms クラスター内でオンラインです。タスクは実行されませんでした。
- 6 System Automation for Multiplatforms のライセンス・ファイルが検出されなかったか、インストール済みライセンスが検出されなかったか、ライセンスのインストールに失敗しました。
- 7 ディレクトリーまたはファイルを検出できなかったか、その他の条件が満たされていないために、`installSAM` は続行できませんでした。
- 8 指定された言語はサポートされていません。オプション `-n` が使用されている場合のみこのエラー・コードが返されます。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、`root` 権限が必要です。

lsequ

名前

`lsequ` - 定義済みのリソース同値およびその属性を リストします。

概要

```
lsequ [-h] [-s "selection_string"] [-e Equivalency] [-A p | d | b] [-l | -t | -d | -D Delimiter] [-T] [-V] [Attr...]
```

説明

`lsequ` コマンドは、同値をリストします。同値名を省略すると、定義されたすべての同値がリストされます。同値を指定すると、指定された同値の永続属性がリストされます。`Attr` オペランドを指定すると、同値について指定された属性がリストされます。

属性フラグを指定すると、同値の永続属性または動的属性 (あるいはその両方) がリストされます。`Attr` オペランドを指定すると、これが `-A` オプションをオーバーライドします。同値の情報をリストする場合、`Attr` オペランドは有効な同値属性でなければなりません。`Attr` オペランドを指定する場合、これらの属性の値そのものがリストされます。そうでない場合、一部の属性値は英語のワードに変換されます。

オプション

`-A p | d | b`

属性タイプ。デフォルトでは、永続属性のみが表示されます。メンバー・リソースのすべての属性を表示するには、このオプションを `-A b` 属性タイプにして使用する必要があります。以下の値を使用します。

p 永続属性のみを表示します。最高のパフォーマンスを得るには、この値を指定します。

d 動的属性のみを表示します。

b 永続属性および動的属性の両方を表示します。

-d 区切り文字でフォーマットされた出力を指定します。デフォルトの区切り文字はコロン (:) です。デフォルトの区切り文字を変更するには、**-D** オプションを使用します。

-D Delimiter

指定された区切り文字を使用する、区切り文字でフォーマットされた出力を指定します。このオプションを使用して、デフォルトのコロン (:) 以外のものを指定します。例えば、表示するデータにコロンが含まれる場合などにこれを使用します。このオプションを使用して、1文字以上の区切り文字を指定します。

-e Equivalency

リストする定義済み同値の名前。

-h

標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-l

長形式の出力を指定します。各属性が個別の行に表示されます。これはデフォルトの表示フォーマットです。

-s "Selection_string"

選択文字列を指定します。**-e** オプションなしで使用すると、このオプションは定義済みのすべての同値に適用されます。選択文字列を使用して **-e** オプションを指定した場合、この選択は指定された同値にのみ適用されます。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。例:

```
-s 'Name == "testing"'
```

```
-s 'Name ?= "test"'
```

永続属性のみを選択文字列にリストすることができます。

-t

表形式でフォーマットされた出力を指定します。1行ごとに1つのリソースが表示され、各属性が個別の列に表示されます。

-T

標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V

標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

パラメーター

Attr

値を表示する1つ以上の属性の名前を指定します。これらの属性はスペースで区切ります。

終了状況

0

コマンドは正常に実行されました。

1

RMC でエラーが発生しました。

2

CLI スクリプトでエラーが発生しました。

3

コマンド行に不正なオプションがあります。

4

コマンド行に不正なパラメーターがあります。

5

RMC で誤ったコマンド行入力に基づくエラーが発生しました。

6

指定されたリソースが見つかりません。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

例

1. 現在定義されているすべての同値をリストするには、以下のように入力します。

```
lsequ
```

出力結果:

```
同値の情報を表示中:  
resA  
resB  
equ1  
equ2
```

2. 同値 `resA` の永続属性をリストするには、以下のように入力します。

```
lsequ -A p -e resA
```

出力結果:

```
同値の情報を表示中:  
永続属性  
同値「resA」について。  
  
Equivalency 1:  
Name = resA  
MemberClass = IBM.Application  
Resource:Node[Membership] = {resource1-name:node-name,  
                             resource2-name:node-name,...}  
SelectString = ""  
SelectFromPolicy = ORDERED  
MinimumNecessary = 1  
Subscription = {}  
ActivePeerDomain = domain-name
```

3. 同値 `equ1` のすべての属性をリストするには、以下のように入力します。

```
lsequ -A b -e equ1
```

出力結果:

```
Displaying Equivalency Information:  
All Attributes  
For Equivalency "equ1".  
  
Equivalency 1:  
Name = equ1  
MemberClass = IBM.Application  
Resource:Node[Membership] = {resource1-name:node-name,  
                             resource2-name:node-name,...}  
SelectString = ""  
SelectFromPolicy = ORDERED  
MinimumNecessary = 1  
Subscription = {}  
ActivePeerDomain = domain-name  
Resource:Node[ValidSelectResources] = {resource1-name:node-name,  
                                       resource2-name:node-name,...}  
Resource:Node[InvalidResources] = {}
```

```
ConfigValidity
AutomationDetails[CompoundState] = Automation
```

4. 同値 equ1 のすべての属性を詳細モードでリストするには、以下のように入力します。

```
lsequ -V -A b -e equ1
```

出力結果:

```
Starting to list equivalency information.
lsequ: Executed on Thu May 8 14:42:32 2008 at "node-name",
master node "node-name".

Displaying Equivalency information:
All Attributes
For Equivalency "equ1".

Equivalency 1:
Name = equ1
MemberClass = IBM.Application
Resource:Node[Membership] = {resource1-name:node-name,
                             resource2-name:node-name,...}
SelectString = ""
SelectFromPolicy = ORDERED
MinimumNecessary = 1
Subscription = {}
ActivePeerDomain = domain-name
Resource:Node[ValidSelectResources] = {resource1-name:node-name,
                                       resource2-name:node-name,...}
Resource:Node[InvalidResources] = {}
ConfigValidity =
AutomationDetails[CompoundState] = Automation
                                   [DesiredState] = Undefined
                                   [ObservedState] = Unknown
                                   [BindingState] = Unbound
                                   [AutomationState] = Unknown
                                   [ControlState] = Undefined
                                   [HealthState] = Not Applicable
Completed listing equivalency information.
```

5. 同値 resA の動的属性をリストするには、以下のように入力します。

```
lsequ -A d -e resA
```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/lsequ

lsequ コマンドのロケーション。

関連情報

chequ、samctrl、mkequ、rmequ コマンド。

rmcccli 一般情報ファイル。

lsrel

名前

lsrel - 定義済み管理対象関係およびその属性を リストします。

概要

```
lsrel [-h] [-s "selection_string"] [-A p | d | b] [-l | -t | -d | -D Delimiter] [-T] [-V] [Attr...]
```

```
lsrel [-h] [-M relation_name] [-A p | d | b] [-l | -t | -d | -D Delimiter] [-T ] [-V] [Attr...]
```

```
lsrel [-h] [-S Source_Class[:Resource_name[:Node]] [-s "Source_string"] [-G Target_Class[:Resource_name[:Node]][,Target class[:Resource_name[:Node]][,...]]] [-g "Target_string"] [-P Current_relationship] [-O Current_condition] [-A p | d | b] [-l | -t | -d | -D Delimiter] [-T] [-V] [Attr...]
```

説明

lsrel コマンドは管理対象関係をリストします。関係名を省略すると、すべての管理対象関係がリストされます。リソース関係を指定すると、指定された関係の永続属性がリストされます。Attr パラメーターを指定すると、関係に対して指定された属性がリストされます。

属性オプションを指定すると、関係の永続属性または動的属性がリストされます。Attr パラメーターを指定すると、これが -A オプションをオーバーライドします。関係情報をリストする場合、Attr パラメーターは有効な関係属性でなければいけません。Attr パラメーターを指定する場合、これらの属性の値そのものがリストされます。そうでない場合、一部の属性値は英語のワードに変換されます。

オプション

-A p | d | b

属性タイプを指定します。デフォルトでは、永続属性のみが表示されます。このオプションは、コマンド行で属性名が指定されていない場合のみ使用できます。メンバー・リソースのすべての永続属性を表示するには、このオプションを -p 属性タイプにして使用する必要があります。

p
永続属性のみを表示します。

d
動的属性のみを表示します。

b
永続属性および動的属性の両方を表示します。

最高のパフォーマンスを得るには、-A p オプションを指定します。

-d

区切り文字でフォーマットされた出力を指定します。デフォルトの区切り文字はコロン(:)です。デフォルトの区切り文字を変更するには、-D オプションを使用します。

-D Delimiter

指定された区切り文字を使用する、区切り文字でフォーマットされた出力を指定します。このオプションを使用して、デフォルトのコロン(:)以外のものを指定します。例えば、表示するデータにコロンが含まれる場合などにこれを使用します。このオプションを使用して、1文字以上の区切り文字を指定します。

-g Target_string

-G オプションで指定されたリソース・クラスの全リソースに Target_string が適用され、関係のターゲットが決定されます。

ソース選択文字列を指定するために -g オプションを使用する場合、-G オプションに Resource_name および Node を指定することはできません。

-G Target_class[:Resource_name[:Node]]

関係とともに表示するターゲット・リソースを指定します。すべての定義済み関係から一致するものを検索するために、ターゲット・リソース(1つ以上)がソース照会およびその他の指定された照会で使用されます。ターゲット・リソースは、リソースのクラス(Target_class)、リソース名(Resource_name)、およびオプションで、リソースが存在するノード(Node)によって識別されます。Target_class、Resource_name、および Node はコロンで区切る必要があります。複数のターゲット・リソースを指定でき、これらはコマンドで区切ります。コロンは必要ですが、複数のターゲット・リソースを指定する場合に Target_class を省略すると、以前に指定されたクラスが使用されます。

ターゲット選択文字列を指定するために -g オプションを使用する場合、-G オプションに Resource_name および Node を指定することはできません。

- h**
標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。
- l**
長形式の出力を指定します。各属性が個別の行に表示されます。これはデフォルトの表示フォーマットです。
- M *relation_name***
リストする管理対象関係の名前を指定します。
- P *Current_relationship***
すべての定義済み関係を照会して一致するものを検索するために使用する 管理対象関係の値を指定します。この値は、数値またはワードで指定できます (大/小文字の区別はありません)。
 - 0x0001 または Collocated**
ソース・リソースおよびターゲット・リソースが同じノードに配置されることを指定します。
 - 0x0002 または AntiCollocated**
ソース・リソースおよびターゲット・リソースが異なるノードに配置されることを指定します。
 - 0x0003 または Affinity**
ソース・リソースおよびその指定された親和性のあるリソースが、可能な場合は同じノードに配置されることを指定します。
 - 0x0004 または AntiAffinity**
ソース・リソースおよびその指定された親和性のあるリソースが、可能な場合は異なるノードに配置されることを指定します。
 - 0x0005 または IsStartable**
ソース・リソースおよびそのターゲット・リソースが始動可能であることを指定します。
 - 0x0006 または StartAfter**
ソース・リソースがターゲット・リソースより後に開始されることを指定します。
 - 0x0007 または DependsOn**
ソース・リソースが開始される前にターゲット・リソースをオンラインにすることを指定し、ソース・リソースおよびターゲット・リソース間に 暗黙的なコロケーションを含めます。
 - 0x0008 または DependsOnAny**
ソース・リソースが開始される前にターゲットをオンラインにすることを指定します。これは、開始シーケンスの連結制約が提供されない点を除いて DependsOn 関係と同じです。このため、ソース・リソースとターゲット・リソースが同じノードで開始できません。
 - 0x0009 または StopAfter**
ターゲット・リソースがオフラインになるまでソース・リソースを停止できないことを指定します。
 - 0x000A または ForcedDownBy**
ターゲット・リソースが予期せずオフラインになるか、ターゲット・リソース自体が強制的にオフラインになるかのいずれかの場合に、ソース・リソースを強制的にオフラインにすることを指定します。
- O *Current_condition***
if 条件の照会です。一致するものを検索するために、すべての定義済み関係を照会するための条件値を指定します。この値は、数値またはワードで指定できます (大/小文字の区別はありません)。
 - 0x0000 または NoCondition**
無条件位置関係を指定します。
 - 0x0001 または IfOnline**
ターゲット・リソースがオンラインであることを指定します。
 - 0x0002 または IfOffline**
ターゲット・リソースがオフライン、オフラインに失敗、または不明であることを指定します。
 - 0x0003 または IfNotOnline**
ターゲット・リソースがオンラインでないことを指定します。

0x0004 または IfNotOffline

ターゲット・リソースが「オフライン」または「オフラインに失敗」のいずれでもないことを指定します。

0x0005 または IfPossible

StartAfter 関係との組み合わせで使用します。ターゲット・リソース・グループがバインドできない場合はバイパスされることを指定します。その場合、Sacrificed 状態で終了し、StartAfter 関係は無視されます。

-s "selection_string"

選択文字列を指定します。-S オプションなしの場合、このオプションはすべての定義済み関係およびその属性フィールドに適用されます。すべての選択文字列は、二重引用符または単一引用符で囲む必要があります。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。例えば以下のようにします。

```
-s 'Name == "testing"'
```

```
-s 'Name ?= "test"'
```

選択文字列にリストできるのは、永続属性だけです。

-s Source_string

リストする関係のソース選択文字列を指定します。-S オプションで指定されたリソース・クラス的全リソースに *Source_string* が適用され、関係のソースが決定されます。選択の結果には 1 つ以上のリソースが含まれます。

ソース選択文字列を指定するために -s オプションを使用する場合、-S オプションに *Resource_name* および *Node* を指定することはできません。

-S Source_class[:Resource_name[:Node]]

リストする関係のソース・リソースを指定します。ソース・リソースは、リソースのリソース・クラス (*Resource_class*)、リソース名 (*Resource_name*)、およびオプションで、リソースが存在するノード (*Node*) を示します。選択の結果には 1 つ以上のリソースが含まれる可能性があります。

ソース選択文字列を指定するために -s オプションを使用する場合、-S オプションに *Resource_name* および *Node* を指定することはできません。

-t

表形式でフォーマットされた出力を指定します。1 行ごとに 1 つのリソースが表示され、各属性が個別の列に表示されます。

-T

標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V

標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

パラメーター

Attr

値を表示する 1 つ以上の属性の名前を指定します。これらの属性はスペースで区切ります。-m オプションが指定されている場合、これらの属性はメンバー・リソースの属性フィールドと一致しなければいけません。-m オプションが指定されていない場合、属性はリソース・グループの属性フィールドと一致しなければいけません。

Node

ノード名を指定します。固定メンバー・リソースをリストする場合は、ノード名を指定する必要があります。ノードとそのリソースは、コロン (:) で区切ります。

Resource_class

メンバー・リソースが属するリソース・クラスの名前を指定します。リソースとリソース・クラスは、スペースで区切ります。

Resource_name

リソース名を指定します。所属先であるリソース・クラスとともに、1つ以上のリソースを指定できます。各リソースまたはリソースのセットの前には、そのリソース・クラスを記述する必要があります。リソースとリソース・クラスは、スペースで区切ります。

終了状況

- 0 コマンドは正常に実行されました。
- 1 RMC でエラーが発生しました。
- 2 CLI スクリプトでエラーが発生しました。
- 3 コマンド行に不正なフラグがあります。
- 4 コマンド行に不正なパラメーターがあります。
- 5 RMC で誤ったコマンド行入力に基づくエラーが発生しました。
- 6 指定されたリソースが見つかりません。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

例

1. 現在定義されているすべての管理対象関係をリストするには、以下のように入力します。

```
lsrel
```

出力結果:

```
Displaying Managed Relations :
Name      Resource:Node[Source]      ResourceGroup[Source]
resA      IBM.Application:ja         ResA
jaffinity IBM.Application:ja         ResA
          IBM.ResourceGroup:john    Ja
```

2. 管理対象関係 resA の永続属性をリストするには、以下のように入力します。

```
lsrel -A p -M resA
```

出力結果:

```
Displaying Managed Relationship Information:
永続属性
管理対象関係 "resA" について。

Managed Relationship 1:
Class:Resource:Node[Source] = IBM.Application:ja:nodename
Class:Resource:Node[Target] = {IBM.Application:Nate:Nodename}
Relationship                 = Collocated
Conditional                  = NoCondition
Name                         = resA
```

3. クラス `IBM.ResourceGroup` のターゲット・リソース `narten` との間に `Collocated` 関係の値を保持している場合、クラス `IBM.Application` のソース `resA` と一致する管理対象関係をリストするには、以下のように入力します。

```
lsrel -S IBM.Application:ResA -P Collocated
      -G IBM.ResourceGroup:narten
```

出力結果:

```
Displaying Managed Relationship Information:
Managed Relationship 1:
Name = ResA
Class:Resource:Node[Source] = IBM.Application:ResA
Class:Resource:Node[Target] = {IBM.ResourceGroup:Narten
,IBM.Application:ja}
Relationship = Collocated
Conditional = NoCondition
ResourceGroup[Source] = charm
```

4. 管理対象関係名 `resA` の動的属性をリストするには、以下のように入力します。

```
lsrel -A d -M resA
```

5. 選択文字列を使用して、管理対象関係名 `resA` の永続属性をリストするには、以下のように入力します。

```
lsrel -A p -s 'Name == "resA"'
```

ファイル

`/usr/sbin/rsct/bin/lsrel`

`lsrel` コマンドのロケーション。

関連情報

`addrgmbr`、`samctrl`、`chrg`、`chrgmbr`、`mkrg`、`rimg`、`rimgmbr` コマンド。

`rmcccli` 一般情報ファイル。

lsrg

名前

`lsrg` - 定義済みリソース・グループおよびそのメンバーをリストします。

概要

```
lsrg [-h] [-m] [-s "Selection_string"] [-A p | d | b] [-l | -t | -d | -D Delimiter]
[-g Resource_group] [-T] [-V] [Attr...]
```

```
lsrg [-h] [-m] [-c [-s "Selection_string"] [-A p | d | b] [-l | -t | -d | -D Delimiter] [-g
Resource_group] [-T] [-V] Resource_class:Resource[:Node][,Resource[:Node]
[,...]][Resource_class:Resource[:Node][,Resource[:Node][,...]] [... ]]
```

説明

`lsrg` コマンドは、リソース・グループまたはリソース・グループのメンバーをリストします。リソース・グループ名を省略すると、すべてのリソース・グループがリストされます。`-m` オプションなしでリソース・グループ名を指定した場合、指定されたグループの永続属性がリストされます。`Attr` パラメーターを指定すると、リソース・グループについて指定された属性がリストされます。ここで `Attr` パラメーターを指定すると、リソース・グループについて指定された属性がリストされます。

-m オプションを使用してリソース・グループ名を指定すると、リソース・グループのメンバーがリストされます。属性オプション (-A) を指定すると、リソース・グループ・メンバーの永続属性または動的属性がリストされます。デフォルトで、-m オプションでリソース・グループ・メンバーの属性 (リソース・クラス名、リソース名、属性 MemberOf、OpState、WinSource、および Location) がリストされます。Attr オペランドを指定すると、管理対象リソース (メンバー・リソース) について指定された属性がリストされます。

Attr パラメーターを指定すると、-A オプションをオーバーライドします。リソース・グループ情報をリストする場合は、Attr パラメーターは有効なリソース・グループ属性でなければなりません。また同様に、管理対象リソースをリストする場合は、有効なメンバー・リソース属性でなければなりません。Attr パラメーターを指定する場合、これらの属性の値そのものがリストされます。そうでない場合、一部の属性値は英語のワードに変換されます。

オプション

-A p | d | b

属性タイプを指定します。デフォルトでは、永続属性のみが表示されます。このオプションは、コマンド行で属性名が指定されていない場合のみ使用できます。メンバー・リソースのすべての永続属性を表示するには、このオプションを **p** 属性タイプにして使用する必要があります。

p
永続属性のみを表示します。

d
動的属性のみを表示します。

b
永続属性および動的属性の両方を表示します。

最高のパフォーマンスを得るには、-A p オプションを指定します。

-c

リソースおよびそのクラスを指定します。このオプションは、パラメーターがリソース・クラス、リソース名、およびオプションで、ノード名であることを示します。メンバー・リソースの属性がリストまたは表示されます。このオプションを使用すると、属性および選択文字列は、リソース・グループではなくメンバー・リソースに適用されます。このため、メンバー・リソースについてこれらの属性が存在しなければなりません。

-d

区切り文字でフォーマットされた出力を指定します。デフォルトの区切り文字はコロン (:) です。デフォルトの区切り文字を変更するには、-D オプションを使用します。

-D Delimiter

指定された区切り文字を使用する、区切り文字でフォーマットされた出力を指定します。このオプションを使用して、デフォルトのコロン (:) 以外のものを指定します。例えば、表示するデータにコロンが含まれる場合などにこれを使用します。このオプションを使用して、1 文字以上の区切り文字を指定します。

-g Resource_group

定義済みリソース・グループの名前、永続属性、および動的属性などのリソース・グループ情報を表示します。-g オプションを、-m および -c オプションとともに使用する場合、メンバー・リソースは指定されたリソース・グループに属していなければなりません。

-h

標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-l

長形式の出力を指定します。各属性が個別の行に表示されます。これはデフォルトの表示フォーマットです。

-m

メンバー・リソースを指定し、メンバー・リソースの属性をリストまたは表示します。このオプションを使用すると、属性および選択文字列は、リソース・グループではなくメンバー・リソースに適用されます。このため、メンバー・リソースについてこれらの属性フィールドが存在しなければなりません。

-s "Selection_string"

選択文字列を指定します。-m オプションが指定されていない場合、このオプションはリソース・グループの属性フィールドに適用されます。-m オプションまたは -c オプションが指定されている場合、選択文字列はメンバー・リソースの属性フィールドに適用されます。すべての選択文字列は、二重引用符または単一引用符で囲む必要があります。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。例:

```
-s 'Name == "testing"'
```

```
-s 'Name ?= "test"'
```

-t

表形式でフォーマットされた出力を指定します。1行ごとに1つのリソースが表示され、各属性が個別の列に表示されます。

-T

標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V

標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

パラメーター

Attr

値を表示する1つ以上の属性の名前を指定します。これらの属性はスペースで区切ります。-m オプションが指定されている場合、これらの属性はメンバー・リソースの属性フィールドと一致しなければいけません。-m オプションが指定されていない場合、属性はリソース・グループの属性フィールドと一致しなければいけません。

Node

ノード名を指定します。固定メンバー・リソースをリストする場合は、ノード名の指定が必要な場合があります。ノードとそのリソースは、コロン(:)区切り文字で区切る必要があります。

Resource_class

メンバー・リソースが属するリソース・クラスの名前を指定します。リソースとリソース・クラスは、コロン(:)区切り文字で区切る必要があります。

Resource_name

リソース名を指定します。所属先であるリソース・クラスとともに、1つ以上のリソースを指定できます。各リソースまたはリソースのセットの前には、そのリソース・クラスを記述する必要があります。リソースとリソース・クラスは、コロン(:)区切り文字で区切る必要があります。

終了状況

0

コマンドは正常に実行されました。

1

RMC でエラーが発生しました。

2

CLI スクリプトでエラーが発生しました。

3

コマンド行に不正なフラグがあります。

4

コマンド行に不正なパラメーターがあります。

5

RMC で誤ったコマンド行入力に基づくエラーが発生しました。

6

指定されたリソースが見つかりません。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

例

1. 現在定義されているすべてのリソース・グループをリストするには、以下のように入力します。

```
lsrg
```

出力結果:

```
Resource Group Names:
  resA
  clusterresA
```

2. リソース・グループ resA のすべての属性をリストするには、以下のように入力します。

```
lsrg -A b -g resA
```

出力結果:

```
Displaying Resource Group Information:
All Attributes
For Resource Group "resA".
Resource Group 1:
  Name = "resA"
  MemberLocation = Collocated
  Priority = 22
  AllowedNodes = "node1"
  NominalState = Online
  OpState = Offline
  TopGroup = resA
  AutomationDetails[CompoundState] = Automation
```

3. リソース・グループ resA のすべての属性を詳細モードでリストするには、以下のように入力します。

```
lsrg -A b -V -g resA
```

出力結果:

```
Starting to list resource group information.
lsrg: Executed on Mon Apr 3 15:48:49 2006 at "node1",
  master node "node1".
Displaying Resource Group information:
All Attributes
For Resource Group "resA".

Resource Group 1:
  Name = "resA"
  MemberLocation = Collocated
  Priority = 22
  AllowedNodes = "node1"
  NominalState = Online
  OpState = Offline
  TopGroup = resA
  AutomationDetails[CompoundState] = Automation
  [DesiredState] = Online
  [ObservedState] = Pending Online
  [BindingState] = Bound
  [AutomationState] = Internal
  [ControlState] = Startable
  [HealthState] = Not Applicable
Completed listing resource group information.
```

4. リソース・グループ resA のメンバーの属性をリストするには、以下のように入力します。

```
lsrg -m -V -Ab -g resA
```

出力結果:

```
メンバー・リソース情報のリストを開始しています。
lsrg: Executed on Mon Apr 3 15:48:49 2006 at "node1",
      master node "node1".
Displaying Member Resource information:
リソース・グループ "resA" について。
Member Resource 1:
Resource:Node [ManagedResource] = IBM.Application:charm
Mandatory                               = False
MemberOf                                = resA
WinSource                               = Nominal
Location                                = node1
AutomationDetails                       = [10,1,100,2,80,1,0]
AutomationDetails[CompoundState]       = Automation
[DesiredState]                          = Online
[ObservedState]                         = Pending Online
[BindingState]                          = Bound
[AutomationState]                       = Internal
[ControlState]                          = Startable
[HealthState]                           = Not Applicable
Completed listing member resource information.
```

5. リソース・グループ `resA` のメンバー・リソースの永続属性をリストするには、以下のように入力します。

```
lsrg -m -A p -g resA
```

出力結果:

```
Displaying Member Resource information:
リソース・グループ "resA" について。
Member Resource 1:
Resource:Node[ManagedResource] = IBM.Application:charm
Mandatory                       = False
MemberOf                         = resA
```

6. 選択文字列を使用して、リソース・グループ `resA` のメンバー・リソースの永続属性をリストするには、以下のように入力します。

```
lsrg -m -A p -s 'MemberOf == "resA"'
```

出力結果:

```
Displaying Member Resource information:
リソース・グループ "resA" について。
Member Resource 1:
Resource:Node[ManagedResource] = IBM.Application:charm
Mandatory                       = False
MemberOf                         = resA
```

7. 管理対象リソースの属性をリストするには、以下のように入力します。

```
lsrg -m
```

出力結果:

```
Displaying Member Resource information:
Class:Resource:Node[ManagedResource]Mandatory MemberOf OpState WinSource Location
IBM.Application:WebServer      True      DemoRG   Online  Nominal  node1
IBM.ServiceIP:WebIP           True      DemoRG   Online  Nominal  node1
```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/lsrg

lsrg コマンドのロケーション。

関連情報

addrgmr、samctrl、chrel、chrg、chrgmr、mkrel、mkrq、rmrel、rmrg、rmrgmr コマンド。
rmcccli 一般情報ファイル。

lsrgreq

名前

lsrgreq - リソース・グループまたは管理対象リソースに適用される 未解決の要求をリストします。

lsrgreq コマンドは、オペレーターが System Automation for Multiplatforms 管理者とユーザーのガイドに永続要求を導入できるようにするコマンドのグループ (rgreq、rgmbrreq、および lsrgreq) に属します。このコマンドのセットを使用して、オペレーターは、リソース・グループおよび管理対象リソースを開始、停止、キャンセル、または移動できます。

概要

```
lsrgreq [-h] [-L] [-m] [-l | -t | -d | -D Delimiter] [-g Resource_group] [-T] [-V]
```

```
lsrgreq [-h] [-L] -m [-l | -t | -d | -D Delimiter] [-T] [-V] [-L] Resource_class:Resource[:Node]  
[,Resource[:Node][,...]][Resource_class:Resource[:Node][,Resource[:Node][,...]]]
```

```
lsrgreq [-h] [-L] -m [-l | -t | -d | -D Delimiter] -s [-T] [-V] Resource_class:"Selection_String"  
[Resource_class:"Selection_String" [...]]
```

説明

lsrgreq コマンドは、リソース・グループまたは管理対象リソースに適用される未解決の要求をリストします。lsrgreq コマンドを使用して、アクティブな要求、またはすべての未解決の要求をリストできます。-m オプションを使用すると、管理対象リソースまたはメンバー・リソースに対するアクション要求のみがリストされます。使用しない場合、リソース・グループに対するアクション要求がリストされます。

-h

ヘルプ。標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-g Resource_group

アクションをリストするリソース・グループの名前。

-L

指定されたリソース・グループまたは管理対象リソースに対するアクション要求をリストします。このオプションを指定しない場合、アクティブな要求のみが表示またはリストされます。

-m

メンバー・リソース。メンバー・リソースに対するアクションをリストまたは表示します。

-s

使用する選択文字列を指定します。

-l

長形式の出力。各属性が個別の行に表示されます。これはデフォルトの表示フォーマットです。

-t

表形式でフォーマットされた出力。各属性が個別の列に、1 行につき 1 つのリソースで表示されます。

-d

区切り文字でフォーマットされた出力を指定します。デフォルトの区切り文字は コロン (:) です。デフォルトの区切り文字を変更するには、-D オプションを使用します。

-D Delimiter

指定された区切り文字を使用する、区切り文字でフォーマットされた出力を指定します。このオプションを使用して、デフォルトのコロン (:) 以外のものを指定します。例えば、表示するデータにコロン

が含まれる場合などにこれを使用します。このオプションを使用して、1文字以上の区切り文字を指定します。

-T

トレース。標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V

詳細。標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

パラメーター

Resource_class:"selection_string"

-s オプションでこのオペランドを決定します。各選択文字列の前にリソース・クラスを記述する必要があります。Resource_class は、selection_string が適用されるリソース・クラスの名前を示します。selection_string とその Resource_class は、区切り文字のコロン「:」で区切ります。指定された選択ストリングがその対応する Resource_class 属性に適用され、Resource_group から削除されるメンバー・リソースが決定されます。選択文字列は、二重引用符または単一引用符で囲む必要があります。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。例:

- -s IBM.Application: `Name=="testing" `
- -s IBM.Application: `Name ?="test" `
- -s IBM.Application: `Name like "%" ` (すべてのリソース)

Resource_class:Resource[:Node]

このメンバー・リソースは、アクション要求をリストする1つ以上のメンバー・リソースを指定します。この構文を使用して、異なるリソース・クラスに属するリソースも指定できます。ただし、異なるクラスに属するメンバー・リソースは、スペースで区切る必要があります。メンバー・リソースは、リソースのクラス Resource_class、リソース名 Resource、およびオプションで、リソースが存在するノード Node によって識別されます。Resource_class、Resource、および Node はコロンで区切る必要があります。Node は、メンバー・リソースが属するリソース・クラスの名前です。Node は、そのクラス内の実際のメンバー・リソースの名前です。固定メンバー・リソースに対してアクションを試行する場合は、ノードを含めることができます。ノードとそのリソースは、コロン(:)区切り文字で区切る必要があります。同じリソース・クラスに属する複数のリソースをコンマで区切って指定することもできます。Resource_class:Resource[:Node][,Resource[:Node][,...]] のように指定します。要求したアクションを実行するには、メンバー・リソースがリソース・グループに存在している必要があります。

終了状況

0

コマンドは正常に実行されました。

1

RMC でエラーが発生しました。

2

CLI スクリプトでエラーが発生しました。

3

コマンド行に不正なフラグがあります。

4

コマンド行に不正なパラメーターがあります。

5

RMC で誤ったコマンド行入力に基づくエラーが発生しました。

6

指定されたリソースが見つかりません。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、「*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイド」を参照してください。

例

1. リソース・グループ RG1 に対するアクティブなアクション要求をリストするには、以下のように入力します。

```
lsrgreq -g RG1
```

2. リソース・グループ top-rg に対する要求をリストするには、以下のように入力します。

```
lsrgreq -L -g top-rg
```

出力結果:

```
Resource Group 1:
  ResourceGroup = top-rg
  Priority      = High
  Action       = lock
  Source       = Operator
  NodeList     = {}
  ActiveStatus = Inactive
  Token        = 8f5697eb5f84c0f044995b3d00040a5b
  UserID       =
  MoveStatus   = None
```

3. リソース・グループ RG1 に属するすべてのリソースに対する要求を表形式でリストするには、以下のように入力します。

```
lsrgreq -m -g RG1
```

出力結果:

```
Displaying Member Resource request information:
アクティブな要求
リソース・グループ「RG1」について。
Member Resource 1:
Class:Resource:Node[ManagedResource] = IBM.Application:R1
Priority = Force
Action = start
Source = Operator
ActiveStatus = Active

Member Resource 2:
Class:Resource:Node[ManagedResource] = IBM.Application:R2
Priority = low
Action = start
Source = ExtSched
ActiveStatus = Active
```

4. リソース・グループ RG1 に適用されるすべてのアクション要求をリストするには、以下のように入力します。

```
lsrgreq -L -t -g RG1
```

出力結果:

```
Displaying Resource Group request information:
All request information
リソース・グループ「RG1」について。
ResourceGroup Priority Action Source      NodeList ActiveStatus MoveStatus
RG1             low      stop    ExtSched  {}       InActive     None
RG1             High    start   Automation {}       InActive     None
RG1             Force   stop    Operator  {}       Active       None
```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/lsrcgreq

lsrcgreq コマンドのロケーション。

関連情報

addrgmbbr、chrg、chrgmbr、lsrg、mkrq、rgreq、rmrg、および rmrgmbr コマンド。

lssam

名前

lssam - 定義済みリソース・グループおよびそのメンバーをツリー形式でリストします。

概要

lssam [-h|-top] [-g *Resource_group*] [-s "*selection_string*"] [-nocolor] [-noequ] [-nomsg] [-V] [-T]

説明

lssam コマンドは、すべてのリソース・グループおよびすべてのリソース・グループ・メンバーをツリー形式でリストします。一部の情報は色分けされています。例えば、リソースの OpState は、実際の値に応じて色分けされます。色分けにより、問題があるかどうかを示されます。色分けは構成可能ではないため、黒色または白色の背景を使用してください。それ以外の背景色を使用する場合、-nocolor オプションを使用して、lssam によりレポートされるすべての情報を表示してください。

注: 以下の RSCT メッセージが表示される場合は、データは保留中です。次のいずれかの照会によって、完全なデータが表示されます。

```
2610-444 Cannot obtain values for some dynamic attributes.  
0 attributes are not being monitored. 1 attributes have data pending.
```

オプション

-h

ヘルプ。標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-g *Resource_group*

指定された最上位リソース・グループおよびそのメンバーのみをツリー形式で表示します。

-nocolor

出力を色付きの強調表示なしに表示します。

-s "*selection_string*"

リソース・グループの選択文字列を指定します。リソース・グループがトップレベル・リソース・グループでない場合は、選択文字列にトップレベル・リソース・グループが含まれている必要があります。すべての選択文字列は、二重引用符または単一引用符で囲む必要があります。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。例:

```
-s 'Name == "testing"  
-s 'Name ?= "test"'
```

リソース・グループがトップレベル・リソース・グループでない場合は、選択文字列に対応するトップレベル・リソース・グループが含まれている必要があります。以下に例を示します。

```
-s 'Name like "test" || Name like "top-level-rg" '
```

-top

出力を画面上部に表示し、出力を毎秒リフレッシュします。

-noequ

同値なしで出力を印刷します。

-nomsg

エラー・メッセージなしで出力を印刷します。

-V

リソースの詳細と関係性を印刷します。

-T

標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

出力結果

```
[ <OpState> "IBM.ResourceGroup:"<GroupName> ["Request="<RequestStateList>
["Automation="<AutomationMode>]
["Control="<ControlState>]
["Binding="<BindingState>]
"Nominal="<NominalState>
[ "|-" <OpState> "IBM.ResourceGroup:"<GroupName> ["Request="<RequestStateList>
["Automation="<AutomationMode>]
["Control="<ControlState>]
["Binding="<BindingState>]
["Opt="<RecoveryPolicy>]
"Nominal="<NominalState>
]*
[ "|-" <OpState> <ResourceClass>":"<FixedResourceName>":"<NodeName>
["Request="<RequestStateList>]
["Control="<ControlState>]
["Binding="<BindingState>]
["IP="<IPAddress>]
["MNT="<MountPoint>]
["TimeToStart="<TimeToStart>]
"TimeToStop="<TimeToStop>]
["Node="<NodeState>]
["Opt="<RecoveryPolicy>]
]*
[ "|-" <OpState> <ResourceClass>":"<FloatingResourceName> ["Request="<RequestStateList>]
["Control="<ControlState>]
["Binding="<BindingState>]
["IP="<IPAddress>]
["MNT="<MountPoint>]
["TimeToStart="<TimeToStart>]
"TimeToStop="<TimeToStop>]
["Opt="<RecoveryPolicy>]
[ "|-" <OpState> <ResourceClass>":"<ConstituentResourceName>":"<NodeName>
["Node="<NodeState>]
["Opt="<RecoveryPolicy>]
]+
]*
]*
[ <OpState> "IBM.Equivalency:"<EquivalencyName> ["SelectFromPolicy="<SelectFromPolicyList>]
[ "|-" <OpState> <ResourceClass>":"<FixedResourceName>":"<NodeName>
["Node="<NodeState>]
]+
]*
```

出力の解釈:

<OpState> - OpState of group/resource

Color-coding scheme:

```
"Unknown" - Blue
"Offline" - Blue
"Online" - Green
"Failed offline" - Red
"Stuck online" - Red
"Pending online" - Yellow
"Pending offline" - Yellow
"Ineligible" - Yellow
```

<GroupName> - Name of the resource group

<ResourceClass> - Name of the resource class

<FixedResourceName> - Name of a fixed resource

<FloatingResourceName> - Name of a floating resource

<ConstituentResourceName> - Name of a constituent resource

<NodeName> - Name of a node (short host name)

```

<RequestStateList> - If requests are present, one or more request states
                    with source indicator are shown
<RequestState>["<SourceIndicator>"]
[ "("<RequestState>":<SourceIndicator>["<RequestState>":<SourceIndicator> ]+)" ]

<RequestState> - Request action
  Color-coding scheme:
  "Online" - Green if inactive, yellow if active
  "Offline" - Blue if inactive, yellow if active
  "Lock" - Red
  "Move" - Not color-coded if inactive, yellow if active

<SourceIndicator> - First letter of the request source:
  "O" - Operator (if operator request is first in list, this indicator is not shown)
  "A" - Automation
  "E" - ExtSchedul
  "U" - Unknown

<AutomationState> - Automation attribute from lssamctrl (in red color)
  "Manual" - Automation disabled for this domain

<NodeState> - Some states of a node (in red color)
  "Offline" - Node is offline
  "Excluded" - Node is excluded (if a node is offline, "Excluded" is not shown)

<ControlState> - Some states of the AutomationDetails ControlState (in yellow color)
  "StartInhibited" - Start of dependent resource is not satisfactory
                    (only displayed if OpState is Offline and DesiredState is Online)
  "StopInhibited" - Stop of dependent resource is not satisfactory
                    (only displayed if OpState is Online and DesiredState is Offline)
  "SuspendedPropagated" - A lock request is propagated to this resource
  "StartInhibitedBecauseSuspended" - Start of dependent resource is not satisfactory
                    and a lock request is propagated to this resource
                    (only displayed if OpState is Offline and DesiredState is Online)
  "StopInhibitedBecauseSuspended" - Stop of dependent resource is not satisfactory
                    and a lock request is propagated to this resource
                    (only displayed if OpState is Online and DesiredState is Offline)
  "MemberInProblemState" - A constituent of the resource, a
                    resource, or a resource group is in a problem state
                    Problem state means that the resource is failed offline or not
                    startable due to another reason. Identify and solve the
                    problem of the resource and enter resetrsrc.

<BindingState> - Some states of the AutomationDetails BindingState (in red color)
  "Unbindable" - Configuration is incorrect
  "Sacrificed" - No system available to comply with configuration
  "Sacrificial" - No system available to comply with configuration

<NominalState> - Nominal State
  Color-coding scheme:
  Online - Green
  Offline - Blue

<EquivalencyName> - Name of the equivalency
  The following information is only displayed if the option -V is specified:

<IPAddress> - IP Address displayed only for class IBM.ServiceIP when option -V is used.
<MountPoint> - Mount point displayed only for class IBM.AgFileSystem when option -V is used.
<TimeToStart> - Time to start displayed only for class IBM.Test when option -V is used and
  TimeToStart or TimeToStop value does not equal to default 0 seconds.
<TimeToStop> - Time to stop displayed only for class IBM.Test when option -V is used and
  TimeToStart or TimeToStop value does not equal to default 0 seconds.

<SelectFromPolicyList> - Specifies the policy to be used when making a selection from the
  Equivalency element.
  Only displayed when option -V is used.
  ( "ANY" | "ORDERED" ) [ ",Failback" ] [ ",NoFailure" ] [ ",NoControl" ]
  "ANY" - The member selection has no specific order. This is the default which is not displayed if
  its the only option.
  "ORDERED" - The member selection starts at the beginning.
  "Failback" - The resources are always started on and will failback to the first member available in the
  ordered list. Only in combination with ORDERED.
  "NoFailure" - The OpState of resources that have a dependency against the equivalency will not be forced
  to Failed Offline, if they could not be started within the specified timeout interval.
  "NoControl" - System Automation will neither start nor stop the members of the equivalency but only
  react
  to changes of the OpState of these resources.

<RecoveryPolicy> - Specifies the policy which determines how a member failure is recovered.
  ("LockOnResFailure" | "LockOnAnyFailure")
  "LockOnResFailure" - Submits a Lock request on the resource group if the member fails.

```

Automatically recover the member if the node hosting the member fails.
"LockOnAnyFailure" - Submits a Lock request on the resource group if the member or the hosting node fails.
Note, that the attribute is not displayed if the default value "AutomaticRecovery" is set. In this case a failure is automatically recovered.

Sample:

```
Online IBM.Equivalency:equ1 SelectFromPolicy=ORDERED,Failback
```

Description:

Equivalency equ1 is online and has the select from policy ORDERED and Failback.

Managed relationships between resources are displayed with arrows when option -V is used. The arrow is displayed on the right side behind the resource tree and starts on the source resource and points to the target resource.

The relationship type is displayed with two a character shortcut on the arrow. The following list explains the two character shortcut for the relationship types.

"DO" - DependsOn - Specifies a combination of source StartAfter target, target StopAfter source, source ForcedDownBy target, source Collocated to target and target Collocated to source.
"DA" - DependsOnAny - Specifies a combination of source StartAfter target, target StopAfter source and source ForcedDownBy target.
"SA" - StartAfter - Specifies that the source resource is to be started after the target resource.
"SO" - StopAfter - Specifies that the source resource may not be stopped until after the target resource has been brought offline.
"FD" - ForcedDownBy - Specifies that the source resource must be forced offline in the event that either the target resource goes offline unexpectedly or the target resource itself is forced offline.
"CO" - Collocated - Specifies that the source resource is always located on the same node as the target resource.
"AC" - AntiCollocated - Specifies that the source resource is always located on a different node as the target resource.
"AF" - Affinity - Specifies that the source resource are to be located on the same node as its specified affinity resource if possible.
"AA" - AntiAffinity - Specifies that the source resource are to be located on a different node as its specified affinity resource if possible.
"IS" - IsStartable - Specifies that the source resource and its target resources are startable.

Sample:

```
Online IBM.ResourceGroup:samadapter-rg Nominal=Online
  |- Online IBM.Application:samadapter          -.
    |- Offline IBM.Application:samadapter:p550sa05 |
    |- Online IBM.Application:samadapter:p550sa06  DO
  '- Online IBM.ServiceIP:samadapter-ip IP=9.152.135.231 <' -.
    |- Offline IBM.ServiceIP:samadapter-ip:p550sa05 |
    '- Online IBM.ServiceIP:samadapter-ip:p550sa06  DO
Online IBM.Equivalency:samadapter-nieq          <'
  |- Online IBM.NetworkInterface:eth0:p550sa06
  '- Online IBM.NetworkInterface:eth0:p550sa05
```

Description:

Relationship: Source resource IBM.Application:samadapter
DependsOn target resource IBM.ServiceIP:samadapter-ip

Relationship: Source resource IBM.ServiceIP:samadapter-ip
DependsOn target resource IBM.Equivalency:samadapter-nieq

Floating resource: IBM.ServiceIP:samadapter-ip has the IP Address 9.152.135.231

終了状況

0

コマンドは正常に実行されました。

1

エラーが発生しました。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

例

すべてのリソース・グループとそのメンバーをリストするには、次のコマンドを入力します。

```
lssam
```

出力結果:

```
Online IBM.ResourceGroup:grp1 Nominal=Online
'- Offline IBM.Application:res1:node1
Offline IBM.ResourceGroup:grp2 Nominal=Offline
'- Offline IBM.Application:res2:node2
Online IBM.ResourceGroup:grp3 Request=Online Nominal=Offline
'- Online IBM.Application:res3
  |- Online IBM.Application:res3:node1
  '- Failed offline IBM.Application:res3:node2
```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/lssam

lssam コマンドのロケーション。

lssamctrl

名前

lssamctrl - 既に定義済みの System Automation for Multiplatforms 制御パラメーターと属性をリストします。

概要

lssamctrl [-h][-A p | d | b][-l | -t | -d | -D *Delimiter*][-T][-V][*Attr...*]

説明

lssamctrl コマンドは、System Automation for Multiplatforms の設定済みの制御パラメーター値をリストします。*Attr* オペランドが使用されている場合、指定された各属性値がリストされます。属性オプション -A を指定すると、System Automation for Multiplatforms の永続属性または動的属性 (あるいはその両方) がリストされます。*Attr* オペランドを指定すると、-A オプションがオーバーライドされます。*Attr* オペランドは、IBM Tivoli System Automation 制御クラスの有効な属性でなければいけません。*Attr* オペランドを指定する場合、各属性の値そのものがリストされます。そうでない場合、一部の属性値は英語のワードに変換されます。

オプション

-h

ヘルプ。標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-A p | d | b

属性タイプ。デフォルトでは、永続属性のみが表示されます。メンバー・リソースのすべての永続属性を表示するには、このオプションを p 属性タイプにして使用する必要があります。

- p - 永続属性のみを表示します。
- d - 動的属性のみを表示します。
- b - 永続属性および動的属性の両方を表示します。

最高のパフォーマンスを得るには、-A p オプションを指定します。

-l

長形式の出力。各属性が個別の行に表示されます。これがデフォルトの表示フォーマットです。

-t

表形式でフォーマットされた出力。各属性が個別の列に、1 行につき 1 つのリソースで表示されます。

-d

区切り文字でフォーマットされた出力を指定します。デフォルトの区切り文字は コロン (:) です。デフォルトの区切り文字を変更するには、-D オプションを使用します。

-D Delimiter

指定された区切り文字を使用する、区切り文字でフォーマットされた出力を指定します。このオプションを使用して、デフォルトのコロン (;) 以外のものを指定します。例えば、表示するデータにコロンが含まれる場合などにこれを使用します。このオプションを使用して、1文字以上の区切り文字を指定します。

-T

トレース。標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V

標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

パラメーター

Attr

値を表示する属性の名前。これらの属性はスペースで区切ります。

終了状況

0

コマンドは正常に実行されました。

1

RMC でエラーが発生しました。

2

CLI スクリプトでエラーが発生しました。

3

コマンド行に不正なフラグがあります。

4

コマンド行に不正なパラメーターがあります。

5

RMC で誤ったコマンド行入力に基づくエラーが発生しました。

6

指定されたリソースが見つかりません。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

例

現在定義されているすべての System Automation for Multiplatforms パラメーターをリストするには、以下のコマンドを入力します。

```
lssamctrl
```

出力結果:

```
IBM Tivoli System Automation 制御情報を表示中:
```

```
SAMControl:
  Timeout          = 60
  RetryCount       = 3
  Automation       = Auto
  ExcludedNodes    = {}
  ResourceRestartTimeout = 5
  ActiveVersion    = [3.2.2.0, Mon Jun 2 10:36:54 2008]
  Enable Publisher = EEZ
  TraceLevel       = 63
  ActivePolicy     = []
```

```
CleanupList      = {}  
PublisherList    = {}
```

ファイル

`/usr/sbin/rsct/bin/lssamctrl`

`lssamctrl` コマンドのロケーション。

関連情報

`samctrl` コマンド。

`rmcccli` 一般情報ファイル。

mkequ

名前

`mkequ` - リソース同値を作成します。

概要

```
mkequ [-h] -f data_input_file [ -T ] [-V]
```

```
mkequ [-h] [-p A[,NoFailure | NoControl] | O[,Failback | NoFailure | NoControl]] [-m Minimum_Necessary] [-T] [-V] -S "Static_select_string" Equivalency_Resource_class
```

```
mkequ [-h] [-p A[,NoFailure | NoControl]] [-m Minimum_Necessary] [-T] [-V] -D "Dynamic_select_string" Equivalency_Resource_class
```

```
mkequ [-h] [-p A[,NoFailure | NoControl] | O[,Failback | NoFailure | NoControl]] [-m Minimum_Necessary] [-T] [-V] Equivalency_Resource_class:Resource_name[:Node][,Resource_name[:Node][,...]]
```

説明

`mkequ` コマンドは、指定されたリソース間でリソース同値を作成します。すべてのリソースは、同じリソース・クラスでなければなりません。

同値およびその属性フラグは、コマンド行で構文に示されたとおりに指定するか、`-f` オプションを指定するときにはファイルから指定できます。値は、このリソース属性について定義したものと同一データ・タイプでなければなりません。 `lsrsrctdef` コマンドを使用して、各属性のデータ・タイプおよび属性フィールドを検査します。

選択文字列なしのリソース名の明示的指定は、IPv6 が有効な `IBM.NetworkInterface` 同値メンバーではサポートされません。

オプション

-D "*dynamic_select_string*"

動的選択文字列。指定された選択文字列は、関連する同値の `SelectString` 属性として保管されます。この `selection_string` は、リカバリー・マネージャーによって指定されたリソース・クラスのすべてのリソースに適用され、指定された同値にどのメンバーを含めるかが動的に決定されます。このオプションを `Resource_name[:Node]` パラメーターと組み合わせることはできません。選択文字列は、二重引用符または単一引用符で囲む必要があります。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。以下に例を示します。

```
-D 'Name == "testing"'
```

```
-D 'Name ?= "test"'
```

-D オプションは、-S オプションとも、ORDERED SelectFromPolicy (-p 0) と組み合わせることができません。

-f data-input_file

同値の属性情報を含むファイルの名前を指定します。

-h

標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-p A | O [,Failback | NoFailure | NoControl]

同値の選択ポリシーを指定します。以下の値を使用します。

A

Any。これはデフォルト値です。

O

Ordered。この値は、-D オプションと一緒に使用することができません。

オプション (コンマで区切られた) 値:

ANY

メンバー選択に特定の順序はありません。これはデフォルト値です。これが唯一のオプションである場合は、表示されません。

ORDERED

開始時に、メンバー選択が開始されることを意味します。

Failback

リソースは常に、先頭のメンバーのリソースから開始されます (使用可能な場合)。ORDERED との組み合わせでのみ使用されます。

NoFailure

NoFailure: 同値に対する依存関係があるリソースの OpState は、指定されたタイムアウト・インターバル内で開始できない場合に、強制的に「Failed Offline」にはなりません。

NoControl

System Automation は、同値のメンバーを開始または停止しませんが、これらのリソースの OpState の変更に対してのみ反応します。

-S "static_select_string"

静的選択文字列。指定された選択文字列は、指定されたリソース・クラスに適用され、同値を構成するリソースが決定されます。これらのリソースは、同値の MemberShip 属性として保存されます。このオプションを *Resource_name* [:Node] パラメーターと組み合わせることはできません。選択文字列は、二重引用符または単一引用符で囲む必要があります。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。例:

```
-S 'Name == "testing"'
```

```
-S 'Name ?= "test"'
```

-S は、-D と組み合わせることはできません。

-m Minimum-Necessary

必要最小数の同値。同値を有効にするための必要最小数のメンバーを指定します。デフォルト値は 1 です。

-T

標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V

標準エラーにコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

パラメーター

Equivalency

作成する新規同値の固有の名前を指定します。同値の名前にドル記号 (\$) を含めることはできません。

Resource_class:Resource_name[:Node]

同値のメンバーにする 1 つ以上のリソースを指定します。すべてのリソースは、同じリソース・クラスでなければなりません。同値リソースは、リソース名 (*Resource_name*)、およびオプションで、リソースが存在するノード (*Node*) を示します。

リソース名にドル記号 (\$) を含めることはできません。*Resource_name* と *Node* はコロンで区切る必要があります。複数のリソースを指定でき、これらはコンマで区切ります。*Resource_class* は、同値リソースが属するリソース・クラスの名前です。最初のリソースまたは *Resource_name[:Node]* の前にリソースが属する *Resource_class* を記述し、これをコロン (:) 区切り文字で区切る必要があります。

すべてのリソースが同じクラスでなければならないため、構文に示されたように *Resource_class* は 1 回のみ指定します。

この構文は、IPv6 が有効な *IBM.NetworkInterface* 同値メンバーではサポートされません。選択文字列の構文を使用してください。

終了状況

- 0 コマンドは正常に実行されました。
- 1 RMC でエラーが発生しました。
- 2 CLI スクリプトでエラーが発生しました。
- 3 コマンド行に不正なフラグがあります。
- 4 コマンド行に不正なパラメーターがあります。
- 5 RMC で誤ったコマンド行入力に基づくエラーが発生しました。
- 6 指定されたリソースが見つかりません。
- 7 このリソースは既に存在しています。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

例

1. 同値を作成するには、データ入力ファイルを使用します。
 - a. ファイルでこれらのリソースを定義するのに役立つテンプレートを生成するには、以下のように入力します。

```
lsrsrdef -i IBM.Equivalency >& /tmp/Equ.rdef
```
 - b. 任意のテキスト・エディターを使用して、ファイル */tmp/Equ.rdef* を編集します (タイプの適切な値を代入してすべての属性値を入力するか、デフォルト値が適切な場合はブランクのままにします)。

c. 以下のように、ファイルを使用して **mkequ** コマンドを実行します。

```
mkequ -f /tmp/Equ.rdef
```

mkequ のサンプル・データ入力ファイル:

すべての属性の値を入力して以下に示す値を変更するか、デフォルト値が適切な場合はその属性が含まれる行を除去できます。

```
PersistentResourceAttributes::
resource 1:
  Name = "Equiv"
  MemberClass = "IBM.NetworkInterface"
  Membership = "{ 'eth0:node-name', 'eth0:node-name' }"
resource 2:
  Name = "Equiv2"
  MemberClass = "IBM.Application"
  Membership = "{ 'App1:node-name', 'App2:node-name', 'App3:node-name' }"
  SelectFromPolicy = "Any"
  MinimumNecessary = 2
resource 3:
  Name = "Equiv3"
  MemberClass = "IBM.Test"
  SelectString = "Name ?='Test'"
  SelectFromPolicy = "Any"
  MinimumNecessary = 1
```

2. リソース・クラス **IBM.Application** のすべてのメンバーを使用して、**resA** という同値を作成するには、以下のように入力します。

```
mkequ -S 'Name like "%'" resA IBM.Application
```

3. リソース・クラス **IBM.Application** の選択されたメンバー **testerA**、**testerB**、および **testerC** を使用して **resA** という同値を作成し、そのポリシーを「**ordered**」に設定するには、以下のように入力します。

```
mkequ -p 0 resA IBM.Application:testerA:node-name,testerB:node-name,testerC:node-name
```

同値を作成するためのすべてのリソースは固定である必要があるため、ノード名を指定する必要があります。

4. 静的選択文字列を使用して選択されたリソース・クラス **IBM.Application** のメンバーを使用し、**testerB** という同値を作成するには、以下のように入力します。

```
mkequ -S "ResourceType==0" testerB IBM.Application
```

5. 動的選択文字列を使用して選択されたリソース・クラス **IBM.Application** のメンバーを使用し、**Jfoo** という同値を作成するには、以下のように入力します。

```
mkequ -D "ResourceType==0" Jfoo IBM.Application
```

6. リソース・クラス **IBM.NetworkInterface** のノード **node1** および **node2** から選択したメンバー **eth0** で **netequ** という名前の同値を作成し、そのポリシーを **Ordered** および **Failback** に設定するには、次のように入力します。

```
mkequ -p 0,Failback netequ IBM.NetworkInterface:eth0:node1,eth0:node2
```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/mkequ

mkequ コマンドのロケーション。

data_input_file

例および **Resource_Data_Input** ファイルのマニュアル・ページを参照してください。

関連情報

chequ、chrgmbr、lsequ、mkrel、rmequ コマンド。

rmcccli 一般情報ファイル。

Resource_Data_Input ファイル。

mkrel

名前

mkrel - リソース間の管理対象関係を作成します。

概要

```
mkrel [-h] -f data_input_file [ -T] [-V]
```

```
mkrel [-h] [-p relationship] [-o condition] -S Source_class[:Resource_name[:Node]] [-s  
"Source_selection_string"] -G Target_class[:Resource_name[:Node]][,Target_class[:Resource_name[:Node]]  
[,...]] [-g "Target_selection_string"] [-T] [-V] [Managed_Relation]
```

説明

mkrel コマンドは、リソース間の関係を作成します。関係は、1つのソース・リソースと1つ以上のターゲット・リソースの間に存在します。ソース・リソースは、リソース・グループのメンバーであるか、それ自体がリソース・グループである、管理対象リソースでなければなりません。ターゲット・リソースは、リソース・グループに属している必要はありません。

管理対象関係およびその属性フラグは、コマンド行で構文に示されたとおりに指定するか、-f オプションを指定するときにはファイルから指定できます。値は、このリソース属性について定義したものと同じデータ・タイプでなければなりません。lsrsrcdef コマンドを使用して、各属性のデータ・タイプおよび属性フィールドを検査します。

オプションですが、管理対象関係の名前を指定します。

オプション

-o condition

位置関係 (Collocated、AntiCollocated、Affinity、または AntiAffinity) あるいは StartAfter (IfPossible 条件の場合のみ) が定義されているときに使用する If 条件を指定します。この値は、数値またはワードで指定できます (大/小文字の区別はありません)。

0x0000 または NoCondition

無条件位置関係を指定します。

0x0001 または IfOnline

ターゲット・リソースがオンラインであることを指定します。

0x0002 または IfOffline

ターゲット・リソースがオフライン、オフラインに失敗、または不明であることを指定します。

0x0003 または IfNotOnline

ターゲット・リソースがオンラインでないことを指定します。

0x0004 または IfNotOffline

ターゲット・リソースが「オフライン」または「オフラインに失敗」のいずれでもないことを指定します。

0x0005 または IfPossible

StartAfter 関係との組み合わせで使用します。ターゲット・リソース・グループがバインドできない場合はバイパスされることを指定します。その場合、Sacrificed 状態で終了し、StartAfter 関係は無視されます。

-f data-input_file

管理対象関係の属性情報を含むファイルの名前を指定します。

-g Target_selection_string

関係のターゲットを決定するために、-G オプションで指定されたリソース・クラスのすべてのリソースに適用されるターゲット選択文字列を指定します。

ターゲット選択文字列を指定するために -g オプションを使用する場合、-G オプションに *Resource_name* および *Node* を指定することはできません。

-G Target_class[:Resource_name[:Node]]

関係のターゲット・リソースを指定します。ターゲット・リソースは、リソースのリソース・クラス (*Target_class*)、リソース名 (*Resource_name*)、およびオプションで、リソースが存在するノード (*Node*) を示します。

リソース名にドル記号 (\$) を含めることはできません。 *Target_class*、 *Resource_name*、および *Node* はコロンで区切る必要があります。複数のターゲット・リソースを指定でき、これらはコンマで区切ります。コロンは必要ですが、複数のターゲット・リソースを指定する場合に *Target_class* または *Resource_name* を省略すると、以前に指定されたクラスまたは名前が使用されます。

ターゲット選択文字列を指定するために -g オプションを使用する場合、-G オプションに *Resource_name* および *Node* を指定することはできません。

-h

標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-p relationship

適用する管理対象関係を指定します。この値は、数値またはワードで指定できます (大/小文字の区別はありません)。

0x0001 または Collocated

ソース・リソースおよびターゲット・リソースが同じノードに配置されることを指定します。

0x0002 または AntiCollocated

ソース・リソースおよびターゲット・リソースが異なるノードに配置されることを指定します。

0x0003 または Affinity

ソース・リソースおよびその指定された親和性のあるリソースが、可能な場合は同じノードに配置されることを指定します。

0x0004 または AntiAffinity

ソース・リソースおよびその指定された親和性のあるリソースが、可能な場合は異なるノードに配置されることを指定します。

0x0005 または IsStartable

ソース・リソースおよびそのターゲット・リソースが始動可能であることを指定します。

0x0006 または StartAfter

ソース・リソースがターゲット・リソースより後に開始されることを指定します。

0x0007 または DependsOn

ソース・リソースが開始される前にターゲット・リソースをオンラインにすることを指定し、ソース・リソースおよびターゲット・リソース間に暗黙的なコロケーションを含めます。

0x0008 または DependsOnAny

ソース・リソースが開始される前にターゲットをオンラインにすることを指定します。これは、開始シーケンスの連結制約が提供されない点を除いて *DependsOn* 関係と同じです。このため、ソース・リソースとターゲット・リソースが同じノードで開始されないことがあります。

0x0009 または StopAfter

ターゲット・リソースがオフラインになるまでソース・リソースを停止できないことを指定します。

0x000A または ForcedDownBy

ターゲット・リソースが予期せずオフラインになるか、ターゲット・リソース自体が強制的にオフラインになるかの場合に、ソース・リソースを強制的にオフラインにすることを指定します。

-s Source_selection_string

関係のソースを決定するために、-S オプションで指定されたリソース・クラスのすべてのリソースに適用されるソース選択文字列を指定します。選択の結果には、1つのリソースのみが含まれます。

ソース選択文字列を指定するために -s オプションを使用する場合、-S オプションに *Resource_name* および *Node* を指定することはできません。

-S Source_class[:Resource_name[:Node]]

関係のソース・リソースを指定します。ソース・リソースは、リソースのリソース・クラス (*Source_class*)、リソース名 (*Resource_name*)、およびオプションで、リソースが存在するノード (*Node*) を示します。

リソース名にドル記号 (\$) を含めることはできません。 *Source_class*、*Resource_name*、および *Node* はコロンで区切る必要があります。

ソース選択文字列を指定するために -s オプションを使用する場合、-S オプションに *Resource_name* および *Node* を指定することはできません。

-T

標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V

標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

パラメーター

Managed_Relation

オプションの管理対象関係の名前。管理対象関係の名前にドル記号 (\$) を含めることはできません。

同じソース・リソースが指定された管理対象関係が複数ある場合、管理対象関係の名前を指定してください。そうでないと、*sampolicy* コマンドでポリシーの保管および活動化のアクションが実行された後に、それらの関係は単一の管理対象関係に統合されます。

終了状況

0

コマンドは正常に実行されました。

1

RMC でエラーが発生しました。

2

CLI スクリプトでエラーが発生しました。

3

コマンド行に不正なフラグがあります。

4

コマンド行に不正なパラメーターがあります。

5

RMC で誤ったコマンド行入力に基づくエラーが発生しました。

6

指定されたリソースが見つかりません。

7

このリソースは存在しています。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

例

1. データ入力ファイルを使用して新規関係を作成するには、以下のようになります。
 - a. ファイルでこれらの関係を定義するのに役立つテンプレートを生成するには、以下のように入力します。

```
lsrsrdef -i IBM.ManagedRelationship > /tmp/Rel.rdef
```

- b. 任意のテキスト・エディターを使用して、ファイル /tmp/Rel.rdef を編集します (タイプの適切な値を代入してすべての属性値を入力するか、デフォルト値が適切な場合は空白のままにします)。
- c. 以下のように入力して、ファイルを使用して **mkrel** コマンドを実行します。

```
mkrel -f /tmp/Rel.rdef
```

mkrel のサンプル・データ入力ファイル:

すべての属性の値を入力して以下のサンプルに示す値を変更するか、デフォルト値が適切な場合はその属性が含まれる行を除去することができます。

```
PersistentResourceAttributes::
resource 1:
Name = "Rel1"
Source = "IBM.ResourceGroup:G2"
Target = "IBM.ResourceGroup:G1"
Relationship = StartAfter
resource 2:
Name = "Rel2"
Source = IBM.Application:A2
Target = "{IBM.NetworkInterface:eth0:saopt02}"
Conditional = IfNotOffline
Relationship = collocated
```

2. リソース・クラス **IBM.Application** に属するリソース **tester** について、**ResourceType** が 1 に設定されているリソース・クラス **IBM.Application** のターゲット・リソースとの **myrel** という名前の関係を作成するには、以下のように入力します。

```
mkrel -p collocated -S IBM.Application:tester -G IBM.Application -g "ResourceType==1" myrel
```

3. リソース・クラス **IBM.Application** に属するリソース **tester** について、リソース・クラス **IBM.Application** に属するターゲット・リソース **tester1**、およびリソース・クラス **IBM.Application** に属するターゲット・リソース **Jfoo** との **test** という Affinity 関係を作成するには、以下のように入力します。

```
mkrel -p affinity -S IBM.Application:tester -G IBM.Application:tester1,Jfoo test
```

4. クラス **IBM.Application** のソース・リソース **narten** について、クラス **IBM.ServiceIP** のターゲット・リソース **tr0** および **en0** に対する **myrel** という名前の **Collocated** 関係を定義するには、以下のように入力します。

```
mkrel -p 1 -S IBM.Application:narten -G IBM.ServiceIP:tr0,:en0 myrel
```

5. クラス **IBM.Application** に適用される選択文字列によって得られるソース・リソースについて、クラス **IBM.ServiceIP** のターゲット・リソース **tr0** および **en0** に対する **myrel** という名前の **Collocated** 関係を定義するには、以下のように入力します。

```
mkrel -p collocated -S IBM.Application -s 'Name=="narten"' -G IBM.ServiceIP:tr0,:en0 myrel
```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/mkrel

mkrel コマンドのロケーション。

data_input_file

例および **Resource_Data_Input** ファイルのマニュアル・ページを参照してください。

関連情報

addrgmr, chequ, chrel, chrg, chrgmr, lsrg, mkequ, mkr, rmequ, rml, rmg, rmgmr
コマンド。

rmcli 一般情報ファイル。

Resource_Data_Input ファイル。

mkr

名前

mkr - 1つ以上の新規リソース・グループを作成します。

概要

mkr [-h] -f *data_input_file* [-T] [-V]

mkr [-h] [-l *relationship*] [-n *node_name* | -e *equiv_name*] [-p *priority*] [-N *Owner*] [-D *Description*] [-I *InfoLink*] [-T] [-V] [-x *node1, ...noden*] *Resource_group* [...]

説明

mkr コマンドは、System Automation for Multiplatforms によってモニターおよび制御可能な 1つ以上の新規リソース・グループを定義 (作成) します。リソース・グループは、クラスター内の オンライン・ノード上でのみ定義できます。リソース・グループ定義では、System Automation for Multiplatforms に対して以下を定義します。

- リソース・グループを稼働できる場所。
- リソース・グループの他のリソース・グループとの相対的な重要度。
- リソース・グループのメンバー・リソース間の位置関係。

新規リソース・グループは、デフォルトでオフライン状態に設定されます。この状態では、System Automation for Multiplatforms がリソース・グループの制御を獲得する前に、ユーザーまたは管理者がリソース・グループおよびそのリソースを完全に構成できます。

System Automation for Multiplatforms がこれらのリソース・グループをモニターおよび制御するには、リソース・グループがオンライン状態でなければなりません。既存のリソース・グループに対してこのオプションまたはその他のオプションを設定する場合は、chrg コマンドを参照してください。

リソース・グループおよびその属性 オプションは、コマンド行で構文に示されたとおりに指定するか、-f オプションを使用する場合はファイルから 指定できます。値は、このリソース属性について定義したものと同一データ・タイプでなければなりません。lsrsrdef RMC コマンドを使用して、各属性のデータ・タイプおよび属性フィールドを検査します。

オプション

-e *equiv_name*

Resource_group が稼働可能なノードの同値名を 指定します。このオプションを -n オプションと組み合わせることはできません。デフォルト値は ALL で、これはクラスター内のすべてのノードの同値を暗黙指定します。

-f *data_input_file*

リソース・グループの属性情報を含むファイルの名前。

-h

標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-l *relationship*

リソース・グループのメンバー間の位置関係を 指定します。位置関係の値は以下のとおりです。

0x0000 または None

リソース・グループのメンバー・リソースが任意のノードに配置できることを指定します。

0x0001 または Collocated

リソース・グループのメンバー・リソースが同じノードに配置されることを指定します。

デフォルト値は **Collocated** です。

-n node_name

Resource_group が稼働可能なノードを指定します。このオプションを **-e** オプションと組み合わせることはできません。デフォルト値は ALL で、これはクラスター内のすべてのノードを暗黙指定します。

-p priority

他のリソース・グループと比較したこのリソース・グループの相対的な重要度を指定します。優先順位は 0 から 200 までの任意の整数に指定できます。整数が大きいほど優先順位が高くなります。デフォルトの優先順位の値は 0 です。

-N Owner

グループの所有者または連絡先の名前のストリング。

-D Description

グループの目的を説明するストリング。

-I InfoLink

リソース・グループについての追加情報を示す、HTML ページの URL を含む文字列

-T

標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V

標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

-x node1, ...noden

除外ノード・リストを指定します。

パラメーター

Resource_group

作成する新規リソース・グループの固有名。リソース・グループ名にドル記号 (\$) を含めることはできません。

終了状況

0

コマンドは正常に実行されました。

1

RMC でエラーが発生しました。

2

CLI スクリプトでエラーが発生しました。

3

コマンド行に不正なフラグがあります。

4

コマンド行に不正なパラメーターがあります。

5

RMC で誤ったコマンド行入力に基づくエラーが発生しました。

6

指定されたリソースが見つかりません。

7

このリソースは存在しています。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

例

1. データ入力ファイルを使用してリソース・グループを作成するには、以下のようになります。

- a. ファイルでこれらのリソースを定義するのに役立つテンプレートを生成するには、以下のように入力します。

```
lsrsrctdef -i IBM.ResourceGroup >& /tmp/RG.rdef
```

- b. 任意のテキスト・エディターを使用して、ファイル /tmp/RG.rdef を編集します (タイプの適切な値を代入してすべての属性値を入力するか、デフォルト値が適切な場合は属性の行を除去します)。

- c. 以下のように入力して、ファイルを使用して mkrig コマンドを実行します。

```
mkrg -f /tmp/RG.rdef
```

mkrig のサンプル・データ入力ファイル: すべての属性の値を入力して以下の例に示す値を変更するか、デフォルト値が適切な場合は該当の属性が含まれる行を除去できます。

```
PersistentResourceAttributes::
resource 1:
  Name = "GR1"
  MemberLocation = "collocated"
  Priority = "32"
resource 2:
  Name = "GR2"
  MemberLocation = "none"
  NominalState = "offline"
  AllowedNode = "node-name1"
resource 3:
  Name = "GR3"
  MemberLocation = "none"
  Priority = "2"
  NominalState = "offline"
  Description = "Resource group for managing of apache server"
```

2. すべてのデフォルト値を使用して resA という新規リソース・グループを定義するには、以下のように入力します。

```
mkrg resA
```

3. 位置関係が「None」、許可されたノード名が「cluster1」の resA および resB という新規リソース・グループを定義するには、以下のように入力します。

```
mkrg -l none -n cluster1 resA resB
```

4. 位置関係が「Collocated」、優先順位の値が 22、許可された同値名が「cluster1」である resA という新規リソース・グループを定義するには、以下のように入力します。

```
mkrg -l collocated -e cluster1 -p 22 resA
```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/mkrig

mkrig コマンドのロケーション。

data_input_file

関連情報

addrigmgr、samctrl、chrg、chrgmgr、lsrg、rmrg、rmrgmgr コマンド。

Resource_Data_Input ファイル。

rmcccli 一般情報ファイル。

pidmon

名前

pidmon - 処理リストでコマンド・ストリングを検索するか、ファイルから OpState を取得します。

概要

```
pidmon [-h] [-d debugmode] [-u uid] [-c] command_string
```

```
pidmon [-h] [-d debugmode] -f opstate_file
```

説明

pidmon コマンドは、処理リストで指定されたコマンド・ストリングを検索します。コマンド・ストリングが見つかると、RMC OpState 「オンライン」が戻されます。pidmon コマンドは、IBM.Application リソース・クラスの汎用モニターとして使用できます。オプションで、指定されたファイルから RMC OpState を取得できます。

オプション

-h

標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-d *debugmode*

デバッグ・モードを指定します。

-u *uid*

コマンド・ストリング検索のためのユーザー ID を指定します。

-c

コマンド・ストリング検索(デフォルト)-ストリングは*などのワイルドカードを含むことができます。マッチング・ルールは POSIX 関数 `fnmatch()` に従います。

-f

ファイルから OpState を取得します。

パラメーター

debugmode

以下のいずれかのオプションが可能です。

1

デバッグ・メッセージを `syslog` に書き込みます。

2

デバッグ・メッセージを標準出力/標準エラー出力に書き込みます。

3

詳細なデバッグ・メッセージを標準出力/標準エラー出力および `syslog` に書き込みます。

uid

指定されたユーザー ID に属するコマンド・ストリングを処理リストで検索します。指定されたコマンド・ストリングを使用した処理が存在し、その処理の所有者が uid である場合にのみ、RMC_OPSTATE_ONLINE が報告されます。

opstate_file

以下に示す RMC OpState の 1 つのみを含むプレーン・テキスト・ファイル。pidmon コマンドは、このテキスト・ファイルを読み取り、ファイルから OpState を戻します。

終了状況

通常のコマンド規則とは異なり、`pidmon` は成功時に 0 を戻さず、またエラー時に別の値を戻しません。`RMC OpState` を戻します。終了状況の 0 は、`RMC_OPSTATE_UNKNOWN` を意味し、これは `pidmon` コマンドのエラーを示します。有効な `RMC OpState` は以下のとおりです。

- 0
RMC_OPSTATE_UNKNOWN
- 1
RMC_OPSTATE_ONLINE
- 2
RMC_OPSTATE_OFFLINE
- 3
RMC_OPSTATE_FAILED_OFFLINE
- 4
RMC_OPSTATE_STUCK_ONLINE
- 5
RMC_OPSTATE_PENDING_ONLINE
- 6
RMC_OPSTATE_PENDING_OFFLINE
- 8
RMC_OPSTATE_INELIGIBLE

セキュリティ

このコマンドを実行するのに特別なアクセス権は不要です。

例

1. コマンド・ストリング `"/bin /bash"` を使用した処理を検索し、OpState 「オンライン」 (終了状況 1) を戻します。

```
pidmon '/bin/bash/'
echo $?
1
```

2. "java" を含むコマンド・ストリングを使用した処理を検索します。"java" を含むコマンド・ストリングを使用した処理が 1 つ以上存在するため、`pidmon` は OpState 「オンライン」 (終了状況 1) を戻します。

```
pidmon '*java*'
echo $?
1
```

3. `pidmon` が数値「3」のみを含む `myopstate` ファイルを読み取り、OpState 「オフラインに失敗」 (終了状況 3) を戻します。

```
pidmon -f myopstate
echo $?
3
```

4. `pidmon` コマンドを、IBM.Application リソース定義の汎用モニター・コマンドとして 使用します。

```
lsrsrc -s "Name='syslogd'" IBM.Application
resource 1:
  Name           = "syslogd"
  ResourceType   = 0
  AggregateResource = "0x3fff 0xffff 0x00000000 0x00000000
                        0x00000000 0x00000000"
  StartCommand  = "/etc/init.d/syslog start"
  StopCommand    = "/etc/init.d/syslog stop"
```

```
MonitorCommand = "/usr/sbin/rsct/bin/pidmon '/sbin/syslogd'"
.....
```

ファイル

`/usr/sbin/rsct/bin/pidmon`

pidmon コマンドのロケーション。

関連情報

「*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイド」の『IBM.Application によって使用される属性』で説明されている、IBM.Application の MonitorCommand 属性。

prereqSAM

名前

prereqSAM - System Automation for Multiplatforms (エンドツーエンド自動化アダプターを含む) をインストールまたはアップグレードするための前提条件がすべて満たされていることを検査します。

概要

```
prereqSAM [-d inst_pkg_dir] [-l log_file]
```

説明

prereqSAM コマンドは、System Automation for Multiplatforms をインストールまたはアップグレードするための前提条件がすべて満たされているかどうかを検査します。このコマンドは、installSAM コマンドによって開始されますが、単独で実行することもできます。別々に呼び出す場合、オプションを指定して、prereqSAM スクリプトがパッケージ・ディレクトリーになくても検査を実行したり (-d)、デフォルト以外のログ・ファイルの使用を指定する (-l) ことができます。デフォルトのログ・ファイルの名前は /tmp/prereqSAM.<#>.log です。ここで、<#> は連続番号であり、最も高い番号が最近のログ・ファイルであることを示します。

オプション

-d inst_pkg_dir

指定されたディレクトリー内で prereqSAM スクリプトが使用できない場合でも、そのディレクトリー内のグローバル化・ファイルに基づいて前提条件検査を実行します。prereqSAM は、インストールされるパッケージに依存していませんが、そのメッセージ・ファイル用のディレクトリーが必要です。

-l log_file

prereqSAM コマンドによって生成された情報を、指定されたログ・ファイルに記録します。

終了状況

コマンドが installSAM スクリプトによって開始されたか、単独で開始されたかに関係なく、prereqSAM によって返される戻りコードです。

0

システムが前提条件検査に合格しました。オペレーティング・システムのバージョンはサポートされ、すべての前提条件パッケージが正しいバージョンでインストールされていることが検出されました。ログ・ファイルに、インストール済みパッケージの名前とバージョンが記載されています。

20

インストール済みパッケージのバージョンが正しくありません。ログ・ファイルに、各パッケージの名前とバージョンが記載されています。

21

パッケージがインストールされていないことが検出されました。

22

オペレーティング・システム・バージョンがサポートされていません。

23

前提条件検査を実行できません。ファイルが欠落している可能性があります。問題の詳細な説明については、ログ・ファイルを参照してください。

セキュリティ

このコマンドを実行するのに root 権限は不要です。

rgmbrreq

名前

`rgmbrreq` - 管理対象リソースの開始、停止、またはキャンセルを要求します。

コマンド `rgmbrreq` は、オペレーターが System Automation for Multiplatforms に永続要求を導入できるようにするコマンドのグループ (`rgreq`、`rgmbrreq`、および `lsrgreq`) に属します。このコマンドのセットを使用して、オペレーターは、リソース・グループおよび管理対象リソースを開始、停止、キャンセル、または移動できます。

概要

```
rgmbrreq [-h] [-p priority] -o action [-S source] [-u userID] [-c comments] [-T] [-V]
Resource_class:Resource[:Node],[Resource[:Node],[...]][Resource_class:Resource[:Node]
[,Resource[:Node],[...]][...]
```

```
rgmbrreq [-h] [-p priority] -o action -s [-S source] [-u userID] [-c comments] [-T] [-V]
Resource_class:"Selection_String" [Resource_class:"Selection_String" [...]]
```

説明

`rgmbrreq` コマンドを使用して、オペレーターまたは任意の発信元 (ソース) から、管理対象リソースの開始、停止、キャンセル、ロック、またはロック解除が要求されます。開始および停止要求は、オペレーターが明示的に除去またはキャンセルするまで存続します。同じ発信元から受信される要求により、同じ発信元からの直前の要求が置き換えられます。つまり、直前の要求が自動的にキャンセルされます。移動要求は、管理対象リソースには使用できません。停止要求または開始要求は、それを使用可能にした同じ発信元からキャンセルできます。

ロック要求により、リソースが現在の状態にフリーズされ、自動化されるのを防ぎます。ロック要求は永続的です。リソースのロックを解除してロック要求を除去するには、ロック解除要求が必要です。

オプション

-h

ヘルプ。標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-p *priority*

要求が、リソース構造内の他の要求について、どの程度重要であるかを決定します。優先順位を指定することにより、System Automation for Multiplatforms が同じリソースに対する要求の競合を解決できます。

low

低優先順位。デフォルト値です。

high

高優先順位。

force

高優先順位を指定して通知された要求よりも優先されます。

-o action

実際のアクション要求。

start

リソースを開始するには要求を設定します。ポリシーがリソースの開始を許可し、リソースの開始を妨げる高優先順位の要求が存在しない場合、リソースが開始されます。

停止

リソースを停止するには要求を設定します。ポリシーがリソースの停止を許可し、リソースの停止を妨げる高優先順位の要求が存在しない場合、リソースが停止されます。

取り消し

前に入力された要求をキャンセルします。要求は、要求の発信元 (-S パラメーター) およびリソース名で識別します。

lock

リソースをロックします。リソースがロックされると、現在の状態に固定され、自動化されなくなります。

unlock

リソースのロックを解除します。

-s

使用する選択文字列を指定します。

-S source

要求の発信元を識別します。

- Operator
- ExtSched
- Automation

これ以外の値も使用できますが、最も低い優先順位になります。ソースが指定されていない場合、デフォルトのソースとして「Operator」が使用されます。要求がキャンセルされたときは、同じ発信元のストリングを指定しなければなりません。各発信元は、各リソースに対して各タイプのアクティブな要求を1つのみ保持できます。発信元が、リソースに対して直接2番目の要求を行った場合、最初の要求はその要求で置き換えられます。発信元のオプションにより、異なる組織単位およびそれらが果たす役割を識別するためのインストールが可能になります。その他の使用方法として、要求を行ったのが誰であるか(要求がどこから発信されたか)を識別できます。例えば、発信元がオペレーターと自動化シエル・スクリプトのどちらであるかを識別できます。

-u userID

要求の発信元のユーザー ID またはオペレーター ID。任意のストリングを使用できます。ストリングに空白が含まれる場合は、引用符で囲む必要があります。

-c comments

要求に関連する可能性がある注釈を表すストリング。ストリングに空白が含まれる場合は、引用符で囲む必要があります。コメント内ではセミコロン文字「;」は許可されません。

-T

トレース。標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V

詳細。標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

パラメーター

Resource_class:"selection_string"

-s オプションでこのオペランドを決定します。各選択文字列の前にリソース・クラスを記述する必要があります。Resource_class は、selection_string が適用されるリソース・クラスの名前を示します。selection_string とその Resource_class は、区切り文字のコロン「:」で区切ります。指定された選択ス

トリングがその対応する *Resource_class* 属性に適用され、*Resource_group* から削除されるメンバー・リソースが決定されます。選択文字列は、二重引用符または単一引用符で囲む必要があります。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。例:

```
-s IBM.Application:`Name=="testing"`  
-s IBM.Application:`Name ?="test"`  
-s IBM.Application:`Name like "%"` (すべてのリソース)
```

Resource_class:Resource[:Node]

メンバー・リソースは、対象となる1つ以上のメンバー・リソースを指定します。この構文を使用して、異なるリソース・クラスに属するリソースも指定できます。ただし、異なるクラスに属するメンバー・リソースは、スペースで区切る必要があります。メンバー・リソースは、リソースのクラス (*Resource_class*)、リソースの名前 (*Resource_name*)、およびオプションで、リソースが存在するノード (*Node*) によって識別されます。*Resource_class*、*Resource*、および *Node* はコロンの必要がありません。*Resource_class* は、メンバー・リソースが属するリソース・クラスの名前です。*Resource* は、そのクラス内の実際のメンバー・リソースの名前です。固定メンバー・リソースに対してアクションを試行する場合は、ノードを含める必要があります。ノードとそのリソースは、コロン(:)区切り文字で区切る必要があります。同じリソース・クラスに属する複数のリソースをコンマで区切って指定することもできます。*Resource_class:Resource[:Node][,Resource[:Node][,...]]* のように指定します。要求したアクションを実行するには、メンバー・リソースがリソース・グループに存在している必要があります。

終了状況

- 0 コマンドは正常に実行されました。
- 1 RMC でエラーが発生しました。
- 2 CLI スクリプトでエラーが発生しました。
- 3 コマンド行に不正なフラグがあります。
- 4 コマンド行に不正なパラメーターがあります。
- 5 RMC で誤ったコマンド行入力に基づくエラーが発生しました。
- 6 指定されたリソースが見つかりません。

セキュリティー

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

例

1. IBM.Application のアプリケーション App1 に対して開始アクションを要求するには、以下のように入力します。

```
rgmbrreq -o start IBM.Application:App1
```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/rgmbrreq

rgmbrreq コマンドのロケーション。

関連情報

addrgmbbr、chrg、chrgmbr、lsrg、lsrgreq、mkrq、rgreq、rmrg、および rmrgmbr コマンド。

rgreq

名前

rgreq - リソース・グループの開始、停止、キャンセル、ロック、ロック解除、または移動を要求します。

rgreq コマンドは、オペレーターが System Automation for Multiplatforms に永続要求を導入できるようにするコマンドのグループ (**rgreq**、**rgmbrreq**、および **lsrgreq**) に属します。このコマンドのセットを使用して、オペレーターは、リソース・グループおよび管理対象リソースを開始、停止、キャンセル、ロック、ロック解除、または移動できます。

概要

```
rgreq [-h] [-p priority] -o action [-S source] [-n node1,...,noden] [-u userID] [-c comments] [-T] [-V] Resource_group
```

説明

rgreq コマンドは、System Automation for Multiplatforms によって自動化されたリソース・グループに対する要求を送信するのに使用されます。要求を送信することにより、例えばオペレーターや System Automation for Multiplatforms の決定エンジンなどの、発信元や要求のソースが、リソース・グループの開始、停止、キャンセル、ロック、ロック解除、または移動を要求します。

要求の開始および停止は、要求が明示的に除去または取り消されるまで保持されます。ロック要求は、リソースが明示的にロック解除されるまで保持されます。

一般に、同一発信元によって送信された 2 つの要求は互いに置き換え合います。新しい方の要求が古い方の要求を自動的にキャンセルします。ソース属性に同じ値がある場合、要求は同じ発信元であると見なされます。開始要求と停止要求は相互にキャンセルし合いますが、移動要求はそうなりません。

移動要求と開始または停止の要求はタイプが異なるため、同じリソースに対する同じ発信元からの移動要求と開始または停止の要求は許可されます。例えば、リソース・グループの開始を要求し、その後そのリソースの移動を要求します。リソース・グループが移動されても、開始要求は存続します。移動要求は、移動アクションが実行されるか、リカバリー RM (IBM.RecoveryRM) によってキャンセルされる場合、または移動要求が `movecancel` 要求を使用してキャンセルされる場合は、自動的に除去されます。停止要求および開始要求は、いつでもキャンセルできます。ただし、キャンセル要求は、元の開始要求および停止要求と同じ発信元から発信する必要があります。

ロック要求により、リソース・グループが現在の状態にフリーズされ、自動化されるのを防ぎます。ロック要求は永続的であり、リソース・グループのロックを解除してロック要求を除去するには、ロック解除要求が必要です。

オプション

-h

ヘルプ。標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-p priority level

要求が、リソース構造内の他の要求について、どの程度重要であるかを決定します。優先順位を指定することにより、System Automation for Multiplatforms が同じリソースに対する要求の競合を解決できます。`priority level` は、以下の値のいずれか 1 つにすることができます。

low

低優先順位。これはデフォルトです。

high

高優先順位。低優先順位を指定して通知された要求よりも優先されます。

force

高または低優先順位を指定して通知された要求よりも優先されます。

-o action

実際のアクション要求を指定します。以下のいずれかのアクションを指定できます。

start

リソース・グループを開始するには要求を設定します。ポリシーがリソース・グループの開始を許可し、リソース・グループの開始を妨げる高優先順位の要求が存在しない場合、リソース・グループが開始されます。

停止

リソース・グループを停止するには要求を設定します。ポリシーがリソース・グループの停止を許可し、リソース・グループの停止を妨げる高優先順位の要求が存在しない場合、リソース・グループが停止されます。

move

リソース・グループおよびそのメンバーを、クラスター内の異なるノードに移動します。この処理には、アクティブなリソースのセットの停止、およびそれらの異なるノード (1つ以上) における開始を協調的に実行することが含まれています。

取り消し

前に入力された要求をキャンセルします。要求は、要求の発信元 (-S パラメーター) およびリソース名で識別します。開始要求と停止要求のキャンセルは、キャンセル要求によってのみ行えます。移動要求は移動取消要求を使用して取り消されます。ロック要求は、ロック解除要求を使用して取り消されます。

movecancel

前に入力された移動要求をキャンセルします。要求はリソース・グループの名前によって識別されます。

lock

リソース・グループをロックします。グループがロックされると、現在の状態に固定され、自動化されなくなります。

unlock

リソース・グループのロックを解除します。

-S source

要求の発信元を識別します。

- Operator
- ExtSched
- Automation

他の発信元も使用できますが、最も低い優先順位になります。ソース属性が指定されていない場合は、デフォルトで Operator に設定されます。要求がキャンセルされたときは、同じ発信元のストリングを指定しなければなりません。要求には、2つのタイプがあります。開始要求と停止要求が同じタイプで、移動要求は別のタイプになります。各発信元は、各リソースに対して各タイプのアクティブな要求を1つのみ保持できます。発信元が、リソースに対して直接2番目の要求を行った場合、最初の要求はその要求で置き換えられます。発信元のオプションにより、要求がどこから発信されたかを識別するためのインストールが可能になります。例えば、発信元がオペレーターと自動化シェル・スクリプトのどちらであるかを識別できます。

-n node1,..noden

起点ノード。このオプションは、移動アクションにのみ適用できます。これは、リソース・グループまたはその基礎となるリソースの移動元ノードを識別します。このオプションは、非連結リソース・グループの場合に必要です。

-u userID

要求の発信元のユーザー ID またはオペレーター ID。任意のストリングを使用できます。ストリングにブランクが含まれる場合は、引用符で囲む必要があります。

-c comments

要求に関連する可能性がある注釈を表す文字列。文字列に空白が含まれる場合は、引用符で囲む必要があります。コメント内ではセミコロン文字「;」は許可されません。

-T

トレース。標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V

詳細。標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

パラメーター

Resource_group

リソース・グループの名前。リソース・グループは、要求がリソース構造に導入され、そこから外部に向かって伝搬するエントリ・ポイントです。

終了状況

0

コマンドは正常に実行されました。

1

RMC でエラーが発生しました。

2

CLI スクリプトでエラーが発生しました。

3

コマンド行に不正なフラグがあります。

4

コマンド行に不正なパラメーターがあります。

5

RMC で誤ったコマンド行入力に基づくエラーが発生しました。

6

指定されたリソースが見つかりません。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

例

1. リソース・グループ RG1 のすべてのリソースを node1 から移動するには、以下のように入力します。

```
rgreq -n node1 -o move RG1
```

2. リソース・グループ RG2 のすべてのリソースを停止するには、以下のように入力します。

```
rgreq -o stop RG2
```

3. リソース・グループ RG2 のすべてのリソースをロックするには、以下のように入力します。

```
rgreq -o lock RG2
```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/rgreq

rgreq コマンドのロケーション。

関連情報

lsrgreg、mkrq、chrg、rmrg、lsrg コマンド。

rmequ

名前

rmequ - 1 つ以上の定義済みリソース同値を除去します。

概要

```
rmequ [-h] [-i] -s "selection_string" [-T] [-V] [Equivalency [...]]
```

```
rmequ [-h] [-i] [-T] [-V] Equivalency [...]
```

説明

rmequ コマンドは、*Equivalency* パラメーターで指定されるか、または選択文字列を使用して得られる 1 つ以上のリソース同値を除去します。

オプション

-h

標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-i

対話式です。同値の除去前にプロンプトを出します。

-s "selection_string"

同値の選択文字列を指定します。この *selection_string* は、*Equivalency* パラメーターを指定しない場合は、既存のすべての同値に適用されます。*Equivalency* パラメーターを指定する場合、指定された選択文字列は指定された *Equivalency* パラメーターにのみ適用されます。選択文字列は、二重引用符または単一引用符で囲む必要があります。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。例:

```
-s 'Name == "testing"'
```

```
-s 'Name ?= "test"'
```

-T

標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V

標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

パラメーター

Equivalency

移動する定義済みリソース同値の名前を指定します。複数の同値を指定できますが、スペースで区切る必要があります。

終了状況

0

コマンドが正常に実行されました。

1

RMC でエラーが発生しました。

- 2 CLI スクリプトでエラーが発生しました。
- 3 コマンド行に不正なフラグがあります。
- 4 コマンド行に不正なパラメーターがあります。
- 5 RMC で誤ったコマンド行入力に基づくエラーが発生しました。
- 6 指定されたリソースが見つかりません。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。(詳しくは、「*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイド」の『非ルート・セキュリティ・セットアップ』のセクションを参照してください。)

例

1. resA という同値を移動するには、以下のように入力します。

```
rmequ resA
```

2. resA、resB、および resC という同値を 除去するには、以下のように入力します。

```
rmequ resA resB resC
```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/rmequ

rmequ コマンドのロケーション。

関連情報

chequ、samctrl、lsequ、mkequ コマンド。

rmcccli 一般情報ファイル。

rmrel

名前

rmrel - リソース間の管理対象関係を除去します。

概要

```
rmrel [-h] [-i] -s "selection_string" [-T] [-V]
```

```
rmrel [-h] [-i] -S Source_Class[:Resource_name[:Node]] [-s "Source_string"] [-G  
Target_Class[:Resource_name[:Node]][,Target_class[:Resource_name[:Node]][, ...]]] [-g "Target__string"]  
[-P Current_relationship] [-O Current_condition] [-T] [-V]
```

```
rmrel [-h] [-i] [-T] [-V] Managed_Relation [Managed_Relation ...]
```

説明

rmrel コマンドは、リソース間の関係を除去します。除去する関係は、ソース・パラメーター (*Source_class[:Resource_name[:Node]]*) によって決定されるか、関係そのものまたは管理対象関係 (1 つ以上) の名前 (1 つ以上) に適用されるときには 選択文字列によって決定されます。

オプション

-O *Current_condition*

一致するものを検索するために、すべての定義済み関係を照会するための条件値を指定します。この値は、数値またはワードで指定できます (大/小文字の区別はありません)。

- 0x0000 または NoCondition
- 0x0001 または IfOnline
- 0x0002 または IfOffline
- 0x0003 または IfNotOnline
- 0x0004 または IfNotOffline
- 0x0005 または IfPossible

-g *Target_string*

-G オプションで指定されたリソース・クラスのすべてのリソースに *Target_string* が適用され、関係のターゲットが決定されます。

ターゲット選択文字列を指定するために **-g** オプションを使用する場合、**-G** オプションに *Resource_name* および *Node* を指定することはできません。

-G *Target_class[:Resource_name[:Node]]*

すべての定義済み関係から一致するものを検索するために、ターゲット照会およびその他の指定された照会で使用するターゲット・リソースを指定します。ターゲット・リソースは、リソースのクラス (*Target_class*)、リソースの名前 (*Resource_name*)、およびオプションで、リソースが存在するノード (*Node*) によって識別されます。*Resource_class*、*Resource_name*、および *Node* は、コロンで区切ります。複数のターゲット・リソースを指定でき、これらはコンマで区切ります。コロンは必要ですが、複数のターゲット・リソースを指定する場合に *Target_class* を省略すると、以前に指定されたクラスが使用されます。

ターゲット選択文字列を指定するために **-g** オプションを使用する場合、**-G** オプションに *Resource_name* および *Node* を指定することはできません。

-h

標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-i

対話式です。関係の除去前にプロンプトを出します。

-P *Current_relationship*

すべての定義済み関係を照会して一致するものを検索するために使用する管理対象関係の値を指定します。この値は、数値またはワードで指定できます (大/小文字の区別はありません)。

0x0001 または Collocated

ソース・リソースおよびターゲット・リソースが同じノードに配置されることを指定します。

0x0002 または AntiCollocated

ソース・リソースおよびターゲット・リソースが異なるノードに配置されることを指定します。

0x0003 または Affinity

ソース・リソースおよびその指定された親和性のあるリソースが、可能な場合は同じノードに配置されることを指定します。

0x0004 または AntiAffinity

ソース・リソースおよびその指定された親和性のあるリソースが、可能な場合は異なるノードに配置されることを指定します。

0x0005 または IsStartable

ソース・リソースおよびそのターゲット・リソースが始動可能であることを指定します。

0x0006 または StartAfter

ソース・リソースがターゲット・リソースより後に開始されることを指定します。

0x0007 または DependsOn

ソース・リソースが開始される前にターゲット・リソースをオンラインにすることを指定し、ソース・リソースおよびターゲット・リソース間に暗黙的なコロケーションを含めます。

0x0008 または DependsOnAny

ソース・リソースが開始される前にターゲットをオンラインにすることを指定します。これは、開始シーケンスの連結制約が提供されない点を除いて DependsOn 関係と同じです。このため、ソース・リソースとターゲット・リソースが同じノードで開始されないことがあります。

0x0009 または StopAfter

ターゲット・リソースがオフラインになるまでソース・リソースを停止できないことを指定します。

0x000A または ForcedDownBy

ターゲット・リソースが予期せずオフラインになるか、ターゲット・リソース自体が強制的にオフラインになるかのいずれかのイベントの発生時に、ソース・リソースを強制的にオフラインにすることを指定します。

-s "selection_string"

選択文字列を指定します。**-S** オプションを指定せずに、**-s** オプションを指定する場合、これに関連付けられた選択文字列は、リソースのすべての管理対象関係に適用されます。選択文字列は、二重引用符または単一引用符で囲む必要があります。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。例:

```
-s 'Name == "testing"'
```

```
-s 'Name ?= "test"'
```

-s Source_string

ソース選択文字列を指定します。**-S** オプションで指定されたリソース・クラスの全リソースに *Source_string* が適用され、関係のソースが決定されます。選択の結果には1つ以上のリソースが含まれます。

ソース選択文字列を指定するために **-s** オプションを使用する場合、**-S** オプションに *Resource_name* および *Node* を指定することはできません。

-S Source_class[:Resource_name[:Node]]

照会のソース・リソースを指定します。このソース・リソースは、指定されるその他の照会で、一致するものを検索するためにすべての定義済み関係に対して照会されます。ソース・リソースは、リソースのクラス (*Source_class*)、リソースの名前 (*Resource_name*)、およびオプションで、リソースが存在するノード (*Node*) によって識別されます。*Resource_class*、*Resource_name*、および *Node* は、コロンで区切ります。

ソース選択文字列を指定するために **-s** オプションを使用する場合、**-S** オプションに *Resource_name* および *Node* を指定することはできません。

-T

標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V

標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

パラメーター

Managed_Relation

除去する管理対象関係の名前。コマンド行で複数の関係を指定できますが、スペースで区切る必要があります。

終了状況

0

コマンドが正常に実行されました。

1

RMC でエラーが発生しました。

2

CLI スクリプトでエラーが発生しました。

3

コマンド行に不正なフラグがあります。

4

コマンド行に不正なパラメーターがあります。

5

RMC で誤ったコマンド行入力に基づくエラーが発生しました。

6

指定されたリソースが見つかりません。

7

このリソースは既に存在しています。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

例

1. リソース・クラス IBM.Application に属するリソース **tester** の関係を除去するには、以下のように入力します。

```
rmrel -S IBM.Application:tester
```

2. 選択文字列を使用してリソースの関係を除去するには、以下のように入力します。

```
rmrel -s 'Name == "tester"'
```

3. クラス IBM.Application に適用される選択文字列から、ソース・リソース **resA** の関係を除去するには、以下のように入力します。

```
rmrel -s 'Name=="resA"'-S IBM.Application
```

4. クラス IBM.Application からソース・リソースのすべての関係を除去するには、以下のように入力します。

```
rmrel -s 'Name like "%"' -S IBM.Application
```

5. クラス IBM.Application のターゲットを持ち、Collocated 関係があり、特定の条件を満たすリソースの関係を除去するには、以下のように入力します。

```
rmrel -S IBM.Application:narten -G IBM.Application:ha,:test -P collocated -O 1
```

6. narten および resA という名前の関係を除去するには、以下のように入力します。

```
rmrel narten resA
```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/rmrel

rmrel コマンドのロケーション。

関連情報

addrgmbr、chequ、chrel、chrg、chrgmbr、lsrg、mkequ、mkrel、mkrig、rmequ、rmrg、rmrgmbr
コマンド。

rmcccli 一般情報ファイル。

rmrg

名前

rmrg - 1 つ以上の定義済みリソース・グループを除去します。

概要

```
rmrg [-h] [-i] -s "selection_string" [-T] [-V] [Resource_group ...]
```

```
rmrg [-h] [-i] [-T] [-V] Resource_group [...]
```

説明

rmrg コマンドは、*Resource_group* パラメーターで指定される 1 つ以上のリソース・グループ、あるいは指定された選択文字列と一致する 1 つ以上のリソース・グループを除去します。除去されるリソース・グループに関連するメンバー・リソースも、System Automation for Multiplatforms によって除去されます。削除するリソース・グループの任意のメンバーがリソース間の管理対象関係の一部である場合は、管理対象関係も System Automation for Multiplatforms によって除去されます。除去するには、対象となるリソース・グループが既に存在していなければなりません。除去されるリソース・グループがオンラインの場合は、リソース・グループは除去されません。

これは、除去されるリソース・グループ内でネストされているすべてのリソース・グループも再帰的に除去されることを意味します。含まれるリソース・グループが再帰的に削除されないようにするには、以下のようにします。

1. **rmrgmbr** コマンドを使用して、削除されるリソース・グループから、これらのリソース・グループをメンバーとして削除します。
2. これらが入っていたリソース・グループを除去します。

-h オプションを指定すると、このコマンドの使用法ステートメントが標準出力に書き込まれます。すべての詳細メッセージも標準出力に書き込まれます。

すべてのトレース・メッセージは標準エラー出力に書き込まれます。

パラメーター

Resource_group

除去する定義済みリソース・グループの名前。複数のリソース・グループを指定できますが、スペースで区切る必要があります。

オプション

-h

標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-i

対話式です。関係の除去前にプロンプトを出します。

-s "selection_string"

選択文字列を指定します。*Resource_group* パラメーターが指定されていない場合は、選択文字列が既存のすべてのリソース・グループに適用されます。選択文字列は、二重引用符または単一引用符で囲む必要があります。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。例:

```
-s 'Name == "testing"'
```

```
-s 'Name ?= "test"'
```

```
-s 'Name like "%"' (For all resources)
```

-T

標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V

標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

終了状況

0

コマンドが正常に実行されました。

1

RMC でエラーが発生しました。

2

CLI スクリプトでエラーが発生しました。

3

コマンド行に不正なフラグがあります。

4

コマンド行に不正なパラメーターがあります。

5

RMC で誤ったコマンド行入力に基づくエラーが発生しました。

6

指定されたリソースが見つかりません。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。(詳しくは、「*System Automation for Multiplatforms*」の『非ルート・セキュリティ・セットアップ』のセクションを参照してください。)

例

1. resA というリソース・グループを除去するには、以下のように入力します。

```
rmrg resA
```

2. resA、resB、および

```
resC
```

という リソース・グループを除去するには、以下のように入力します。

```
rmrg resA resB resC
```

3. `resA` および `resB` というリソース・グループを除去する前にプロンプトを出すには、以下のように入力します。

```
rmrg -i resA resB
```

4. 選択文字列を使用して `resA` というリソース・グループを除去するには、以下のように入力します。

```
rmrg -s 'Name=="resA"'
```

5. 名前の一部に `resA` というワードを含むすべてのリソース・グループを除去するには、以下のように入力します。

```
rmrg -s 'Name ?="resA"'
```

ファイル

`/usr/sbin/rsct/bin/rmrg`

`rmrg` コマンドのロケーション。

関連情報

`addrgmbr`、`samctrl`、`chrg`、`chrgmbr`、`lsrg`、`mkrig`、`rmrgmbr` コマンド。

`rmcccli` 一般情報ファイル。

rmrgmbr

名前

`rmrgmbr` - リソース・グループから 1 つ以上のリソースを除去します。

概要

```
rmrgmbr [-h] [-i] [-T] [-V] -g Resource_group
```

```
rmrgmbr [-h] [-i] -s [-T] [-V] [-g Resource_group] "selection string"
```

```
rmrgmbr [-h] [-i] -s [-T] [-V] [-g Resource_group] Resource_class:"selection_string"  
[Resource_class:"selection_string" [...]]
```

```
rmrgmbr [-h] [-i] [-T] [-V] [-g Resource_group] Resource_class:Resource_name [:Node]  
[,Resource_name[:Node],[...]] [Resource_class:Resource_name [:Node][,Resource_name[:Node]][...]] [...]
```

説明

`rmrgmbr` コマンドは、指定されたリソース・グループのすべてのメンバー・リソース、指定されたリソース・グループの指定されたメンバー・リソースのみ、または選択文字列と一致するメンバー・リソースを除去します。System Automation for Multiplatforms は、可能な場合は関連する関係および同値も更新します。選択文字列が唯一のパラメーターである場合、これは `IBM.ManagedResource` クラスに直接適用されます。

リソース名または選択文字列は、その所属先であるリソース・クラスとともに指定してください。ユーザーは、リソース・クラス、リソース名、および固定リソースの場合はノード番号または名前を入力します。リソース・クラスとリソース名、リソース名とノードは、コロンで区切る必要があります。

オプション

-h

標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-i

対話式です。関係の除去前にプロンプトを出します。

-g Resource_group

メンバー・リソースを除去するリソース・グループの固有の名前を指定します。

-s

リソース名の代わりに使用する選択文字列を指定します。

-T

標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V

標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

パラメーター

Resource_class

メンバー・リソースが属するリソース・クラスの名前を指定します。リソースとリソース・クラスは、コロン(:)区切り文字で区切る必要があります。

Resource_class:Resource_name[:Node]

これは、指定されたリソース・グループから除去される1つ以上のメンバー・リソースを指定します。この構文を使用して、異なるリソース・クラスに属するリソースも指定できます。ただし、異なるクラスに属するメンバー・リソースは、スペースで区切る必要があります。メンバー・リソースは、リソースのクラス(Resource_class)、リソースの名前(Resource_name)、およびオプションで、リソースが存在するノード(Node)によって識別されます。Resource_class、Resource_name、およびNodeは、コロンで区切ります。Resource_classは、メンバー・リソースが属するリソース・クラスの名前です。Resource_nameは、そのクラス内の実際のメンバー・リソースの名前です。リソース・グループから固定リソースを除去する場合は、ノード名を指定する必要があります。ノードとそのリソースは、コロン(:)区切り文字で区切る必要があります。

同じリソース・クラスに属する複数のリソースも指定でき、これらはコンマで区切ります。この場合、リソース・クラスの最初のリソース(Resource_name[:Node])の前に、リソースが属するResource_classを記述し、これをコロン(:)区切り文字で区切る必要があります。残りのリソースはコンマで区切ります。Resource_class:Resource_name[:Node]メンバー・リソースを除去するには、そのメンバー・リソースがリソース・グループに存在している必要があります。

Resource_class:"selection_string"

選択文字列。**-s** オプションでこのオペランドを決定します。各選択文字列の前にリソース・クラスを記述する必要があります。Resource_classは、selection_stringが適用されるリソース・クラスの名前を示します。selection_stringとそのリソース・クラスは、コロン(:)で区切ります。指定された選択文字列は、対応するresource_class属性に適用され、resource_groupからどのメンバー・リソースを除去するかが決定されます。選択文字列は、二重引用符または単一引用符で囲む必要があります。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。例:

```
-s 'Name == "testing"'
-s 'Name ?= "test"'
-s 'Name like "%"' ( For all resources)
```

Selection_string

選択文字列を指定します。**-s** オプションでこのパラメーターを決定します。これが唯一のパラメーターである場合、選択文字列はメンバー・リソースに適用されます。ただし、選択文字列がResource_groupに含まれる場合は、選択文字列は、指定されたリソース・グループに属するメンバー・リソースに適用されます。各選択文字列の前にリソース・クラスが記述されている場合、指定された選択文字列は対応するResource_class属性に適用され、Resource_groupからどのリソースを除去する

かが決定されます。選択文字列は、二重引用符または単一引用符で囲む必要があります。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。例:

```
-s 'Name == "testing"'
```

```
-s 'Name ?= "test"'
```

```
-s 'Name like "%"' (For all resources)
```

終了状況

- 0 コマンドは正常に実行されました。
- 1 RMC でエラーが発生しました。
- 2 CLI スクリプトでエラーが発生しました。
- 3 コマンド行に不正なフラグがあります。
- 4 コマンド行に不正なパラメーターがあります。
- 5 RMC で誤ったコマンド行入力に基づくエラーが発生しました。
- 6 指定されたリソースが見つかりません。

セキュリティー

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

例

- リソース・クラス `IBM.Application` に属するメンバー・リソース `testerA` をリソース・グループ `resA` から除去するには、以下のように入力します。

```
rmrgmbr -g resA IBM.Application:testerA
```

- リソース・クラス `IBM.Application` に属するメンバー・リソース `testerA`、`testerB`、および `testerC` をリソース・グループ `resA` から除去するには、以下のように入力します。

```
rmrgmbr -g resA IBM.Application:testerA,testerB,testerC
```

- リソース・クラス `IBM.Application` に属するメンバー・リソース `testerA` および `testerB`、およびクラス `IBM.ServiceIP` に属する固定リソース `en0` を除去するには、以下のように入力します。

```
rmrgmbr IBM.Application:testerA,testerB IBM.ServiceIP:en0
```

- リソース・クラス `IBM.Application` の選択されたメンバー・リソースを、`ResourceType` が設定されているリソース・グループ `resA` から除去するには、以下のように入力します。

```
rmrgmbr -s -g resA IBM.Application:"ResourceType==1"
```

- 選択文字列を使用して、リソース・グループ `resA` のすべてのメンバー・リソースを除去するには、以下のように入力します。

```
rmrgmbr -s 'MemberOf == "resA"'
```

ファイル

`/usr/sbin/rsct/bin/rmrgmbr`
`rmrgmbr` コマンドのロケーション。

関連情報

`addrgmbr`、`chrel`、`chrg`、`chrgmbr`、`lsrel`、`lsrg`、`mkrel`、`mkr`、`rmrel`、`rmrg` コマンド。
`rmccli` 一般情報ファイル。

samadapter

名前

`samadapter` - エンドツーエンド自動化アダプターの制御とモニターに使用します。アダプターは、System Automation for Multiplatforms ドメインと System Automation Application Manager エンドツーエンド自動化サーバーの間の通信を処理します。

概要

`samadapter start`

`samadapter stop`

`samadapter status`

`samadapter help`

オプション

start

アダプターが実行されていない場合、オプション `start` は、優先ノードでアダプターを始動するように System Automation for Multiplatforms に要求します。要求が実行依頼されると、コマンドが返されます。アダプターが自動化されていない場合、アダプターは、要求が送信されたノードで始動します。要求が成功した場合の終了コードは 0 です。

stop

アダプターが実行されている場合、オプション `stop` は、優先ノードでアダプターを停止するように System Automation for Multiplatforms に要求します。要求が実行依頼されると、コマンドが返されます。アダプターが自動化されていない場合、アダプターは、要求が送信されたノードで停止します。要求が成功した場合の終了コードは 0 です。

status

アダプターが実行されているかどうかを検査します。

help

標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

パラメーター

なし。

終了状況

`samadapter` の状況を確認するには、状況オプションを使用します。これによって、以下の戻りコードが送信されます。

0

不明。アダプター状況を判別できません。

- 1 オンライン。アダプターは実行されています。
- 2 オフライン。アダプターは実行されていません。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。

例

1. アダプターを始動するには、次のコマンドを入力します。

```
samadapter start
```

2. アダプターを停止するには、次のコマンドを入力します。

```
samadapter stop
```

ファイル

/opt/IBM/tsamp/sam/bin/samadapter

samadapter コマンドのロケーション。

samcc

名前

samcc - System Automation for Multiplatforms Control Center: 定義済みリソース・グループおよびそのメンバーをツリー形式で制御します。

概要

```
samcc [-h] [-g Resource_group] [-s "selection_string"] [-nocolor] [-noequ] [-nomsg] [-V] [-T]
```

説明

samcc コマンドは、すべてのリソース・グループおよびすべてのリソース・グループ・メンバーをツリー形式で制御します。一部の情報は色分けされています。例えば、リソースの OpState は、実際の値に応じて色分けされます。色分けにより、問題があるかどうかを示されます。色分けは構成可能ではないため、黒色または白色の背景を使用してください。それ以外の背景色を使用する場合、-nocolor オプションを使用して、samcc によりレポートされるすべての情報を表示してください。-nocolor オプションを使用している場合でも、ライン選択とアクションでは、黄色と赤の強調表示を使用します。リソース選択またはアクション、あるいはその両方が予期される場合、背景色として黄色や赤を使用してはなりません。

注:

以下の RSCT メッセージが表示される場合は、データは保留中です。次のいずれかの照会によって、完全なデータが表示されます。

```
2610-444 Cannot obtain values for some dynamic attributes.  
0 attributes are not being monitored. 1 attributes have data pending.
```

オプション

-h

ヘルプ。標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-g Resource_group

指定された最上位リソース・グループおよびそのメンバーのみをツリー形式で表示します。

-nocolor

出力を色付きの強調表示なしに表示します。-nocolor オプションを使用している場合でも、ライン選択とアクションでは、黄色と赤の強調表示を使用します。リソース選択またはアクション、あるいはその両方が予期される場合、背景色として黄色や赤を使用してはなりません。

-s "selection_string"

リソース・グループの選択文字列を指定します。すべての選択文字列は、二重引用符または単一引用符で囲む必要があります。選択文字列に二重引用符が含まれる場合は、選択文字列全体を単一引用符で囲みます。例:

```
-s 'Name == "test-rg" '
```

リソース・グループがトップレベル・リソース・グループでない場合は、選択文字列に対応するトップレベル・リソース・グループが含まれている必要があります。以下に例を示します。

```
-s 'Name like "test%-rg" || Name like "top-level-rg" '
```

-noequ

同値なしで出力を印刷します。

-nomsg

エラー・メッセージなしで出力を印刷します。

-V

リソースの詳細と関係を印刷します。

-T

標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

出力結果

samcc の出力の構文は、lssam -top コマンドと同じです。構文の詳細については、[70 ページの『lssam』コマンド解説書](#)を参照してください。また、samcc コマンドには、下部に表示されるメニューがあります。

以下のメニュー項目を使用できます。

quit (終了) - q キー

samcc コマンドが終了します。

help (ヘルプ) - h キー

メニューがメニューの表示とメニューの非表示の間で切り替わります。

tree expand/collapse (ツリーの展開または縮小) - マイナス・キー (-)、x キー、およびプラス・キー (+)

表示されるリソース・ツリーでは、展開してすべてのレベルのリソースを表示させることも、縮小してトップレベル・リソースのみを表示させることもできます。3つの異なる表示レベルを使用できます。

- プラス (+) によって、表示されているリソース・ツリーが展開されます。
- マイナス (-) によって、表示されているリソース・ツリーが縮小されます。
- x によって、表示されているリソース・ツリーの展開と縮小が切り替わります。

equ on/off (同値のオン/オフ) - e キー

リソース・リストの下部にある同値の表示を切り替えます。

verbose on/off (詳細表示のオン/オフ) - v キー

関係およびリソース詳細情報の表示を切り替えます。

select/deselect (選択/選択解除) - スペース・バー

「first/next」のキーまたは「last/previous」のキーを押す前にスペース・バーを押した場合、最初の行が選択されます。選択された行は黄色で強調表示されます。スペース・バー、Enter キー、「first/next」

のキー、または「last/previous」のキーを使用して行を選択した後に、スペース・バーを押すと、その行の選択はクリアされます。

actions on/off (アクションのオン/オフ) – Enter キー

行を選択してから Enter キーを使用してアクション・モードに入ることができます。アクション・モードである行は、赤で強調表示されます。選択された行は、アクション・モードである間は移動できません。Enter キーを再度使用すると、アクション・モードから出ることができます。

first/next (最初または次) – j キーまたは下矢印キー

j キーまたは下矢印キーを押すと、最初の行が選択されます。j キーまたは下矢印キーを再度押すと、選択された行はリスト内で一行下に移動します。選択された行は、アクション・モードである間は移動できません。

last/previous (最後または前) – k キーまたは上矢印キー

k キーまたは上矢印キーを押すと、最後の行が選択されます。k キーまたは上矢印キーを再度押すと、選択された行はリスト内で一行上に移動します。選択された行は、アクション・モードである間は移動できません。

online (オンライン) – o キー

アクション「online」では、選択されたリソース (グループまたは管理対象リソース) に対する開始要求を生成します。この開始要求のデフォルトの優先順位は「低」であり、また要求にはソース・オペレーターがあります。このキーを使用するには、選択されたリソースでアクション・モードがアクティブでなければなりません。

offline (オフライン) – f キー

アクション「offline」では、選択されたリソース (グループまたは管理対象リソース) に対する停止要求を生成します。この停止要求のデフォルトの優先順位は「低」であり、また要求にはソース・オペレーターがあります。このキーを使用するには、選択されたリソースでアクション・モードがアクティブでなければなりません。

cancel (キャンセル) – c キー

アクション「cancel」では、選択されたリソース (グループまたは管理対象リソース) に対する開始要求または停止要求をキャンセルします。このキーを使用するには、選択されたリソースでアクション・モードがアクティブでなければなりません。

move (移動) – m キー

アクション「move」では、選択されたトップレベル・リソース・グループに対する移動要求を生成します。このキーを使用するには、選択されたトップレベル・リソース・グループでアクション・モードがアクティブでなければなりません。

reset (リセット) – r キー

アクション「reset」では、選択されたリソースで `resetrsrc` コマンドを呼び出します。このアクションを使用すると、固定リソースの「オフラインに失敗」OpState をリセットできます。このキーを使用するには、選択されたリソースでアクション・モードがアクティブでなければなりません。

lock (ロック) – l キー

アクション「lock」では、選択されたリソース (グループまたは管理対象リソース) に対するロック要求を生成します。このキーを使用するには、選択されたリソースでアクション・モードがアクティブでなければなりません。

unlock (アンロック) – u キー

アクション「unlock」では、選択されたリソース (グループまたは管理対象リソース) からロック要求を削除します。このキーを使用するには、選択されたリソースでアクション・モードがアクティブでなければなりません。

以下の出力では、すべてのメニュー・キーの文字がリストされています。通常の操作では、選択されたリソースで使用可能なキーの文字のみが表示されます。使用不可のアクションのキーの文字は表示されません。

```
# samcc
```

```
-----  
| IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms 2015-05-29 17:09:29 |  
-----  
Offline IBM.ResourceGroup:apache-rg Nominal=Offline  
|+ Offline IBM.ServiceIP:SharedIP
```

```

    + Offline IBM.Application:apache-rs
Online IBM.Equivalency:NetworkInterfaces
  |- Online IBM.NetworkInterface:en0 (p6sa27 p6sa28)
-----
[q]=quit [h]=help [-x+]=tree expand/collapse [e]=equ on/off [v]=verbose on/off
[SPACE]=select/deselect [CR]=actions on/off [j]=first/next [k]=last/previous
[o]=online [f]=offline [c]=cancel [m]=move [r]=reset [l]=lock [u]=unlock

```

終了状況

0

コマンドは正常に実行されました。

1

エラーが発生しました。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、「System Automation for Multiplatforms インストールと構成のガイド」を参照してください。

例

1. オプション `-V` を指定して `samcc` を開始します。すべての構成要素リソースが非表示になります (デフォルトの `samcc` 開始モード)。

```

# samcc -V
| IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms 2015-05-29 17:09:29 |
-----
Offline IBM.ResourceGroup:apache-rg Nominal=Offline
  |+ Offline IBM.Test:SharedFiles TimeToStart=5 TimeToStop=2    <.
  |+ Offline IBM.Test:SharedIP TimeToStart=5 TimeToStop=2      -. DO<DO
  |+ Offline IBM.Test:apache-rs TimeToStart=5 TimeToStop=2    | -' -'
Offline IBM.ResourceGroup:test Nominal=Offline
  |+ Offline IBM.Application:A2                                | -DO
  |+ Offline IBM.Application:A3                                DO -. <'
Online IBM.Equivalency:NetworkInterfaces
  |- Online IBM.NetworkInterface:en0 (p6sa27 p6sa28)          <' |
Offline IBM.Equivalency:testequ SelectFromPolicy=ANY,NoControl DO
  |- Offline IBM.Application:A1                                <'
-----
[q]=quit [h]=help [-x+]=tree expand/collapse [e]=equ on/off [v]=verbose on/off
[SPACE]=select/deselect [ ]=actions on/off [j]=first/next [k]=last/previous

```

2. `j` を入力してから `Enter` キーを押します。最初のトップレベル・グループが選択され、アクション・モードがアクティブになります。

```

| IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms 2015-05-29 17:09:29 |
-----
Offline IBM.ResourceGroup:apache-rg Nominal=Offline
  |+ Offline IBM.Test:SharedFiles TimeToStart=5 TimeToStop=2    <.
  |+ Offline IBM.Test:SharedIP TimeToStart=5 TimeToStop=2      -. DO<DO
  |+ Offline IBM.Test:apache-rs TimeToStart=5 TimeToStop=2    | -' -'
Offline IBM.ResourceGroup:test Nominal=Offline
  |+ Offline IBM.Application:A2                                | -DO
  |+ Offline IBM.Application:A3                                DO -. <'
Online IBM.Equivalency:NetworkInterfaces
  |- Online IBM.NetworkInterface:en0 (p6sa27 p6sa28)          <' |
Offline IBM.Equivalency:testequ SelectFromPolicy=ANY,NoControl DO
  |- Offline IBM.Application:A1                                <'
-----
[q]=quit [h]=help [-x+]=tree expand/collapse [e]=equ on/off [v]=verbose on/off
[SPACE]=select/deselect [CR]=actions on/off [ ]=first/next [ ]=last/previous
[o]=online [f]=offline [c]=cancel [m]=move [r]=reset [l]=lock [u]=unlock

```

3. `v` を入力してからプラス符号を入力します。すべてのリソースが、詳細モードをオフにした状態で表示されます。

```

| IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms 2015-05-29 17:09:29 |

```

```

-----
Offline IBM.ResourceGroup:apache-rg Nominal=Offline
  + Offline IBM.Test:SharedFiles
    |- Offline IBM.Test:SharedFiles:p6sa27
    '- Offline IBM.Test:SharedFiles:p6sa28
  + Offline IBM.Test:SharedIP
    |- Offline IBM.Test:SharedIP:p6sa27
    '- Offline IBM.Test:SharedIP:p6sa28
  + Offline IBM.Test:apache-rs
    |- Offline IBM.Test:apache-rs:p6sa27
    '- Offline IBM.Test:apache-rs:p6sa28
Offline IBM.ResourceGroup:test Nominal=Offline
  + Offline IBM.Application:A2
    |- Offline IBM.Application:A2:p6sa27
    '- Offline IBM.Application:A2:p6sa28
  + Offline IBM.Application:A3
    |- Offline IBM.Application:A3:p6sa27
    '- Offline IBM.Application:A3:p6sa28
Online IBM.Equivalency:NetworkInterfaces
  |- Online IBM.NetworkInterface:en0:p6sa27
  '- Online IBM.NetworkInterface:en0:p6sa28
Offline IBM.Equivalency:testequ
  |- Offline IBM.Application:A1:p6sa27
  '- Offline IBM.Application:A1:p6sa28
-----
[q]=quit [h]=help [--x]=tree expand/collapse [e]=equ on/off [v]=verbose on/off
[SPACE]=select/deselect [ ]=actions on/off [j]=first/next [k]=last/previous

```

4. マイナス・キーを2回入力します。トップレベル・リソースのみが表示されます。

```

-----
| IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms 2015-05-29 17:09:29 |
-----
Offline IBM.ResourceGroup:apache-rg Nominal=Offline
Offline IBM.ResourceGroup:test Nominal=Offline
Online IBM.Equivalency:NetworkInterfaces
Offline IBM.Equivalency:testequ
-----
[q]=quit [h]=help [x++]=tree expand/collapse [e]=equ on/off [v]=verbose on/off
[SPACE]=select/deselect [ ]=actions on/off [j]=first/next [k]=last/previous

```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/samcc

samcc コマンドのロケーション。

samctrl

名前

samctrl - System Automation for Multiplatforms 制御パラメーターを設定します。

概要

```
samctrl [-h] -m [-f] [-T] [-V] [new_activeversion]
```

```
samctrl [-h] [-e PublisherName|-d PublisherName] [-M T|F] [-u a | d | r] [-t Timeout] [-l
Trace_level][--r Retry_count][--o ResourceRestartTimeOut] [-T] [-V] [Node [Node [...]]]
```

説明

samctrl コマンドは、System Automation for Multiplatforms のデフォルトの制御パラメーター値を設定します。このコマンドを使用する場合は、System Automation for Multiplatforms の少なくとも1つの制御パラメーターを変更する必要があります。

オプション

-e PublisherName

指定されたパブリッシャーを使用可能に設定します。すべてのパブリッシャーを使用可能にするには、**-e P** を使用します。

-d PublisherName

指定されたパブリッシャーを使用不可に設定します。すべてのパブリッシャーを使用不可にするには、**-d P** を使用します。デフォルトでは、すべてのパブリッシャーは使用不可になります。

-f

マイグレーションを強制実行します。このオプションを指定する場合は、**-m** オプションが必要です。結合 System Automation for Multiplatforms デモン・カウントが定義済みノード合計カウントよりも少ないときに、ユーザーがコード・バージョンのアップグレードを強く要求するかどうかを、強制実行オプション (**-mf**) で指定できます。ダウン・デーモンのインストール・バージョン番号情報は、他のアップ・デーモンよりも低くなります。

-h

標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

-m

移行。このオプションは、System Automation for Multiplatforms コード・バージョン・マイグレーション完了アクションを起動するために使用されます。

-M T|F

T (True)

手動モード。クラスター上の System Automation for Multiplatforms を非アクティブにします。非アクティブにした後、リソースは自動化されなくなり、その開始と停止は手動で行う必要があります。リソース・グループの状態変更は System Automation Application Manager オペレーション・コンソール (operations console) に反映されません。RMC コマンドを使用して、クラスター・リソースの現行状態を取得する必要があります。

このオプションは、テスト環境でのみ使用するようになっています。どうしても開始コマンドまたは停止コマンドの実行を避けなければならない場合に役立ちます。

F (False)

自動化モード (デフォルト)。クラスター上の System Automation for Multiplatforms を再度アクティブにします。

-u a | d | r

除外ノードのリストについて、1つ以上のノードを追加、削除、または置き換えることを指定します。

a

制御操作で使用する除外ノードのリストに1つ以上の指定ノードを追加します。

d

制御操作で使用する除外ノードのリストから1つ以上の指定ノードを削除します。

r

制御操作で使用する除外ノードのリストの1つ以上の指定ノードを置き換えます。

-r Retry_count

操作が失敗として宣言される前に実行可能な制御操作のデフォルトの再試行回数を指定します。

-o ResourceRestartTimeout

リソース再始動タイムアウト値。障害が発生したリソースが再始動されるまでのデフォルトのタイムアウト値 (秒単位) を指定します。System Automation for Multiplatforms は、別のノードでそのリソースを再始動させる前に、指定された時間待機します。

-t Timeout

制御操作のデフォルトのタイムアウト値 (秒単位) を指定します。指定された時間間隔内に操作が正常に完了しない場合、制御操作は停止または失敗であると宣言されます。

-l Trace_level

トレース・レベルを設定して、トレースの度合いと量を制御します。最大値 255 を指定すると詳細なトレースが行われ、値 0 を指定するとトレース項目のさまざまなクラスの書き込みが抑制されます。デ

フォルト・レベルは 31 です。このオプションは、IBM サポートから助言があった場合にのみ変更するようにしてください。

-T

標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。

-V

標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

パラメーター

Node

制御操作の除外ノード・リストについて、追加、削除、または置き換える 1 つ以上のノードの名前を指定します。-u オプションおよびそのパラメーターにより、除外ノード・リストを更新するために必要なアクションが決定されます。

new_activeversion

System Automation for Multiplatforms の新規アクティブ・バージョン値を指定します。このオプションを指定する場合は、-m オプションが必要です。

終了状況

0

コマンドは正常に実行されました。

1

RMC でエラーが発生しました。

2

CLI スクリプトでエラーが発生しました。

3

コマンド行に不正なフラグがあります。

4

コマンド行に不正なパラメーターがあります。

5

RMC で誤ったコマンド行入力に基づくエラーが発生しました。

6

指定されたリソースが見つかりません。

7

このリソースは存在しています。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

例

1. System Automation for Multiplatforms を自動化モードに設定し、再試行回数を 4 回、リソース再始動タイムアウトを 5 秒として設定するには、以下のように入力します。

```
samctrl -M F -r 4 -o 5
```

2. 特定のノードを System Automation for Multiplatforms の制御から除外するには、以下のように入力します。

```
samctrl -u a narten jarden varten
```

3. 最新バージョンにマイグレーションするには、以下のように入力します。

```
samctrl -m
```

4. 最新バージョンへのマイグレーションを強制実行するには、以下のように入力します。

```
samctrl -m -f
```

5. Tivoli Enterprise Console® のパブリッシャー機能を使用可能に設定するには、以下のように入力します。

```
samctrl -e TEC
```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/samctrl

samctrl コマンドのロケーション。

関連情報

lssamctrl コマンド。

lrmccli 一般情報ファイル。

samdiag

名前

samdiag - リソースについての詳細情報を要求します。

概要

```
samdiag [-h] [-T] [-V] [-x extra_info] -r Resource_handle
```

```
samdiag [-h] [-T] [-V] [-x extra_info] -g Resource_group
```

```
samdiag [-h] [-T] [-V] [-x extra_info] Resource_class:Resource:[Node]
```

```
samdiag [-h] [-T] [-V] [-x extra_info] -e Engine_name
```

説明

このコマンドを使用して、詳細なリソース情報を要求できます。このコマンドは、System Automation for Multiplatforms デーモンがアクティブな任意のノードで入力できます。

コマンド samdiag は、指定されたリソースに関する以下の情報を提供します。

- 状況
- 依存関係
- バインディング制約
- 未解決のアクション
- フラグおよび例外
- 要求およびポート
- ヒストリー
- 変数

オプション

-h

標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。

- T**
標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。
- V**
標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。
- x *extra_info***
追加情報。このオプションは、指定されたリソースに関する追加の情報を要求します。オペランド *extra_info* には、有効なストリングとして以下を指定できます。
- reqs**
要求情報。
 - votes**
ポート情報。
 - hist**
ヒストリー情報。
 - vars**
変数情報。
 - all**
すべての情報。
- g *Resource_group***
リソース・グループの名前は、リソース・グループが指定されていることを暗黙に示しています。
- r *Resource_handle***
リソース・ハンドル。このオプションは、リソースのリソース・ハンドルが指定されていることを暗黙指定します。
- e *Engine_name***
エンジン・リソース名。このオプションは、リソースのエンジン名が指定されていることを暗黙指定します。以下に、現在使用中のエンジン名のフォーマットを示します。
- Cluster
 - Resource_name/<type>/Resource_class[/Node]
- Cluster**
これは、System Automation for Multiplatforms にとって既知のクラスターまたは共用ドメインに関する診断情報が要求されていることを暗黙指定します。
- Resource_name/<type>/Resource_class[/Node]**
このフォーマットは、最も一般的に使用されるエンジン名フォーマットです。ここでエンジン・リソースは、リソースの名前 (*Resource_name*)、リソースのタイプ (<type>)、リソースのクラス (*Resource_class*)、およびオプションで、リソースが存在するノード (*Node*) によって識別されます。*Resource_class*、*Resource_name*、および *Node* はスラッシュ (/) で区切る必要があります。*Resource_class* は、リソースが属する *Resource_class* の名前です。*Resource_name* は、そのクラス内の実際のリソースの名前です。固定リソースに対してアクションを試行する場合は、*Node* を指定する必要があります。*Node* とそのリソースは、スラッシュ (/) 区切り文字で区切る必要があります。リソースのタイプ (<type>) は以下のとおりです。
- ResGroup**
リソース・グループの場合。
- 同値**
同値の場合。
- 固定**
固定リソースの場合。
- 浮動**
浮動リソースの場合。

パラメーター

Resource_class: Resource_name[:Node]

メンバー・リソース。これは、対象となる 1 つのリソースを指定します。リソースは、リソースのクラス (*Resource_class*)、リソースの名前 (*Resource_name*)、およびオプションで、リソースが存在するノード (*Node*) によって識別されます。*Resource_class*、*Resource_Name*、および *Node* はコロンで区切る必要があります。*Resource_class* は、リソースが属する *Resource_class* の名前です。

Resource_name は、そのクラス内の実際のリソースの名前です。固定リソースに対してアクションを試行する場合は、*Node* を指定する必要があります。ノードとリソースは、コロン (:) 区切り文字で区切る必要があります。

終了状況

0

コマンドは正常に実行されました。

1

RMC でエラーが発生しました。

2

コマンド・スクリプト内の下位で発生したエラーに起因するエラーが発生しました。

3

コマンド行に不正なフラグがあります。

4

コマンド行に不正なパラメーターがあります。

5

ユーザー・エラーに起因するエラーが発生しました。

6

指定されたリソースが見つかりません。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/samdiag

samdiag コマンドのロケーション。

関連情報

lssamctrl コマンド。

rmcccli 一般情報ファイル。

samlicm

名前

samlicm - 製品ライセンスまたはフィーチャー・ライセンスをインストール、リスト、およびアップグレードするには、このコマンドを使用します。

概要

samlicm [-h]

samlicm [-p [XDR|SAP]]

```
samlicm [-s]
samlicm [-t]
samlicm [-i license_file]
```

説明

samlicm コマンドは、System Automation for Multiplatforms の製品ライセンスまたはフィーチャー・ライセンスをインストール、リスト、およびアップグレードします。クラスター内のすべてのノードでライセンスが検査されるため、クラスター内の各ノードにライセンスをインストールする必要があります。インストール・メディアによっては、製品のインストール時に購入前試用ライセンスまたはフル・ライセンスがインストールされています。ライセンス状況を確認する場合や、購入前試用ライセンスからフル・ライセンスにアップグレードする場合は、samlicm コマンドを使用します。

オプション

- h**
標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。
- p [XDR|SAP]**
永久ライセンスまたはフィーチャー・ライセンスを検査します。結果は終了状況でのみ示されます。
- s**
標準出力にライセンス状況を出力します。ライセンスの有効期限を確認するには、このオプションを使用します。
- t**
ライセンスをテストします。インストールされているライセンスを確認するには、このオプションを使用します。
- i license_file**
指定されたライセンス・ファイルを使用して、製品ライセンスやフィーチャー・ライセンスをインストールまたはアップグレードします。ライセンスの初期インストールおよびアップグレードの両方に、-i オプションを使用します。

終了状況

- 0**
コマンドは正常に実行されました。永久ライセンスがインストールされている場合にオプション -p に対して戻されます。
- 1**
コマンド処理中にエラーが発生しました。
- 2**
購入前試用ライセンスがインストールされている場合にオプション -p に対して戻されます。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限が必要です。

例

1. ライセンスをインストールまたはアップグレードするには、以下のように入力します。

```
samlicm -i try_buy.lic
```

特に問題がない場合は、コマンドからの出力はありません。エラーが発生した場合は、エラー・メッセージが標準エラー出力に書き込まれ、該当する終了状況が戻されます。

2. ライセンス状況を印刷します。

```
samlcicm -s
```

出力例:

以下の出力は、System Automation for Multiplatforms 製品ライセンスがインストールされていることを示します。

注: 製品ライセンスの関連「Product Annotation」行には、修飾子がないことがあります。

```
Product ID: 101
Product Annotation:
Creation date: Thu Oct 25 02:00:00 2007
Expiration date: Fri Jan 1 00:59:59 2038
```

以下の出力は、System Automation for Multiplatforms 製品ライセンスと、Extended Disaster Recovery for Linux on System z ライセンスの、2つのライセンスがインストールされていることを示します。

```
lnxxdr43:~ # samlcicm -s
Product: IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms 3.2
Product ID: 101
Product Annotation: SA for MP xDR for Linux on System z
Creation date: Wed Aug 19 02:00:00 2009
Expiration date: Fri Jan 1 00:59:59 2038
```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/samlcicm

samlcicm コマンドのロケーション。

関連情報

IBM ライセンス・ユース管理 (LUM) 資料。

samlog

名前

samlog - 稼働中のドメインまたは以前に収集した ctsnap データの System Automation for Multiplatforms 関連ログを収集、フォーマット設定、マージ、および表示します。

概要

```
samlog [-n Node[, Node...]] [-s Source[, Source...]]
[[-d] -t Offset{d|h|m|s}|YYYY-MM-DD[.hh[:mm[:ss]]]
[+Duration{d|h|m|s}|, YYYY-MM-DD[.hh[:mm[:ss]]]]
|all]
[--dir CtsnapDirectory --dom DomainName]
[-r | -e EyecatcherRegexp] [- -nocomp] [-T] [-h] --help
```

説明

samlog コマンドは、ログ・ファイル (例えば、トレース・ファイルまたはトレース要約ファイルなど) からデータを収集します。ログ・ファイルは、System Automation for Multiplatforms ドメイン内の各種ソースから、または以前収集された ctsnap データから生成されます。相対的な時間スパンまたは絶対的な日付を指定する場合は、ログを取得する時間フレームを制限できます。トレース・ファイルのプールを使用可能にした場合は、プールされたファイルも同様に考慮されます。

-r オプションを使用しない限り、ログのフォーマットは次のような共通フォーマットに設定されます。

- ヘッダーは除去されます。
- 日時形式は統一されます。タイム・スタンプには次の形式が使用されます: YYYY-MM-DD
hh:mm:ss:mmmmmm
 - YYYY: 年
 - MM: 月
 - DD: 日
 - hh: 時
 - mm: 分
 - ss: 秒
 - mmmmmm: マイクロ秒小数部
- ログ・エントリーのソースに関する情報は、SourceCharacterNodeName) という形式で実際のログ・エントリーに追加されます。SourceCharacter は、-s オプションの説明にリストされている文字の 1 つです。
- 実際のログ・エントリー。

複数のログを取得すると、タイム・スタンプに従ってそれらがマージされます。ログ・エントリーが正しい順序でマージされるようにするため、システム時刻オフセットの誤差は補正されます。ctsnap データのシステム時刻オフセットは判別できないため、補正されません。

取得、フォーマット設定、およびマージされたログが印刷されます。ログはヘッダー付きで印刷されます。ヘッダーには、samlog コマンドの時刻、場所、およびオプションが示されます。さらに次の情報が含まれた表が印刷されます。

- ノード名
- ローカル・ホストとノード間で補正されたシステム時刻オフセット。
- このノードで取得されたすべてのソースのリスト。

注:

1. 同じクラスター内または同じ ctsnap データ上で samlog を同時に複数回呼び出すと、rpttr が処理されたトレース・ファイルをログに記録しようとすることによって発生するエラーが原因で、失敗する可能性があります。
2. RSCT で使用される Perl 配布の **ithread サポート** を使用可能にする必要があります。Can't locate threads.pm のようなメッセージが表示される場合は、ithread がサポートされるようにクラスターの各システムの Perl を更新してください。

オプション

-n Node[,Node...]

-n オプションは、ログを収集するノードを指定するために使用します。ノード名が、lsprnode によってリストされるノード名と同じであることを確認してください。ノード・リストは、ブランクなしのコンマ区切り値で構成します。デフォルトでは、ドメインでオンラインのすべてのノード、または ctsnap ディレクトリー内のすべてのノードが選択されます。

-s Source[,Source...]

-s オプションは、ログを取得するソースを指定するために使用します。ソース・リストは、ブランクなしのコンマ区切りソース文字またはソース名で構成します。

- R または IBM.RecoveryRM - IBM.RecoveryRM を選択します (デフォルトで選択される)
- G または IBM.GblResRM - IBM.GblResRM を選択します (デフォルトで選択される)

-d

-d オプションは、詳細な出力を生成するときに使用します。このオプションを設定すると、リソース・マネージャーの完全なトレースが収集されます。このオプションではより多くのデータが取得されるため、照会する時間フレームを制限するために -t オプションを使用する必要があります。デフォルトでは、このオプションは設定されず、リソース・マネージャーのトレース要約が収集されます。

-t Offset{d|h|m|s}|YYYY-MM-DD[.hh[:mm[:ss]]][+Duration{d|h|m|s}|,YYYY-MM-DD[.hh[:mm[:ss]]]]|

all

-t オプションは、現在時刻に相対的な時間フレームを照会するか、または絶対的な時間フレームを照会するかを指定するときに使用します。時間フレームは開始時刻と終了時刻で定義します。終了時刻を指定せずに開始時刻のみを指定すると、時間フレームが現在時刻までとなります。

relative

過去の開始日を指定するには、オフセットに続けて単位 (d - 日、h - 時、m - 分、s - 秒) を定義します。オプションで終了日を指定するには、+ を付加した後に期間と単位を指定します。

例:

- 2d, 60 s, 1d+1 h

absolute

開始日を指定するために日付の一部を指定します。オプションで終了日を指定するには、コンマで区切って日付の一部を指定します。

例:

- 2010-06-23.08:29:30
- 2010-06-23.08
- 2010-06-23.12, 2010-06-23.12:30

mixed

相対と絶対を組み合わせて使用できます。

例:

- 2010-06-23.08:29:00+60 s
- 12d,2010-06-22

-t オプションを値 **all** とともに使用すると、すべてが取得されます。-t オプションを指定しなかった場合のデフォルトは最終日 (1d) です。

--dir CtsnapDirectory

--dir オプションは、以前に収集された **ctsnap** データへ **samlog** を適用するために使用します。**CtsnapDirectory** には、各クラスター・ノードのサブフォルダーが含まれている必要があります。これらのサブフォルダーは、**ctsnap** データが収集された **lsprnode** によってリストされるノード名と同様に命名されます。これらに含まれる **ctsnap** データは、抽出されたデータ、圧縮解除されたデータ、または tar 形式ではないデータである必要があります。

--dir オプションと --dom を組み合わせます。

--dom DomainName

ctsnap コマンドは、ノードに定義されたすべてのドメインのログを保管します。-dom オプションは、ログを取得するドメインを指定するために、--dir オプションと組み合わせて使用します。有効なドメイン名は、ノード・フォルダーの /var/ct サブフォルダーにシンボリック・リンクとして示されています。

-r

-r オプションは、ロー・ログを取得するときに使用します。このオプションが設定されている場合は、ログの再フォーマット設定がスキップされ、元のログが表示されます。このオプションは、-n オプションで指定する単一のノード、および -s オプションで指定する単一のソースと組み合わせた場合のみ使用できます。-r オプションを -e オプションと組み合わせることはできません。-r オプションを設定しなかった場合は、ログがフォーマット設定されます。

-e EyecatcherRegexp

-e オプションは、特定の目印についてログをフィルター処理するときに使用します。**EyecatcherRegexp** には Perl 正規表現構文があります。以下の例は、Perl 表現構文についての限定的な説明です。

ワイルドカード: .=あらゆる文字、¥w=単語文字、¥d=数字、¥s=空白

累乗: *=0...、+=1...、?=0..1、{n}=n、{n,}=n...、{n,m}=n..m

グループ分け、代替: AB=A の後に B、(A|B)=[A|B]=A または B

EyecatcherRegexp と一致するエントリーのみが表示されます。

注:

1. タイム・スタンプ、ノード、およびソース接頭部は、EyecatcherRegexp に対してチェックされるエントリーの一部ではありません。
2. バックスラッシュを samlog に正しく受け渡すために、EyecatcherRegexp 値内のバックスラッシュを複写します。

例:

- ¥s ではなく ¥¥s と記述します

-e オプションは、-r オプションと組み合わせて使用することはできません。

--nocomp

--nocomp オプションは、ログを取得するノード上のシステム時刻の誤差の補正を使用不可にするときに使用します。このオプションを設定すると、元の時刻が保持されます。このオプションを設定しなかった場合は、マージされたログのエントリーが正しい順序になるように、samlog が実行されるノードおよびログを提供するノードのシステム時刻オフセットが判別され、補正されます。

-T

-T オプションは、samlog トレースを STDERR に書き込むときに使用します。

-h | --help

-h オプションは、使用法構文を表示するときに使用します。

終了状況

0

コマンドは正常に実行されました。

2

基となるコマンドでエラーまたはタイムアウトが発生したことが原因で、コマンドが停止されました。

3

ユーザーが無効なオプションを指定したことが原因で、コマンドが停止されました。

4

ユーザーが不正なオプション値を指定したことが原因で、コマンドが停止されました。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

例

1. 最終日について生成されたすべてのオンライン・ノード上の IBM.RecoveryRM および IBM.GblResRM のマージ trace.summaries を取得するには、次のように入力します。

```
samlog
```

2. 最後の 15 分間に生成された node1 上の IBM.GblResRM のロー・トレースと詳細トレースを表示するには、次のように入力します。

```
samlog -n node1 -s G -d -r -t 15m
```

3. 1時間前から10分間の node1 上および node2 上の IBM.RecoveryRM のマージ・トレース・サマリーが含まれている RecSum という名前のファイルを現行ディレクトリーに作成するには、次のように入力します。

```
samlog -n node1,node2 -s R -t 1h+10m 1>RecSum
```

4. samlog トレースを表示し、開始日 06/21/10 10:00:00 から終了日 06/21/10 12:30:00 までに Res0815 に関連するすべてのオンライン・ノードで生成された IBM.RecoveryRM および IBM.GblResRM の trace.summaries が含まれたファイル /tmp/sum0815 を作成するには、次のように入力します。

```
samlog -e "Res0815" -t 2010-06-21.10,2010-06-21.12.30 -T 1>/tmp/sum0815
```

5. 以前に収集された ctsnap ディレクトリーの /tmp/ct_data から、ドメイン prod のすべてのノード上の IBM.RecoveryRM および IBM.GblResRM のマージ trace.summaries を表示するには、次のように入力します。

```
samlog -t all --dir /tmp/ct_data --dom prod
```

6. 例えば、指定されたオプションが受け入れられない理由を特定する目的などで samlog トレース・ファイル /tmp/samlog.trace を生成するには、次のように入力します。

```
samlog -T 2>/tmp/samlog.trace
```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/samlog

samlog コマンドのロケーション。

関連情報

ctsnap コマンド。

sampolicy

名前

sampolicy - 入力ファイル内のポリシーが有効かどうかを確認し、このファイルからポリシーをアクティブにし、入力ファイルから現在のポリシーを更新し、現在のポリシーを非アクティブにします。また、現在のポリシーを XML 形式でファイルに保管するため、このファイルからポリシー情報を取得できます。詳しくは、

概要

```
sampolicy -h
```

```
sampolicy -w Templatefilename
```

```
sampolicy -w -m TemplatefilenameNew TemplatefilenameOld
```

```
sampolicy [-T] [-V] [-q] [-f] [-forcecreate] -a Filename
```

```
sampolicy [-T] [-V] [-q] [-forcecreate] -u Filename
```

```
sampolicy [-T] [-V] [-q] [-f] [-forcecreate] -r Filename
```

```
sampolicy [-T] [-V] [-q] [-f] -d
```

```
sampolicy [-T] [-V] -s [Filename]
```

```
sampolicy [-T] [-V] [-u] -c Filename
```



```
sampolicy [-T] [-V] -i Filename  
sampolicy [-T] [-V] [-q] [-f] [-forcecreate] -a -t Templatefilename  
sampolicy [-T] [-V] [-q] [-forcecreate] -u -t Templatefilename  
sampolicy [-T] [-V] [-q] [-f] [-forcecreate] -r -t Templatefilename  
sampolicy [-T] [-V] [-u] -c -t Templatefilename  
sampolicy [-T] [-V] -i -t Templatefilename
```

説明

sampolicy コマンドは Java ユーティリティ・プログラムであり、XML 文書ファイルから System Automation for Multiplatforms XML ポリシーを読み取り、構文解析、妥当性検査を行って、RecoveryRM デーモンおよび RSCT ピア・ドメイン内の他の参照先 RSCT リソース・マネージャー (GlobalResRM など) に構成要求を送信します。また、sampolicy コマンドを使用して、現在の System Automation for Multiplatforms 構成のスナップショットを XML 文書ファイルに保管することもできます。

オプション

- h**
ヘルプ。標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。
- w**
SAP Central Services 高可用性ポリシー機能のみ: ポリシー・セットアップ・ウィザードを開始します。ウィザードを使用する前に、ポリシー・プールを構成する必要があります。
- m**
SAP Central Services 高可用性ポリシー機能のみ: ポリシー・セットアップ・ウィザードを開始します。このとき、古いテンプレート・ファイルと新しいテンプレート・ファイルの間のマイグレーションを行います。古いテンプレート・ファイルのすべての値が新しいテンプレート・ファイルにコピーされ、ウィザードは、コピーされた値を格納する新規ファイルに基づいて処理を進めます。新しいテンプレートで他の値が必要な場合は、ウィザードのパラメーターの概要でマークとしてフラグ「欠落」が付けられ、値の質問が付加されます。
- T**
トレース。標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。
- V**
標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。
- q**
静止モードで、対話はありません。
- f**
リソースの除去を強制実行します。このオプションは、リソースを除去するすべてのタスク (アクティブ化、非アクティブ化、更新、除去など) で使用します。このオプションは、リソースの状態が「オフライン」と「オフラインに失敗」のどちらでもない場合に、そのリソースを除去します。
- forcecreate**
リソースの作成を強制実行します。このオプションは、リソースを作成するすべてのタスク (アクティブ化、更新、除去など) で使用します。このオプションは、既に取得されたファイル・システムのユーザー定義 IBM.AgFileSystem リソースを作成します。
- a**
ファイルからポリシーをアクティブにします。既存のすべてのリソースが削除されます。
- d**
アクティブなポリシーを非アクティブにします。既存のすべてのリソースが削除されます。
- u**
リソースを停止させることなくアクティブなポリシーをファイルから更新します。既存のすべてのリソースが変更されるか、変更されずに保持されます。新しいリソースがポリシーに追加されます。

- r**
アクティブなポリシーをファイルから更新し、ファイル内にないすべてのリソースを削除します。削除されないすべてのリソースは、停止もされません。このオプションは、オプション **-u** とその後にファイルの一部ではないすべてのリソースの削除が続く場合と類似しています。
- s**
現在の構成を XML 形式でファイルに保管します。ファイル名には ASCII 文字のみが含まれていなければいけません。
- c**
入力ファイル内のポリシーが有効かどうかを検査します。
- i**
ファイルからポリシー情報を取得します。
- t**
他のタスクが開始される前にテンプレート処理を実行します。このオプションを使用する際に、入力ファイルは XML 形式のテンプレートでなければいけません。テンプレート処理については、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

パラメーター

Filename

ポリシー XML が入っているファイルの名前、またはファイル名の絶対パス。*Filename* は、オプション **-a**、**-c**、**-i**、**-u**、**-r** では必須です。**-s** オプションに対してファイル名を指定しない場合、デフォルト・パスは `/var/ct/{domain-name}/cfg` です。デフォルトのファイル名は **sampolicy<month><day><year><time>.xml** です。ファイル名をパスなしで指定すると、*sampolicy* は、現行作業ディレクトリーからファイルのロードを試行します。

Templatefilename

ポリシー XML テンプレートが入っているファイルの名前、またはファイル名の絶対パス。*Templatefilename* は、オプション **-t** および **-w** では必須です。ファイル名をパスなしで指定すると、*sampolicy* は、現行作業ディレクトリーからファイルのロードを試行します。

TemplatefilenameNew

新規テンプレート・ファイルの名前、またはファイルの絶対パス。このパラメーターは、オプション **-w -m** では必須です。ファイル名をパスなしで指定すると、*sampolicy* は、現行作業ディレクトリーからファイルのロードを試行します。

TemplatefilenameOld

新規テンプレート・ファイルにマージされる値が入っている古いテンプレート・ファイルの名前、またはファイルの絶対パス。このパラメーターは、オプション **-w -m** では必須です。ファイル名をパスなしで指定すると、*sampolicy* は、現行作業ディレクトリーからファイルのロードを試行します。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。

例

1. ポリシーをアクティブにするには、以下のように入力します。

```
sampolicy -a /usr/xml/myPolicy.xml
```

2. ポリシーを非アクティブにするには、以下のように入力します。

```
sampolicy -d
```

3. ポリシーをファイルに保管するには、以下のように入力します。

```
sampolicy -s /usr/xml/currentpolicy.xml
```

4. テンプレートからポリシーを更新するには、以下のように入力します。

```
sampolicy -u -t /usr/xml/myTemplate.xml
```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/sampolicy

sampolicy コマンドのロケーション。

終了状況

- 0 The command completed successfully.
- 1 コマンドは構文解析に失敗しました。
- 2 コマンド処理は失敗しました。
- 3 Java ランタイムが見つかりません。

samsimul

名前

samsimul - 一連の要求または状態変更をシミュレートし、期待される結果を表示します。

概要

samsimul [-h][-T][-V] *Input_file_name*]

説明

samsimul コマンドは、自動化エンジンに対する一連の要求、または個々のリソースの動作状態の変更をシミュレートします。入力ファイル名が指定されると、samsimul は、指定されたファイルから、シミュレートする要求または状態変更の記述を読み取ります。入力ファイル名が省略された場合、samsimul は、その記述を標準入力から読み取ります。

シミュレーションの完了時に、samsimul はシミュレートした要求または状態変更の期待される結果を標準出力に書き込みます。

オプション

- h 標準出力にコマンドの使用法ステートメントを書き込みます。
- T 標準エラー出力にコマンドのトレース・メッセージを書き込みます。ソフトウェア・サービス会社においてのみ使用します。
- V 標準出力にコマンドの詳細メッセージを書き込みます。

パラメーター

Input_file_name

シミュレートされる要求または状態変更の記述が含まれるファイルの名前を指定します。ファイルの各行には、スペースで区切られた 6 つの値によって単一の要求が記述されています。

1. 開始、停止、キャンセル、または移動されるか、失敗、オンライン、またはオフラインとして見なされるリソースまたはリソースの名前。

2. 要求の実行依頼時の相対時刻を示す順序番号。順序番号が同一の複数の要求は、同時に実行依頼されます。
3. リソース構造内の他の要求と相対的にどの程度重要であるかを示す優先順位コード。可能な値は、「low」、「high」、および「force」です。
4. 自動化エンジンによってシミュレートされる要求または状態変更のタイプを示すアクション・コード。可能な値は、「start」、「stop」、「move」、「cancel」、「failed」、「online」、および「offline」です。
5. 要求のソースを示す発信元コード。可能な値は、「Operator」、「ExtSched」、および「Automation」です。
6. 要求または状態変更が適用される、コマンドで区切られたノードのリスト。

「#」文字(ハッシュ・マーク)で始まる行は、要求または状態変更の記述ではなく、コメントと見なされます。これらは、注釈として使用でき、samsimul では無視されます。スペースまたはタブ文字のみで構成されるような空の行は、入力ファイルを視覚的に構造化するために使用でき、samsimul では無視されます。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイドを参照してください。

終了状況

- 0 コマンドは正常に実行されました。
- 1 RMC でエラーが発生しました。
- 2 CLI スクリプトでエラーが発生しました。
- 3 コマンド行に不正なフラグがあります。
- 4 コマンド行に不正なパラメーターがあります。
- 5 RMC で誤ったコマンド行入力に基づくエラーが発生しました。

例

1. リソースの開始および後続の失敗をシミュレートするには、次のように入力します。

```
samsimul input_file
```

input_file には以下の行が含まれています。

```
IBM.ResourceGroup:samba 0 high start Operator node1
IBM.Application:samba:samba1 1 high failed Operator node1
```

これらの 2 行は、samba リソース・グループに対してオンライン要求を行い、その後最初のリソースで失敗することをシミュレートしています。応答は次のようになります。

```
samba/ResGroup/IBM.ResourceGroup 1 offline
samba1/Fixed/IBM.Application/node1 1 online
samba/ResGroup/IBM.ResourceGroup 1 online
samba/ResGroup/IBM.ResourceGroup 2 online
samba1/Fixed/IBM.Application/node2 1 online
samba/ResGroup/IBM.ResourceGroup 2 online
```

最初の列でリソースを参照し、2 番目の行でステップ番号を参照し、最後の列で現在の状態を参照します。最初のステップで、リソース・グループがオフラインからオンラインになります。最初のノード上での samba1 のシミュレートされた失敗により、オフラインになりますが、フェイルオーバーが実行されて、2 番目のノードの samba1 が開始されます。

ファイル

`/usr/sbin/rsct/bin/samsimul`

samsimul コマンドのロケーション。

関連情報

addrigubr、samctrl、chrel、chrg、chrgubr、mkrig、mkrel、rmrel、rmrg、rmrgubr コマンド。

rmcccli 一般情報ファイル。

Resource_Data_Input ファイル。

samwhy

名前

samwhy - System Automation for Multiplatforms によって検出されたエラーについての情報を表示します。

概要

samwhy [-dhv] [-t hh:mm:ss] | <#>h|m|s [Resource_class:Resource_name[:node]]

説明

コマンド samwhy は、アプリケーションの状況をオペレーターが把握するのに役立ち、また System Automation for Multiplatforms がそれに対して行った動作の理由を説明します。**samwhy** は、イベントの履歴および System Automation for Multiplatforms の自動化決定の履歴を使用して、理解しやすい可読形式の出力を提供します。出力では、指定した時間に samwhy によって検出されたアプリケーション障害がリストされ、ログが記録されます。

オプション

-d, --detail

詳細エラー情報を表示します。

-h, -?

簡潔なヘルプ情報を表示します。

-t TIME

期間を指定します。使用可能な形式:

<#>h|m|s 直近の <#> 時間|分|秒を表示します

hh[:mm[:ss]] 直近の時間[:分[:秒]]を表示します

-v

ビルド日付およびバージョンを表示します。

--help

拡張ヘルプ情報を表示します。

--nocolor

出力に色を使用しません。

終了状況

0

コマンドは正常に実行されました。

1

基となるコマンドでエラーまたはタイムアウトが発生したこと、またはユーザーが無効なオプションを指定したことが原因で、コマンドが停止されました。

セキュリティ

このコマンドを実行するのに root 権限は不要です。詳しくは、「System Automation for Multiplatforms 管理者とユーザーのガイド」を参照してください。

例

1. 以下のように、指定された時間フレームで発生したエラーを表示します。

```
samwhy -t 20h          (last 20 hours)
samwhy -t 45m         (last 45 minutes)
samwhy -t 55s         (last 55 seconds)
samwhy -t 20:45      (last 20 hours and 45 minutes)
samwhy -t 20:45:55   (last 20 hours, 45 minutes and 55 seconds)
```

2. 以下のように、指定されたリソース・クラス、リソース、およびノードのエラー詳細を表示します。

```
samwhy -d IBM.Application:Res1:Node1 (resource on this node)
samwhy -d IBM.Application:Res1       (aggregate resource)
```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/samwhy

samwhy コマンドのロケーション。

関連情報

samlog コマンド。

setupAdapterNonRoot

名前

setupAdapterNonRoot.sh は、非 root ユーザー・アカウントを使用して実行するようにエンドツーエンド自動化アダプターを構成します。

概要

```
setupAdapterNonRoot.sh [-h] [--local] [--manage-group] [-X | --sa-admin] [-g] [--group <groupName>] username]
```

説明

setupAdapterNonRoot は、非 root ユーザー・アカウントを使用して実行するように SAM アダプターを構成します。これは、RSCT セキュリティー定義に加えて、グループの所有権とアクセス権を調整します。コマンド setupadapternonroot を使用すると、非 root ユーザーがエンドツーエンド自動化アダプターの制御とモニターを実行できるようになります。アダプターは、System Automation for Multiplatforms ドメインと System Automation Application Manager エンドツーエンド自動化サーバーとの間の通信を処理します。

root 権限を持つユーザーとしてスクリプトを実行します。

前提条件の検査

クラスターが存在するかどうか、自動化アダプターが停止しているかどうか、およびユーザー・アカウントが存在するかどうかを検査されます。指定したグループがユーザー・アカウントの1次グループであるかどうかも検査されます。

グループ所有権およびアクセス権の変更

いくつかのファイルとディレクトリーは、最初は root ユーザーのみがアクセスできるように作成されるため、それらの所有権とアクセス権を変更する必要があります。詳しくは、『グループ所有権およびアクセス権の変更』を参照してください。

注: このスクリプトにより、次のファイルを所有するグループが変更されます。

```
/etc/ibm/tivoli/common/cfg/log.properties.
```

このファイルは、他の Tivoli 製品でも使用されている可能性があります。それらの製品のいずれかも、非 root ユーザー・アカウントで実行されている場合、それらの製品で log.properties ファイルを引き続き読み取ることができることを確認してください。

適切なシステム自動化および RSCT のアクセス権の設定

非 root ユーザー・アカウント samadapt に RSCT Resource Management Control (RMC) の使用を許可するには、

```
/var/ct/cfg/ctrmc.acls
```

ファイルを使用してアクセス権を付与する必要があります。詳しくは、『適切な System Automation と RSCT のアクセス権の設定』を参照してください。

自動化アダプター構成の調整

非 root のユーザーとグループが、アダプターの構成プロパティに追加されます。詳しくは、『自動化アダプター構成の調整』を参照してください。

オプション

-h

このヘルプを出力します。

-g or --group<groupName>

指定したユーザー・アカウントの1次グループの名前。

(デフォルト: グループ名 = sagroup)

-local

ローカル・ノードでのみスクリプトを実行します。オプションであり、省略すると、デフォルトではすべてのクラスター・ノードに対して変更を実行します。

--manage-group

ローカルの UNIX グループを作成し(グループが存在しない場合)、そのグループに指定したユーザーを追加します。そのグループをユーザーの1次グループに設定します。オプションであり、省略すると、デフォルトではグループやユーザーに変更を加えません。

-X

sa_admin 役割の ACL アクセス権を設定します。オプションであり、省略すると、デフォルトでは sa_operator 役割に対する ACL アクセス権が設定されます。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限、または適切なアクセス権を持つユーザー ID が必要です。詳しくは、『コマンド行インターフェースの場合の非 root ユーザー ID のセットアップ』を参照してください。

戻り値

- 0- すべての構成が正常に完了しました
- 1- 1 つ以上の構成タスクが失敗しました - 詳しくは、出力を参照してください
- 2- 前提条件が満たされませんでした - 詳しくは、出力を参照してください

例

1. 非 root ユーザー「saoperator」とグループ「sagroup」を使用して実行するように SA MP アダプターを構成します (「sagroup」は既に存在します)。

前提条件

ユーザー「saoperator」とグループ「sagroup」は存在しています。

「sagroup」はユーザー「saoperator」の 1 次グループです。

```
setupAdapterNonRoot.sh -g sagroup saoperator
```

結果:

すべてのクラスター・ノード上で SA MP アダプターの非 root ユーザー「saoperator」が構成されます。

2. 非 root ユーザー「saoperator」とグループ「sagroup」を使用して実行するように SA MP アダプターを構成します (「sagroup」は存在しません)。

前提条件

ユーザー「saoperator」は存在します。

```
setupAdapterNonRoot.sh --manage-group -g sagroup saoperator
```

結果:

すべてのクラスター・ノード上でグループ「sagroup」が作成されます。

すべてのクラスター・ノード上でユーザー「saoperator」がグループ「sagroup」に追加されます。

すべてのクラスター・ノード上で、「sagroup」がユーザー「saoperator」の 1 次グループとして設定されます。

すべてのクラスター・ノード上で SA MP アダプターの非 root ユーザー「saoperator」が構成されます。

3. SA MP アダプターの非 root ユーザー構成を削除します。

前提条件

SA MP アダプターの非 root ユーザーが構成されています

AIX:

```
# setupAdapterNonRoot.sh -g system root
```

Linux:

```
# setupAdapterNonRoot.sh -g root root
```

結果:

すべてのクラスター・ノード上で SA MP アダプターの非 root ユーザー構成が削除されます。

ファイル:

/opt/IBM/tsamp/sam/bin/setupAdapterNonRoot.sh

setupAdapterNonRoot.sh コマンドの場所。

samnonrootuser

名前

`samnonrootuser` - `samnonrootuser` は、System Automation コマンドを実行するようにローカル・ユーザーを構成します。

概要

```
samnonrootuser [-h] [-a|-add|-d|--delete] [-V--silent] [-l<log file>] [--local] [--manage group] [-x|  
-sa admin] [-g|-group <groupName>] [-gid--gid<groupid>] [<userName>]
```

説明

`samnonrootuser` コマンドは、「Operator」または「Administrator」として System Automation コマンドを実行するようにユーザーを構成します。デフォルトでは、root ユーザーのみが System Automation コマンドの実行権限を付与されます。このスクリプトを実行すると、指定したユーザーにドメイン・リソースを管理するために適切なアクセス権が付与されるように、ファイルのアクセス権と RSCT ACL ファイルが調整されます。

オプション

-h

このヘルプを出力します。

-a or --add

指定したユーザーに対する非 root 構成を追加します。これは、このコマンドのデフォルトのアクションです。

-d または --delete

指定したユーザーに対する非 root 構成を削除します。

-g or --group <groupName>,

指定したユーザー・アカウントの 1 次グループの名前 (デフォルト: グループ名 = `sagroup`)。

gid <groupId>,

指定したユーザー・アカウントの 1 次グループの ID (デフォルト: グループ ID = 222)。

-l <LogFile>,

ログ・ファイル名を指定します (デフォルト: ログ・ファイルに書き込まない)。

--local

ローカル・ノードでのみスクリプトを実行します。省略すると、デフォルトではすべてのクラスター・ノードに対して変更を実行します。

--manage-group

ローカルの UNIX グループを作成し (グループが存在しない場合)、そのグループに指定したユーザーを追加します。そのグループをユーザーの 1 次グループに設定します。省略すると、デフォルトではグループやユーザーに変更を加えません。

-silent,

標準出力にメッセージを書き込みません。

-v,

冗長モードでスクリプトを実行します。

-x or --sa-admin,

`sa_admin` 役割の ACL アクセス権を設定します。省略すると、デフォルトでは `sa_operator` 役割に対する ACL アクセス権が設定されます。

パラメーター

userName

非 root クラスタ・ユーザーとして構成されるユーザー・アカウントの名前。

終了状況

0

すべての構成が正常に完了しました。

1

1つ以上の構成タスクが失敗しました - 詳しくは、出力を参照してください。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、root 権限が必要です。

例

1. グループとノードに追加されるユーザーを追加し権限を付与する場合

```
samnonrootuser -a -l /tmp/user1 --local -x -g groupname username
```

2. 作成され、グループに追加されたユーザーを削除する場合

```
samnonrootuser -d --local -g groupname username
```

ファイル

/usr/sbin/rsct/bin/samnonrootuser

samnonrootuser コマンドの場所。

関連情報

samctrl、chrel、chrg、chrgmbr、lsrg、mkrq、mkrel、rmrel、rmrg、rmrgmbr コマンド。

rmcccli 一般情報ファイル。

Resource_Data_Input ファイル。

uninstallSAM

名前

uninstallSAM - System Automation for Multiplatforms の全コンポーネントをアンインストールします。

概要

```
uninstallSAM [-d inst_pkg_dir] [-l log_file]
```

説明

uninstallSAM コマンドでは、ドメインがオフラインであることが確認されます。System Automation for Multiplatforms のすべてのコンポーネントは適切な順序でアンインストールされ、実行されたアクションに関する情報がログ・ファイルに記録されます。デフォルトのログ・ファイルの名前は /tmp/uninstallSAM.<#>.log です。ここで、<#> は連続番号であり、最も高い番号が最近のログ・ファイルであることを示します。ドメインがオンラインの場合、アンインストールはキャンセルされます。

通常、オプションを指定する必要はありません。指定可能なオプションにより、`uninstallSAM` スクリプトがパッケージ・ディレクトリ内になくてもコンポーネントをアンインストールできます (`-d`)。デフォルト以外のログ・ファイルの使用を指定するには、`-l` オプションを追加します。

オプション

`-d inst_pkg_dir`

指定されたディレクトリ内で `uninstallSAM` スクリプトが使用できない場合でも、そのディレクトリ内の NLS ファイルに基づいてすべてのコンポーネントをアンインストールします。

`uninstallSAM` は、インストールされるパッケージに依存していませんが、そのメッセージ・ファイル用のディレクトリが必要です。

`-l log_file`

`uninstallSAM` コマンドによって生成された情報を、指定されたログ・ファイルに記録します。

`--silent`

コマンド行への出力を抑止します。

終了状況

0

アンインストールが正常に完了しました。

1

<package uninstaller> が、0 以外の戻りコードを戻しました。戻りコードおよび対応するメッセージはログ・ファイルに記載されています。<package uninstaller> は次のとおりです。

- **AIX:** `installp`
- **Linux:** `rpm`

2

ピア・ドメインがオンラインです。アンインストールは実行されませんでした。

3

ディレクトリまたはファイルを検出できなかったため、`uninstallSAM` は続行できませんでした。この戻りコードは、`-d` オプションで存在しないディレクトリが指定されるか、ファイルが入ったサブディレクトリが存在しない場合にも適用されます。

セキュリティ

このコマンドを実行するには、`root` 権限が必要です。

式の使用

このセクションでは、以下のことを実行する上級者のための情報を提供します。

- 定義済みの式の変更。
- リソースの選択。
- 値のセットに対して複雑な数式をコンパイルおよび実行することによる、監査ログ・レコードのフィルタリング。

使用可能なデータ・タイプ、演算子、演算子の優先順位を以下で説明します。RMC は、これらの機能を使用して、リソースの永続属性に対して選択文字列を突き合わせ、イベント式やリーム式の評価を実施します。

式は C 言語ステートメントや SQL 照会の WHERE 文節に類似しています。変数、演算子、および定数で構成されます。C および SQL の構文スタイルを、単一の式内に混在させることができます。以下の表は、RMC の用語と SQL の用語を関連付けたものです。

| RMC | SQL |
|----------|----------|
| 属性名 | 列名 |
| 文字列の選択 | WHERE 文節 |
| 演算子 | 述部、論理連結語 |
| リソース・クラス | 表 |

SQL の制約事項

選択文字列では SQL 構文がサポートされていますが、以下の制約事項があります。

- 式では単一の表のみ参照できます。
- 照会はネストできません。
- NULL 値の概念がないため、IS NULL 述部はサポートされていません。
- ピリオド (.) 演算子は表区切り文字ではありません (例えば、table.column)。このコンテキストにおいては、ピリオド (.) 演算子は、フィールド名をその収容する構造名から分離するために使用されています。
- ポンド記号 (#) は、SQL パターン・ストリング内のエスケープ文字としてハードコーディングされています。
- すべての列名は大/小文字の区別があります。
- すべてのリテラル・ストリングは、単一引用符または二重引用符で囲む必要があります。引用符で囲まれていないリテラル・ストリングは、列名および属性名と区別できないためサポートされません。

サポートされる基本データ・タイプ

変数という用語は、このコンテキストでは列名または式の中の属性名を意味します。式の中の変数および定数には、RMC サブシステムでサポートされる以下のデータ・タイプのいずれかを指定できます。

| シンボル名 | 説明 |
|--------------------|--|
| CT_INT32 | 符号付き 32 ビット整数 |
| CT_UINT32 | 符号なし 32 ビット整数 |
| CT_INT64 | 符号付き 64 ビット整数 |
| CT_UINT64 | 符号なし 64 ビット整数 |
| CT_FLOAT32 | 32 ビット浮動小数点 |
| CT_FLOAT64 | 64 ビット浮動小数点 |
| CT_CHAR_PTR | NULL 終了ストリング |
| CT_BINARY_PTR | バイナリー・データ - 任意の長さのデータ・ブロック |
| CT_RSRC_HANDLE_PTR | リソース・ハンドル - スペースおよび時間にわたって固有なリソースの ID (20 バイト) |

構造化データ・タイプ

基本データ・タイプに加えて、基本データ・タイプの集合も使用できます。最初の集合データ・タイプは、さまざまなデータ・タイプの複数のフィールドを含むことができる点で、C における構造体に類似しています。この集合データ・タイプを、構造化データ (SD) と呼びます。構造化データの個々のフィールドを、構造化データ・エレメント、または単にエレメントと呼びます。構造化データ・タイプの各エレメントは、前出の表の基本タイプのうちの 1 つ、または次のセクションで説明する配列タイプのいずれか (構造化データ配列を除く) など、異なるデータ・タイプである場合があります。

2 番目の集合データ・タイプは配列です。配列には、例えば CT_INT32 値の配列など、0 個以上の同じデータ・タイプの値が含まれます。各配列タイプは、関連付けられた列挙値 (CT_INT32_ARRAY、

CT_UINT32_ARRAY) を持ちます。構造化データを配列として定義することもできますが、配列のすべてのエントリーに同じエレメントを置くという制限があります。

リテラル値に使用できるデータ・タイプ

各基本データ・タイプについて、以下のようにリテラル値を指定できます。

配列

値の配列またはリストは、変数またはリテラル値、あるいはその両方を中括弧 {} または小括弧 () で囲み、リストの各エレメントをコンマで区切ることによって指定できます。例: {1, 2, 3, 4, 5} または ("abc", "def", "ghi")。

配列のエントリーには、C プログラミング言語の場合と同様に、添え字を指定することでアクセスできます。配列の最初のエレメントに対応する索引は常に 0 です。例えば、List [2] は、List という名前の配列の 3 番目のエレメントを参照します。使用できる添え字は 1 つのみです。これは、変数、定数、または整数の結果を生成する式にすることができます。例えば、List が整数配列である場合、List[2]+4 により、4 および配列の 3 番目のエントリーの現行値の和が生成されます。

バイナリー・データ

バイナリー定数は、16 進値のシーケンスで定義し、空白文字で区切ります。バイナリー・データ定数を構成するすべての 16 進値を二重引用符で囲みます。各 16 進値には、偶数の 16 進数字が含まれ、16 進数字の各ペアはバイナリー値内のバイトを表します。例:

```
"0xabcd 0x01020304050607090a0b0c0d0e0f1011121314"
```

文字ストリング

文字のシーケンスで指定するストリングは、単一引用符または二重引用符で囲みます (文字なし、または任意の数の文字を使用できます)。ストリング内では、NULL 「¥0」文字を除き任意の文字を使用できます。前に円記号を付加することで、ストリング内に二重引用符および円記号を含めることもできます。

浮動小数点型

このタイプは、以下の構文により指定できます。

- 先頭にプラス (+) またはマイナス (-) 符号を付ける
- 1 つ以上の 10 進数字
- 現時点で基数文字はピリオド (.) 文字
- オプションの指数は以下のように指定します。
 - プラス (+) またはマイナス (-) 符号
 - 文字 「E」 または 「e」
 - 10 進数字のシーケンス (0 から 9)

整数型

このタイプは、10 進形式、8 進形式、または 16 進形式で指定できます。1 から 9 の数字で始まり、0 個以上の 10 進数字 (0 から 9) が続く値は、10 進数値として解釈されます。前に文字 「-」 を付加することで、10 進数値は否定されます。8 進定数は、数字 0 を置き、0 から 7 の範囲の 1 つ以上の数字を続けることで指定します。16 進定数は、先頭に 0 を置き、その後に文字 x (大文字または小文字)、その後 0 から 9 の範囲の 1 つ以上の一連の数字、または a から f の範囲の文字 (大文字または小文字) を続けて指定します。

リソース・ハンドル

2 つの 16 ビットのワードおよび 4 つの 32 ビットのワードのデータで構成される固定長のエンティティ。リテラル・リソース・ハンドルは、6 個の 16 進整数のグループで指定します。最初の 2 つの値は 16 ビットの整数を表し、残りの 4 つの値はそれぞれ 32 ビットのワードを表します。6 個の整数はそれぞれ空白文字で区切ります。グループは二重引用符で囲みます。以下に、リソース・ハンドルの例を示します。

```
"0x4018 0x0001 0x00000000 0x0069684c 0x00519686 0xaf7060fc"
```

構造化データ

構造化データ値は、変数を介してのみ参照できます。ただし、リソースの定義または変更時に、RMC コマンド行インターフェースに構造化データ (SD) の値を表示し、入力データとして受け入れることができます。リテラル SD は、135 ページの『リテラル値に使用できるデータ・タイプ』で定義しているように、コンマで区切り、大括弧で囲むリテラル値のシーケンスです。例えば、['abc',1,{3,4,5}] は、(a) ストリング 'abc'、(b) 整数値 1、および (c) 3 エレメントの配列 {3,4,5} の 3 つのエレメントで構成される SD を指定しています。

変数名は、式の一部ではなく式の実行中にアクセスする値を参照します。例えば、RMC が式を処理する際に、変数名は対応する各リソースの永続属性または動的属性に置き換えられます。

構造化データ値の要素には、以下の構文を使用してアクセスできます。

```
<variable name>.<element name>
```

例えば、a.b

とします。

変数名は、表の列またはリソース属性の名前で、要素名は、構造化データ値内の要素の名前です。名前が配列の場合は、いずれかまたは両方の名前の後に添え字が付加されます。例えば、a[10].b は、a という構造化データ配列の 11 番目のエントリーの b という名前の要素を指します。同様に、a[10].b[3] は、同じ構造化データ配列のエントリー a[10] 内の b という要素である配列の 4 番目の要素を指します。

変数名の操作方法

変数名は、式の一部ではなく式の実行中にアクセスする値を指します。リソースを選択するために使用する場合、変数名は永続属性です。イベントを生成するために使用する場合、変数名は動的属性です。監査レコードを選択するために使用する場合、変数名は監査レコード内のフィールドの名前です。

変数名に含まれる文字は、英数字 (a から z、A から Z、0 から 9) または下線文字 (_) である 7 ビットの ASCII 文字に制限されます。名前の先頭は英字でなければなりません。RMC サブシステムがイベントまたはリアーム・イベントのために式を使用する場合、名前に「@」文字とその後に続く「P」というサフィックスを付加できます。これは、直前の監視結果を指します。

式で使用できる演算子

定数および変数を演算子で結合して結果を生成し、その結果を別の演算子で使用できます。結果のデータ・タイプまたは式は、スカラー整数または浮動小数点値でなければなりません。式は、結果が 0 の場合は FALSE (偽)、そうでない場合は TRUE (真) であると見なされます。

注：演算子およびオペランドの周囲への空白の挿入は、その省略によりあいまいさが発生しない限りオプションになります。通常、あいまいさはワード形式の演算子についてのみ発生します (つまり、AND、OR、IN、LIKE など)。これらの演算子の使用時は、空白または小括弧や大括弧などの区切り文字を使用して、ワード演算子とオペランドを区別する必要があります。例えば、aANDb はあいまいです。これは変数名 aANDb、または演算子 AND で結合された変数名 a、b のどちらを意図しているのかが不明確です。実際には、これはアプリケーションによって 1 つの変数名 aANDb として解釈されます。非ワード演算子 (例えば、+、-、=、&& など) の場合、このあいまいさは存在しないため空白はオプションになります。

136 ページの表 3 に、ストリング内で使用できる演算子のセットの要約を示します。

| Operator | 説明 | 左辺のデータ・タイプ | 右辺のデータ・タイプ | 例 | 注 |
|----------|----|------------|------------|---------------------|----|
| + | 加算 | 整数、浮動小数点数 | 整数、浮動小数点数 | "1+2" の結果は 3 | なし |
| - | 減算 | 整数、浮動小数点数 | 整数、浮動小数点数 | "1.0-2.0" の結果は -1.0 | なし |

| 表 3. スtring内で使用できる演算子 (続き) | | | | | |
|----------------------------|-----------|------------|------------|-------------------------------------|--------------------------------|
| Operator | 説明 | 左辺のデータ・タイプ | 右辺のデータ・タイプ | 例 | 注 |
| * | 乗算 | 整数、浮動小数点数 | 整数、浮動小数点数 | "2*3"の結果は6 | なし |
| / | 除算 | 整数、浮動小数点数 | 整数、浮動小数点数 | "2/3"の結果は1 | なし |
| - | 単項減算 | なし | 整数、浮動小数点数 | "-abc" | なし |
| + | 単項加算 | なし | 整数、浮動小数点数 | "+abc" | なし |
| .. | 範囲 | 整数 | 整数 | "1..3"の結果は1、2、3 | 2つの値の間の(それら2つの値を含む)すべての整数の省略表現 |
| % | モジュロ | 整数 | 整数 | "10%2"の結果は0 | なし |
| | ビット単位 OR | 整数 | 整数 | "2 4"の結果は6 | なし |
| & | ビット単位 AND | 整数 | 整数 | "3&2"の結果は2 | なし |
| ~ | ビット単位補数 | なし | 整数 | ~0x0000ffffの結果は0xffff0000 | なし |
| ^ | 排他 OR | 整数 | 整数 | 0x0000aaaa^0x0000ffffの結果は0x00005555 | なし |
| >> | 右シフト | 整数 | 整数 | 0x0fff>>4の結果は0x00ff | なし |
| << | 左シフト | 整数 | 整数 | "0x0fff<<4"の結果は0xffff0 | なし |
| == | 等しい | SDを除くすべて | SDを除くすべて | "2==2"の結果は1 "2=2"の結果は1 | 結果は真(1)または偽(0) |
| != | 等しくない | SDを除くすべて | SDを除くすべて | "2!=2"の結果は0 "2<>2"の結果は0 | 結果は真(1)または偽(0) |
| <> | | | | | |
| > | より大きい | 整数、浮動小数点数 | 整数、浮動小数点数 | "2>3"の結果は0 | 結果は真(1)または偽(0) |
| >= | 大きいか等しい | 整数、浮動小数点数 | 整数、浮動小数点数 | "4>=3"の結果は1 | 結果は真(1)または偽(0) |
| < | より小さい | 整数、浮動小数点数 | 整数、浮動小数点数 | "4<3"の結果は0 | 結果は真(1)または偽(0) |
| <= | 小さいか等しい | 整数、浮動小数点数 | 整数、浮動小数点数 | "2<=3"の結果は1 | 結果は真(1)または偽(0) |

| 表 3. スtring内で使用できる演算子 (続き) | | | | | |
|----------------------------|-------------------|------------|------------|-------------------------|--|
| Operator | 説明 | 左辺のデータ・タイプ | 右辺のデータ・タイプ | 例 | 注 |
| =_ | パターン・マッチング | String | String | "abc"=_ "a.*" の結果は 1 | 右辺のオペランドは拡張正規表現として解釈されます。 |
| !_ | 否定パターン・マッチング | String | String | "abc"!_ "a.*" の結果は 0 | 右辺のオペランドは拡張正規表現として解釈されます。 |
| =? LIKE like | SQL パターン・マッチング | String | String | "abc"=? "a%" の結果は 1 | 右辺のオペランドは SQL パターンとして解釈されます。 |
| !? NOT LIKE not like | 否定 SQL パターン・マッチング | String | String | "abc"!? "a%" の結果は 0 | 右辺のオペランドは SQL パターンとして解釈されます。 |
| < IN in | どれかを含む | SD を除くすべて | SD を除くすべて | "{1..5} <{2,10}" の結果は 1 | 左辺のオペランドに右辺のオペランドのいずれかの値が含まれる場合、結果は真 (1) |
| >< NOT IN not in | どれも含まない | SD を除くすべて | SD を除くすべて | "{1..5}><{2,10}" の結果は 1 | 左辺のオペランドに右辺のオペランドの値が含まれない場合、結果は真 (1) |
| &< | すべてを含む | SD を除くすべて | SD を除くすべて | "{1..5}&<{2,10}" の結果は 0 | 左辺のオペランドに右辺のオペランドのすべての値が含まれる場合、結果は真 (1) |
| OR or | 論理 OR | 整数 | 整数 | "(1<2) (2>4)" の結果は 1 | 結果は真 (1) または偽 (0) |

| Operator | 説明 | 左辺のデータ・タイプ | 右辺のデータ・タイプ | 例 | 注 |
|------------------|--------|------------|------------|-----------------------|-------------------|
| && AND および | 論理 AND | 整数 | 整数 | "(1<2)&&(2>4)" の結果は 0 | 結果は真 (1) または偽 (0) |
| ! NOT not | 論理 NOT | なし | 整数 | "!(2==4)" の結果は 1 | 結果は真 (1) または偽 (0) |

デフォルトでの演算子の優先順位

異なる符号またはサイズの整数が演算子のオペランドである場合、標準の C スタイルのキャストが暗黙的に実行されます。複数の演算子を使用した式が評価される場合、演算は演算子の優先順位によって定義された順序で実行されます。最初に評価されるべき式の部分 (1 つ以上) を小括弧 () で囲むことにより、デフォルトの優先順位をオーバーライドできます。

例えば、式 "1+2*3" において、通常は加算の前に乗算が実行されて、結果 7 が生成されます。加算演算子を先に評価するには、次のように小括弧を使用します: "(1+2)*3"。これにより結果 9 が生成されます。デフォルトの優先順位のルールを [139 ページの表 4](#) に示します。同じ表のセルに含まれるすべての演算子が同じ (等しい) 優先順位を持ちます。

| 演算子 | 説明 |
|----------------------|-------------------|
| . | 構造化データ・エレメント分離文字 |
| ~ ! NOT not | ビット単位補数 論理 NOT |
| - + | 単項減算 単項加算 |
| * / % | 乗算 除算 モジュロ |
| + - | 加算 減算 |

表 4. 演算子を使用するときのデフォルトの優先順位のルール (続き)

| 演算子 | 説明 |
|--------|--------------------|
| << | 左シフト |
| >> | 右シフト |
| < | より小さい |
| <= | 小さいか等しい |
| > | より大きい |
| >= | 大きいか等しい |
| == | 等しい |
| != | 等しくない |
| =? | SQL マッチング |
| LIKE | |
| like | |
| !? | SQL 非マッチング |
| =_ | 正規表現マッチング |
| !_ | 正規表現非マッチング |
| ?= | 正規表現マッチング (短縮) |
| | どれかを含む |
| IN | |
| in | |
| NOT IN | どれも含まない |
| not in | |
| | すべてを含む |
| & | ビット単位 AND |
| ^ | ビット単位排他 OR |
| | ビット単位包含 OR (包含論理和) |
| && | 論理 AND |
| | 論理 OR |
| , | リスト区切り文字 |

パターン・マッチング

2つのタイプのパターン・マッチングがサポートされています。拡張正規表現と、標準 SQL LIKE 述部と互換性のある正規表現です。このタイプのパターンには、以下の特殊文字を含めることができます。

- パーセント記号 (%) は 0 個以上の文字にマッチします。
- 下線文字 (_) は 1 文字のみにマッチします。
- その他のすべての文字は直接マッチします。
- パターン内のパーセント記号および下線文字の特殊な意味は、これらの文字の前にエスケープ文字を付加することによりオーバーライドできます。このインプリメンテーションにおけるエスケープ文字はポンド記号 (#) です。

式の例

構成可能な式のタイプの例を以下に示します。

1. 以下の式は、「tr」で始まり「0」で終わる名前を持つすべての行またはリソースにマッチします。ここで、「Name」は、評価に使用される列または属性を意味します。

```
Name =_'tr.*0'  
Name LIKE 'tr%0'
```

2. 以下の式は、配列である IntList という名前の列または属性に 1、3、5、6、または 7 が含まれるすべての行またはリソースについて、真であると評価します。

```
IntList|<{1,3,5..7}  
IntList in (1,3,5..7)
```

3. 以下の式は、上記の 2 つを結合したもので、「tr」で始まり「0」で終わる名前を持ち、IntList 列または属性に 1、3、5、6、または 7 が含まれるすべての行およびリソースがマッチします。

```
(Name LIKE "tr%0")&&(IntList|<(1,3,5..7))  
(Name=_'tr.*0') AND (IntList IN {1,3,5..7})
```

XML ポリシー用のコーディング

XML ファイルで、sampolicy コマンドの入力として使用される式を指定するときは、以下の表に示すいくつかの文字を、XML 制御文字としてではなく演算子として処理されるように指定する必要があります。

| 文字 | XML での指定 |
|----|----------|
| & | & |
| < | < |
| > | > |
| " | " |

ポリシー XML リファレンス

この章では、System Automation for Multiplatforms 自動化ポリシーでサポートされている XML エlement、サブElement、および属性について説明します。

以下の表は、System Automation for Multiplatforms 固有の XML Element で使用可能になったバージョンを示します。

| 表 6. 製品バージョン別 XML エLEMENT の使用可能性 | |
|---|---|
| XML エLEMENT | System Automation for Multiplatforms バージョンで初めてサポートされる |
| <Members> の属性としての <recoveryPolicy> | 3.2.2 |
| <IBM.AgFileSystemAttributes> のサブELEMENT としての <Options> | 3.2.1.3 |
| <ConcurrentGroup> | 3.1.0.5 |
| <IBM.ApplicationAttributes> のサブELEMENT としての <CleanupCommand> | 3.1.0.5 |
| <IBM.ApplicationAttributes> のサブELEMENT としての <CleanupCommandTimeout> | 3.1.0.5 |
| <IBM.ApplicationAttributes> のサブELEMENT としての <CleanupNodeList> | 3.1.0.5 |
| <IBM.ApplicationAttributes> のサブELEMENT としての <CleanupNode> | 3.1.0.5 |
| <IBM.ApplicationAttributes> のサブELEMENT としての <ProcessCommandString> | 3.1.0.5 |
| <IBM.ApplicationAttributes> のサブELEMENT としての <MonitorUserName> | 3.1.0.5 |
| <IBM.ServiceIPAttributes> のサブELEMENT としての <NetPrefix> | 3.1.0.1 |
| <AutomationPolicyTemplate>、<var>、および <include> | 2.3 |
| <IBM.AgFileSystemAttributes> | 2.2.0.1 |
| クラス値としての IBM.AgFileSystem | 2.2.0.1 |
| <ConstituentResource> のサブELEMENT としての <ClassAttributesReference> | 2.2.0.1 |
| その他すべてのタグ | 2.1 |

この章では、現在サポートされている各 XML ELEMENT について、次の情報を提供しています。

名前

ELEMENT の名前および簡略説明。

例

ELEMENT の使用法を示す 1 つ以上の例。

属性

ELEMENT の属性の説明。

コンテキスト

子: そのELEMENT に含めることができるELEMENT のリスト。

指定回数

ELEMENT の指定可能数

XML ファイルを作成する場合は、/usr/sbin/rsct/samples/policy ディレクトリーにある正式な XML ポリシー・ファイルのテンプレート SAMTemplate.xml を使用することをお勧めします。テンプレートを使用するには、ファイルを作業ディレクトリーにコピーし、ご使用のファイル命名規則に従って名前変更してください。

テンプレート処理に使用される XML テンプレート・ファイルを作成する場合は、`/usr/sbin/rsct/samples/policy` ディレクトリーにある正式な XML ポリシー・ファイルのテンプレート `SAMTopLevelTemplate.xml` を使用することをお勧めします。テンプレートを使用するには、ファイルを作業ディレクトリーにコピーし、ご使用のファイル命名規則に従って名前変更してください。

XML ポリシー・ファイルを作成するには、UTF-8 形式でファイルを保管できるようにすることができる、いずれの商用、シェアウェア、またはフリーウェアの XML エディターあるいは ASCII エディターも使用できます。他の形式の XML ファイルは、POLICY CHECKER によってリジェクトされます。

XML エディターを使用して XML ポリシー・ファイルを作成する場合、エディターにより基本的な XML ポリシー・テンプレートが作成されます。また、多くの XML エディターには、XML コードが関連スキーマに準拠するように処理する検証機能があります。これらの機能を使用する場合、関連スキーマがある場所を XML エディターが認識できるようにする必要があります。System Automation for Multiplatforms ポリシーのスキーマは、`SAMPolicy.xsd` ファイルおよび `SAMSimpleTypes.xsd` ファイルに定義されています。これらのファイルは `/usr/sbin/rsct/samples/policy` ディレクトリーにあります。System Automation for Multiplatforms ポリシー・テンプレートのスキーマは、`SAMPolicyTemplate.xsd` ファイルおよび `SAMSimpleTypes.xsd` ファイルに定義されています。これらのファイルは `/usr/sbin/rsct/samples/policy` ディレクトリーにあります。

XML 特殊文字

文字「&」、「<」、「>」、および「"」は、XML プロパティ値に直接使用することができません。これらの文字を使用する場合、[143 ページの表 7](#) で示されている置き換えテキストを使用する必要があります。

| 文字 | 置き換えテキスト |
|----|----------|
| & | & |
| < | < |
| > | > |
| " | " |

AutomationPolicyTemplate

このトピックでは、AutomationPolicyTemplate XML エLEMENT について説明し、使用例を示します。

AutomationPolicyTemplate エLEMENT は、XML ポリシー・テンプレート定義の開始ELEMENT であり、他のすべてのELEMENT を包含します。

例

```
<AutomationPolicyTemplate productID="SAM" version="4.1.0"
  xmlns="http://www.ibm.com/TSA/Policy.xsd"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.ibm.com/TSA/Policy.xsd SAMPolicyTemplate.xsd ">
  <PolicyInformation>
    <PolicyName>template</PolicyName>
    <AutomationDomainName>%%domain_name%%</AutomationDomainName>
    <PolicyToken>1.0</PolicyToken>
    <PolicyDescription>this is a top-level template policy</PolicyDescription>
    <PolicyAuthor>admin</PolicyAuthor>
  </PolicyInformation>

  <var name="domain_name" value="myDomain"/>
  <var name="hostname1" value="node1"/>
  <var name="hostname2" value="node2"/>
  <var name="network_tiebreaker_IP_address" value="1.23.45.100"/>
  <var name="name_prefix" value="tsa"/>
  <var name="ip_address" value="1.23.45.110"/>
  <var name="ip_mask" value="255.255.255.0"/>
  <var name="receive_port" value="199"/>
  <var name="network_interface1" value="eth0"/>
  <var name="network_interface2" value="eth1"/>
```

```

<var name="control_script1" value="/usr/bin/policies/ctrl1"/>
<var name="control_script2" value="/usr/bin/policies/ctrl2"/>

<include>application1-policy.xml</include>
<include>application2-policy.xml</include>
<!--      <include>application3-policy.xml</include>      -->

</AutomationPolicyTemplate>

```

属性

version

必須。このポリシー XML の適用に最小限必要な Tivoli System Automation のバージョンを識別します。サポートされる最大文字数は 32 です。

xmlns

必須、固定値、<http://www.ibm.com/TSA/Policy.xsd>。XML スキーマのデフォルトのネーム・スペースを識別します。

xmlns:xsi

必須、固定値、<http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance>。このポリシー XML の XML スキーマ・フォーマットを識別します。

xsi:schemaLocation

必須、固定値、<http://www.ibm.com/TSA/Policy.xsd> [SAMPolicyTemplate.xsd](http://www.ibm.com/TSA/Policy.xsd)。XML スキーマを識別します。XML スキーマには、有効な XML ポリシー・ファイルの構文ルールが含まれます。

product ID

必須、固定値、「SAM」。AutomationPolicy エlement に含まれるポリシーの種類を識別します。

コンテキスト

子:

PolicyInformation、var、include、ControlInformation

指定回数

var

var エlement によって、変数名と付随する値を定義できるようになります。テンプレート処理が実行される際に、XML ファイルに出現する (%% 文字で囲まれた) 変数の名前属性の値がすべて、変数の値属性の値に置き換えられます。

例

```

<AutomationDomainName>%%domain_name%%</AutomationDomainName>
<var name="domain_name" value="myDomain"/>

```

結果:

```

<AutomationDomainName>myDomain</AutomationDomainName>

```

属性

name

必須。XML ファイル内に出現し、テンプレート処理中に値属性の対応する値に置き換えられる文字列値。

value

必須。名前属性の値に対する置換文字列が含まれている文字列値。

コンテキスト

子:
なし

指定回数

0 から複数回。

include

include エlementによって、1つの AutomationPolicy エlementを含む XML ファイルを含めることができるようになります。

オプション・Element。ファイルは、テンプレート処理中に含まれます。含めるファイルの絶対パスを含めることができます。最大長は 1024 文字です。

含まれている AutomationPolicy エlementには、PolicyInformation サブElementを含めることができないことに注意してください。

例

```
<include>/usr/admin/application1-policy.xml</include>
```

属性

なし

コンテキスト

子:
なし

指定回数

0 から複数回。

AutomationPolicy

このトピックでは、AutomationPolicy XML Elementについて説明し、使用例を示します。このElementはXMLポリシー定義の開始Elementです。

AutomationPolicy Elementは、XMLポリシー定義の他のすべてのElementを包含します。

例

```
<AutomationPolicy productID="SAM" version="4.1.0"  
  xmlns="http://www.ibm.com/TSA/Policy.xsd"  
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"  
  xsi:schemaLocation="http://www.ibm.com/TSA/Policy.xsd SAMPolicy.xsd">  
  <PolicyInformation>  
    <PolicyName>XML-saved policy</PolicyName>  
    <AutomationDomainName>xdr43</AutomationDomainName>  
    <PolicyToken>1.1.1</PolicyToken>  
    <PolicyDescription>this is the description of the policy  
    ----- 2006 02/23 andersen initial version -----  
    </PolicyDescription>  
    <PolicyAuthor>Peter Andersen</PolicyAuthor>  
  </PolicyInformation>  
  ...  
  ...  
</AutomationPolicy>
```

属性

version

必須。このポリシー XML の適用に最小限必要な System Automation for Multiplatforms のバージョンを識別します。サポートされる最大文字数は 32 です。

xmlns

必須、固定値、<http://www.ibm.com/TSA/Policy.xsd>。XML スキーマのデフォルトのネーム・スペースを識別します。

xmlns:xsi

必須、固定値、<http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance>。このポリシー XML の XML スキーマ・フォーマットを識別します。

xsi:schemaLocation

必須、固定値、<http://www.ibm.com/TSA/Policy.xsd> [SAMPolicy.xsd](http://www.ibm.com/TSA/SAMPolicy.xsd)。XML スキーマを識別します。XML スキーマには、有効な XML ポリシー・ファイルの構文ルールが含まれます。

product ID

必須、固定値、「SAM」。AutomationPolicy エlement に含まれるポリシーの種類を識別します。

コンテキスト

子:

PolicyInformation、ControlInformation、Resource、MoveGroup、ConcurrentGroup、ConstituentResource、ResourceGroup、Relationship、Equivalency、ResourceReference、IBM.AgFileSystemAttributes、IBM.ApplicationAttributes、IBM.ServiceIPAttributes、IBM.TestAttributes、IBM.TieBreaker

PolicyInformation

PolicyInformation エlement は、このトピックで示すサブエlement を使用して、ポリシーを識別できるようにします。

必須エlement。

AutomationPolicyTemplate を使用する場合、エlement PolicyInformation が AutomationPolicyTemplate のサブエlement として表示されなければいけないことに注意してください。エlement PolicyInformation は、含まれているどの AutomationPolicy のサブエlement としても表示されません。

例

```
<PolicyInformation>
  <PolicyName> First SAfMP Policy </PolicyName>
  <AutomationDomainName> Friendly </AutomationDomainName>
  <PolicyToken> 1.0.1 </PolicyToken>
  <PolicyAuthor> Michael Atkins </PolicyAuthor>
  <PolicyDescription>
    This document contains the policy for Friendly Domain.

    Change History:
    -----
    Date      Name          Description
    -----
    01/12/05  Michael Atkins  Initial Policy
    -----
  </PolicyDescription>
</PolicyInformation>
```

属性

なし

コンテキスト

子:

PolicyName

必須。ポリシーに名前を割り当てます。

AutomationDomainName

必須。このポリシーを割り当てる System Automation for Multiplatforms クラスター名を指定します。

PolicyToken

必須。ユーザーが定義するバージョン管理タグです。

PolicyAuthor

オプションです。ポリシーの作成者の名前を示します。

PolicyDescription

オプションです。例えば、ポリシー XML の目的などのコメントを含めることができます。

指定回数

1 回。

ControlInformation

ControlInformation XML エLEMENTは、『子』セクションに示す制御パラメーターを設定します。

オプション・ELEMENT。System Automation for Multiplatforms の場合、[111 ページ](#)の『samctrl』コマンドと同じパラメーターを設定します。

例

```
<ControlInformation>
  <Timeout>20</Timeout>
  <RetryCount>5</RetryCount>
  <ResourceRestartTimeout>30</ResourceRestartTimeout>
</ControlInformation>
```

属性

なし

コンテキスト

子:

Timeout

オプションです。System Automation for Multiplatforms 制御操作のデフォルトのタイムアウト・インターバルを秒単位で指定します。有効値は 1 から 360 までの数です。このELEMENTのデフォルト値は 60 です。

RetryCount

オプションです。操作が失敗として処理されるまでに実行可能な、System Automation for Multiplatforms 制御操作のデフォルトの再試行回数を指定します。有効な値は 1 から 10 です。デフォルトは 3 です。

ExcludedNode

非推奨。互換性の理由から許容されていますが、リリース 3.1.0.3 以降無視されています。

ResourceRestartTimeout

オプションです。障害を起こしたリソースが再始動されるまでのタイムアウト値(秒単位)を指定します。デフォルトは 5 で、許可される値は 2 から 360 です。

EnablePublisher

非推奨。互換性の理由から許容されていますが、リリース 3.1 以降無視されています。

指定回数

0 から 1 回。

リソース

Resource XML エLEMENT は固定リソースを記述します。

オプション・ELEMENT。ELEMENT ResourceGroup、Equivalency、または Relationship から参照されます。

例

```
<Resource name="xdrerpdlnxdr31" class="IBM.Application" node="lnxxdr31">
  <ClassAttributesReference>
    <IBM.ApplicationAttributes name="Application1"/>
  </ClassAttributesReference>
</Resource>
```

属性

name

必須、ユーザー定義。最大文字数は 64 文字です。

node

必須。リソースが実行されるノードの名前。最大文字数は 256 文字です。

class

必須。値は IBM.AgFileSystem、IBM.Application、IBM.ServiceIP、または IBM.Test のいずれかです。

これらの属性により、固有キーが形成されます。ResourceGroup ELEMENT は、このキーを使用してリソースを参照する必要があります。

コンテキスト

子:

ClassAttributesReference

必須。これには、属性値がリソースに使用されている IBM.AgFileSystemAttributes、IBM.ApplicationAttributes、IBM.ServiceIPAttributes、または IBM.TestAttributes ELEMENT の名前が含まれています。

指定回数

0 から複数回。

グループの移動

このトピックでは、MoveGroup XML ELEMENT について説明し、使用例を示します。

オプション・ELEMENT。System Automation for Multiplatforms 環境内の浮動リソースを記述します。

例

```
<MoveGroup name="DB2" class="IBM.Application">
  <ClassAttributesReference>
    <IBM.ApplicationAttributes name="Application2"/>
  </ClassAttributesReference>
  <Members>
    <ConstituentResource name="DB2" class="IBM.Application" node="lnxxdr10" />
    <ConstituentResource name="DB2" class="IBM.Application" node="lnxxdr11" />
  </Members>
</MoveGroup>
```

属性

name

必須、ユーザー定義。浮動リソースを示し、最大文字数は 64 文字です。ConstituentResource エレメントの名前と同じである必要があります。

class

必須。値は IBM.AgFileSystem、IBM.Application、IBM.Test、または IBM.ServiceIP のいずれかです。これらの属性は、移動グループの固有キーを形成します。Relationship エレメントは、このキーを使用して、この移動グループを参照する必要があります。

コンテキスト

子:

ClassAttributesReference

オプションです。これには、その属性値が、独自の ClassAttributesReference を持たない移動グループの構成要素に使用されている IBM.AgFileSystemAttributes、IBM.ApplicationAttributes、IBM.ServiceIPAttributes、または IBM.TestAttribute エレメントの名前が含まれています。

Members

オプションです。Members エレメントは、構成要素リソースにのみ指定できます。詳しくは、[150 ページ](#)の『ConstituentResource』を参照してください。

ConstituentResource

浮動リソースまたは並行リソースのメンバーを参照します。クラス IBM.Application、IBM.ServiceIP、IBM.AgFileSystem、および IBM.Test が許可されます。

指定回数

0 から複数回。

ConcurrentGroup

このトピックでは、ConcurrentGroup XML エレメントについて説明し、使用例を示します。

オプション・エレメント。System Automation for Multiplatforms 環境内の並行リソースを記述します。

例

```
<ConcurrentGroup name="apache" class="IBM.Application">
  <ClassAttributesReference>
    <IBM.ApplicationAttributes name="apache-attributes"/>
  </ClassAttributesReference>
  <Members>
    <ConstituentResource name="apache" class="IBM.Application" node="server1"/>
    <ConstituentResource name="apache" class="IBM.Application" node="server2"/>
  </Members>
</ConcurrentGroup>
```

属性

name

必須、ユーザー定義。この属性は、並行リソースを示します。最大長は 148 文字です。ConstituentResource メンバー・エレメントの名前は、ConcurrentGroup の名前と同じである必要があります。

class

必須。可能な値は、IBM.Application または IBM.Test です。これらの属性は、ConcurrentGroup の固有キーです。relationship エレメントは、このキーを使用して、この ConcurrentGroup エレメントを参照します。

コンテキスト

子:

ClassAttributesReference

オプションです。これには、その属性値が、独自の ClassAttributesReference を持たない ConcurrentGroup の構成要素に使用されている IBM.ApplicationAttributes または IBM.TestAttributes エレメントの名前が含まれています。エレメントの最大文字数は 64 文字です。

Members

オプションです。Members エレメントは、構成要素リソースにのみ指定できます。

ConstituentResource

浮動リソースまたは並行リソースのメンバーを参照します。クラス IBM.Application および IBM.Test が許可されます。150 ページの『[ConstituentResource](#)』を参照してください。

指定回数

0 から複数回。

ConstituentResource

このトピックでは、ConstituentResource XML エレメントについて説明し、使用例を示します。

オプション・エレメント。MoveGroup (浮動リソース) または ConcurrentGroup (並行リソース) のメンバーの記述に使用する必要があります。

例

例 1:

```
<ConstituentResource name="DB2" class="IBM.Application" node="lnxxdr10"/>
```

例 2:

```
<ConstituentResource name="xdrerpdlnxxdr31" class="IBM.Application" node="lnxxdr31">  
  <ClassAttributesReference>  
    <IBM.ApplicationAttributes name="Application1"/>  
  </ClassAttributesReference>  
</ConstituentResource>
```

属性

name

必須、ユーザー定義。MoveGroup または ConcurrentGroup エレメントの説明の例示セクションに示されている MoveGroup または ConcurrentGroup エレメントの名前と同じにする必要があります。最大文字数は 64 文字です。

node

必須。リソースが実行されるノードの名前。最大文字数は 256 文字です。

class

必須。値は IBM.AgFileSystem、IBM.Application、IBM.Test、または IBM.ServiceIP のいずれかです。ConcurrentGroup の場合、IBM.Application または IBM.Test のいずれかの値です。

これらの属性は、構成要素リソースの固有キーを形成します。MoveGroup または ConcurrentGroup エレメントは、このキーを使用してリソースを参照する必要があります。

コンテキスト

子:

ClassAttributesReference

オプションです。MoveGroup の場合、これには、属性値が構成要素リソースに使用される IBM.AgFileSystemAttributes、IBM.ApplicationAttributes、IBM.ServiceIPAttributes、または IBM.TestAttributes エレメントの名前が含まれています。ConcurrentGroup の場合、これには、属性値が構成要素リソースに使用される IBM.ApplicationAttributes または IBM.TestAttributes エレメントの名前が含まれています。

ClassAttributesReference エレメントが、構成要素の MoveGroup または ConcurrentGroup で参照されていない場合、このエレメントを指定する必要があります。構成要素リソースに対する移動グループまたは並行グループの ClassAttributesReference エレメント内にある属性設定をオーバーライドする場合にも、このエレメントを指定する必要があります。

指定回数

0 から複数回。

リソース・グループ

このトピックでは、ResourceGroup XML エレメントについて説明し、使用例を示します。

オプション・エレメント。System Automation for Multiplatforms 環境内のリソース・グループを記述します。

例

```
<ResourceGroup class="IBM.ResourceGroup" name="erpdgroup">
  <DesiredState>Online</DesiredState>
  <InfoLink>www.ibm.com/TSA/xDR</InfoLink>
  <Priority>100</Priority>
  <Members>
    <Resource name="xdreipd" class="IBM.Application"
      node="lnxxdr31" mandatory="true"/>
  </Members>
</ResourceGroup>
```

属性

name

必須、ユーザー定義。リソース・グループを示し、最大文字数は 64 文字です。

class

必須。固定値は IBM.ResourceGroup です。

これらの属性は、リソース・グループの固有キーを形成します。Relationship エレメントは、このキーを使用して、このリソース・グループを参照する必要があります。

コンテキスト

子:

DesiredState

オプションです。リソースが最終的に取得する動作状態を定義します。System Automation for Multiplatforms は、リソース・グループ内のすべてのリソースを開始してこの状態に維持しようとします。有効な状態は以下のとおりです。

- Offline: リソースを停止する (これはデフォルト値です)。
- Online: リソースを開始する。

説明

オプションです。リソースについての詳細を提供します。Description エlement についての詳細は、[163 ページの『説明』](#)を参照してください。

Owner

オプションです。リソース所有者の名前を提供します。Owner Element についての詳細は、[163 ページの『Owner』](#)を参照してください。

InfoLink

オプションです。詳細が記載されているリンクを指定します。InfoLink Element についての詳細は、[163 ページの『InfoLink』](#)を参照してください。

Members

オプションです。Member Element についての詳細は、[162 ページの『Members』](#)を参照してください。サブElement *Members* には、次のサブElement があります。

リソース

クラス IBM.Application、IBM.ServiceIP、および IBM.Test の固定リソースを示します。

ResourceReference

RSCT IBM.AgFileSystem リソースを示します。

グループの移動

浮動リソースを示します。

ConcurrentGroup

並行リソースを示します。

リソース・グループ

内部リソース・グループを示します。

MemberLocation

オプションです。リソース・グループ内のリソースのデフォルトのロケーションを指定します。許可される値は、「None」および「Collocated」です。「Collocated」がデフォルトです。

Priority

オプションです。他のリソース・グループに対するこのリソース・グループの優先順位を指定します。このサブElement は、競合の解決に使用します。デフォルトは 0 で、許可される値は 0 から 200 です。

AllowedNode

オプションです。リソース・グループのリソースを実行できる一連のノードを指定します。許可される値は、「All」、1つのノードの名前、またはノードの同値の名前です。「All」がデフォルトです。

ExcludedNode

オプションです。除外ノードのリストのうち 1つのエントリーを指定します。このElement は、最大 n 回発生させることができます。最大文字数は 256 です。

指定回数

0 から複数回。

関係

このトピックでは、Relationship XML Element について説明し、使用例を示します。オプション・Element。クラスター内のリソース間の関係を記述します。

例

```
<Relationship name="MoveGroupStartAfterResource1">
  <Source>
    <MoveGroup name="movegroupname" class="IBM.Application"/>
  </Source>
  <Target>
    <Resource name="resource1" class="IBM.Application" node="node1"/>
  </Target>
  <Type>StartAfter</Type>
```

```
</Relationship>

<Relationship name="Resource2CollocatedResource1">
  <Source>
    <ResourceGroup name="resourcegroup2" class="IBM.ResourceGroup"/>
  </Source>
  <TargetClass>IBM.Application</TargetClass>
  <TargetSelectString>ResourceType==1</TargetSelectString>
  <Type>Collocated</Type>
</Relationship>
```

属性

name

オプション (ただし、推奨)。Relationship エlement が他の XML Element から参照されない場合は必要ありません。ただし、同じソース・リソースが指定された管理対象関係が複数ある場合、管理対象関係の名前を指定することをお勧めします。そうでないと、ポリシーの保管および復元のアクションが実行された後に、それらの関係は単一の管理対象関係に統合されます。

最大文字数は 64 文字です。

コンテキスト

子:

Type

必須。開始/停止動作および位置関係の定義に使用する関係を記述します。詳細については、[80 ページの『mkrel』コマンド](#)を参照してください。

Condition

オプションです。IsStartable を除くすべての位置関係について指定できます。IfPossible 条件は、タイプ StartAfter の関係に対してのみ有効です。詳細については、[80 ページの『mkrel』コマンド](#)を参照してください。

Source

オプションです。Relationship Element には、特定のソース・リソースに命名するか選択を指定するかによって指定できるソースを含める必要があります。ソース・リソースは、この Source Element によって指定できます。

関係のソースは、固定リソース、リソース・グループ、並行グループ、リソース参照、または移動グループのいずれかです。ソース・リソースは、リソース・グループのメンバーでなければなりません。

選択は、このリストで後述するサブElement SourceClass および SourceSelectString を使用して指定できます。

SourceClass

オプションです。Source と同時には指定できず、SourceSelectString を指定する場合には必須です。最大文字数は 64 文字です。

SourceSelectString

オプションです。Source と同時には指定できず、SourceClass を指定する場合には必須です。最大文字数は 1024 文字です。

Target

オプションです。Relationship Element には、1つのターゲット・リソースに命名するか選択を指定するかによって指定できる Target を含める必要があります。ターゲット・リソースは、この Target サブElement によって指定できます。Target は、固定リソース、リソース・グループ、リソース参照、移動グループ、並行グループ、または同値のいずれかです。

選択は、このリストで後述するサブElement TargetClass および TargetSelectString を使用して指定できます。

TargetClass

オプションです。Target と同時には指定できず、TargetSelectString を指定する場合には必須です。最大文字数は 64 文字です。

TargetSelectString

オプションです。Target と同時には指定できず、TargetClass を指定する場合には必須です。最大文字数は 1024 文字です。

指定回数

0 から複数回。

同値

同値エレメントは、同じ機能を提供するリソースの集合を記述します。

オプション・エレメント。同値は、同じリソース・クラスの固定リソースのセットで構成されます。

例

```
<Equivalency name="NetworkInterfaces" class="IBM.Equivalency">
  <Members>
    <ResourceReference name="Ref-eth0-lnxxdr01" />
    <ResourceReference name="Ref-eth0-lnxxdr02" />
    <ResourceReference name="Ref-eth0-lnxxdr03" />
  </Members>
  <MinimumNecessary>2</MinimumNecessary>
</Equivalency>

<Equivalency name="DynamicNI" class="IBM.Equivalency">
  <DynamicSelectString>Name like "eth%"</DynamicSelectString>
  <MemberClass>IBM.NetworkInterface</MemberClass>
  <MinimumNecessary>3</MinimumNecessary>
</Equivalency>
```

属性

name

必須、ユーザー定義。この属性のストリングは、Equivalency エレメントを識別します。最大文字数は 64 文字です。

class

必須。固定値は IBM.Equivalency です。

これらの属性は、同値の固有キーを形成します。Relationship エレメントは、このキーを使用して、この同値を参照する必要があります。

コンテキスト

子:

MemberClass

オプションです。MemberClass エレメントは、同値のすべてのメンバーのクラスを決定します。Members エレメントと同時に指定できません。エレメント DynamicSelectString および StaticSelectString を指定する場合には必須です。MemberClass の最大文字数は 64 文字です。

DynamicSelectString

オプションです。エレメント Members および StaticSelectString と同時には指定できず、StaticSelectString を指定しない場合には、エレメント MemberClass とともに指定する必要があります。このエレメントは、同値に含めるリソースを動的に決定します。同値の作成後に一致するリソースが作成されると、それらのリソースは同値に動的に追加されます。サポートされる最大文字数は 1024 です。

StaticSelectString

オプションです。エレメント Members および DynamicSelectString と同時には指定できず、DynamicSelectString を指定しない場合には、エレメント MemberClass とともに指定する必要があります。このエレメントは、同値に含めるリソースを決定します。サポートされる最大文字数は 1024 です。選択文字列の指定方法については、「*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイド」を参照してください。

Members

オプションです。固定リソースまたはリソース参照を複数回指定します。エレメント MemberClass、StaticSelectString、および DynamicSelectString と同時には指定できません。162 ページの『Members』を参照してください。サブエレメント Members には、次のサブエレメントがあります。

リソース

クラス IBM.Application、IBM.ServiceIP、および IBM.Test の固定リソースを示します。

ResourceReference

クラス IBM.NetworkInterface、IBMAgFileSystem、または IBM.PeerNode の RSCT リソースを示します。

MinimumNecessary

オプションです。同値を有効にするための必要最小数のメンバー数を指定します。デフォルトは 1 です。有効な数値は 0 から 100 です。

SelectFromPolicy

オプションです。Equivalency エレメントからの選択を実行する際に使用するポリシーを指定します。許可される値は、「Ordered」および「Any」です。

- デフォルト値は「Any」です。「Any」は特定のオーダーを意味しません。
- 「Ordered」は開始時に選択が開始することを意味します。「Ordered」を DynamicSelectString とともに使用することはできません。

追加のオプション値は「Failback」、「NoFailure」、および「NoControl」です。

- これらは、値「Any」または「Ordered」との組み合わせでのみ使用できます。
- 「Failback」は、リソースが必ず最初のメンバー (使用可能である場合) で開始することを意味します。値「Failback」は、値「Ordered」との組み合わせでのみ使用できます。
- 値「NoFailure」が指定される場合、同値に対する依存関係があるリソースの OpState は、指定されたタイムアウト・インターバル内で開始できなかった場合に、強制的に「Failed Offline」にはなりません。
- 「NoControl」は、System Automation が同値のメンバーの開始も停止も行わず、単に、これらのリソースの OpState の変更に対して反応するだけであることを意味します。

追加のオプション値は、次の例に示すように指定します。

```
<SelectFromPolicy>Any,NoControl</SelectFromPolicy>  
<SelectFromPolicy>Ordered,Failback,NoControl</SelectFromPolicy>
```

指定回数

0 から複数回。

ResourceReference

このトピックでは、ResourceReference XML エレメントについて説明し、使用例を示します。

オプション・エレメント。System Automation for Multiplatforms の管理有効範囲外にあるリソース (例えば、IBM.NetworkInterface などの RSCT リソースや、自動的に取得されるクラス IBM.AgFileSystem のリソース) に使用されます。

例

```
<ResourceReference name="eth0">  
  <ReferencedResource>  
    <Name>eth0</Name>  
    <Class>IBM.NetworkInterface</Class>  
    <Node>lnxxdr01</Node>  
  </ReferencedResource>  
</ResourceReference>
```

属性

name

必須。この属性のストリングは、ResourceReference エlementを識別します。固有でなければならず、最大文字数は 64 文字です。Relationship または Equivalency Elementは、この名前を使用してリソースを参照する必要があります。

コンテキスト

子:

ReferencedResource

必須。この XML の外部のリソースを記述します。これは、以下の Elementで構成されます。

名前

必須。リソースの実際の名前を指定します。最大文字数は 64 文字です。

ノード

必須。リソースのロケーションを指定します。最大文字数は 256 文字です。

浮動リソースの場合、Node Elementは空です。

Class

必須。リソースのタイプを記述します。最大文字数は 64 文字です。

指定回数

0 から複数回。

IBM.AgFileSystem

IBM.AgFileSystem Elementは、クラス IBM.AgFileSystem のユーザー定義ストレージ・リソースの属性値を指定するのに使用されます。

オプション・Element。IBM.AgFileSystem Elementは、複数の Resource、ConstituentResource、または MoveGroup Element内で、これらのリソースに属性値を割り当てるために参照することができます。

自動的に取得されたファイル・システム・リソースは、ResourceReference Element内の参照リソースとしてのみ指定することができ、その属性はポリシーに設定できないことに注意してください。

例

```
<IBM.AgFileSystem name="FileSystem1">
  <DeviceName>/dev/sda3</DeviceName>
  <Vfs>ext2</Vfs>
  <MountPoint>/nfs-mount</MountPoint>
  <PreOnlineMethod>0</PreOnlineMethod>
</IBM.AgFileSystem>
```

属性

name

必須。固有でなければならず、最大文字数は 64 文字です。

この名前は、1 つ以上の Resource、ConstituentResource、または MoveGroup Element内で、特定の IBM.AgFileSystem Element内に定義されている値を、これらの複数リソースに割り当てるために使用することができます。名前は XML policy 処理にのみ使用され、クラスター内の実際の名前ではありません。

コンテキスト

以下にリストされているサブエレメントは、ユーザー定義 IBM.AgFileSystem リソースの属性値を設定するのに使用できます。以下の属性についての詳細は、「RSC/T 管理ガイド、SA88-8723」を参照してください。

子:

DeviceName

必須。string 値。最大長は 1024 文字です。

Vfs

必須。string 値。最大長は 1024 文字です。

MountPoint

オプションです。string 値。最大長は 1024 文字です。

PreOnlineMethod

オプションです。0 から 3 までの整数値。デフォルトは 0 です。

ProtectionMode

オプションです。許可される値は 0 および 1 です。デフォルトは 1 です。

- 0: リソースは非クリティカルです。
- 1: リソースはクリティカルです。リソースがクリティカルである場合は、IBM.ConfigRM によって、要求に応じてこのリソースを開始できるかどうかが決まります。クリティカル・リソースは、一度に複数のノードでオンラインにできません。

オプション

オプションです。string 値。最大長は 1024 文字です。

指定回数

0 から複数回。

IBM.Application

このトピックでは、IBM.Application XML エレメントについて説明し、使用例を示します。

オプション・エレメント。クラス IBM.Application のリソースの属性を指定するために使用します。

例

```
<IBM.Application name="Application1">
  <StartCommand>/usr/sbin/rsct/bin/xdrstarterpd</StartCommand>
  <StopCommand>/usr/sbin/rsct/bin/xdrstoperpd</StopCommand>
  <MonitorCommand>/usr/sbin/rsct/bin/xdrmonitorerpd</MonitorCommand>
  <StartCommandTimeout>10</StartCommandTimeout>
  <StopCommandTimeout>10</StopCommandTimeout>
  <RunCommandsSync>0</RunCommandsSync>
  <UserName>root</UserName>
</IBM.Application>
```

属性

name

必須。固有でなければならず、最大文字数は 64 文字です。Resource、ConstituentResource、ConcurrentGroup、または MoveGroup エレメントは、この名前を参照できます。

コンテキスト

以下のエレメントの詳細な説明については、「System Automation for Multiplatforms 管理者とユーザーのガイド」を参照してください。

子:

StartCommand

必須。string 値。最大長は 1024 文字です。

StopCommand

必須。string 値。最大長は 1024 文字です。

MonitorCommand

必須。string 値。最大長は 1024 文字です。

UserName

必須。string 値。最大長は 1024 文字です。

StartCommandTimeout

StartCommand を、killpg() で停止されるまでに実行できる秒数。また、その後リソースをオンラインにするまでの時間も指定します。デフォルト値は 5 秒です。

StopCommandTimeout

StopCommand を、killpg() で停止されるまでに実行できる秒数。また、その後リソースをオンラインにするまでの時間も指定します。デフォルト値は 5 秒です。

MonitorCommandTimeout

MonitorCommand を、killpg() で停止されるまでに実行できる秒数。デフォルト値は 5 秒です。

MonitorCommandPeriod

この値は、次に MonitorCommand を呼び出すまでの時間 (秒数) を指定します。この期間は、前の呼び出しが完了した後から始まります。デフォルト値は 10 秒です。

RunCommandsSync

オプションです。RunCommandsSync は 0 から 255 の整数。デフォルトは 1 です。

ProtectionMode

オプションです。許可される値は 0 および 1。デフォルトは 0 です。

- 0: リソースは非クリティカルです。
- 1: リソースはクリティカルです。リソースがクリティカルである場合は、IBM.ConfigRM によって、要求に応じてこのリソースを開始できるかどうかが決まります。クリティカル・リソースは、一度に複数のノードでオンラインにできません。

CleanupCommand

オプションです。string 値。最大長は 1024 文字です。将来の利用のために予約されています。

CleanupCommandTimeout

オプションです。デフォルトが 10 である正整数の値 (クリーンアップ・コマンドが設定されている場合)。将来の利用のために予約されています。

CleanupNodeList

オプションです。複数のオプション CleanupNode エレメントの親エレメントです。少なくとも 1 つの CleanupNode エレメントを指定する必要があります。将来の利用のために予約されています。

CleanupNode

CleanupNodeList のオプションのサブエレメント。このリソースのクリーンアップ・コマンドの実行が許可されているノード名のリストについて、1 つのエントリを指定します。このエレメントは、最大 n 回発生させることができます。最大文字数は 256 です。将来の利用のために予約されています。

ProcessCommandString

オプションです。プロセス・テーブルにあるプロセスのコマンド・string が空でない場合、ProcessCommandString に指定した string とそれらが比較されます。コマンド・string が一致すれば、リソース状態はオンラインです。string 値。最大長は 1024 文字です。

MonitorUserName

オプションです。モニター・コマンドは、MonitorUserName で指定されたユーザー ID のセキュリティ・コンテキストで実行されます。この属性が空の場合、UserName で指定されているユーザー ID が代わりに使用されます。string 値。最大長は 1024 文字です。

指定回数

0 から複数回。

IBM.ServiceIP

このトピックでは、IBM.ServiceIP XML エlement について説明し、使用例を示します。

オプションです。この Element は、クラス IBM.ServiceIP のリソースの属性を指定するために使用します。

例

例 1: IPv4 IP アドレス

```
<IBM.ServiceIP name="ServiceIPOne">
  <IPAddress>9.164.178.1</IPAddress>
  <NetMask>255.255.255.0</NetMask>
  <ProtectionMode>0</ProtectionMode>
</IBM.ServiceIP>
```

例 2: IPv6 IP アドレス

```
<IBM.ServiceIP name="IBM.ServiceIP.S2" >
  <IPAddress>fd00:9:152:48:4020:ffff:21:218</IPAddress>
  <NetPrefix>70</NetPrefix>
  <ProtectionMode>1</ProtectionMode>
</IBM.ServiceIP>
```

属性

name

必須。固有でなければならず、最大文字数は 64 文字です。Resource、ConstituentResource、または MoveGroup Element は、この名前を参照できます。

コンテキスト

以下の Element の詳細な説明については、「*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイド」を参照してください。

子:

IPAddress

必須。ストリング値。IPv4 の場合、IP アドレスは、ドット 10 進表記で指定する必要があります (9.152.80.251 など)。IPv6 の場合、IPv6 アドレスの標準形式を使用できます (2001:db8::1428:57ab など)。IPv6 では、リンク・ローカル・アドレスはこの属性に使用できないことに注意してください。

NetMask

オプションです。ストリング値。小数点付き 10 進表記で指定された NetMask にする必要があります。NetMask は、IPv4 アドレスにのみ有効です。IPv6 アドレスの場合、NetPrefix 属性を使用します。

ネット・プレフィックス

オプションです。0 から 128 までの整数値。この属性は、IPAddress 属性で指定された IPv6 アドレスの netprefix 値を指定するため、IPv6 アドレスにのみ有効です。IPv6 の NetMask 属性を置き換えます。この属性には、整数値のみを使用します (80 など)。数値の前に、スラッシュまたはその他の文字を指定しないでください。

ProtectionMode

オプションです。許可される値は 0 および 1 です。デフォルトは 1 です。

- 0: リソースは非クリティカルです。

- 1: リソースはクリティカルです。リソースがクリティカルである場合は、IBM.ConfigRMによって、要求に応じてこのリソースを開始できるかどうかが決まります。クリティカル・リソースは、一度に複数のノードでオンラインにできません。

指定回数

0 から複数回。

IBM.Test

このトピックでは、IBM.Test XML エlement について説明し、使用例を示します。

オプションです。クラス IBM.Test のリソースの属性を指定するために使用します。

例

```
<IBM.TestAttributes name="TestOne">
  <TimeToStart>15</TimeToStart>
  <WriteToSyslog>0</WriteToSyslog>
</IBM.TestAttributes>
```

属性

name

必須。固有でなければならず、最大文字数は 64 文字です。Resource、ConstituentResource、または MoveGroup Element は、この名前を参照できます。

コンテキスト

以下の Element の詳細な説明については、「*System Automation for Multiplatforms* 管理者とユーザーのガイド」を参照してください。

子:

ForceOpState

非推奨。互換性の理由から許容されていますが、リリース 3.1 以降無視されています。

TimeToStart

オプションです。正の整数値。テスト・リソースが、開始コマンドを受け取ってからその動作状態をオンライン保留中からオンラインに変更するまでの時間 (秒)。デフォルト値は 0 で、リソースは即時にオンラインになります。

TimeToStop

オプションです。正の整数値。テスト・リソースが、停止コマンドを受け取ってからその動作状態をオフライン保留中からオフラインに変更するまでの時間 (秒)。デフォルト値は 0 で、リソースは即時にオフラインになります。

WriteToSyslog

オプションです。デフォルトは 0 です。許可される値は 0 または 1 です。

- 0: イベントは syslog に書き込まれません。
- 1: イベントは syslog に書き込まれます。

指定回数

0 から複数回。

IBM.TieBreaker

このトピックでは、IBM.TieBreaker XML Element について説明し、使用例を示します。

オプションです。クラス IBM.TieBreaker のリソースの属性を指定するために使用します。

例

```
<IBM.TieBreaker name="BreakIt" class="IBM.TieBreaker">
  <Type>SCSI</Type>
  <DeviceInfo>ID=4 LUN=0</DeviceInfo>
  <HeartbeatPeriod>7</HeartbeatPeriod>
  <NodeInfoList>
    <NodeInfo node="lnxxdr10" info="HOST=0 CHAN=0"/>
    <NodeInfo node="lnxxdr10" info="HOST=2 CHAN=2"/>
  </NodeInfoList>
</IBM.TieBreaker>
```

属性

name

必須。この属性のストリングは、IBM.TieBreaker エlementを識別します。最大文字数は 64 文字です。

class

必須。固定値は IBM.TieBreaker です。

これらの属性は、IBM.TieBreaker の固有キーを形成します。このElementを参照することはできません。

コンテキスト

子:

Type

必須。許可される値は、Operator、Fail、SCSI、ECKD、EXEC、および DISK です。

PreReserveWaitTime

オプションです。負でない整数値。デフォルトは 0 です。

PostReserveWaitTime

オプションです。負でない整数値。デフォルトは 0 です。

ReleaseRetryPeriod

オプションです。負でない整数値。デフォルトは 0 です。

HeartbeatPeriod

オプションです。負でない整数値。デフォルトは 0 です。

DeviceInfo

オプションです。ストリング値。最大長は 1024 文字です。

ReprobeData

オプションです。ストリング値。最大長は 1024 文字です。

NodeInfoList

オプションです。0 または 1 回発生し、0 から n 個の NodeInfo Elementで構成されます。

NodeInfo

node 属性および info 属性を含みます。どちらの属性も、サポートされる最大文字数は 1024 です。

Active

オプション。ブール型。有効な値は true および false であり、デフォルトは false です。このElementでは、IBM.TieBreaker Elementの 1 つのインスタンスのみに値 True を指定できます。これは、以下のコマンドによってクラスター内でアクティブにされる IBM.TieBreaker です。

```
chrsrc -c IBM.PeerNode OpQuorumTieBreaker="name"
```

指定回数

0 から複数回。

Members

このトピックでは、Members XML エlement について説明し、使用例を示します。

Members Element は、リソース・グループ、並行グループ、および移動グループ内で使用する必要があります。また、同値内でも使用できます。

リソース・グループ内で使用する場合、この Element には、『属性』に示す属性を指定できます。

例

```
<ResourceGroup class="IBM.ResourceGroup" name="db2-group">
  <DesiredState>Online</DesiredState>
  <InfoLink>www.ibm.com/TSA/xDR</InfoLink>
  <Members>
    <MoveGroup name="db2floating" class="IBM.Application" selectFromPolicy="Any">
  </Members>
  <AllowedNode>ALL</AllowedNode>
</ResourceGroup>
```

属性

mandatory

オプションです。この属性に許可される値は true および false であり、true がデフォルトです。すべてのグループをオンラインにするために、必須である各リソースはオンラインでなければなりません。

selectFromPolicy

オプションです。selectFromPolicy 属性は、移動グループまたは並行グループのメンバーに対してのみ設定可能です。これは、移動グループまたは並行グループのメンバー・リストからメンバーを選択するために使用するポリシーを指定します。

注：グループ・メンバーが、取得済みの IBM.AgFileSystem リソースであれば、selectFromPolicy 属性は無視されます。

可能な値:

Any

監視すべき特定のオーダーがないことを意味します。

Ordered

デフォルト値。開始時に、選択した対象が始動することを意味します。

Ordered には、移動グループの場合にのみ、追加の値 Failback があります。

Failback

オプションです。リソースは常に最初のメンバーから始動します (そのメンバーが有効な場合)。Failback Element は、Ordered Element と組み合わせた場合のみ使用できます。以下に例を示します。

```
<SelectFromPolicy>Ordered,Failback
</SelectFromPolicy>
```

recoveryPolicy

オプションです。メンバー障害を回復する方法を定義する RecoveryPolicy 属性を指定するために使用できます。可能な値:

AutomaticRecovery

障害から自動的に回復します。これはデフォルトです。

LockOnResFailure

グループのメンバーに障害が発生した場合に、そのリソース・グループに対するロック要求を実行依頼します。メンバーをホスティングするノードに障害が発生した場合は、そのメンバーを自動的に回復します。

LockOnAnyFailure

メンバーまたはホスト・ノードで障害が起きた場合に、リソース・グループに対するロック要求を実行依頼します。

コンテキスト

なし。

説明

このトピックでは、Description XML エlement について説明し、使用例を示します。

オプション・Element。このElement が組み込まれているElement の目的を記述する、ASCII テキストなどのコメントを含めることができます。最大文字数は 1024 文字です。

このElement は、ResourceGroup Element 内のサブElement としてのみ使用できます。1 つの親Element に 0 または 1 回発生させることができます。

例

```
<Description>  
    FixedResource - This is the error reporting daemon of xDR  
</Description>
```

属性

なし。

コンテキスト

なし。

Owner

このトピックでは、Owner XML Element について説明し、使用例を示します。

オプション・Element。このElement が組み込まれているElement の所有者についての連絡先情報を含めることができます。このElement は、ResourceGroup Element 内のサブElement としてのみ使用できます。このElement は、1 つの親Element に 0 または 1 回発生させることができます。最大文字数は 1024 文字です。

例

```
<Owner>Paul Meyer</Owner>
```

属性

なし。

コンテキスト

なし。

InfoLink

このトピックでは、InfoLink XML Element について説明し、使用例を示します。

オプション・Element。このElement が組み込まれているElement についての追加情報を示す、HTML ページの URL を指定します。このElement は、ResourceGroup Element 内のサブElement

としてのみ使用できます。このエレメントは、1つの親エレメントに0または1回発生させることができます。最大文字数は1024文字です。

例

```
<ResourceGroup class="IBM.ResourceGroup" name="db2-group">
  <DesiredState>Online</DesiredState>
  <InfoLink>www.ibm.com/TSA/xDR</InfoLink>
  <AllowedNode>ALL</AllowedNode>
</ResourceGroup>
```

属性

なし。

コンテキスト

なし。

XML ポリシーの例

このセクションは、164 ページの図 2 で説明しているリソース・グループ WebServerGroup の XML ポリシー例を示します。リソース・グループは、3つの移動グループ「apache1」、「local_mount」、および「ha-ip-address」と取得したファイル・システム・リソース「harvestedFS」で構成されています。

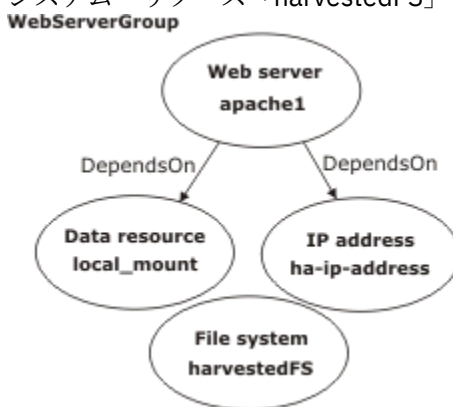


図 2. WebServerGroup リソース・グループ

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<AutomationPolicy productID="SAM" version="3.2.2"
  xmlns="http://www.ibm.com/TSA/Policy.xsd"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.ibm.com/TSA/Policy.xsd SAMPolicy.xsd ">
  <PolicyInformation>
    <PolicyName>WebServer-Policy</PolicyName>
    <AutomationDomainName>clustername</AutomationDomainName>
    <PolicyToken>1.0.0</PolicyToken>
    <PolicyDescription>this is the policy for the WebServer
  </PolicyDescription>
    <PolicyAuthor>authorname</PolicyAuthor>
  </PolicyInformation>

  <ConstituentResource name="apache1" class="IBM.Application" node="node1" />
  <ConstituentResource name="apache1" class="IBM.Application" node="node2" />

  <ConstituentResource name="local_mount" class="IBM.AgFileSystem" node="node1" >
    <ClassAttributesReference>
      <IBM.AgFileSystemAttributes name="FileSystem1"/>
    </ClassAttributesReference>
  </ConstituentResource>
  <ConstituentResource name="local_mount" class="IBM.AgFileSystem" node="node2" />

  <ConstituentResource name="ha-ip-address" class="IBM.ServiceIP" node="node1" />
  <ConstituentResource name="ha-ip-address" class="IBM.ServiceIP" node="node2" />
```

```

<IBM.ApplicationAttributes name="Application1">
  <StartCommand>/PATH-T0-SCRIPT/apache start</StartCommand>
  <StopCommand>/PATH-T0-SCRIPT/apache stop</StopCommand>
  <MonitorCommand>/PATH-T0-SCRIPT/apache status</MonitorCommand>
  <UserName>root</UserName>
  <MonitorCommandPeriod>5</MonitorCommandPeriod>
  <MonitorCommandTimeout>4</MonitorCommandTimeout>
  <StartCommandTimeout>10</StartCommandTimeout>
  <StopCommandTimeout>10</StopCommandTimeout>
  <RunCommandsSync>1</RunCommandsSync>
</IBM.ApplicationAttributes>

<IBM.AgFileSystemAttributes name="FileSystem1">
  <DeviceName>/dev/DEVICE1</DeviceName>
  <MountPoint>/MOUNTPOINT1</MountPoint>
  <Vfs>ext3</Vfs>
  <ProtectionMode>1</ProtectionMode>
</IBM.AgFileSystemAttributes>

<IBM.AgFileSystemAttributes name="FileSystem2">
  <DeviceName>/dev/DEVICE2</DeviceName>
  <MountPoint>/MOUNTPOINT2</MountPoint>
  <Vfs>ext3</Vfs>
  <ProtectionMode>1</ProtectionMode>
</IBM.AgFileSystemAttributes>

<IBM.ServiceIPAttributes name="ServiceIP1">
  <IPAddress>10.10.10.15</IPAddress>
  <NetMask>255.255.255.0</NetMask>
  <ProtectionMode>1</ProtectionMode>
</IBM.ServiceIPAttributes>

<MoveGroup name="apache1" class="IBM.Application">
  <ClassAttributesReference>
    <IBM.ApplicationAttributes name="Application1" />
  </ClassAttributesReference>
  <Members>
    <ConstituentResource name="apache1" class="IBM.Application" node="node1" />
    <ConstituentResource name="apache1" class="IBM.Application" node="node2" />
  </Members>
</MoveGroup>

<MoveGroup name="local_mount" class="IBM.AgFileSystem">
  <ClassAttributesReference>
    <IBM.AgFileSystemAttributes name="FileSystem2" />
  </ClassAttributesReference>
  <Members>
    <ConstituentResource name="local_mount" class="IBM.AgFileSystem" node="node1" />
    <ConstituentResource name="local_mount" class="IBM.AgFileSystem" node="node2" />
  </Members>
</MoveGroup>

<MoveGroup name="ha-ip-address" class="IBM.ServiceIP">
  <ClassAttributesReference>
    <IBM.ServiceIPAttributes name="ServiceIP1" />
  </ClassAttributesReference>
  <Members>
    <ConstituentResource name="ha-ip-address" class="IBM.ServiceIP" node="node1" />
    <ConstituentResource name="ha-ip-address" class="IBM.ServiceIP" node="node2" />
  </Members>
</MoveGroup>

<ResourceGroup class="IBM.ResourceGroup" name="WebServerGroup">
  <DesiredState>Online</DesiredState>
  <InfoLink>www.apache.com</InfoLink>
  <Members>
    <MoveGroup name="apache1" class="IBM.Application" />
    <MoveGroup name="local_mount" class="IBM.AgFileSystem" />
    <MoveGroup name="ha-ip-address" class="IBM.ServiceIP" />
    <ResourceReference name="harvestedFS" />
  </Members>
</ResourceGroup>

<Relationship name="apache1DependsOnLocal_mount">
  <Source>
    <MoveGroup name="apache1" class="IBM.Application" />
  </Source>
  <Target>
    <MoveGroup name="local_mount" class="IBM.AgFileSystem" />
  </Target>
  <Type>DependsOn</Type>
  <Condition>None</Condition>

```

```
</Relationship>
<Relationship name="apache1DependsOnHa-ip-address">
  <Source>
    <MoveGroup name="apache1" class="IBM.Application"/>
  </Source>
  <Target>
    <MoveGroup name="ha-ip-address" class="IBM.ServiceIP"/>
  </Target>
  <Type>DependsOn</Type>
  <Condition>None</Condition>
</Relationship>

<ResourceReference name="harvestedFS">
  <ReferencedResource>
    <Class>IBM.AgFileSystem</Class>
    <Name>23f45d546</Name>
    <Node></Node>
  </ReferencedResource>
</ResourceReference>
</AutomationPolicy>
```

第3章 メッセージ

本書は、System Automation for Multiplatforms に関連する問題の診断を担当するユーザーを対象としています。

System Automation for Multiplatforms メッセージ

このトピックでは、System Automation for Multiplatforms によって生成されるメッセージをリストし、各メッセージの解決方法を説明します。

接頭部 2621

2621-0 2621-001 新規 01 リソースの定義時には、属性「`attribute_name`」は指定できません。

説明

リソースの定義時に使用できない属性が指定されたため、エラーが発生しました。

オペレーターへの応答

リソースの定義時に指定できる属性のみを指定してください。

2621-0 2621-002 属性 02 「`attribute_name`」が要求に2回以上使用されています。

説明

同じ属性が複数回使用されているため、エラーが発生しました。

オペレーターへの応答

属性は1回のみ使用してください。

2621-0 2621-003 クラス名 03 「`class_name`」は、このリソース・マネージャーでは認識されません。

説明

存在しないクラスの RCCP を作成しようとして、内部エラーが発生しました。

オペレーターへの応答

Electronic Support (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

2621-0 2621-004 クラス 04 「`class_name`」の制御点を初期化できませんでした。

説明

クラスの RCCP を作成しようとして、内部エラーが発生しました。

オペレーターへの応答

Electronic Support (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

2621-0 2621-005 新規 05 リソースの定義時には、属性「`attribute_name`」を指定する必要があります。

説明

リソースの定義時に必須属性が除外されていたた

め、このエラーが検出されました。

オペレーターへの応答

「`lsrsrcdef <class name>`」を使用して属性のプロパティを確認し、必須 (ReqdForDefine) 属性を含めます。

2621-0 2621-006 認識 06 されないリソース・クラス ID: `resource_class_id`。

説明

このクラス ID のクラス情報の抽出中にエラーが発生しました。

オペレーターへの応答

リソース・ハンドルが使用されている場合は、それが正しいかどうかを検査します。それ以外の場合は、Electronic Support (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

2621-0 2621-007 07 **IBM.PeerNode** クラスのリソース列挙応答の待機中にタイムアウトになりました。

説明

ピア・ノードの列挙登録応答の待機中に、タイムアウト・エラーが発生しました。

オペレーターへの応答

RMC および ConfigRM が実行中であるかどうか検査してください (「`lssrc -a`」コマンドを使用します)。いずれかのサブシステムが作動不能になっている場合は、「RMC/ConfigRM ユーザー・ガイド」で作動不可サブシステムの再始動方法を確認してください。

2621-0 2621-008 構成 08 データの複製エラーにより、リソースの更新に失敗しました。

説明

データの複製中にエラーが発生しました。

オペレーターへの応答

操作を再試行してください。問題が継続して発生する場合は、ソフトウェア・サービス会社に報告してください。

2621-0 2621-009 コマンド 09 コマンドを使用できません - **IBM.RecoveryR**

M が初期化されていません。

説明

クライアントの要求を実行するためのリソース・マネージャーの初期化が実行されていません。

オペレーターの応答

初期化が完了するまで待機し、コマンドを再試行してください。

2621-0 10 **2621-010** コマンドを使用できません - IBM.RecoveryRM が構成クォーラムではありません。

説明

稼働中のクラスターで、いくつかの IBM.RecoveryRM デーモンで障害が発生している可能性があります。操作を実行するには、IBM.RecoveryRM デーモンのクォーラムがオンラインになっている必要があります。

オペレーターの応答

障害が発生した IBM.RecoveryRM デーモンの再始動を試行し、構成クォーラムに戻してください。

2621-0 11 **2621-011** コマンドを使用できません - ノードが構成データの複製に失敗しました。

説明

ノードが構成データの更新に失敗しました。クライアントの要求を実行できません。

オペレーターの応答

操作を再試行してください。問題が継続して発生する場合は、ソフトウェア・サービス会社に報告してください。

2621-0 12 **2621-012** コマンドを使用できません - 構成データの置き換え中です。

説明

システムが新規構成データに移行中です。クライアントの要求を実行できません。

オペレーターの応答

操作を再試行してください。問題が継続して発生する場合は、ソフトウェア・サービス会社に報告してください。

2621-0 13 **2621-013** コマンドを使用できません - 複製を開始できません。

説明

複製処理の開始時にエラーが発生しました。

オペレーターの応答

操作を再試行してください。問題が継続して発生する場合は、ソフトウェア・サービス会社に報告してください。

2621-0 14 **2621-014** コマンドを使用できません - 1つ以上の関連リソース・グループがオンラインです。

説明

1つ以上のオンライン・リソース・グループを含む管理対象リソース、リソー

ス・グループ、または関係の変更中にエラーが生成されました。

オペレーターの応答

リソースの変更前に、リソース・グループをオフラインにする必要があります。

2621-0 15 **2621-015** クラス「`class_name`」のリソース・クラス永続属性の取得に失敗しました。

説明

永続属性を取得するためのクラスへの照会中にエラーが戻されました。

オペレーターの応答

クラスが属しているリソース・マネージャーが作動可能であるかどうかを検査してください。リソース・マネージャーが作動不能である場合は、ユーザー・ガイドで再始動方法を確認してください。

2621-0 16 **2621-016** クラス「`class_name`」のリソースの永続属性の定義の取得に失敗しました。

説明

永続属性を取得するためのリソースへの照会中にエラーが戻されました。

オペレーターの応答

クラスが属しているリソース・マネージャーが作動可能であるかどうかを検査してください。リソース・マネージャーが作動不能である場合は、ユーザー・ガイドで再始動方法を確認してください。

2621-0 17 **2621-017** 「`class_name`」クラスの属性照会の応答の待機中にタイムアウトになりました。

説明

RMC からの属性照会の応答の待機中に、タイムアウト・エラーが発生しました。

オペレーターの応答

クラスが属しているリソース・マネージャーが作動可能であるかどうかを検査してください。リソース・マネージャーが作動不能である場合は、ユーザー・ガイドで再始動方法を確認してください。

2621-0 18 **2621-018** 関数「`function_name`」の呼び出し時にエラーが発生しました。戻りコードは `return_code` です。

説明

この関数の呼び出し時に、エラー条件が戻されました。

オペレーターの応答

これは内部エラーです。ソフトウェア・サービス会社に報告してください。

2621-0 19 **2621-019** リソース・ハンドルを使用したイベント登録の応答の待機中にタイムアウトになりました。

説明

リソース・ハンドルを使用したイベント登録の応答の待機中にタイムアウト

ト・エラーが発生しました。

オペレーターの応答

RMC およびリソースのリソース・マネージャーが実行中であるかどうか検査してください (「lssrc -a」コマンドを使用します)。いずれかのサブシステムが作動不能になっている場合は、対応するユーザー・ガイドで作動不可サブシステムの再始動方法を確認してください。

2621-0 2621-020 リソースのリソース・クラス名「`resource_class_name`」が無効です。

説明

参照されたリソース・クラス名が見つかりません。

オペレーターの応答

「lssrc」コマンドを使用して、サポートされているリソース・クラスを表示します。クラス名を修正し、操作を再試行してください。

2621-0 2621-021 リソースが存在しません。

説明

参照されたリソースが見つかりません。

オペレーターの応答

「lssrc class_name」を使用して、クラス内のすべてのリソースを表示します。

2621-0 2621-022 リソースのイベント登録がエラーになりました。エラー・メッセージ:
`[error_message]`

説明

リソースのイベント登録の応答で、RMC からエラー・メッセージが戻されました。

オペレーターの応答

エラー・メッセージを確認し、適切な措置をとってください。RMC およびリソース・マネージャーが実行されていない場合は、再始動してください。

2621-0 2621-023 リソースの RCP が見つかりません。

説明

リソースの制御点が見つからず、内部エラーが検出されました。

オペレーターの応答

Electronic Support (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

2621-0 2621-024 **IBM.PeerDomain** クラスのリソース列挙応答の待機中にタイムアウトになりました。

説明

ピア・ドメインの列挙登録の待機中に、タイムアウト・エラーが発生しました。

オペレーターの応答

RMC および ConfigRM が実行中であるかどうか検査してください (「lssrc -a」コマンドを使用します)。いずれかのサブシステムが作動不能になっている場合は、「RMC/ConfigRM ユーザー・ガイド」で作動不可サブシ

テムの再始動方法を確認してください。

2621-0 2621-025 **25** **SubmitRequest** アクションの入力パラメーター「`input_parameter_name`」に指定された値「`input_parameter_value`」が無効です。

説明

SubmitRequest アクションの入力パラメーターに指定された値が無効です。

オペレーターの応答

SubmitRequest アクションの入力パラメーターに指定された値を検査してください。値を修正し、アクションを再試行してください。

2621-0 2621-026 クラスタの現在のアクティブ・バージョンにおいてこの機能はサポートされていません。

説明

クラスタが共存モードまたはマイグレーション・モードです。現在のアクティブ・バージョンでは、この機能がサポートされていません。

オペレーターの応答

マイグレーションの完了後に再試行してください。

2621-0 2621-027 ソース「`source_name`」からの直前の要求がありません。キャンセルは失敗しました。

説明

要求のキャンセルが受け取られましたが、指定されたソースからの直前の要求がありません。

オペレーターの応答

SubmitRequest アクションのソースに指定された値を検査してください。値を修正し、アクションを再試行してください。

2621-0 2621-028 コマンドを使用できません。「マイグレーションの完了」アクションの実行中です。

説明

システムが新規アクティブ・コード・バージョン・レベルに移行中です。クライアントの要求を実行できません。

オペレーターの応答

操作を再試行してください。問題が継続して発生する場合は、ソフトウェア・サービス会社に報告してください。

2621-0 2621-029 リソースに対する移動要求が既に存在するため、移動要求が認可されません。

説明

同じリソース・グループに対する移動要求が既に存在するため、移動要求が認可されません。

オペレーターの応答

5 分間待機し、操作を再試行してください。

2621-0 2621-030 **IBM.PeerNode**

クラスの永続クラス属性照会要求の応答の待機中にタイムアウトになりました。

説明

ピア・ノードの QuorumType 登録の待機中に、タイムアウト・エラーが発生しました。

オペレーターへの応答

RMC および ConfigRM が実行中であるかどうか検査してください (「lssrc -a」コマンドを使用します)。いずれかのサブシステムが作動不能になっている場合は、「RMC/ConfigRM ユーザー・ガイド」で作動不可サブシステムの再始動方法を確認してください。

2621-0 2621-031 コマンドが許可されていません - 新規の構成の初期化が進行中です。

説明

システムが新規の構成の初期化に移行中です。クライアントの要求を実行できません。

オペレーターへの応答

操作を再試行してください。問題が継続して発生する場合は、ソフトウェア・サービス会社に報告してください。

2621-0 2621-032 コマンドを使用できません - **IBM.RecoveryRM** が操作可能クォラムではありません。

説明

クラスターが、操作クォラムがまだ確立されていない状態でタイ・ブレーカー状態で実行されています。

オペレーターへの応答

タイ・ブレーカーは、クラスター分割に備えて、操作クォラムを付与するためにセットアップされている必要があります。

2621-0 2621-050 リソース・グループ名「**resource_group_name**」は既に定義されています。

説明

新規リソース・グループ名を定義するために既存のリソース・グループ名が使用されたため、エラーが検出されました。

オペレーターへの応答

固有の名前を使用し、コマンドを再試行してください。

2621-0 2621-051 リソース・グループに、同値メンバーが **IBM.PeerNode** に属していないため無効な許可されたノードがあります。

説明

定義済みリソース・グループの **AllowedNode** が、**MemberClass** 属性が **IBM.PeerNode** でない同値です。

オペレーターへの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-0 2621-052 リソース・グループ・メンバーのロケーションが、その外部リソース・グループと矛盾しています。

説明

内部リソース・グループの **MemberLocation** 属性が、その外部リソース・グループと矛盾しています。

オペレーターへの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-0 2621-053 リソース・グループ・メンバーのロケーションが、そのメンバーの関係と矛盾しています。

説明

リソース・グループの **MemberLocation** 属性が、定義済みの位置依存 (**Collocated**、**DependsOn** など) 管理対象関係と矛盾しています。リソース・グループに、競合する関係に含まれる 1 つ以上のメンバーがある可能性があります。

オペレーターへの応答

属性または関係あるいはその両方を変更して、位置の互換性に関する問題を修正してください。

2621-0 2621-054 リソース・グループの優先順位は 0 から 200 の間でなければなりません。

説明

指定された優先順位の値が無効です。

オペレーターへの応答

有効な範囲である 0 から 200 の間で優先順位を指定してください。

2621-0 2621-055 リソース・グループの優先順位 **resource_group_priority** が、外部リソース・グループの優先順位を超えています。

説明

内部リソース・グループが外部リソース・グループより高い優先順位を持つネストされたリソース・グループでエラーが検出されました。

オペレーターへの応答

外部リソース・グループが内部リソース・グループと同じか高い優先順位を持つよう優先順位を再設定し、コマンドを再試行してください。

2621-0 2621-056 リソース・グループの属性 **MemberLocation** の値 **invalid_value** が無効です。

説明

属性 **MemberLocation** に対して入力された値が無効です。

オペレーターへの応答

属性 **MemberLocation** に有効な値を指定してリソース・グループを定義してください。

2621-0 2621-057 リソース・グループの属性 **NominalState** の

値 `invalid_value` が無効です。

説明

属性 `NominalState` に対して入力された値が無効です。

オペレーターの応答

属性 `NominalState` に有効な値を入力してください。

2621-0 2621-058 リソース・グループのネスト・レベルが最大値の 50 レベルを超えています。

説明

リソース・グループのネスト・レベルは、最大値の 50 レベルを超えることはできません。

オペレーターの応答

リソース・グループのネスト・レベルを削減してください。

2621-0 2621-059 ノード ID `%1$llu` が見つかりません。

説明

`SubmitRequest` リソース・アクション内のノード ID がクラスター内のノードと一致しません。

オペレーターの応答

ノード ID の値を検査してください。値を修正し、アクションを再試行してください。

2621-0 2621-060 クラスターの現在のアクティブ・バージョンでは、リソース・グループの `ExcludedList` は

サポートされていません。

説明

クラスターが共存モードまたはマイグレーション・モードです。現在のアクティブ・バージョンでは、リソース・グループの `ExcludedList` 属性がサポートされていません。

オペレーターの応答

マイグレーションの完了後に再試行してください。

2621-0 2621-061 リソース・グループに、そのすべてまたは一部のメンバーが現在のクラスターに属していないため無効な `ExcludedList` があります。

説明

定義済みリソースの `ExcludedList` に、現在のクラスターに属さないメンバー またはノードが少なくとも 1 つ存在します。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-0 2621-062 移動アクションで指定されているノードは、リソース・グループの許可されたノード・リストに含まれていません。

説明

リソース・グループが、それが許可されていないノードから移動するよう要求されています。

オペレーターの応答

`SubmitRequest` アクションの入力パラメーターに指定された値を検査してください。値を修正し、アクションを再試行してください。

2621-0 2621-063 リソース・グループはオンライン状態ではなく、移動できません。

説明

移動を要求されているリソース・グループがオンライン状態ではありません。

オペレーターの応答

移動要求のターゲットを検査してください。ターゲットを修正し、アクションを再試行してください。

2621-0 2621-064 非連結リソース・グループの移動時にノード名リストが指定されていません。

説明

非連結リソース・グループの移動時に、リソースの移動元ノード名のリストが指定されていません。

オペレーターの応答

ノード名リストを指定してコマンドを再試行してください。

2621-0 2621-065 リソース・グループ「`resource_group`」をオンラインにすることができません - ツリーが空です。

説明

指定されたリソース・グループにはオンラインにすることができるリソースがなかったためオンラインにすることができませんでした。

オペレーターの応答

グループに実リソースを追加し、オンラインにしてください。

2621-0 2621-066 最上位リソース・グループでないためリソース・グループを移動できません。

説明

指定されたリソース・グループは最上位リソース・グループでないため移動できません。

オペレーターの応答

最上位リソース・グループに対して移動要求を発行してください。

2621-0 2621-067 少なくとも 1 つの固定リソースが含まれるためリソース・グループを移動できません。

説明

指定されたリソース・グループは、少なくとも 1 つの固定リソースを含んでいるため、移動できません。

オペレーターの応答

このリソース・グループを移動する必要性を再考してください。

2621-0 2621-068 クラスターの現在のアクティブ・バージョンにおいて、

リソース・グループのサブスクリプションはサポートされていません。

説明

クラスターが共存モードまたはマイグレーション・モードです。現在のアクティブ・バージョンでは、リソース・グループの Subscription 属性がサポートされていません。

オペレーターの応答

マイグレーションの完了後に再試行してください。

2621-0 2621-069 クラスターの現在のアクティブ・バージョンにおいて、リソース・グループのこの属性はサポートされていません。

説明

クラスターが共存モードまたはマイグレーション・モードです。現在のアクティブ・バージョンでは、リソース・グループのこの属性がサポートされていません。

オペレーターの応答

マイグレーションの完了後に再試行してください。

2621-0 2621-070 クラスターの現在のアクティブ・バージョンでは、リソース・グループに対する要求はサポートされません。

説明

クラスターが共存モードまたはマイグレーション・モードです。現在のア

クティブ・バージョンでは、リソース・グループの Requests 属性がサポートされていません。

オペレーターの応答

マイグレーションの完了後に再試行してください。

2621-0 2621-071 リソース・グループの属性 Requests の値 `invalid_value` が無効です。

説明

属性 Requests に対して入力された値が無効です。

オペレーターの応答

属性 Requests に有効な値を指定してリソース・グループを定義してください。

2621-0 2621-072 並行リソースは、連結されたメンバーシップ・ロケーションを含むリソース・グループのメンバーにすることはできません。

説明

並行リソースは、連結されたメンバーシップ・ロケーションを含むリソースのメンバーとして開始することはできません。グループのメンバーシップ・ロケーション属性を変更する必要があります。

オペレーターの応答

グループのメンバーシップ・ロケーションの変更を検討してください。

2621-0 2621-073 並行リソースは、フェイルバック・ポリシーを使用可能

に設定してグループ・メンバーにすることはできません。

説明

並行性はフェイルバック・ポリシーと競合しません。並行リソースのフェイルバック・ポリシー・ビットを設定しないでください。

オペレーターの応答

フェイルバック・ポリシー・ビットを設定しないでください。

2621-0 2621-074 このフェイルバック・ポリシー値は、非強制グループ・メンバーでは無効です。

説明

非強制グループ・メンバーの自動化フェイルバックは、ループのリスクを伴う可能性があるため、無効です。フェイルバックは、必須グループ・メンバーでのみ使用してください。

オペレーターの応答

フェイルバック・ポリシー・ビットを設定しないでください。

2621-0 2621-075 この移動アクションは、現行設定では成功しません。

説明

この移動アクションは、現行設定では成功しません。

オペレーターの応答

移動を行うことができない理由を判別するには、現行構成を確認してください。

2621-0 2621-076 ターゲット・グループは単一ノードでの実行のみ許可されているため、移動アクションが拒否されました。

説明

ターゲット・グループは単一ノードでの実行のみ許可されているため、移動アクションが拒否されました。

オペレーターの応答

許可ノード・パラメーターを変更して、少なくとももう1つ別のノードでもグループを実行できるようにすることを検討してください。

2621-0 2621-077 リソース名「`resource_name`」は64文字より長くなっています。

説明

このリソースの名前が、64文字より長くなっています。

オペレーターの応答

短い名前の選択を検討し、コマンドを再試行してください。

2621-0 2621-078 リソース・グループ `s` の `inner resource group name`、`2s` の `outer resource group name` をグループ `%s` のメンバーとして追加するときに、いずれかの外部グループの優先順位が内部グループ

プより低くなっています。

説明

外部リソース・グループの優先順位が、その直接メンバーまたは間接メンバーのいずれかより低い場合、リソース配置アルゴリズムにより、非決定的な結果が生成されます。

オペレーターの応答

リソース構成を確認してから、操作を再試行してください。

2621-079 **2621-079** リソース・グループ *s* **inner resource group name, 2s** **outer resource group name** をグループ *%s* のメンバーとして追加するときメンバーシップのループを検出しました。

説明

外部リソース・グループを、それ自体の直接メンバーまたは間接メンバーにすると、リソース構成が使用不可になります。

オペレーターの応答

リソース構成を確認してから、操作を再試行してください。

2621-01 **2621-101** 管理対象リソースを複数のリソース・グループに含めることはできません。既に「**resource_group_name**」に含まれています。

説明

既に管理対象リソースとして存在するリソースを、同じまたは別のリソース・グループに含めようとして、エラーが検出されました。

オペレーターの応答

正しいパラメーターで操作を再試行してください。

2621-02 **2621-102** 管理対象リソースに無効なリソース・ハンドルがあります。

説明

リソース・マネージャーが無効なリソース・ハンドルで応答を戻しました。

オペレーターの応答

Electronic Support (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

2621-03 **2621-103** 管理対象リソース「**resource_name**」に制御インターフェースがありません。

説明

リソース・クラスが制御インターフェースをサポートしていないことが検出されたため、エラーが生成されました。

オペレーターの応答

リソース・クラスの属性を検査してください。OpState を変更できるリソースのみを追加してください。

2621-04 **2621-104** 管理対象リソースのリソース・グルー

プ「**resource_group_name**」が存在しません。

説明

所属先リソース・グループが存在しなくなった管理対象リソースが検出されました。

オペレーターの応答

Electronic Support (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

2621-05 **2621-105** 管理対象リソースに無効なリソース・クラス ID *%x* が含まれています。

説明

参照された管理対象リソース・クラスのクラス ID が無効です。

オペレーターの応答

「**lsrsrcdef -c class-name**」を使用して、正しいクラス ID を表示します。正しいクラス名を使用して、操作を再試行してください。

2621-06 **2621-106** 管理対象リソースのリソース・タイプ **resource_type** が無効です。

説明

管理対象リソースにすることができるのは、固定または浮動のいずれかのタイプのリソースです。無効なタイプのリソースが使用されたためエラーが発生しました。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-07 **2621-107** 管理対象リソースは固定リソースですが、定義されているノードがありません。

説明

固定管理対象リソースがどのノードにも見つからなかったため、エラーが生成されました。

オペレーターの応答

リソース・グループからリソースを除去するか、タイプを浮動に変更してください。

2621-08 **2621-108** リソース・グループのメンバー・ロケーションが、その外部のリソース・グループと矛盾しています。

説明

内部リソース・グループの MemberLocation 属性が、その外部リソース・グループと矛盾しています。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-09 **2621-109** 管理対象リソースは固定リソースですが、**number_of_nodes** 個のノードで定義されています。

説明

固定リソースが複数のノードで定義されているため、エラーが生成されました。

オペレーターの応答

リソース・グループからリソースを除去するか、ノード・リストを変更するか、タイプを浮動に変更してください。

2621-1 2621-110 管理 10 対象リソースの リソース・クラス情報が見つかりません。

説明

リソースのクラス情報の列挙時にエラーが生成されました。

オペレーターの応答

正しいクラス名が使用されていることを確認してください。エラーが継続して発生する場合は、ソフトウェア・サービス会社に報告してください。

2621-1 2621-111 リソ 11 ース・グループは それ自体のメンバーにすることができません。

説明

管理対象リソース (リソース・グループ) をそれ自体の中にネストすることはできません。

オペレーターの応答

正しいパラメーターで操作を再試行してください。

2621-1 2621-112 管理 12 対象リソースの属性 **Mandatory** の値 **invalid_value** が無効です。

説明

属性 **Mandatory** に対して入力された値が無効です。

オペレーターの応答

属性 **Mandatory** に有効な値を指定して管理対象リソースを定義してください。

2621-1 2621-113 管理 13 対象リソース「**resource_name**」は他のツリーの リソースのターゲットです。

説明

管理対象リソースを 2 つの独立したリソース・グループのターゲットにすることはできません。この制約違反のためにエラーが生成されました。

オペレーターの応答

競合を除去し、操作を再試行してください。

2621-1 2621-114 管理 14 対象リソース「**resource_name**」は同値内で定義できません。

説明

管理対象リソースを同値のメンバーとして含めようとして、エラーが生成されました。

オペレーターの応答

管理対象リソースとして定義されていないリソースのみを使用して同値を定義してください。

2621-1 2621-115 管理 15 対象リソースのクラスが無効です。

説明

管理対象として指定されたリソースのリソース・ハンドルが、参照されたクラスに属していません。

オペレーターの応答

クラス名を修正し、操作を再試行してください。

2621-1 2621-116 リソ 16 ースに動的属性 **OpState** がありません。

説明

リソース・クラスに動的属性 **OpState** がないことが検出されたため、エラーが生成されました。

オペレーターの応答

リソース・クラスの動的属性を検査してください。 **OpState** のあるリソースのみを追加してください。

2621-1 2621-117 ター 17 ゲットがある場合はソース管理対象リソースを変更できません。

説明

関係に 1 つ以上のターゲットがあるときに関係のソースを変更しようとして、エラーが生成されました。

オペレーターの応答

関係を除去し、適切なソースを使用して新規関係を再作成してください。

2621-1 2621-118 管理 18 対象リソースのリソース・ハンドルは変更できません。

説明

管理対象リソースは常にそれが作成された対象リソースを表します。

オペレーターの応答

リソース・グループから管理対象リソースを表すメンバーを除去し、正しいリソースを示す新規メンバーを追加してください。

2621-1 2621-119 リソ 19 ース・グループが存在しません。

説明

存在しないリソース・グループが参照されたため、エラーが生成されました。

オペレーターの応答

「**lsrg**」コマンドを使用して、有効なリソース・グループであるかどうかを検査してください。正しいリソース・グループを使用して操作を再試行してください。

2621-1 2621-120 操作 20 は一時的に否認されました。リソース登録が進行中です。

説明

以前のリソース登録の試行が失敗しました。デーモンが登録を再試行する間、特定の機能は使用できません。

オペレーターの応答

登録の問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-1 2621-121 管理 21 対象リソースの属性 **SelectFromPolicy** の値 **invalid_value** が無効です。

説明

属性 `SelectFromPolicy` に対して入力された値が無効です。

オペレーターの応答

属性 `SelectFromPolicy` に有効な値を指定して管理対象リソースを定義してください。

2621-1 2621-122 クラスタの現在のアクティブ・バージョンでは、管理対象リソースの `SelectFromPolicy` はサポートされていません。

説明

クラスタが共存モードまたはマイグレーション・モードです。現在のアクティブ・バージョンでは、管理対象リソースの `SelectFromPolicy` 機能がサポートされていません。

オペレーターの応答

マイグレーションの完了後に再試行してください。

2621-1 2621-123 クラスタの現在のアクティブ・バージョンにおいて、管理対象リソースのサブスクリプションはサポートされていません。

説明

クラスタが共存モードまたはマイグレーション・モードです。現在のアクティブ・バージョンでは、管理対象リソースの `Subscription` 属性がサポートされていません。

オペレーターの応答

マイグレーションの完了後に再試行してください。

2621-1 2621-124 クラスタの現在のアクティブ・バージョンでは、管理対象リソースに対する要求はサポートされません。

説明

クラスタが共存モードまたはマイグレーション・モードです。現在のアクティブ・バージョンでは、管理対象リソースの `Requests` 属性がサポートされていません。

オペレーターの応答

マイグレーションの完了後に再試行してください。

2621-1 2621-125 管理対象リソースの属性 `Requests` の値 `invalid_value` が無効です。

説明

属性 `Requests` に対して入力された値が無効です。

オペレーターの応答

属性 `Requests` に有効な値を指定して管理対象リソースを定義してください。

2621-1 2621-126 クラスタの現在のアクティブ・バージョンでは、管理対象リソースのインスタンスはサポートされません。

説明

クラスタが共存モードまたはマイグレーション・モードです。現在のアクティブ・バージョンでは、管理対象リソースのインスタンス属性がサポートされていません。

オペレーターの応答

マイグレーションの完了後に再試行してください。

2621-1 2621-128 クラスタの現在のアクティブ・バージョンでは、管理対象リソースの属性はサポートされません。

説明

クラスタが共存モードまたはマイグレーション・モードです。現在のアクティブ・バージョンでは、管理対象リソースの属性がサポートされていません。

オペレーターの応答

マイグレーションの完了後に再試行してください。

2621-1 2621-150 管理対象関係に管理対象リソースでないソース・リソースがあります。

説明

非管理対象リソースが管理対象関係のソースとして使用されたため、エラーが検出されました。ソースは管理対象リソースでなければなりません。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-1 2621-151 管理対象関係に無効なターゲット・リソースがあります。

説明

無効または存在しないリソースが管理対象関係のターゲットとして使用されたため、エラーが生成されました。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-1 2621-152 管理対象関係名「`relationship_name`」は既に定義されています。

説明

この名前の管理対象関係は既に定義されています。

オペレーターの応答

固有の名前を使用し、操作を再試行してください。

2621-1 2621-153 管理対象関係のターゲットが 2 回以上指定されています。

説明

管理対象関係のターゲットとしてリソースが複数回使用されたため、エラーが生成されました。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-1 2621-154 管理対象関係の属性 `Relationship` が無効な値 0 になっています。

説明

関係の値が指定されずに (Relationship の値が NONE) 新規管理対象関係が定義されていました。

オペレーターの応答

Relationship に有効な値を指定して管理対象関係を定義してください。

2621-1 2621-155 管理 55 対象関係のソースがターゲット・リソースとして定義されていません。

説明

エラー条件が検出されました。管理対象関係のソースとターゲットを同じにすることはできません。

オペレーターの応答

ターゲットからソース・リソースを除去し、操作を再試行してください。

2621-1 2621-156 管理 56 対象関係が定義済みの関係と競合しています。

説明

ロケーション依存または順序依存の定義済み関係と競合する新規関係が定義されました。

オペレーターの応答

競合を除去し、操作を再試行してください。

2621-1 2621-157 管理 57 対象関係が定義済みの関係と重複しています。

説明

関係の再定義によりエラーが生成されました。

オペレーターの応答

関係のインスタンスは1つのみ定義してください。

2621-1 2621-158 管理 58 対象関係に許可されたクラスでないソースまたはターゲットが含まれています。

説明

このクラスのリソースは、定義された関係のソースまたはターゲットにすることができません。

オペレーターの応答

ソースまたはターゲット・リソースを修正し、操作を再試行してください。

2621-1 2621-159 管理 59 対象関係がソースのリソース・グループ・メンバーのロケーションと整合していません。

説明

関係の位置の関連付けに競合が検出されました。

オペレーターの応答

ソースの MemberLocation 属性を確認し、問題を修正してください。

2621-1 2621-160 管理 60 対象関係においてリソースからそれ自身への循環関係が導入されています。

説明

StartAfter または DependsOn、あるいは DependsOnAny 関係について、デッドロックを引き起こす可能性がある循環依存関係が検出されました。

オペレーターの応答

循環依存関係を除去し、操作を再試行してください。

2621-1 2621-161 クラ 61 スターの現在のアクティブ・バージョンでは、管理対象関係について指定された Relationship 属性はサポートされていません。

説明

クラスターが共存モードまたはマイグレーション・モードです。現在のアクティブ・バージョンでは、指定された Relationship 属性がサポートされていません。

オペレーターの応答

マイグレーションの完了後に再試行してください。

2621-1 2621-162 指定 62 されたターゲット・リソース「*target resource name*」が空のリソース・グループであるため、管理対象関係を作成できません。

説明

空のリソース・グループを、定義済みの関係のターゲットにすることはできません。

オペレーターの応答

リソース・グループにメンバーを追加し、操作を再試行してください。

2621-1 2621-163 ソー 63 スまたはターゲットとしての並行リソース、あるいはターゲットとしての同値を持つ DependsOnAny 管理対象関係は無効です。

説明

DependsOnAny 管理対象関係が並行リソースを使用して、ターゲット、ソース、またはターゲットと同値として作成されたため、エラーが生成されました。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-2 2621-200 同値 00 名「*equivalency_name*」は既に定義されています。

説明

この名前の同値は既に定義されています。

オペレーターの応答

固有の名前を使用し、操作を再試行してください。

2621-2 2621-201 同値 01 のメンバーシップは明示的に列挙するか、選択文字列を使用して指定する必要があります。

説明

同値のメンバーシップを定義するために選択文字

列および列挙されたリソース・ハンドルのセットの両方が使用されたため、エラーが生成されました。

オペレーターの応答

列挙または選択文字列のいずれか(両方ではない)を使用して、操作を再試行してください。

2621-2 2621-202 同値 02 に無効な選択文字列があります。

説明

無効な選択文字列が入力されました。

オペレーターの応答

特に属性名および属性値を確認し、問題を修正してください。操作を再試行してください。

2621-2 2621-203 同値 03 に無効なメンバーがあります。

説明

管理対象リソースであるか、他のメンバーと同じクラスに属していない同値メンバーが見つかったため、エラー条件が検出されました。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-2 2621-204 ノード 04 の同値に無効なメンバーがあります。

説明

同値のノードが IBM.PeerNode クラスに属していません。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-2 2621-205 同値 05 に異なるリソース・クラスに属するメンバーがあります。

説明

同値メンバー内にエラーが検出されました。同値内のリソースが異なるクラスに属しています。同値内のすべてのリソースは、同じクラスに属していなければなりません。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-2 2621-206 同値 06 のメンバーシップに重複するリソース・ハンドル「*resource_handle*」があります。

説明

同値の2つのメンバーが同じリソース・ハンドルを持っています。

オペレーターの応答

一方を除去し、操作を再試行してください。

2621-2 2621-207 同値 07 のメンバーシップに複数のクラス ID (*class_id1* および *class_id2*) を含むリソース・ハンドルがあります。

説明

同値の定義中にエラーが生成されました。同値内の2つのリソース・メンバーが異なるクラスに属し

ています。同値内のすべてのリソースは、同じクラスに属していなければなりません。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-2 2621-208 同値 08 では選択文字列および有効なリソース・クラス名の両方を指定する必要があります。

説明

動的選択文字列とともに無効なリソース・クラス名が使用されたため、エラーが生成されました。

オペレーターの応答

クラス名を修正し、操作を再試行してください。

2621-2 2621-209 同値 09 「*equivalency_name*」のリソース・クラス情報が見つかりません。

説明

メンバー・クラスのクラス情報の列挙時にエラーが生成されました。

オペレーターの応答

これは内部エラーである可能性があります。ソフトウェア・サービス会社に報告してください。

2621-2 2621-210 同値 10 に対してリソース・クラス「*resource_class_name*」は無効です。

説明

このクラスのリソースは、この同値に対して無効です。クラス ID が他のメンバーと異なる可能性があります。

オペレーターの応答

同じクラスのリソースを使用して、問題を修正してください。

2621-2 2621-211 メンバー 11 を置き換えない場合は同値のリソース・クラスを変更できません。

説明

ユーザーが(おそらくはクラスが異なる)メンバーを持つ同値の MemberClass 属性値を変更しようとしたため、エラーが生成されました。

オペレーターの応答

MemberClass を変更する前に、メンバーを除去してください。

2621-2 2621-212 管理対象リソース 12 「*equivalency_name*」は同値のメンバーにすることができません。

説明

管理対象リソースがこの同値のメンバーとして配置されたため、エラーが生成されました。

オペレーターの応答

リソース・グループのメンバーでないリソースのみを追加してください。

2621-2 2621-213 13 AllowedNode として参照されて

いる管理対象リソースのクラスは変更できません。

説明

AllowedNode として参照されている管理対象リソースのクラスが変更されたため、エラーが検出されました。

オペレーターの応答

エラー条件を除去し、再試行してください。

2621-2 2621-214 メンバーがある場合は同値のリソース・クラスを変更できません。

説明

ユーザーが(おそらくはクラスが異なる)メンバーを持つ同値の MemberClass 属性値を変更しようとしたため、エラーが生成されました。

オペレーターの応答

MemberClass を変更する前に、メンバーを除去してください。

2621-2 2621-215 選択文字列では ANY 以外の選択ポリシーは無効です。

説明

選択ポリシーが ANY でない選択文字列を使用した同値の定義の構文解析中にエラーが生成されました。

オペレーターの応答

選択ポリシーを ANY に変更して、操作を再試行してください。

2621-2 2621-216 最小値は 1 から 100 の間でなければなりません。

説明

無効な MinimumNecessary 属性値が入力されたためエラーが生成されました。

オペレーターの応答

1 から 100 の間の有効な値を使用してコマンドを再試行してください。

2621-2 2621-217 同値にメンバー・リソースがありません。

説明

このエラー・メッセージは、NULL 選択文字列および空のメンバーシップ・リストを使用して IBM.Equivalency リソースが定義されたことを意味します。

オペレーターの応答

選択文字列または空でないメンバーシップ・リストを使用して同値を定義してください。

2621-2 2621-218 リソース・ハンドル「resource_handle」の浮動リソースは、同値「Equivalency_name」のメンバーにはできません。

説明

浮動リソースを同値のメンバーにすることはできません。

オペレーターの応答

同値のメンバーとして追加できるのは固定リソ

スまたは構成要素リソースのみです。

2621-2 2621-219 クラスターの現在のアクティブ・バージョンにおいて、同値のサブスクリプションはサポートされていません。

説明

クラスターが共存モードまたはマイグレーション・モードです。現在のアクティブ・バージョンでは、同値の Subscription 属性がサポートされていません。

オペレーターの応答

マイグレーションの完了後に再試行してください。

2621-3 2621-300 除外ノードのリソース・ハンドルによって指定されたノードが見つかりませんでした。

説明

除外ノードに、IBM.PeerNode リソース・クラスで定義されていない1つ以上のノードが含まれています。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-3 2621-301 「class_action_name」アクションへの入力データが無効です。

説明

無効なエレメントを持つ構造化データを含むクラス・アクション活動化要求が受け取られました。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-3 2621-302 属性「invalid_value」の値が無効または範囲外です。

説明

属性値の追加または変更の試行時に、値が無効または範囲外であることがわかりました。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-3 2621-303 自動化エンジンが初期化されていません。

説明

決定エンジンが初期化されていません。

オペレーターの応答

5 分間待機し、操作を再試行してください。

2621-3 2621-304 無効なアクションです。RecoveryRM が ReplaceConfig モードではありません。

説明

無効な構成復元オプションが入力されました。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-3 2621-305 機能を使用可能にすることができません。RecoveryRM が

下位グレードまたはマイグレーション・モードで実行されています。

説明

アクティブにすることができない機能オプションが入力されています。

オペレーターの応答

適切なバージョン・レベルへの移行を完了してください。

2621-3 06 **2621-306** 「マイグレーションの完了」アクションへの入力データが無効です。IVNはこのNewActiveVersion「**active_version**」と非互換です。

説明

NewActiveVersion リリース名が、現在インストールされている RecoveryRM デーモンのバージョンと非互換です。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-3 07 **2621-307** 「マイグレーションの完了」アクションへの入力データが無効です。NewActiveVersion の範囲はバージョン「**1.1.1.0**」からバージョン「**256.256.256.256**」の間です - 「**version**」

説明

NewActiveVersion リリース名の値が無効です。こ

れは「1.1.1.0」から「256.256.256.256」の範囲内にする必要があります。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-3 08 **2621-308** 「マイグレーションの完了」アクションへの入力データが無効です。NewActiveVersion («**new_active_version**») は、IVN («**installed_version**») より高い値または現在の AVN («**3\$current_active_version**») より低い値にはできません。

説明

NewActiveVersion リリース名の値が無効です。これは、現在のアクティブ・バージョン番号より低い値、またはインストール済みバージョン番号より高い値には設定できません。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-3 09 **2621-309** デーモンに有効なライセンスがないためコマンドが許可されません。

説明

有効なライセンスがインストールされていないため、発行されたコマンドのこのデーモンでの実行が許可されません。

オペレーターの応答

有効なライセンスをインストールし、操作を再試行してください。

2621-3 10 **2621-310** 「マイグレーションの完了」アクションを実行できません。現在の結合 RecoveryRM デーモン・メンバー数 (**daemon_member_count**) が合計ノード数 (**total_node_count**) と異なります。強制オプション («**-f**») を使用してオーバーライドしてください。

説明

すべての RecoveryRM デーモンが稼働中ではないため、「マイグレーションの完了」アクションを開始できません。

オペレーターの応答

すべての RecoveryRM デーモンが稼働中であることを確認するか、強制オプション («**-f**») を使用して「マイグレーションの完了」アクションを開始してください。

2621-3 11 **2621-311** クラスタの現在のアクティブ・バージョンでは、パブリッシャーはサポートされていません。

説明

クラスターが共存モードまたはマイグレーション・モードです。現在のアクティブ・バージョンでは、パブリッシャー機能がサポートされていません。

オペレーターの応答

マイグレーションの完了後に再試行してください。

2621-3 12 **2621-312** ライセンス・ファイル「**license_file_name**」が存在しません。

説明

インストールするライセンス・ファイルが存在しません。

オペレーターの応答

インストールするライセンス・ファイルの正しいロケーションを検索し、操作を再試行してください。

2621-3 13 **2621-313** 構成コマンドは許可されていません - デーモンが構成置換モードです。

説明

発行されているコマンドは、構成置換モードでは許可されていません。

オペレーターの応答

構成置換アクションが完了するまで待機してください。

2621-3 14 **2621-314** 「マイグレーションの完了」アクションへの入力データが無効です。現在の RSCT のアクティブ・バージョン番号がこの NewActiveVersion «**version**» と非互換です。

説明

現在の RSCT のアクティブ・バージョン番号が、選択された新規

RecoveryRM デーモンのアクティブ・バージョン番号と非互換です。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-3 2621-315 属性「*attribute_name*」に無効値「*invalid_value*」があります。

説明

属性値の追加または変更の試行時に、指定した値が無効または範囲外であることがわかりました。

オペレーターの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-3 2621-316 IBM.RecoveryRM パブリッシャーの構成ファイル「*file_name*」が見つかりません。

説明

IBM.RecoveryRM パブリッシャー構成ファイルが見つかりません。このパブリッシャーは使用不可です。

オペレーターの応答

パブリッシャー構成ファイルの問題を修正し、「`samctrl -e <publisher>`」コマンドを使用してこのパブリッシャーを使用可能にしてください。

2621-3 2621-317 IBM.RecoveryRM パブリッシャーの構成ファイル「*file_name*」の構文エラーが行番号

line_number にあります。

説明

IBM.RecoveryRM パブリッシャー構成ファイルの構文エラーです。このパブリッシャーは使用不可です。

オペレーターの応答

パブリッシャー構成ファイルの問題を修正し、「`samctrl -e <publisher>`」コマンドを使用してこのパブリッシャーを使用可能にしてください。

2621-3 2621-318 IBM.RecoveryRM パブリッシャー構成ファイルが見つかりません。指定された構成ファイル「`ConfigPath=config_file`」は、パブリッシャー構成ファイル「*file_name*」(パブリッシャー名は「*publisher_name*」)で無効です。

説明

IBM.RecoveryRM パブリッシャー構成ファイルが見つかりません。このパブリッシャーは使用不可です。

オペレーターの応答

パブリッシャー構成ファイルの問題を修正し、「`samctrl -e <publisher>`」コマンドを使用してこのパブリッシャーを使用可能にしてください。

2621-3 2621-319 IBM.RecoveryRM パブリッシャー構成ファイルの構文エラーで

す。パラメーター「*parameter*」が、パブリッシャー構成ファイル「*file_name*」(パブリッシャー名は「*publisher_name*」)にありません。

説明

IBM.RecoveryRM パブリッシャー構成ファイルの構文エラーです。このパブリッシャーは使用不可です。

オペレーターの応答

パブリッシャー構成ファイルの問題を修正し、「`samctrl -e <publisher>`」コマンドを使用してこのパブリッシャーを使用可能にしてください。

2621-3 2621-320 IBM.RecoveryRM パブリッシャー構成ファイルの構文エラーです。パブリッシャー構成ファイル「*file_name*」で、同一のパブリッシャー名「*publisher_name*」が複数回検出されました。

説明

IBM.RecoveryRM パブリッシャー構成ファイルの構文エラーです。このパブリッシャーは使用不可です。

オペレーターの応答

パブリッシャー構成ファイルの問題を修正し、「`samctrl -e <publisher>`」コマンドを使用してこのパブリッシャーを使用可能にしてください。

2621-3 2621-321 IBM.RecoveryRM パブリッシャー構成ファイルの構文エラーです。パブリッシャー構成ファイル「*file_name*」で検出されたパブリッシャーが多すぎます。最大で *max_number_publishers* 個のパブリッシャーがサポートされます。

説明

IBM.RecoveryRM パブリッシャー構成ファイルの構文エラーです。このパブリッシャーは使用不可です。

オペレーターの応答

パブリッシャー構成ファイルの問題を修正し、「`samctrl -e <publisher>`」コマンドを使用してこのパブリッシャーを使用可能にしてください。

2621-3 2621-322 コマンド「`samctrl -e|-d <publisher>`」がマスター・ノードで失敗しました。すべてのパブリッシャー構成ファイルがすべてのノードで同じ内容を持っていることを確認してください。マスター・ノード上の *syslog* に、より詳細な情報が含まれています。*detailed_msg*

説明

パブリッシャーの追加または変更の試行時に、指定したパブリッシャー名を設定できないことがわかりました。

オペレーターへの応答

問題を修正し、操作を再試行してください。

2621-3 2621-323

23 IBM.RecoveryRM パブリッシャー構成ファイル「**file_name**」には、パブリッシャー名「**publisher_name**」が含まれません。

説明

IBM.RecoveryRM パブリッシャーが見つかりません。このパブリッシャーは使用不可です。

オペレーターへの応答

パブリッシャー構成ファイルの問題を修正し、「**samctrl -e <publisher>**」コマンドを使用してこのパブリッシャーを使用可能にしてください。

2621-3 2621-324

24 IBM.RecoveryRM パブリッシャー構成ファイルの構文エラーです。パブリッシャー構成ファイル「**file_name**」にあるパブリッシャー名「**publisher_name**」は、構文ルールに従っていません。パブリッシャー名の長さ: **1**から**8**。パブリッシャー名の有効な文字:「**0**」から「**9**」、「**A**」から

「**Z**」、「**a**」から「**z**」、および「**_**」。

説明

IBM.RecoveryRM パブリッシャー構成ファイルの構文エラーです。このパブリッシャーは使用不可です。

オペレーターへの応答

パブリッシャー構成ファイルの問題を修正し、「**samctrl -e <publisher>**」コマンドを使用してこのパブリッシャーを使用可能にしてください。

2621-3 2621-325

25 IBM.RecoveryRM パブリッシャー構成ファイル「**file_name**」には有効なパブリッシャー名が含まれません。

説明

IBM.RecoveryRM パブリッシャーが見つかりません。このパブリッシャーは使用不可です。

オペレーターへの応答

パブリッシャー構成ファイルの問題を修正し、「**samctrl -e <publisher>**」コマンドを使用してこのパブリッシャーを使用可能にしてください。

2621-3 2621-326

26 IBM.RecoveryRM パブリッシャー「**publisher_name**」は既に使用可能です。

説明

パブリッシャーを使用不可にしてから、使用可能にし直してください。

オペレーターへの応答

「**samctrl -d <publisher>**」コマンドを使用して1つのパブリッシャーを使用不可にしてください。

2621-3 2621-327

27 IBM.RecoveryRM パブリッシャー・インフラストラクチャーは使用中であるため、変更は許可されません。

説明

パブリッシャー・モジュールのいずれかが、データの送信でビジーです。

オペレーターへの応答

待機してから、アクティブなパブリッシャー・リストの変更を再試行してください。

2621-3 2621-328

28 アダプターの開始が遅れ、現在クラスターに操作クォーラムがありません、(2621-328 Adapter start delayed, currently cluster has no Operational Quorum.) 操作クォーラムが使用可能になると、アダプターの開始が続行されます。(Adapter start will continue when Operational Quorum is available.)

説明

クラスター内に操作クォーラムがありません。

オペレーターへの応答

クラスターに操作クォーラムを追加する必要があります。

2621-7 2621-750

ドメイン「**domain_name**」で不明な理由により**SA** イベントが発生しました。

説明

不明な問題が報告されました。

オペレーターへの応答

Electronic Support (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

2621-7 2621-751

SA がドメイン「**domain_name**」の状況変更を検出しました。

説明

この自動化ドメインの状況が変更されたか、この自動化ドメインのクォーラム状態が変更されました。

オペレーターへの応答

ドメインおよびそのすべてのノードが、予期される状態であることを確認してください。

2621-7 2621-753

ドメイン「**domain_name**」で**SA Automation Manager** が正常に開始されました。

説明

自動化マネージャーが起動しました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2621-7 2621-754 ドメイン
54 「*domain_name*」で SA Automation Manager が正常に停止しました。

説明

自動化マネージャーが停止しました。

オペレーターの応答

この自動化マネージャーが意図的に停止されたのかどうかを確認してください。

2621-7 2621-755 SA は
55 ドメイン「*domain_name*」において構成ポリシーのリフレッシュを検出しました。

説明

この自動化ドメインについて新規ポリシーがアクティブにされました。

オペレーターの応答

このアクションが、この自動化ドメインについて意図するものであることを確認してください。

2621-7 2621-756 SA は
56 ドメイン「*domain_name*」において新規構成を検出しました。

説明

新規リソース、関係、または要求が作成されました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2621-7 2621-758 SA は
58 ドメイン「*domain_name*」において削除済み構成を検出しました。

説明

リソース、関係、または要求が削除されました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2621-7 2621-759 SA は
59 ドメイン「*domain_name*」でリソース「*resource_name*」の状況変更を検出しました。

説明

一般的な監視状態、本来あるべき状態、操作状態、または複合状態が変更されました。

オペレーターの応答

新規状態が、予期される状態であることを確認してください。

2621-7 2621-760 SA は
60 ドメイン「*domain_name*」内のパブリッシャー「*publisher_name*」を使用可能にしました。

説明

パブリッシャーが開始されました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2621-7 2621-761 SA は
61 ドメイン「*domain_name*」内のパブリッシャー「*publisher_name*」を使用不可にしました。

説明

パブリッシャーが停止されました。

オペレーターの応答

パブリッシャーが意図的に停止されたのかどうかを確認してください。

2621-7 2621-770 SA は
70 ドメイン「*domain_name*」においてリソース・グループ「*resource_name*」の自動化オペレーションを開始しました。

説明

このリソースは、System Automation の制御下で開始、または停止されます。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2621-7 2621-771 SA は
71 ドメイン「*domain_name*」におけるリソース・グループ「*resource_name*」の自動化オペレーションを完了しました。

説明

このリソースは、System Automation の制御下で正常に開始、または停止されました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2621-7 2621-772 SA は
72 ドメイン「*domain_name*」で、システム「*system_name*」がオペレーター・コマンドにより保守モードに切り替えられたことを検出しました。

説明

このシステム上に定義されているリソースは現在は System Automation の制御下にありません。

オペレーターの応答

このシステムが意図的に保守モードに切り替えられたのかどうかを確認してください。

2621-7 2621-773 SA は
73 ドメイン「*domain_name*」で、システム「*system_name*」がオペレーター・コマンドにより自動化モードに戻されたことを検出しました。

このシステムが意図的に自動化モードに切り替えられたのかどうかを確認してください。

説明

このシステム上に定義されているリソースは現在は System Automation の制御下です。

オペレーターの応答

このシステムが意図的に自動化モードに切り替えられたのかどうかを確認してください。

2621-7 2621-775 SA は
75 ドメイン「*domain_name*」におけるリソ

ス
「`resource_name`
」の自動化を中断
にしました。

説明

オペレーターが、このリソースの自動化をサスペンドする要求を出しました。

オペレーターの応答

必要に応じて、このリソースの自動化を再開してください。

2621-7 2621-776 SA は
76 ドメイン
「`domain_name`」
におけるリソース
「`resource_name`」
の自動化を再開
しました。

説明

オペレーターが、このリソースの自動化を再開する要求を出しました。

オペレーターの応答

必要に応じて、このリソースの自動化をサスペンドしてください。

2621-7 2621-778 SA は
78 ドメイン
「`domain_name`」
においてリソース
「`resource_name`」
を要求どおりオン
ラインに設定
しました。

説明

System Automation は、リソースを正常にオンラインに設定しました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2621-7 2621-779 SA は
79 ドメイン
「`domain_name`」
においてリソース
「`resource_name`」
を要求どおりオフ
ラインに設定
しました。

説明

System Automation は、リソースを正常にオフラインに設定しました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2621-7 2621-780 SA は
80 システム
「`system_name`」
がドメイン
「`domain_name`」
を結合したことを
検出しました。

説明

システムはクラスターと結合しました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2621-7 2621-781 SA は
81 システム
「`system_name`」
がドメイン
「`domain_name`」
を切り離したことを
検出しました。

説明

システムはクラスターから切り離されました。

オペレーターの応答

このシステムが意図的にクラスターから切り離されたのかどうかを確認してください。

2621-7 2621-784 SA が
84 ドメイン
「`domain_name`」
で警告を検出
しました。リソース
「`resource_name`」
が低下していま
す。

説明

リソースが低下しています。

オペレーターの応答

該当リソースの個々の状況フィールドを調べてください。

2621-7 2621-785 SA が
85 ドメイン
「`domain_name`」
で警告を検出
しました。リソース
「`resource_name`」
にパフォーマンス
上の問題があ
ります。

説明

リソースにパフォーマンス上の問題があります。

オペレーターの応答

リソースの応答が遅い理由を調べてください。

2621-7 2621-786 SA が
86 ドメイン
「`domain_name`」
で警告を検出
しました。リソース
「`resource_name`」
に他のリソース
との依存関係に
よって発生した
問題があります。

説明

指定したリソースは、操作を妨げる別のリソースに依存しているため、このリ

ソースで自動化操作を実行できません。

オペレーターの応答

リソースが定義されているシステムの1つがオンラインであることを確認してください。

2621-7 2621-788 SA は
88 ドメイン
「`domain_name`」
において問題を
検出しました。
構成に基づいて
リソース
「`resource_name`」
を開始するため
のオンライン・シ
ステムが見つかり
ませんでした。

説明

構成に基づいてリソースを開始するためのオンライン・システムが見つかりませんでした。

オペレーターの応答

すべてのノードが、意図される状態であることを確認してください。

2621-7 2621-789 SA は
89 ドメイン
「`domain_name`」
において問題を
検出しました。
リソース
「`resource_name`」
を要求された状
態に設定できま
せん。

説明

指定したリソースに対する自動化操作を実行できません。

オペレーターの応答

該当リソースの個々の状況フィールドを調べてください。

2621-7 2621-790 SA は 90 ドメイン「*domain_name*」において問題を検出しました。リソース「*resource_name*」はオペレーターが手動でリセットする必要があります。

説明

指定したリソースに対する自動化操作を実行できません。

オペレーターの応答

このリソースの構成を修正してから自動化リソースをリセットしてください。

2621-7 2621-791 SA は 91 ドメイン「*domain_name*」において問題を検出しました。リソース「*resource_name*」にオフライン・システムが原因で発生した問題があります。

説明

このリソースにオフライン・システムが原因で発生した問題があります。

オペレーターの応答

このリソースのシステム状況を調べてください。

2621-7 2621-792 SA は 92 ドメイン「*domain_name*」において問題を検出しました。操作クォーラムが失われています。

説明

操作クォーラムが失われています。

オペレーターの応答

クラスター状況を調べてください。

2621-7 2621-793 ノード 93 ド「*node_name*」は、オフラインにすることができません。システム自動化マネージャーが、このノードでオンラインになっているリソースがあることを報告しています。

説明

実行中のリソースがあるため、このノード上で System Automation を停止できません。

オペレーターの応答

このノード上にオンラインのリソースがあります。System Automation を停止する前に、これらのリソースを停止する必要があります。

2621-7 2621-794 ノード 94 ドをオフラインにすることができます。

説明

このノード上では、System Automation を停止できます。

オペレーターの応答

このノード上には、制御可能なオンラインのリソースがありません。

2621-7 2621-795 SA 95 は、オペレーター・コマンドによ

りドメイン「*domain_name*」で自動化が使用不可になってい

説明

このクラスター上に定義されているリソースは現在は System Automation の制御下にありません。

オペレーターの応答

このクラスターが自動化をオフにした状態で実行することを意図していることを確認してください。

2621-7 2621-796 SA 96 は、オペレーター・コマンドによりドメイン「*domain_name*」で自動化が使用可能になってい

接頭部 2621 タイ・ブレイカー

2621-4 2621-400 ドメイン 00 *DomainName* に対してタイ・ブレイカーが定義されています。

説明

タイ・ブレイカーは定義されていて、アクティブにできます。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2621-4 2621-401 ドメイン 01 *DomainName* に対してタイ・ブレイカーがアクティブにされています。

説明

このクラスター上に定義されているリソースは現在は System Automation の制御下です。

オペレーターの応答

このクラスターが自動化をオンにした状態で実行することを意図していることを確認してください。

説明

タイ・ブレイカーはアクティブにされていて、クラスター分割の場合に1つのグループ・リーダーにクォーラムを付与する準備ができています。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2621-4 2621-402 ドメイン 02 イン *DomainName* 内のノード *NodeName* が最初にタイ・ブレイカーを予約しました。

説明

ノードがタイ・ブレイカー・リソースを排他的に予

約しました。これがクラスター分割後の最初のタイ・ブレーカー予約です。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2621-4 2621-403 ドメイン
03 *DomainName* でタイ・ブレーカーが解放されました。

説明

解放操作が正常に実行されました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2621-4 2621-404 ハートビート操作が正常に実行されました。
04

説明

ハートビート操作が正常に実行されました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2621-4 2621-405 失敗を示す戻りコードが C API 関数 *functionName* から戻されました。警告の詳細: *warningDetails*。
05

説明

このエラーにより処理が中断されますが、処理は続行可能です。

オペレーターの応答

このメッセージが表示されるべきではないと考えられる場合は、その他のエラーが発生したかどうかを syslog で確認してください。

い。このようなエラー・メッセージは必ずしも実際の問題を示していないことに注意してください。エラーの種類によっては、これらの警告の一部は無視しても安全です。

2621-4 2621-406 ドメイン
06 *domainName* でタイ・ブレーカーの予約操作に失敗しました。

説明

ノードがクォーラムの取得に失敗しました。これはエラーではありません。他のノードがクォーラムを持っていることが原因である可能性があります。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2621-4 2621-450 C API 関数 *functionName* がエラーを戻しました。エラーの詳細: *errorDetails*。
50

説明

このエラーにより処理が中断され、続行できません。

オペレーターの応答

その他のエラーが発生したかどうかを syslog で確認してください。エラーを解決してください。

2621-4 2621-451 タイ・ブレーカー・パラメーター *parameterName* の値が無効です: *parameterValue*。
51

説明

タイ・ブレーカー・パラメーターに指定された値は無視されます。

オペレーターの応答

タイ・ブレーカー定義を修正してください。

2621-4 2621-452 タイ・ブレーカー・パラメーター *parameterName* が欠落しています。
52

説明

必須パラメーターが指定されませんでした。

オペレーターの応答

必須パラメーターをタイ・ブレーカー定義に追加してください。

2621-4 2621-453 タイ・ブレーカー・パラメーター *parameterName* が不明です。
53

説明

指定されたパラメーターが定義されていません。

オペレーターの応答

タイ・ブレーカー定義を修正してください。

2621-4 2621-454 タイ・ブレーカー・パラメーター *parameterName* の値が欠落しています。
54

説明

指定されたパラメーターの値が欠落しています。

オペレーターの応答

欠落しているオプション値をタイ・ブレーカー定義に追加してください。

2621-4 2621-455 タイ・ブレーカー操作 *operationName* が不明です。
55

説明

この操作はタイ・ブレーカー実装では不明です。

オペレーターの応答

この操作は IBM.ConfigRM によって実行されます。エレクトロニック・サポート (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

2621-4 2621-456 タイ・ブレーカー操作 *operationName* はサポートされていません。
56

説明

この操作はこのタイ・ブレーカーによってサポートされていません。

オペレーターの応答

エレクトロニック・サポート (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

2621-4 2621-457 タイ・ブレーカー操作が欠落しています。
57

説明

タイ・ブレーカー操作が指定されていません。

オペレーターへの応答

この操作は IBM.ConfigRM によって実行されます。エレクトロニック・サポート (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

2621-4 2621-458 ドメイン

domainName で タイ・ブレイカーを定義できませんでした。

説明

タイ・ブレイカーの検証操作が失敗しました。

オペレーターへの応答

その他のメッセージを syslog で確認し、問題を修正してください。

2621-4 2621-459 ドメイン

domainName で タイ・ブレイカーを解放できませんでした。

説明

解放操作が失敗しました。

オペレーターへの応答

NFS サーバー・セットアップを修正し、予約ファイルがまだ存在する場合はそれを手動で除去してください。

2621-4 2621-460 ドメイン

domainName で タイ・ブレイカーをアクティブにできませんでした。

説明

タイ・ブレイカーのアクティブ化操作が失敗しました。

オペレーターへの応答

その他のメッセージを syslog で確認し、問題を修正してください。

2621-4 2621-461 ドメイン

domainName で タイ・ブレイカーのハートビート操作に失敗しました。

説明

クォーラムを持つノードがそのクォーラムの更新に失敗しました。

オペレーターへの応答

アクションは不要です。

2621-4 2621-462 メモリーが不足しています。

説明

動的メモリーを割り振るシステム要求が失敗しました。

オペレーターへの応答

サーバーに十分なメモリーがあること、およびメモリー・リークなどが原因でメモリーを使いすぎているアプリケーションがないことを確認してください。

2621-4 2621-463 RSCT API

がエラー *details* を戻しました。

説明

RSCT クラスター・インフラストラクチャーで問題が発生しました。

オペレーターへの応答

エレクトロニック・サポート (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

2621-4 2621-464 コマンド

commandString を実行中にタイムアウトになりました。タイ・ブレイカーの実行を異常終了しています。

説明

タイムアウトが原因で、コマンドの実行が失敗しました。

オペレーターへの応答

ご使用の環境を確認し、コマンドが時間内に終了できなかった理由を調べてください。

2621-5 2621-500 ドメイン

DomainName 内のノード *nodeName* が NFS タイ・ブレイカーのクォーラムを正常に取得しました。

説明

ノードが NFS タイ・ブレイカー・リソースを排他的に予約しました。ノードが NFS タイ・ブレイカー・リソースを排他的に予約した理由は、それ以前に別のノードがクォーラムを失ったためです。

オペレーターへの応答

アクションは不要です。

2621-5 2621-501 ドメイン

domainName で NFS タイ・ブレイカーが強制終了されました。

説明

NFS タイ・ブレイカーを非アクティブにするオペレーター要求が原因で、タイ・ブレイカーが強制終了されました。

オペレーターへの応答

アクションは不要です。

2621-5 2621-502 ノード

nodeName、ドメイン *domainName* で NFS クォーラムのサーバー・ディレクトリーのアンマウント中に問題が発生しました: *details*。

説明

NFS クォーラムのサーバー・ディレクトリーをアンマウントする呼び出しが失敗しました。

オペレーターへの応答

処理を続行します。この問題は、NFS タイ・ブレイカーには直接影響しません。これに関連する将来の問題を回避するには、問題の根本原因を分析してください。

2621-5 2621-503 NFS

タイ・ブレイカーのトレース情報: *Details*

説明

これは、`samtb_nfs EXEC` タイ・ブレイカーの `Log=2` パラメーターによって使用可能になった詳細情報です。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2621-5 2621-504 ドメイン

DomainName 内のノード **nodeName** が **NFS** タイ・ブレイカーの最初のクォーラムを取得しました。

説明

ノードがクラスター分割後に **NFS** タイ・ブレイカー・リソースを排他的に予約しました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2621-5 2621-505 検証が開始されました。以下の **NFS** タイ・ブレイカー関連メッセージのうち、メッセージ **2621-506** までは、実際のタイ・ブレイカー操作を参照するものではなく、タイ・ブレイカー機能の検証のみを参照しています。

説明

NFS タイ・ブレイカー検証操作は、通常のタイ・ブレイカー・インストールの一部をテスト目的で実行するため、通常処理の一部としてメッセージが生成されることがあります。例えば、クラスター内の1つ

のノードが **2621-504** メッセージを表示します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2621-5 2621-506 タイ・ブレイカーの検証が終了しました。

説明

NFS タイ・ブレイカー検証操作が終了しました。これは、**2621-505** メッセージと **2621-506** メッセージの間にあるメッセージとは異なるコンテキスト内で、以下の **2621** メッセージが生成されることを意味します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2621-5 2621-550 ノード **nodeName**、ドメイン **domainName** で **NFS** クォーラムのサーバー・ディレクトリー **directoryName** のマウント中に問題が発生しました。

説明

NFS クォーラムのサーバー・ディレクトリーをマウントする呼び出しが失敗しました。

オペレーターの応答

インストール済み環境を確認してください。**NFS** クォーラム・サーバーのディレクトリーを手動でマウントしてください。**SA MP** の資料の **NFS** タイ・ブレイカー関連トラブルシューティング情報を確認してください。

2621-5 2621-551 ノード **nodeName**、ドメイン **domainName** で **NFS** クォーラムのサーバー・ディレクトリー **directoryName** へのアクセス中に問題が発生しました: **details**。

説明

NFS クォーラムのサーバー・ディレクトリーの書き込みまたは読み取りに失敗しました。

オペレーターの応答

NFS クォーラムのサーバー・ディレクトリーに手動でアクセスしてください。**SA MP** の資料の **NFS** タイ・ブレイカー関連トラブルシューティング情報を確認してください。

2621-5 2621-552 **NFS** タイ・ブレイカーは **NFS** 環境を使用できません: **reason**。

説明

NFS v4 サーバーを使用中にヘルス・チェックでエラーが見つかりました。すべての **NFS** タイ・ブレイカー操作は、**NFS** サーバーまたは **NFS** クライアント(あるいはその両方)が修正され、**NFS** タイ・ブレイカーが再度アクティブになるまで失敗します。**NFS** サーバーは 90 秒間の猶予期間にはロックの受け入れを拒否するため、**NFS** サーバーが 90 秒以内に開始された場合、検証操作が失敗するのは通常の動作です。

オペレーターの応答

NFS インストール済み環境を修正し、**NFS** タイ・ブレイカーを再度アクティブにしてください。

2621-5 2621-553 **NFS** クォーラムのサーバー・ディレクトリー **directoryName** からテスト・ファイルを読み込むことができませんでした。

説明

NFS クォーラムのサーバー・ディレクトリーから単純なファイルを読み込むことができないため、**NFS** 環境を使用できません。

オペレーターの応答

ログを確認してください。追加トレース情報を確認する場合は、**NFS** タイ・ブレイカー定義に `Log=2` パラメーターを追加してください。**NFS** インストール済み環境を修正し、**NFS** タイ・ブレイカーを再度アクティブにしてください。

2621-5 2621-554 ノード **nodeName**、ドメイン **domainName** で **ファイル・ロック** 操作がタイムアウトになりました。

説明

NFS タイ・ブレイカーを予約したノードが、予約ファイルの排他的書き込み権限を取得できませんでした。

オペレーターの応答

ロック操作後に失敗した別のノードによって所有されている失効したファ

イル・ロックがあるかどうかを確認してください。

接頭部 2622

2622-0 program_name: 01 2622-001 認識されないフラグ: *flag*。

説明

<program_name> に渡されたフラグまたはフラグの組み合わせが、サポートされないフラグまたは無効なフラグの組み合わせのいずれかでした。

オペレーターの応答

有効なフラグがリストされる使用法ステートメントを参照してください。コマンドを修正し、再入力してください。

2622-0 program_name: 02 2622-002 フラグ「*flag*」はサポートされないオペランド「*operand*」とともに使用できません。

説明

フラグとともに渡されたオペランドはサポートされないか、無効なオペランドまたはオペランドの組み合わせでした。

オペレーターの応答

有効なオペランドがリストされている使用方法を参照してください。コマンドを修正し、再入力してください。

2622-0 program_name: 03 2622-003 フラグ「*flag*」および「*flag or operand*」の組み合わせは使用できません。

説明

指定されたフラグまたはフラグとオペランドの組み合わせは使用できません。

オペレーターの応答

別のフラグを選択するか、オペランドを入力しないでください。有効なフラグ、オペランド、およびフラグとオペランドの組み合わせがリストされている使用方法を参照してください。

2622-0 program_name: 04 2622-004 「*flag*」フラグが必要です。

説明

このコマンドの使用時は、指示されたフラグを指定する必要があります。

オペレーターの応答

コマンド構文を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-0 program_name: 05 2622-005 「*flag*」フラグにはオペランドが必要です。

説明

このコマンドの使用時は、オペランドとともに指示されたフラグを指定する必要があります。

オペレーターの応答

コマンド構文を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-0 program_name: 06 2622-006 リソ

ース・グループが定義されていません。

説明

リソース・グループがありませんでした。

オペレーターの応答

リソース・グループを追加してください。

2622-0 program_name: 07 2622-007 メンバー・リソースが定義されていません。

説明

メンバー・リソースがありませんでした。

オペレーターの応答

グループにメンバー・リソースを追加してください。

2622-0 program_name: 08 2622-008 オペランドの数が無効です。

説明

<program_name> が無効な数のオペランドを使用して呼び出されました。

オペレーターの応答

有効なオペランドがリストされている使用方法を参照してください。コマンドを修正し、再入力してください。

2622-0 program_name: 09 2622-009 予期しない RMC エラーが発生しました。RMC 戻りコードは *rmc_return_code* でした。

説明

RMC CLI スクリプトの呼び出しが予期しないエラーを戻しました。

オペレーターの応答

RMC が操作可能であるかどうかを確認し、コマンドを再試行してください。

2622-0 program_name: 10 2622-010 *error_exit* が予期しない戻りコード *return_code* を受け取りました。

説明

すべての SAM 戻りコードは、適切な SAM CLI (コマンド行インターフェース) 戻りコードに変換されなければなりません。実際の API 戻りコードまたはその他の内部サブルーチン戻りコードが出力されます。これは重大エラーとして取り扱われ、コマンドの処理は停止します。

オペレーターの応答

これは内部スクリプト・エラーで、発生すべきではありません。エレクトロニクス・サポート (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

2622-0 program_name: 11 2622-011 指定された選択文字列「*selection_string*」と一致するリソース・グループがありませんでした。

説明

指定された選択文字列と一致するリソース・グループがありませんでした。

オペレーターへの応答

選択文字列を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-0 program_name: 12 2622-012 リソース・グループ「**resource_group**」は既に存在しています。

説明

指定されたリソース・グループは既に存在しています。

オペレーターへの応答

リソース・グループ名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-0 program_name: 13 2622-013 リソース・グループ「**resource_group**」が存在しません。

説明

指定されたリソース・グループ名が存在しません。

オペレーターへの応答

リソース・グループ名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-0 program_name: 14 2622-014 リソース「**resource_name**」がクラス「**resource_class**」に見つかりません。

説明

指定されたリソースが指定されたクラスに属していません。

オペレーターへの応答

リソースとクラス名の組み合わせを確認し、コマンドを再発行してください。

2622-0 program_name: 15 2622-015 指定されたタイプのリソースがそれぞれのクラスに存在しません。

説明

指定されたすべてのリソースが、それぞれのクラスに見つかりませんでした。

オペレーターへの応答

指定されたタイプのリソースがそれぞれのクラスに属していることを確認し、コマンドを再入力してください。

2622-0 program_name: 16 2622-016 選択文字列「**selection_string**」を使用してクラス「**resource_class**」からリソースを見つけられませんでした。

説明

指定された選択文字列を使用してリソースが見つかりませんでした。

オペレーターへの応答

クラス名と選択文字列の組み合わせを確認し、コマンドを再発行してください。

2622-0 program_name: 17 2622-017 リソース「**resource**」は既にグループ「**resource_group**」のメンバーとして存在していません。

説明

リソースが既にメンバー・リソースとして存在しています。

オペレーターへの応答

アクションは不要です。

2622-0 program_name: 18 2622-018 リソース「**resource**」はリソース・グループ「**resource_group**」のメンバー・リソースではありません。

説明

リソースが、指定されたリソース・グループのメンバー・リソースではありません。

オペレーターへの応答

指定されたリソース・グループに対し、このリソースの追加が必要な可能性があります。

2622-0 program_name: 19 2622-019 指定されたすべてのリソースは既に管理対象リソースです。

説明

すべてのメンバー・リソースが既に管理対象リソースとして存在しています。

オペレーターへの応答

アクションは不要です。

2622-0 program_name: 20 2622-020 指定されたどのリソースもリソース・グループ「**resource_group**」のメンバー・リ

ソースではありません。

説明

すべてのメンバー・リソースが指定されたリソース・グループに属していません。

オペレーターへの応答

これらのリソースをメンバー・リソースとして追加してください。

2622-0 program_name: 21 2622-021 フラグ **flag** は複数入力できません。

説明

ユーザーがオペランドとともに同じフラグを複数回入力しました。

オペレーターへの応答

当該フラグを1回のみ使用してコマンドを再入力してください。

2622-0 program_name: 22 2622-022 指定されたどのリソースも管理対象リソースではありません。

説明

指定されたどのリソースも管理対象リソースとして存在しません。

オペレーターへの応答

リソースを確認し、有効なリソースを使用して再入力してください。

2622-0 program_name: 23 2622-023 リソース「**resource**」は管理対象リソースではありません。

説明

指定されたリソースは管理対象リソースではありません。

オペレーターの応答

リソースを確認し、有効なリソースを使用して再入力してください。

2622-0 program_name: 24 2622-024 -N フラグにはフラグ「**flag1**」、**flag2**」、または「**flag2**」が必要です。

説明

現在のフラグを使用する場合は、3つのフラグのいずれか1つが必要です。

オペレーターの応答

必要なフラグをコマンドに追加し、再試行してください。

2622-0 program_name: 25 2622-025 指定されたソース・リソース「**source_resource**」が存在しません。

説明

指定されたソース・リソース名が指定されたクラスに存在しません。

オペレーターの応答

リソース名とクラス名の組み合わせを確認し、コマンドを再発行してください。

2622-0 program_name: 26 2622-026 指定されたソース選択文字列「**source_string**」と一致するリソ

ースがありませんでした。

説明

指定されたクラスに、指定されたソース選択文字列と一致するリソースがありませんでした。

オペレーターの応答

選択文字列またはクラス名の組み合わせを確認し、コマンドを再発行してください。

2622-0 program_name: 27 2622-027 同一の名前「**source_resource**」を持つ複数の関係が見つかりました。

説明

操作に1つの関係のみが必要なときに、ソースについて複数の関係が戻されました。

オペレーターの応答

照会をより明確にし、コマンドを再発行してください。

2622-0 program_name: 28 2622-028 「**query**」に複数の関係が一致するため名前を変更できません。

説明

選択文字列または照会により、複数のソース・リソースが戻されました。関係名は固有でなければなりません。

オペレーターの応答

選択文字列または照会を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-0 program_name: 29 2622-029 指定された同値「**equivalency**」は既に存在しています。

説明

指定された同値は既に存在しています。

オペレーターの応答

まだ存在していない同値名を使用してコマンドを再入力してください。

2622-0 program_name: 30 2622-030 指定された同値「**equivalency**」が存在しません。

説明

指定された同値が存在しません。

オペレーターの応答

同値名が既に存在することを確認し、コマンドを再発行してください。

2622-0 program_name: 31 2622-031 クラスタにノード「**node_name**」が存在しません。

説明

指定されたノードがクラスタに属していません。

オペレーターの応答

ノード名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-0 program_name: 32 2622-032 リソース・クラス「**class_name**」のリソース「**resource_name**」は、リソース・グループ

「**Resource_group_name**」の許可されたノードにありません。

説明

メンバー・リソースが新規リソース・グループの許可されたノードにありません。

オペレーターの応答

メンバー・リソースは、リソース・グループの許可されたノード・リストに含まれていなければなりません。

2622-0 program_name: 33 2622-033 リソース・グループ「**resource_group**」にはメンバー・リソースがありません。

説明

指定されたリソース・グループ名にはメンバー・リソースが含まれていません。

オペレーターの応答

リソース・グループ名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-0 program_name: 34 2622-034 指定された照会と一致するリソース・グループが見つかりませんでした。

説明

既存のどのリソース・グループも指定された照会と一致しませんでした。

オペレーターの応答

リソース・グループ名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-0 program_name:
35 2622-035 指定された照会と一致するメンバー・リソースが見つかりませんでした。

説明

既存のどのメンバー・リソースも指定された照会と一致しませんでした。

オペレーターの応答

選択文字列またはリソース・グループ名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-0 program_name:
36 2622-036 **actual_error_message**

説明

lsrsrc-api からのエラー・メッセージが表示されません。

オペレーターの応答

エラー・メッセージを確認し、適切な措置をとってください。

2622-0 program_name:
37 2622-037 無効なユーザー・エラー。戻りコードは **return Code** でした。

説明

SAM コマンド行インターフェースのユーザー・エラーです。

オペレーターの応答

エラー・メッセージを確認し、適切な措置をとってください。

2622-0 program_name:
38 2622-038 リソ

ースが見つかりませんでした。戻りコードは **return Code** でした。

説明

リソースが見つかりませんでした。

オペレーターの応答

エラー・メッセージを確認し、適切な措置をとってください。

2622-0 program_name:
39 2622-039 クラス **class_name** のリソースが指定されませんでした。

説明

コマンド行でこのクラスのリソースが指定されていませんでした。

オペレーターの応答

指定されたクラスに関連付けられたリソースを使用して、コマンドを再発行してください。

2622-0 program_name:
40 2622-040 クラス「**resource_class**」からのリソース「**resource_name**」に対して同じタイプの複数のリソースが一致しました。

説明

指定されたリソースに対して、同じリソース・タイプの複数のリソースが見つかりました。

オペレーターの応答

同じタイプのリソースが1つのみ一致することを

確認し、コマンドを再入力してください。

2622-0 program_name:
41 2622-041 リソース・クラス「**resource_class**」のリソースが入力されていませんでした。

説明

コマンドに指定されたクラスのリソースが入力されていませんでした。

オペレーターの応答

リソースを入力し、コマンドを再試行してください。

2622-0 program_name:
42 2622-042 リソース・クラス「**resource_class**」に対して選択文字列が入力されていませんでした。

説明

コマンドに指定されたクラスを選択文字列が入力されていませんでした。

オペレーターの応答

リソースを入力し、コマンドを再試行してください。

2622-0 program_name:
61 2622-061 指定されたリソース・グループの入力ファイル「**input_file_name**」が存在しません。

説明

指定されたリソース・ファイル名が見つかりませんでした。

オペレーターの応答

リソース・グループ・ファイル名が存在することを確認し、コマンドを再入力してください。

2622-0 program_name:
62 2622-062 指定されたリソース・グループの入力ファイル「**input_file_name**」からのリソース・グループの作成に失敗しました。

説明

指定されたリソース・ファイルからのリソース・グループの作成に失敗しました。

オペレーターの応答

これに関連するエラーを修正し、コマンドを再入力してください。

2622-0 program_name:
63 2622-063 指定されたノードがクラスターに存在しません。

説明

指定されたノード名がクラスター内に存在しません。

オペレーターの応答

ノード名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-0 program_name:
81 2622-081 指定されたリソース・グループが見つからないか、除去できませんでした。

説明

指定されたリソース・グループまたは選択文字列と一致する既存のリソース・グループがないか、除去できないものがありました。

オペレーターの応答

リソース・グループが既に存在する場合は、このメッセージに先行して表示されるメッセージで実際の原因を確認してください。

2622-0 program_name: 82 2622-082 リソース・グループ「**resource_group**」が存在しないか、除去できませんでした。

説明

指定されたリソース・グループが見つからないか、見つかっても除去できませんでした。

オペレーターの応答

リソース・グループが既に存在する場合は、このメッセージに先行して表示されるメッセージで実際の原因を確認してください。

2622-0 program_name: 83 2622-083 指定された選択文字列「**selection_string**」と一致するリソース・グループが除去できないか、存在しませんでした。

説明

指定された選択文字列が既存のグループと一致しないか、一致してもそのグループを除去できませんでした。

オペレーターの応答

リソース・グループが既に存在する場合は、このメッセージに先行して表示されるメッセージで実際の原因を確認してください。

2622-1 program_name: 01 2622-101 リソース・グループ「**resource_group**」の属性を変更する必要があります。

説明

chrg コマンドの使用時は、少なくとも1つのリソース・グループ属性を変更する必要があります。

オペレーターの応答

適切なオプションを使用可能にして、リソース・グループの必要な属性を変更してください。

2622-1 program_name: 02 2622-102 複数のリソース・グループ名は変更できません。

説明

一度に変更できるリソース・グループ名は1つのみです。

オペレーターの応答

1つのリソース・グループのみを指定して、コマンドを再発行してください。

2622-1 program_name: 03 2622-103 指定されたリソース・グループが見つからないか、変更できませんでした。

説明

指定されたリソース・グループまたは選択文字列と一致する既存のリソース・グループがないか、変更できないものがありました。

オペレーターの応答

リソース・グループが既に存在する場合は、このメッセージに先行して表示されるメッセージで実際の原因を確認してください。

2622-1 program_name: 04 2622-104 リソース・グループ「**resource_group**」が存在しないか、変更できませんでした。

説明

指定されたリソース・グループが存在しないか、存在しても変更できませんでした。

オペレーターの応答

リソース・グループが既に存在する場合は、このメッセージに先行して表示されるメッセージで実際の原因を確認してください。

2622-1 program_name: 05 2622-105 リソース・グループ「**resource_group**」の許可されたノードをノード「**node_name**」に変更できませんでした。

説明

指定されたリソース・グループのメンバーが指定されたノードにないため、そのグループの許可されたノードを指定されたノードに変更できませんでした。

オペレーターの応答

リソース・グループ・メンバーのすべてのノードを含むノードまたは同値を指定してください。

2622-1 program_name: 06 2622-106 リソース・グループ「**resource_group**」の許可されたノードを同値「**equiv_name**」に変更できませんでした。

説明

指定されたリソース・グループのメンバーが指定された同値内のノードにないため、そのグループの許可されたノードを指定された同値に変更できませんでした。

オペレーターの応答

リソース・グループ・メンバーのすべてのノードを含むノードまたは同値を指定してください。

2622-1 program_name: 07 2622-107 指定されたすべてのリソース・グループの許可されたノードを変更できませんでした。

説明

指定されたリソース・グループのメンバーが指定された同値内のノード(1つ以上)にないため、そのグループの許可されたノードを指定された同値またはノードに変更できませんでした。

オペレーターの応答

リソース・グループ・メンバーのすべてのノードを含むノードまたは同値を指定してください。

2622-1 program_name: 08 2622-108 指定されたノード「`excluded_node`」がリストに存在しません。

説明

指定されたノード名が除外ノード・リストに存在しません。

オペレーターの応答

ノード名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-1 program_name: 09 2622-109 指定されたノード「`excluded_node`」は既にリストに存在しています。

説明

指定されたノード名は既に除外ノード・リストに存在します。

オペレーターの応答

ノード名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-1 program_name: 10 2622-110 指定されたノードがリストに存在しません。

説明

指定されたノード名が除外ノード・リストに存在しません。

オペレーターの応答

ノード名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-1 program_name: 11 2622-111 指定されたノードがクラスターに存在しません。

説明

指定されたノード名がクラスター内に存在しません。

オペレーターの応答

ノード名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-1 program_name: 12 2622-112 指定されたすべてのノードが既にリストに存在しています。

説明

指定されたすべてのノードが既に除外ノード・リストに存在します。

オペレーターの応答

ノード名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-1 program_name: 13 2622-113 新しい `ExcludedList` に変更するために指定されたグループが多すぎます。

説明

除外ノード・リスト属性を変更するために指定できるグループ名は1つのみです。

オペレーターの応答

グループ名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-1 program_name: 21 2622-121 リソース・クラス「`resource_class`」のリソースが入力されていませんでした。

説明

コマンドに指定されたクラスのリソースが入力されていませんでした。

オペレーターの応答

リソースを入力し、コマンドを再試行してください。

2622-1 program_name: 22 2622-122 リソース・クラス「`resource_class`」に対して選択文字列が入力されていませんでした。

説明

コマンドに指定されたクラスの選択文字列が入力されていませんでした。

オペレーターの応答

選択文字列を入力し、コマンドを再試行してください。

2622-1 program_name: 23 2622-123 指定されたメンバー・リソースはリソース・グループ「`resource_group`」の許可されたノードに含まれていません。

説明

指定されたすべてのリソースが、新規リソース・グループの許可されたノード・リストに含まれていません。

オペレーターの応答

メンバー・リソースは、リソース・グループの許可されたノード・リストに含まれていなければなりません。

2622-1 program_name: 24 2622-124 指定された管理対象リソースの入力ファイル「`input_file_name`」が存在しません。

説明

指定されたリソース・ファイル名が見つかりませんでした。

オペレーターの応答

管理対象リソース・ファイル名が存在することを確認し、コマンドを再入力してください。

2622-1 program_name: 25 2622-125 指定された管理対象リソースの入力ファイル「`input_file_name`」からのリソースの作成に失敗しました。

説明

指定されたリソース・ファイルからのリソースの作成に失敗しました。

オペレーターの応答

これに関連するエラーを修正し、コマンドを再入力してください。

2622-1 program_name: 26 2622-126 指定されたノードがクラスターに存在しません。

説明

指定されたノード名がクラスター内に存在しません。

オペレーターの応答

ノード名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-1 program_name:
27 2622-127 固定リソース
「**resource_name**」は **ExcludedList** の保持を許可されていません。

説明

指定された固定リソースは移動できないため、**ExcludedList** を保持できません。

オペレーターの応答

すべての固定リソースを **ExcludedList** なしで追加してください。

2622-1 program_name:
28 2622-128 指定された管理対象リソースは作成されませんでした。

説明

指定された管理対象リソースは固定リソースであったため、作成されませんでした。

オペレーターの応答

すべての固定リソースを **ExcludedList** または **Policy** なしで追加してください。

2622-1 program_name:
41 2622-141 リソース・クラス「**resource_class**」のリソースが入力されていませんでした。

説明

コマンドに指定されたクラスのリソースが入力されていませんでした。

オペレーターの応答

リソースを入力し、コマンドを再試行してください。

2622-1 program_name:
42 2622-142 リソース・クラス「**resource_class**」に対して選択文字列が入力されていませんでした。

説明

コマンドに指定されたクラスの選択文字列が入力されていませんでした。

オペレーターの応答

リソースを入力し、コマンドを再試行してください。

2622-1 program_name:
61 2622-161 メンバー・リソースの属性を変更する必要があります。

説明

chrgmbr コマンドの使用時は、少なくとも1つのメンバー・リソース属性を変更する必要があります。

オペレーターの応答

適切なオプションを使用可能にして、リソース・グループの必要な属性を変更してください。

2622-1 program_name:
62 2622-162 リソース・クラス「**resource_class**」のリソースが入力されていませんでした。

説明

コマンドに指定されたクラスのリソースが入力されていませんでした。

オペレーターの応答

リソースを入力し、コマンドを再試行してください。

2622-1 program_name:
63 2622-163 リソース・クラス「**resource_class**」に対して選択文字列が入力されていませんでした。

説明

コマンドに指定されたクラスの選択文字列が入力されていませんでした。

オペレーターの応答

リソースを入力し、コマンドを再試行してください。

2622-1 program_name:
64 2622-164 指定されたメンバー・リソースはリソース・グループ「**resource_group**」の許可されたノードに含まれていません。

説明

指定されたすべてのリソースが、新規リソース・グループの許可されたノード・リストに含まれていません。

オペレーターの応答

メンバー・リソースは、リソース・グループの許可されたノード・リストに含まれていなければなりません。

2622-1 program_name:
65 2622-165 指定

されたノード「**excluded_node**」がリストに存在しません。

説明

指定されたノード名が除外ノード・リストに存在しません。

オペレーターの応答

ノード名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-1 program_name:
66 2622-166 指定されたノード「**excluded_node**」は既にリストに存在しています。

説明

指定されたノード名は既に除外ノード・リストに存在します。

オペレーターの応答

ノード名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-1 program_name:
67 2622-167 指定されたノードがリストに存在しません。

説明

指定されたノード名が除外ノード・リストに存在しません。

オペレーターの応答

ノード名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-1 program_name:
68 2622-168 指定されたノードがクラスターに存在しません。

説明

指定されたノード名がクラスター内に存在しません。

オペレーターの応答

ノード名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-1 program_name: 69 2622-169 指定されたすべてのノードが既にリストに存在しています。

説明

指定されたすべてのノードが既に除外ノード・リストに存在します。

オペレーターの応答

ノード名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-1 program_name: 70 2622-170 新しい **ExcludedList** に変更するために指定されたリソースが多すぎます。

説明

除外ノード・リスト属性を変更するために指定できるリソースは1つのみです。

オペレーターの応答

リソース数を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-1 program_name: 71 2622-171 固定リソース「**resource_name**」は **ExcludedList** または **Policy** を保持できません。

説明

指定された固定リソースは移動できないため、**ExcludedList** または **SelectFromPolicy** を保持できません。

オペレーターの応答

すべての固定リソースを **ExcludedList** または **Policy** なしで変更してください。

2622-1 program_name: 72 2622-172 指定された管理対象リソースは作成されませんでした。

説明

指定された管理対象リソースは固定リソースであったため、作成されませんでした。

オペレーターの応答

すべての固定リソースを **ExcludedList** または **Policy** なしで変更してください。

2622-1 program_name: 81 2622-181 指定されたソース・リソース **source_resource** はメンバー・リソースではありません。

説明

指定されたソース・リソースはメンバー・リソースではありません。

オペレーターの応答

ソースがメンバー・リソースであることを確認し、コマンドを再発行してください。

2622-1 program_name: 82 2622-182 選択文字列「**source_string**」と一致する指定されたソース・リソースはメンバー・リソースではありません。

説明

選択文字列と一致する指定されたソース・リソースは、メンバー・リソースではありません。

オペレーターの応答

ソースがメンバー・リソースであることを確認し、コマンドを再発行してください。

2622-1 program_name: 83 2622-183 ソース・リソース「**source_resource**」は既に存在しています。

説明

ソース・リソースの作成時に、既存のソース・リソースが存在してはなりません。

オペレーターの応答

chrel を使用し、このソース・リソースに関連する関係を変更してください。

2622-1 program_name: 84 2622-184 選択文字列「**source_resource**」と一致するソース・リソースが既に存在しています。

説明

ソース・リソースの作成時に、既存のソース・リソースが存在してはなりません。

オペレーターの応答

chrel を使用し、このソース・リソースに関連する関係を変更してください。

2622-1 program_name: 85 2622-185 指定されたソース・リソースが存在しません。

説明

ソース・リソースがありませんでした。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-1 program_name: 86 2622-186 指定されたターゲット・リソースが存在しません。

説明

ターゲット・リソースがありませんでした。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-1 program_name: 87 2622-187 「**source**」に複数のソース・リソースが一致しました。

説明

指定されたソース名に複数のソースが一致しました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-1 program_name: 88 2622-188 **class_name** クラスについて、選択文字列「**selection_string**」に複数のソ

ス・リソースが一致しました。

説明

ソース選択文字列に複数のソースが一致しました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-1 program_name: 89 2622-189 関係「*relationship*」には指定された条件は使用できません。

説明

条件を保持できるのは位置関係のみです。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-1 program_name: 90 2622-190 指定された管理対象関係の入力ファイル「*input_file_name*」が存在しません。

説明

指定された管理対象リソース・ファイル名が見つかりませんでした。

オペレーターの応答

管理対象関係ファイル名が存在することを確認し、コマンドを再入力してください。

2622-1 program_name: 91 2622-191 指定された関係の入力ファイル「*input_file_name*」からのリソースの作成に失敗しました。

説明

指定された関係の入力ファイルからのリソースの作成に失敗しました。

オペレーターの応答

これに関連するエラーを修正し、コマンドを再入力してください。

2622-2 program_name: 01 2622-201 照会「*source_query*」と一致する関係がありませんでした。

説明

ソース照会は既存の関係と一致しませんでした。

オペレーターの応答

照会を確認し、コマンドを再実行してください。

2622-2 program_name: 02 2622-202 選択文字列「*selection_string*」と一致するソース「*source*」に対して定義された関係がありません。

説明

ソース・リソースには定義済みの関係がなければなりません。

オペレーターの応答

mkrel を使用し、このソース・リソースに関連する関係を作成してください。

2622-2 program_name: 03 2622-203 指定されたターゲット・リソースが存在しません。

説明

ターゲット・リソースがありませんでした。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-2 program_name: 04 2622-204 指定されたターゲット・リソースにはソースとの関係が保持されていません。

説明

指定されたターゲット・リソースはソースとの関係を保持していませんでした。

オペレーターの応答

ソースに対して既存のターゲット・リソースを使用してコマンドを再入力してください。

2622-2 program_name: 05 2622-205 指定されたすべてのターゲット・リソースには既にソースとの関係が保持されていません。

説明

指定されたターゲット・リソースは既にソースとの関係を保持しています。

オペレーターの応答

ソースに対してまだ存在していないターゲット・リソースを使用して、コマンドを再入力してください。

2622-2 program_name: 06 2622-206 ターゲット・リソース *target_resource* にはすでにソー

スとの関係が保持されています。

説明

ターゲット・リソースは既にソースとの関係を保持しています。

オペレーターの応答

ターゲット・リソースの削除オプションを使用してターゲットを除去するか、何も行わないでください。

2622-2 program_name: 07 2622-207 ターゲット・リソース「*target_resource*」にはソースとの関係が保持されていません。

説明

ターゲット・リソースはソースとの関係を保持していません。

オペレーターの応答

mkrel を使用し、このソース・リソースに関連する関係を作成してください。

2622-2 program_name: 08 2622-208 関係に対して少なくとも **1** つの変更が必要です。

説明

コマンドによる変更が要求されていません。

オペレーターの応答

chrel を使用し、このソース・リソースに関連する関係の **1** つ以上の属性を変更してください。

2622-2 program_name: 09 2622-209 選択文字列「*selection_string*」と一致するソー

スに対して定義された関係がありません。

説明

選択文字列が関係と一致していませんでした。

オペレーターの応答

mkrel を使用し、このソース・リソースに関連する関係を作成してください。

2622-2 program_name: 10 **2622-210** 選択文字列「*selection_string*」と一致する関係がありませんでした。

説明

選択文字列が関係と一致していませんでした。

オペレーターの応答

少なくとも1つの関係と一致するストリングを指定してコマンドを再入力してください。

2622-2 program_name: 11 **2622-211** 管理対象関係「*managed_relation*」が関係として存在していません。

説明

指定された管理対象関係が存在しません。

オペレーターの応答

既存の管理対象関係を指定してコマンドを再入力してください。

2622-2 program_name: 12 **2622-212** 照会されたターゲット・リソースが存在しません。

説明

関係を照会するために使用されたターゲット・リソースが存在しません。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-2 program_name: 13 **2622-213** 指定されたソース・リソースが存在しません。

説明

ソース・リソースがありませんでした。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-2 program_name: 14 **2622-214** 関係「*relationship*」には指定された条件は使用できません。

説明

条件を保持できるのは位置関係のみです。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-2 program_name: 21 **2622-221** 照会「*source_query*」と一致する関係がありませんでした。

説明

ソース照会は既存の関係と一致していませんでした。

オペレーターの応答

照会を確認し、コマンドを再実行してください。

2622-2 program_name: 22 **2622-222** 選択

文字列

「*selection_string*」と一致するソース・リソース「*source*」に対して定義された関係がありません。

説明

ソース・リソースには定義済みの関係がなければなりません。

オペレーターの応答

mkrel を使用し、このソース・リソースに関連する関係を作成してください。

2622-2 program_name: 23 **2622-223** 指定されたソース・リソースに対して定義された関係がありません。

説明

ソース・リソースには定義済みの関係がなければなりません。

オペレーターの応答

mkrel を使用し、このソース・リソースに関連する関係を作成してください。

2622-2 program_name: 24 **2622-224** 選択文字列「*selection_string*」と一致する管理対象関係がありませんでした。

説明

選択文字列が管理対象関係と一致していませんでした。

オペレーターの応答

少なくとも1つの管理対象関係と一致するストリングを指定してコマンドを再入力してください。

2622-2 program_name: 25 **2622-225** 指定された関係「*relation_name_s*」が存在しません。

説明

指定されたすべての管理対象関係が存在しません。

オペレーターの応答

少なくとも1つの既存の管理対象関係を指定してコマンドを再入力してください。

2622-2 program_name: 26 **2622-226** 指定された照会対象のターゲット・リソースが存在しません。

説明

関係を照会するために使用されたターゲット・リソースが存在しません。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-2 program_name: 27 **2622-227** 指定されたソース・リソースが存在しません。

説明

ソース・リソースがありませんでした。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-2 program_name: 28 **2622-228** 関係「*relation_name*」が存在しないか、除去できませんでした。

説明

指定された関係が存在しないか、存在しても除去できませんでした。

オペレーターの応答

関係が既に存在する場合は、このメッセージに先行して表示されるメッセージで実際の原因を確認してください。

2622-2 program_name: 29 **2622-229** 指定された関係が見つからないか、除去できませんでした。

説明

指定された関係または選択文字列が既存の関係と一致しないか、除去できないものがありました。

オペレーターの応答

実際の原因については、このメッセージに先行して表示されるメッセージを確認してください。

2622-2 program_name: 61 **2622-261** 指定された「**option_flag**」フラグ付きの **logicdeck** ファイル「**logicdeck_filename**」が存在しません。

説明

指定された **logicdeck** ファイル名が指定されたロケーションに存在しません。

オペレーターの応答

logicdeck ファイル名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-2 program_name: 62 **2622-262** SAM 制御に対して少なくとも **1** つの変更が必要です。

説明

コマンドによる変更が要求されていません。

オペレーターの応答

適切な **samctrl** フラグを指定して、**1** つ以上の SAM 制御属性を変更してください。

2622-2 program_name: 63 **2622-263** 指定されたノード「**excluded_node**」がリストに存在しません。

説明

指定されたノード名が除外ノード・リストに存在しません。

オペレーターの応答

ノード名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-2 program_name: 64 **2622-264** 指定されたノード「**excluded_node**」は既にリストに存在しています。

説明

指定されたノード名は既に除外ノード・リストに存在します。

オペレーターの応答

ノード名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-2 program_name: 65 **2622-265** 指定されたノードがリストに存在しません。

説明

指定されたノード名が除外ノード・リストに存在しません。

オペレーターの応答

ノード名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-2 program_name: 66 **2622-266** 指定されたノードがクラスターに存在しません。

説明

指定されたノード名がクラスター内に存在しません。

オペレーターの応答

ノード名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-2 program_name: 67 **2622-267** 指定されたすべてのノードが既にリストに存在しています。

説明

指定されたすべてのノードが既に除外ノード・リストに存在します。

オペレーターの応答

ノード名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-2 program_name: 68 **2622-268** 指定されたエンジン・アクションが失敗しました。

説明

指定されたエンジン・アクションが正常に処理されませんでした。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-2 Program_name: 69 **2622-269** マイグレーション・アクションが戻りコード「**return_code**」で失敗しました。

説明

指定された移行アクションが正常に処理されませんでした。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-2 Program_name: 70 **2622-270** ライセンスのインストール・アクションが戻りコード「**return_code**」で失敗しました。

説明

「ライセンスのインストール」アクションが正常に処理されませんでした。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-2 program_name: 71 **2622-271** 指定されたライセンス・ファイル「**FileName**」が存在しません。

説明

ライセンス・ファイルが指定されたロケーションに見つかりませんでした。

オペレーターの応答

有効なファイル名を指定してコマンドを再入力してください。

2622-2 program_name: 72 2622-272 指定されたパブリッシャー「`publisher_name`」を使用できません。

説明

パブリッシャーが `Issamctrl` `EnablePublisher` のリスト内にありません。

オペレーターの応答

有効なパブリッシャーを指定してコマンドを再入力してください。

2622-2 Program_name: 73 2622-273 戻りコード「`return_code`」で、ポスト・マイグレーション・スクリプト「`script_name`」が失敗しました。

説明

指定されたポスト・マイグレーション・スクリプトが正常に処理されませんでした。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-2 program_name: 81 2622-281 指定された同値の入力ファイル「`input_file_name`」が存在しません。

説明

指定された同値ファイル名が見つかりませんでした。

オペレーターの応答

同値ファイル名が存在することを確認し、コマンドを再入力してください。

2622-2 program_name: 82 2622-282 リソース・クラス「`resource_class`」のリソースが入力されていませんでした。

説明

コマンドに指定されたクラスのリソースが入力されていませんでした。

オペレーターの応答

リソースを入力し、コマンドを再実行してください。

2622-2 program_name: 83 2622-283 リソース・クラス「`resource_class`」に対して選択文字列が入力されていませんでした。

説明

コマンドに指定されたクラスの選択文字列が入力されていませんでした。

オペレーターの応答

リソースを入力し、コマンドを再実行してください。

2622-2 program_name: 84 2622-284 オプション「`option_flag`」が設定されている場合、属性 `SelectFromPolicy` では、`Any` 以外の値は許可されません。

説明

`SelectFromPolicy Any` を使用して選択文字列が入力されていませんでした。

オペレーターの応答

`SelectFromPolicy Any` を使用して同値の作成を再試行してください。

2622-2 program_name: 85 2622-285 指定された同値の入力ファイル「`input_file_name`」からのリソースの作成に失敗しました。

説明

指定された同値の入力ファイルからのリソースの作成に失敗しました。

オペレーターの応答

これに関連するエラーを修正し、コマンドを再入力してください。

2622-2 program_name: 86 2622-286 同値「`equivalency_name`」に対して指定されたすべてのメンバーが浮動リソースです。

説明

指定されたすべてのメンバーが浮動リソースですが、同値の規則により、同値のメンバーとして浮動リソースを含めることはできません。

オペレーターの応答

同値のメンバーとして、少なくとも1つの固定リソースを追加してください。

2622-2 program_name: 87 2622-287 同値「`equivalency_na`

`me`」に対して指定されたすべてのメンバーが浮動/並行リソースです。

説明

指定されたすべてのメンバーが浮動/並行リソースですが、同値の規則により、同値のメンバーとして浮動/並行リソースを含めることはできません。

オペレーターの応答

同値のメンバーとして、少なくとも1つの固定リソースを追加してください。

2622-3 program_name: 01 2622-301 同値「`equivalency`」には既に定義済みの `SelectString` があります。

説明

既に定義済みの選択文字列があるため、追加機能または削除機能を使用できません。

オペレーターの応答

コマンドの上書き機能を使用してみてください。

2622-3 program_name: 02 2622-302 同値「`equivalency`」は変更されませんでした。

説明

指定された同値は変更されませんでした。

オペレーターの応答

このエラーに先行して表示される情報に基づいてコマンドを再入力してください。

2622-3 program_name: 03 2622-303 同値「*equivalency*」に対して少なくとも**1**つの変更が必要です。

説明

このコマンドの使用時は、変更を行う必要があります。

オペレーターの応答

コマンドの発行時に、同値に対する変更を指定してください。

2622-3 program_name: 04 2622-304 リソース・クラス「*resource_class*」のリソースが入力されていませんでした。

説明

コマンドに指定されたクラスのリソースが入力されていませんでした。

オペレーターの応答

リソースを入力し、コマンドを再試行してください。

2622-3 program_name: 05 2622-305 リソース・クラス「*resource_class*」に対して選択文字列が入力されていませんでした。

説明

コマンドに指定されたクラスの選択文字列が入力されていませんでした。

オペレーターの応答

リソースを入力し、コマンドを再試行してください。

2622-3 program_name: 06 2622-306 オプション「*option_flag*」では**Any**以外のポリシーは使用できません。

説明

SelectFromPolicy Any を使用して選択文字列が入力されていませんでした。

オペレーターの応答

ポリシー Any を使用して同値の変更を再試行してください。

2622-3 program_name: 07 2622-307 同値「*equivalency*」が存在しないか、変更できませんでした。

説明

指定された同値が存在しないか、存在しても変更できませんでした。

オペレーターの応答

同値が既に存在する場合は、このメッセージに先行して表示されるメッセージで実際の原因を確認してください。

2622-3 program_name: 08 2622-308 同値「*equivalency_name*」に対して指定されたすべてのメンバーが浮動リソースです。

説明

指定されたすべてのメンバーが浮動リソースですが、同値の規則により、同値のメンバーとして浮動リソースを含めることはできません。メンバーは更新されず、そのままになります。

オペレーターの応答

同値のメンバーとして、少なくとも**1**つの固定リソースを追加してください。

2622-3 program_name: 21 2622-321 指定された同値が見つからないか、除去できませんでした。

説明

指定された同値が見つからないか、除去できませんでした。

オペレーターの応答

実際の原因については、このメッセージに先行して表示されるメッセージを確認してください。

2622-3 program_name: 22 2622-322 同値「*equivalency*」が存在しないか、除去できませんでした。

説明

指定された同値が存在しないか、存在しても除去できませんでした。

オペレーターの応答

同値が既に存在する場合は、このメッセージに先行して表示されるメッセージで実際の原因を確認してください。

2622-3 program_name: 23 2622-323 選択文字列「*selection_string*」と一致する同値がありませんでした。

説明

指定された選択文字列と一致する同値がありませんでした。

オペレーターの応答

同値選択文字列を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-3 program_name: 41 2622-341 照会「*source_Query*」と一致する関係がありませんでした。

説明

ソース照会は既存の関係と一致しませんでした。

オペレーターの応答

照会を確認し、コマンドを再実行してください。

2622-3 program_name: 42 2622-342 選択文字列「*selection_string*」と一致する関係が定義されていません。

説明

選択文字列が既存の関係と一致しませんでした。

オペレーターの応答

mkrel を使用してこの関係を作成してください。

2622-3 program_name: 43 2622-343 管理対象関係「*selection_string*」が存在しません。

説明

指定された管理対象関係が存在しません。

オペレーターの応答

既存の管理対象関係を指定してコマンドを再入力してください。

2622-3 program_name: 44 2622-344 関係が定義されていません。

説明

現在定義されている管理対象関係がありません。

オペレーターの応答

既存の管理対象関係を指定してコマンドを再入力してください。

2622-3 program_name: 45 2622-345 指定されたターゲット選択文字列「**target_string**」と一致するリソースがありませんでした。

説明

指定されたクラスに、指定されたターゲット選択文字列と一致するリソースがありませんでした。

オペレーターの応答

選択文字列またはクラス名の組み合わせを確認し、コマンドを発行してください。

2622-3 program_name: 46 2622-346 指定されたターゲット・リソース「**target_resource**」が存在しません。

説明

指定されたリソースが指定されたクラスに見つかりませんでした。

オペレーターの応答

リソースを確認し、コマンドを再発行してください。

2622-3 program_name: 47 2622-347 指定された照会対象のターゲット・リソースが存在しません。

説明

関係を照会するために使用されたターゲット・リソースが、関係内に存在しません。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-3 program_name: 48 2622-348 指定された関係が存在しません。

説明

指定された関係が存在しません。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-3 program_name: 49 2622-349 指定されたソース・リソースが存在しません。

説明

ソース・リソースがありませんでした。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-3 program_name: 61 2622-361 選択文字列「**selection_string**」と一致する同値が定義されていません。

説明

選択文字列と一致する同値がありませんでした。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-3 program_name: 62 2622-362 同値「**equivalency**」が存在しません。

説明

指定された同値が存在しません。

オペレーターの応答

既存の同値を指定してコマンドを再入力してください。

2622-3 program_name: 63 2622-363 同値が定義されていません。

説明

現在定義されている同値がありません。

オペレーターの応答

既存の同値の作成後にコマンドを再入力してください。

2622-3 Program_name: 81 2622-381 ライセンスのリスト・アクションが戻りコード「**return_code**」で失敗しました。

説明

「ライセンスのリスト」アクションが正常に処理されませんでした。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-4 program_name: 01 2622-401 リソース・クラス「**resource_class**」のリソースが入力されていませんでした。

説明

コマンドに指定されたクラスのリソースが入力されていませんでした。

オペレーターの応答

リソースを入力し、コマンドを再実行してください。

2622-4 program_name: 02 2622-402 **Samdiag** アクションが戻りコード「**error_code**」で失敗しました。

説明

Samdiag アクションが指定されたリソースの情報に失敗しました。

オペレーターの応答

関連するエラー・メッセージまたは戻りコードを参照し、それらのメッセージに基づいてコマンドを再実行してください。

2622-4 program_name: 03 2622-403 リソース・ハンドル「**resource_handle**」を解決できませんでした。

説明

情報を獲得するために使用されたリソース・ハンドルは、実際のリソースに解決できませんでした。

オペレーターの応答

存在するリソース・ハンドルを入力してください。

2622-4 program_name: 21 2622-421 Samcfg アクションが戻りコード「error_code」で失敗しました。

説明

Samcfg アクションが特定の理由で失敗しました。

オペレーターの応答

関連するエラー・メッセージまたは戻りコードを参照し、それらのメッセージに基づいてコマンドを再実行してください。

2622-4 program_name: 22 2622-422 指定されたファイル「resource_handler」は SAM 構成のファイル・フォーマットではありません。

説明

コマンドに関連するファイルが、SAM 構成用に設計されたフォーマットではない可能性があります。

オペレーターの応答

可能な場合はファイルのフォーマットを修正し、そのファイルを使用してコマンドを再実行してください。

2622-4 program_name: 23 2622-423 ファイル「FileName」に無効なコマンド「Command」があります。

説明

構成ファイル内にあるコマンドが無効です。

オペレーターの応答

ファイルのエントリを修正し、コマンドを再実行してください。

2622-4 program_name: 24 2622-424 指定されたファイル「FileName」が見つかりません。

説明

構成ファイルが指定されたロケーションに見つかりませんでした。

オペレーターの応答

ファイルの正しいパスを入力し、コマンドを再実行してください。

2622-4 program_name: 25 2622-425 このノードのすべてのクラスターがオンラインになっていません。

説明

このノードで定義されているすべてのクラスターがオンラインになっていません。

オペレーターの応答

クラスター内でこのノードをオンラインにし、コマンドを再実行してください。

2622-4 program_name: 26 2622-426 指定されたファイル「FileName」が存在しません。

説明

復元ファイルが指定されたロケーションに見つかりませんでした。

オペレーターの応答

有効なファイル名を指定してコマンドを再入力してください。

2622-4 program_name: 27 2622-427 指定されたファイル「FileName」に SAM コマンドが含まれていませんでした。

説明

復元ファイルに SAM コマンドが含まれていませんでした。

オペレーターの応答

SAM コマンドを含む有効なファイル名を指定して、コマンドを再入力してください。

2622-4 program_name: 28 2622-428 ファイル「FileName」からの復元時に、ユーザー・プロンプトの待機中にタイムアウトになりました。

説明

修復を継続するためのプロンプトが出されているときに、ユーザーが 90 秒間応答しませんでした。

オペレーターの応答

コマンドを再入力し、プロンプトが出されたときは迅速に回答してください。

2622-4 program_name: 29 2622-429 指定されたファイル「FileName」のオープン時にエラーが発生しました: Error。

説明

指定されたファイルをオープンできませんでした。

オペレーターの応答

エラーで示されている問題の解決後に、コマンドを再入力してください。

2622-4 program_name: 41 2622-441 Samdvs アクションが戻りコード「error_code」で失敗しました。

説明

Samdvs アクションが指定されたリソースの情報の獲得に失敗しました。

オペレーターの応答

関連するエラー・メッセージまたは戻りコードを参照し、それらのメッセージに基づいてコマンドを再実行してください。

2622-4 program_name: 42 2622-442 指定された入力ファイル「input_filename」が存在しません。

説明

指定された DVS 入力ファイルが、指定されたロケーションに見つかりませんでした。

オペレーターの応答

DVS ファイルが存在することを確認し、コマンドを再入力してください。

2622-4 program_name: 43 2622-443 指定された出力ファイル「DVS_Outputfile」は既に存在し、

上書きされませんでした。

説明

指定された DVS 出力ファイルは、指定されたロケーションに既に存在し、上書きされませんでした。

オペレーターの応答

プロンプトが出されたら、DVS ファイルが存在しないことまたは上書きされることを確認し、コマンドを再入力してください。

2622-4 program_name:
44 2622-444 戻りコード
「*return_code*」で、指定されたファイル
「*filename*」のオープンに失敗しました。

説明

指定された DVS ファイルのオープンに失敗しました。

オペレーターの応答

この失敗の理由を示すエラー・メッセージを見つけるために、トレース・オプションを使用してコマンドを再試行してください。可能な場合は修正し、コマンドを再入力してください。

2622-4 program_name:
45 2622-445 戻りコード
「*return_code*」で、指定されたファイル
「*filename*」のクローズに失敗しました。

説明

指定された DVS ファイルのクローズに失敗しました。

オペレーターの応答

この失敗の理由を示すエラー・メッセージを見つけるために、トレース・オプションを使用してコマンドを再試行してください。可能な場合は修正し、コマンドを再入力してください。

2622-4 program_name:
46 2622-446 戻りコード
「*return_code*」で、指定されたファイル
「*filename*」への書き込みに失敗しました。

説明

指定された DVS ファイルへの書き込みに失敗しました。

オペレーターの応答

この失敗の理由を示すエラー・メッセージを見つけるために、トレース・オプションを使用してコマンドを再試行してください。可能な場合は修正し、コマンドを再入力してください。

2622-4 program_name:
61 2622-461 移動アクションでなければなりません。

説明

これは移動アクションでなければなりません。

オペレーターの応答

要求を移動アクションとして再入力してください。

2622-4 program_name:
62 2622-462 名前
「*node_name*」は有効なノード名ではありません。

説明

指定されたノード名は有効なノードではありません。

オペレーターの応答

有効なノード名を指定してコマンドを再発行してください。

2622-4 program_name:
63 2622-463 リソース・グループへの要求アクションが戻りコード
「*error_code*」で失敗しました。

説明

指定されたリソース・グループへの要求アクションが失敗しました。

オペレーターの応答

関連するエラー・メッセージまたは戻りコードを参照し、それらのメッセージに基づいてコマンドを再実行してください。

2622-4 program_name:
81 2622-481 移動アクションでなければなりません。

説明

これは移動アクションでなければなりません。

オペレーターの応答

要求を移動アクションとして再入力してください。

2622-4 program_name:
82 2622-482 名前
「*node_name*」は

有効なノード名ではありません。

説明

指定されたノード名は有効なノードではありません。

オペレーターの応答

有効なノード名を指定してコマンドを再発行してください。

2622-4 program_name:
83 2622-483 管理対象リソースへの要求アクションが戻りコード
「*error_code*」で失敗しました。

説明

指定された管理対象リソースへの要求アクションが失敗しました。

オペレーターの応答

関連するエラー・メッセージまたは戻りコードを参照し、それらのメッセージに基づいてコマンドを再実行してください。

2622-4 program_name:
84 2622-484 リソース・クラス
「*resource_class*」のリソースが入力されていませんでした。

説明

コマンドに指定されたクラスのリソースが入力されていませんでした。

オペレーターの応答

リソースを入力し、コマンドを再試行してください。

2622-4 program_name:
85 2622-485 リソース・クラス

「**resource_class**」に対して選択文字列が入力されていませんでした。

説明

コマンドに指定されたクラスの選択文字列が入力されていませんでした。

オペレーターの応答

選択文字列を入力し、コマンドを再試行してください。

2622-4 program_name: 86 2622-486 管理対象リソースに対して移動アクションは許可されていません。

説明

管理対象リソースに対して要求する場合、移動アクションは許可されません。

オペレーターの応答

リソース・グループに適用できるのは移動のみです。

2622-5 program_name: 01 2622-501 リソース・クラス「**resource_class**」のリソースが入力されていませんでした。

説明

コマンドに指定されたクラスのリソースが入力されていませんでした。

オペレーターの応答

リソースを入力し、コマンドを再試行してください。

2622-5 program_name: 02 2622-502 リソース・クラス「**resource_class**」

に対して選択文字列が入力されていませんでした。

説明

コマンドに指定されたクラスの選択文字列が入力されていませんでした。

オペレーターの応答

リソースを入力し、コマンドを再試行してください。

2622-5 program_name: 03 2622-503 リスト要求アクションが戻りコード「**error_code**」で失敗しました。

説明

指定された管理対象リソースへのリスト要求アクションが失敗しました。

オペレーターの応答

関連するエラー・メッセージまたは戻りコードを参照し、それらのメッセージに基づいてコマンドを再実行してください。

2622-5 program_name: 19 2622-519 オンライン・ドメインが見つかりませんでした。

説明

オンライン・ドメインとオンライン・ノードが見つかりませんでした。

オペレーターの応答

ドメインを開始します。

2622-5 program_name: 21 2622-521 **fields_found** シミュレーション・データ・フィールドを検出しまし

た。ここで、**fields_expected** は **file_name** の行番号 **line_number** にあることが予想されていました。

説明

シミュレーション入力データの行に、必要とされるよりも多くの、または少ないデータ・フィールドが含まれています。

オペレーターの応答

欠落しているデータ・フィールドを追加するか、余分なデータ・フィールドを削除してから、コマンドを再試行してください。

2622-5 program_name: 22 2622-522 **file_name** の行番号 **line_number** で無効な優先順位コード「**priority**」が検出されました。有効値は、「**low**」、「**high**」、および「**force**」です。

説明

シミュレーション入力データの行に無効な優先順位コードが含まれています。

オペレーターの応答

誤った優先順位コードを訂正して、コマンドを再試行してください。

2622-5 program_name: 23 2622-523 **file_name** の行番号 **line_number** で無効なアクション・コード「**action**」が検出されました。有効な値は、「**noop**」、「**start**」、

「**stop**」、「**move**」、「**cancel**」、「**failed**」、「**online**」、および「**offline**」です。

説明

シミュレーション入力データの行に無効なアクション・コードが含まれています。

オペレーターの応答

誤ったアクション・コードを訂正して、コマンドを再試行してください。

2622-5 program_name: 24 2622-524 **file_name** でシミュレーション入力データが見つかりません。

説明

シミュレーション入力データに、非コメントかつ空以外の行が含まれていません。

オペレーターの応答

有効なシミュレーション・データを入力データとして実行依頼して、コマンドを再試行してください。

2622-5 program_name: 25 2622-525 **samsimul** アクションが戻りコード「**error_code**」で失敗しました。

説明

samsimul アクションは、シミュレーション入力データの実行依頼、およびシミュレーションの結果の検索に失敗しました。

オペレーターの応答

関連するエラー・メッセージまたは戻りコードを参

照し、それらのメッセージに基づいてコマンドを再実行してください。

2622-5 program_name:
26 2622-526

samsimul アクションの実行中に予期しない出力が発行されました。

説明

samsimul アクションは、期待される形式の出力を戻すことができませんでした。

オペレーターの応答

これは内部スクリプト・エラーで、発生すべきではありません。エレクトロニック・サポート (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

2622-5 program_name:
41 2622-541 定義されたリソース・グループがないか、クラスターがオフラインです!

説明

現在、定義されたリソース・グループがないか、クラスターがオフラインです。

オペレーターの応答

リソース・グループを定義するか、クラスターをオンラインにしてください。

2622-5 program_name:
61 2622-561

java_path で Java ランタイムが見つかりませんでした。

説明

Java ランタイムが、指定されたロケーションに見つかりませんでした。

オペレーターの応答

インストールが正常に完了したことを検査し、ユーザー ID にそのロケーションへの十分なアクセス権限があることを検査してください。

2622-5 program_name:
62 2622-562 オンライン中のドメインはありません。

説明

オンライン・ドメインが見つからないため、プログラムを実行できません。

オペレーターの応答

ドメインを開始します。その後、再びコマンドを発行します。

2622-5 program_name:
72 2622-572 誤ったオプション

option_specified が指定されました。

説明

指定されたオプションが無効です。

オペレーターの応答

使用法ステートメントに表示されている有効なオプションを使用して、コマンドを再実行します。

2622-5 program_name:
73 2622-573 コマンド **command** が見つかりませんでした。

説明

プログラムがコマンドを呼び出す際にコマンドが見つかりませんでした。

オペレーターの応答

インストールが正常に完了したことを検証してください。

2622-5 program_name:
74 2622-574

file_path で最上位 XML ファイルが見つかりませんでした。

説明

最上位 XML ファイルが、指定されたロケーションに見つかりませんでした。

オペレーターの応答

インストールが正常に完了したことを検査し、ユーザー ID にそのロケーションへの十分なアクセス権限があることを検査してください。

2622-5 program_name:
75 2622-575

file_path で指定されたプロパティ・ファイルが見つかりませんでした。

説明

指定されたプロパティ・ファイルが見つかりませんでした。

オペレーターの応答

指定されたプロパティ・ファイルを検査し、ユーザー ID に十分なアクセス権限があることを検査してください。

2622-5 program_name:
76 2622-576

mkrpdomain コ

マンドを使用したドメインの作成が失敗しました。

説明

プログラムでコマンド **mkrpdomain** を使用してドメインを作成しようとした。このコマンドが失敗しました。

オペレーターの応答

関連エラー・メッセージをチェックして、問題を解決してください。その後、プログラムを再実行します。

2622-5 program_name:
77 2622-577

sampolicy コマンドの呼び出しに失敗しました。

説明

プログラムでコマンド **sampolicy** を呼び出そうとした。このコマンドが失敗しました。

オペレーターの応答

関連エラー・メッセージをチェックして、問題を解決してください。その後、プログラムを再実行します。

2622-5 program_name:
78 2622-578

rmrpdomain コマンドを使用したドメインの除去に失敗しました。

説明

プログラムでコマンド **rmrpdomain** を使用してドメインを削除しようとした。このコマンドが失敗しました。

オペレーターの応答

関連エラー・メッセージをチェックして、問題を解決してください。その後、プログラムを再実行します。

2622-5 program_name: 79 2622-579
startprdomain
コマンドを使用したドメインの開始に失敗しました。

説明

プログラムでコマンド `startprdomain` を使用してドメインを開始しようとした。このコマンドが失敗しました。

オペレーターの応答

関連エラー・メッセージをチェックして、問題を解決してください。その後、プログラムを再実行します。

2622-5 program_name: 80 2622-580
preprnode コマンドを使用したドメインの準備に失敗しました。

説明

プログラムでコマンド `preprnode` を使用してドメインを準備しようとした。このコマンドが失敗しました。

オペレーターの応答

関連エラー・メッセージをチェックして、問題を解決してください。その後、プログラムを再実行します。

2622-5 program_name: 81 2622-581 ドメインが存在しません。

説明

プログラムで存在しないドメインを削除しようとした。

オペレーターの応答

正しいドメイン名を入力したことを検証してください。

2622-5 program_name: 82 2622-582 ドメインは既に存在しています。

説明

プログラムで既に存在しているドメインを作成しようとした。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-5 program_name: 83 2622-583 ドメインはオフラインであるため、削除できません。

説明

プログラムでオフラインのドメインを削除しようとした。

オペレーターの応答

ドメインを開始します。その後、再びコマンドを実行します。

2622-5 program_name: 84 2622-584 ファイル `file_path` に書き込むことができません。

説明

プログラムがその出力ディレクトリーに書き込むことができませんでした。

オペレーターの応答

ユーザー ID に十分な権限があることを検査してください。

2622-5 program_name: 85 2622-585
eezautomate コマンドが失敗しました。

説明

プログラムでコマンド `eezautomate` を呼び出そうとした。このコマンドが失敗しました。

オペレーターの応答

関連エラー・メッセージをチェックして、問題を解決してください。その後、再びコマンドを発行します。

2622-5 program_name: 91 2622-591 オンライン・ドメインが見つかりませんでした。

説明

オンライン・ドメインとオンライン・ノードが見つかりませんでした。

オペレーターの応答

ドメインを開始します。

2622-5 program_name: 92 2622-592 無効なオプション値:
option_name
「**option_value**」

説明

指定されたオプションは無効です。

オペレーターの応答

使用法ステートメントに表示されている有効なオプションを使用して、コマンドを再実行します。

2622-5 program_name: 93 2622-593 オプションの使用方法が無効です:
option_list

説明

無効な組み合わせのオプションが指定されました。

オペレーターの応答

使用法ステートメントに表示されている有効な組み合わせのオプションを使用して、コマンドを再実行します。

2622-5 program_name: 94 2622-594 1 つ以上のオプションが欠落しています:
option_list

説明

指定されたオプションには追加のオプションが必要です。

オペレーターの応答

使用法ステートメントに表示されている有効なオプション・セットを使用して、コマンドを再実行します。

2622-5 program_name: 95 2622-595 コマンド「**command**」は戻りコード **return_code** で失敗しました。

説明

コマンドの実行に失敗しました。

オペレーターの応答

問題に関する詳細情報を取得するには、オプション `-T` を使用します。

2622-5 program_name: 96 2622-596 コマ

ンド「*command*」は *seconds* 後にタイムアウトになりました。

説明

コマンドの実行がタイムアウトになりました。

オペレーターへの応答

問題に関する詳細情報を取得するには、オプション `-T` を使用します。

2622-5 *program_name:* 97 **2622-597** 必要なインフラストラクチャーが欠落しています:
infrastructure

説明

samlog を実行するためのインフラストラクチャーが欠落しています。

オペレーターへの応答

必要なインフラストラクチャーを指定してください。

2622-6 *program_name:* 11 **2622-611** エラー・テスト・メッセージ。

説明

エラー・テスト・メッセージ

オペレーターへの応答

アクションは不要です。

2622-6 *program_name:* 12 **2622-612** 無効なオプション:
option_value

説明

指定されたオプションは無効です。

オペレーターへの応答

使用法ステートメントに表示されている有効なオプションを使用して、コマンドを再実行します。

2622-6 *program_name:* 13 **2622-613** 時刻形式が無効です:
time_format_value

説明

指定された時刻形式は無効です。

オペレーターへの応答

使用法ステートメントに表示されている有効な時刻形式を使用して、コマンドを再実行します。

2622-6 *program_name:* 14 **2622-614** コマンド *failing_command* が失敗しました

説明

samwhy プログラムがコマンドを呼び出しましたが、そのコマンドは失敗しました。

オペレーターへの応答

オプション `--debug` を追加して samwhy コマンドを再実行し、出力を分析してください。

2622-6 *program_name:* 15 **2622-615** アクティブ・ピア・ドメインが見つかりませんでした

説明

アクティブ・ピア・ドメインが見つかりませんでした。

オペレーターへの応答

samwhy プログラムではアクティブ・ピア・ドメインを実行する必要があります。ピア・ドメインを開始して、コマンドを再実行してください。

2622-6 *program_name:* 16 **2622-616** ノード *nodename* 上の *resource_manager1* と *resource_manager2* との間で、トレースのスプール構成が異なっています

説明

トレース・スプール構成は、すべてのノード上のすべてのリソース・マネージャーで同一でなければなりません。

オペレーターへの応答

トレース・スプール構成を訂正して、コマンドを再実行してください。

2622-6 *program_name:* 17 **2622-617** ノード *nodename1* とノード *nodename2* との間でトレースのスプール構成が異なっています

説明

トレース・スプール構成は、すべてのノードで同一でなければなりません。

オペレーターへの応答

トレース・スプール構成を訂正して、コマンドを再実行してください。

2622-6 *program_name:* 18 **2622-618** コマンド

failing_command が失敗し、出力は *command_output* です

説明

samwhy プログラムがコマンドを呼び出しましたが、そのコマンドは失敗しました。

オペレーターへの応答

出力を分析し、問題の修正を試みてから、samwhy コマンドを再実行してください。

2622-9 *program_name:* 01 **2622-901** 属性と引数が一致しません。

説明

入力ファイル内の特定の属性の引数が欠落しています。

オペレーターへの応答

入力ファイルを更新して、コマンドを再発行してください。

2622-9 *program_name:* 02 **2622-902** リソース *resource_class* の行 *row* を定義する場合は、属性 *attribute* を指定しないでください。

説明

入力ファイル内の特定の属性の引数が欠落しています。

オペレーターへの応答

入力ファイルを更新して、コマンドを再発行してください。

2622-9 program_name: 03 **2622-903** 属性 **attribute_name** の値 「**attribute_value**」の処理中にエラーが発生しました。

説明

この特定の属性の値が無効です。詳細は、先行して表示されるエラー・メッセージを参照してください。

オペレーターの応答

lsrsrdef コマンドを使用して、この特定の属性のデータ・タイプを検査してください。このデータ・タイプに適切な値を確認し、正しく指定してください。例えば、データ・タイプが配列の場合、値を中括弧 {} で囲む必要があります。有効な構文の値については、該当するコマンドのマニュアル・ページおよびリソース・データ入力ファイルのマニュアル・ページを参照してください。

2622-9 program_name: 04 **2622-904** リソース リソース・クラス名 **resource_class** に必要な引数 引数名 (**SD** エレメント名) **argument_name** を指定する必要があります。

説明

このリソース・クラスおよびこのコマンドに対して、指定されたコマンド引数を指定する必要があります。

オペレーターの応答

lscmdargdef コマンドを実行して、このコマンドの入力データとして期待される引数名およびデータ・タイプのリストを参照してください。

2622-9 program_name: 05 **2622-905** リソース・クラス 「**resource_class**」のリソースが入力されていませんでした。

説明

コマンドに指定されたクラスのリソースが入力されていませんでした。

オペレーターの応答

リソースを入力し、コマンドを再実行してください。

2622-9 program_name: 06 **2622-906** 入力ファイル 「**input_file_name**」から一部またはすべてのリソースを作成できませんでした。

説明

入力ファイルからの指定されたクラスの一部またはすべてのリソースの作成に失敗しました。

オペレーターの応答

ファイル・データを確認し、可能な場合は修正してコマンドを再実行してください。

2622-9 program_name: 07 **2622-907** ノード **node_name** の固定リソース **resource** は管理対象リソースではありません。

説明

指定された固定リソースは管理対象リソースではありません。

オペレーターの応答

リソースを確認し、有効なリソースを使用して再入力してください。

2622-9 program_name: 08 **2622-908** リソース・クラス 「**class_name**」のリソース 「**resource_name**」は、最上位リソース・グループ 「**Top_Resource_group_name**」の許可されたノードにありません。

説明

メンバー・リソースが、新規リソース・グループの最上位グループの許可ノードにありません。

オペレーターの応答

メンバー・リソースは、リソース・グループおよびその最上位グループの許可ノード・リストに含まれている必要があります。

2622-9 program_name: 09 **2622-909** 指定されたサブスクリプション 「**Subscription**」にはコンシューマーが必要です。

説明

指定されたサブスクリプションにコンシューマーがありません。

オペレーターの応答

有効なコンシューマーを指定してサブスクリプションを再入力してください。

ョンを再入力してください。

2622-9 program_name: 10 **2622-910** サブスクリプション 「**subscription**」とともに指定されたイベント・ファミリー 「**event_family**」はサポートされていません。

説明

指定されたサブスクリプションに無効なイベント・ファミリー値が含まれています。

オペレーターの応答

有効なイベント・ファミリーを指定してサブスクリプションを再入力してください。

2622-9 program_name: 11 **2622-911** サブスクリプション 「**subscription**」とともに指定されたイベント・フィルター 「**event_filter**」はサポートされていません。

説明

指定されたサブスクリプションに無効なイベント・フィルター値が含まれています。

オペレーターの応答

有効なイベント・フィルターを指定してサブスクリプションを再入力してください。

2622-9 program_name: 12 **2622-912** コンシューマー 「**consumer**」は同一リソースに対して

して複数回指定
できます。

説明

リソースには、コンシューマーごとに1つのサブスクリプションのみが許可されます。

オペレーターの応答

コンシューマーを重複させずに、サブスクリプションを再入力してください。

2622-9 program_name: 13 2622-913 サブスクリプション「**subscription**」はサブスクリプションとして既に存在しています。

説明

指定されたサブスクリプションは、指定されたリソース・グループに既に存在します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-9 program_name: 14 2622-914 サブスクリプション「**subscription**」が見つかりません。

説明

指定されたサブスクリプションはこのリソースに存在しないため、削除できません。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

2622-9 program_name: 15 2622-915 指定されたサブスクリプションがリストに存在しません。

説明

指定されたサブスクリプションがサブスクリプション・リストに存在しません。

オペレーターの応答

サブスクリプションを確認して、コマンドを再発行してください。

2622-9 program_name: 16 2622-916 指定されたすべてのサブスクリプションが既にリストに存在しています。

説明

指定されたすべてのサブスクリプションがサブスクリプション・リストに既に存在しています。

オペレーターの応答

サブスクリプション名を確認し、コマンドを再発行してください。

2622-9 program_name: 17 2622-917 ポリシーからの選択を指定する場合、値 **options** の組み合わせは許可されません。

説明

指定されたオプションの組み合わせは許可されません。

オペレーターの応答

別のオプションを選択するか、オペランドを入力しないでください。有効なフラグ、オペランド、およびフラグとオペランドの組み合わせがリストされている使用方法を参照してください。

2622-9 program_name: 18 2622-918 ポリシーからの選択を指定する場合、値「**A**」または「**O**」のいずれかが必要です。

説明

ポリシーからの選択を指定する場合、示された値のいずれか1つを指定する必要があります。

接頭部 2661

2661-0 2661-001 新規リソースの定義時には、属性「**attribute_name**」は指定できません。

説明

アプリケーション・リソースを作成しようとして、定義することが許可されていない属性が検出されました。

オペレーターの応答

アプリケーション・リソースを作成する場合は、この属性を指定しないでください。

2661-0 2661-002 **MonitorCommandPeriod** 属性の値は、**MonitorCommandTimeout** 属性の値以上でなければなりません。

説明

アプリケーション・リソースの作成または変更の試行中に、**MonitorCommandPeriod** 属性 および **MonitorCommandTimeout** 属性の無効な組み合わせが検出されました。

オペレーターの応答

示された値のいずれか1つを選択するか、ポリシーを指定しないでください。有効なフラグ、オペランド、およびフラグとオペランドの組み合わせがリストされている使用方法を参照してください。

オペレーターの応答

MonitorCommandPeriod 属性または **MonitorCommandTimeout** 属性のいずれかの値を修正し、**MonitorCommandPeriod** の値が **MonitorCommandTimeout** 値以上になるようにしてください。

2661-0 2661-003 クラス名「**class_name**」は、このリソース・マネージャーでは認識されません。

説明

リソース・マネージャーが、指定されたリソース・クラスをそれに属するものとして認識しません。これは内部エラーであるか、RMC 構成が破壊されていることを示します。

オペレーターの応答

Electronic Support (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

2661-0 2661-004 クラス「**class_name**」の制御点を初期化できませんでした。

説明

リソース・マネージャーが、指定されたリソース・クラスに対して RCCP を作成および初期化できませんでした。

オペレーターの応答

システムに十分なリソースがあることを確認してください (ページング・スペース、使用可能な /var ファイルシステム・スペースなど)。

2661-0 2661-005 05 MonitorCommandPeriod 属性の値は、0 より大きくなければなりません。

説明

アプリケーション・リソースの作成または変更試行中に、0 より小さい MonitorCommandPeriod 属性が検出されました。

オペレーターの応答

MonitorCommandPeriod 属性の値を 0 より大きい値に修正してください。

2661-0 2661-006 06 コマンドが正常に完了しませんでした。終了コードは「開始コマンドからの終了値」です。標準出力 = 「開始コマンドによって生成される標準出力」。標準エラー出力 = 「開始コマンドによって生成される標準エラー出力」。

説明

リソースをオンラインにするための要求に対する

応答で、関連する開始コマンドが実行されましたが、正常に完了しませんでした。終了コード、標準エラー出力、および標準出力がエラー・メッセージにリストされます。

オペレーターの応答

コマンドからの出力によって識別される問題を修正し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-007 07 コマンドが正常に完了しませんでした。終了コードは「停止コマンドからの終了値」です。標準出力 = 「停止コマンドによって生成される標準出力」。標準エラー出力 = 「停止コマンドによって生成される標準エラー出力」。

説明

リソースをオフラインにするための要求に対する応答で、関連する停止コマンドが実行されましたが、正常に完了しませんでした。終了コード、標準エラー出力、および標準出力がエラー・メッセージにリストされます。

オペレーターの応答

コマンドからの出力によって識別される問題を修正し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-008 08 ResourceType 属性の値は 0 か 1 か 2 でなければなりません。

説明

アプリケーション・リソースの作成または変更試行中に、無効な ResourceType 属性が検出されました。

オペレーターの応答

ResourceType 属性の値を、0 (固定リソースの場合)、1 (浮動リソースの場合)、または 2 (並行リソースの場合) のいずれかに修正してください。

2661-0 2661-009 09 RunCommandsSync 属性の値は 256 未満でなければなりません。

説明

アプリケーション・リソースの作成または変更試行中に、無効な RunCommandsSync 属性が検出されました。

オペレーターの応答

RunCommandsSync 属性の値を、その他のさまざまな値の組み合わせと同様に、0 (開始/停止コマンドの「応答不要送信」の場合) または 1 (リソースの開始/停止は、開始/停止コマンドが完了するまで待機する) のいずれかに修正してください。

2661-0 2661-010 10 指定されたユーザー名は無効であるか、存在しません。

説明

アプリケーション・リソースの作成または変更試行中に、無効あるいは存在しないユーザー名が検出されました。

オペレーターの応答

ユーザー名を修正するか、リソースを存在させる各ターゲット・ノード上でユーザー名が定義されていることを確認してください。

2661-0 2661-011 11 属性「エラーになったコマンドが指定された属性名」に対して指定されたコマンドが NULL である、絶対パスでない、存在しない、または実行に十分なアクセス権を持っていない、のいずれかです。

説明

アプリケーション・リソースの作成または変更試行中に、指定された属性に対する無効なコマンド・ストリングが検出されました。コマンドは、NULL ストリングである、絶対パスでない、存在しない、または実行に十分なアクセス権を持っていない、のいずれかです。

オペレーターの応答

値を変更してすべてのターゲット・ノード上で有効なコマンドに修正してください。あるいは、指定されたコマンドがすべてのターゲット・ノード上に存在し、適切なアクセス権を保持していることを確認してください。

2661-0 2661-012 12 指定されたネットマスク「エラーになった指定されたネットマスク」が無効です。

説明

ServiceIP リソースを作成または変更しようとして、NetMask 属性の無効な値が検出されました。

オペレーターの応答

xxx.xxx.xxx.xxx のように値を変更してネットマスクを指定するのに有効な表現に修正するか、空ストリングにしてください。後者の場合、ネットマスクは、それがアクティブになっているネットワーク・インターフェースから継承されます。

2661-0 2661-013 指定 13 された IP アドレス「エラーになった指定された IP アドレス」が無効です。

説明

ServiceIP リソースを作成または変更しようとして、IPAddress 属性の無効な値が検出されました。

オペレーターの応答

xxx.xxx.xxx.xxx のように、IP アドレスを指定するのに有効な表現に値を修正してください。

2661-0 2661-014 IP アドレスをオンラインにするときに使用するために指定されたネットワーク・インターフェースが存在しないか、無効です。

説明

リソース・マネージャーは IP アドレスをオンラインにするよう要求されましたが、指定されたサポート・リソース(ネットワーク・インターフェース)が

存在しないか、使用できません。

オペレーターの応答

オンライン要求で使用するために別のサポート・リソースを選択してください。

2661-0 2661-015 ネットワーク・インターフェース *interface_name* 上で、最大数の別名が既にアクティブになっています。

説明

リソース・マネージャーは IP アドレスをオンラインにするよう要求されましたが、使用するよう指定されたインターフェースでは、既に最大数の別名がアクティブになっています。

オペレーターの応答

一部の別名を非アクティブにするか、このサービス IP アドレスに使用するための別のインターフェースを選択してください。

2661-0 2661-016 リセット・コマンドが正常に完了しませんでした。終了コードは「リセット・コマンドからの終了値」です。標準出力 = 「リセット・コマンドによって生成される標準出力」。標準エラー出力 = 「リセット・コマンドによって生成される標準エラー出力」。

説明

リソースをリセットするための要求に対する応答

で、関連するリセット・コマンドが実行されましたが、正常に完了しませんでした。終了コード、標準エラー出力、および標準出力がエラー・メッセージにリストされます。

オペレーターの応答

コマンドからの出力によって識別される問題を修正し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-017 開始コマンドがタイムアウトになりました。終了コードは「開始コマンドからの終了値」です。標準出力 = 「開始コマンドによって生成される標準出力」。標準エラー出力 = 「開始コマンドによって生成される標準エラー出力」。

説明

リソースをオンラインにするための要求に対する応答で、関連する開始コマンドが実行されましたが、制限時間を超過して終了しました。終了コード、標準エラー出力、および標準出力がエラー・メッセージにリストされます。

オペレーターの応答

コマンドからの出力によって識別される問題を修正し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-018 停止コマンドがタイムアウトになりました。終了コードは「停止コマンドからの終了値」です。

標準出力 = 「停止コマンドによって生成される標準出力」。標準エラー出力 = 「停止コマンドによって生成される標準エラー出力」。

説明

リソースをオフラインにするための要求に対する応答で、関連する停止コマンドが実行されましたが、制限時間を超過して終了しました。終了コード、標準エラー出力、および標準出力がエラー・メッセージにリストされます。

オペレーターの応答

コマンドからの出力によって識別される問題を修正し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-019 リセット・コマンドがタイムアウトになりました。終了コードは「リセット・コマンドからの終了値」です。標準出力 = 「リセット・コマンドによって生成される標準出力」。標準エラー出力 = 「リセット・コマンドによって生成される標準エラー出力」。

説明

リソースをリセットするための要求に対する応答で、関連するリセット・コマンドが実行されましたが、制限時間を超過して終了しました。終了コード、標準エラー出力、および標準出力がエラー・メッセージにリストされます。

オペレーターへの応答

コマンドからの出力によって識別される問題を修正し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-020 属性 **20** **ProtectionMode** に指定する値は **0** か **1** でなければなりません。

説明

属性 **ProtectionMode** に対して無効な値が指定されました。

オペレーターへの応答

指定された値を修正し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-021 リソースをモニターするために使用されたコマンドが正常に完了しませんでした。終了コードは「モニター・コマンドからの終了値」です。標準出力 = 「モニター・コマンドによって生成される標準出力」。標準エラー出力 = 「モニター・コマンドによって生成される標準エラー出力」。

説明

リソースの操作状態のモニター中に、関連するモニター・コマンドが実行されましたが、正常に完了しませんでした。終了コード、標準エラー出力、および標準出力がエラー・メッセージにリストされます。

オペレーターへの応答

コマンドからの出力によって識別される問題を修

正し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-022 リソースをモニターするために使用されたコマンドがタイムアウトになりました。終了コードは「モニター・コマンドからの終了値」です。標準出力 = 「モニター・コマンドによって生成される標準出力」。標準エラー出力 = 「モニター・コマンドによって生成される標準エラー出力」。

説明

リソースの操作状態のモニター中に、関連するモニター・コマンドが実行されましたが、制限時間を超えて終了しました。終了コード、標準エラー出力、および標準出力がエラー・メッセージにリストされます。

オペレーターへの応答

コマンドからの出力によって識別される問題を修正し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-023 指定された IP アドレスはネットワーク・インターフェースの基底アドレスであるため使用できません。

説明

指定されたアドレスは、既にネットワーク・インターフェースの基底 IP アドレスであり、サービス IP アドレスとしての使用は無効です。

オペレーターへの応答

別の IP アドレスを選択し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-024 リソース「**resource_name**」はオンラインであるため削除できません。

説明

リソースがオンラインであるため、これを削除できません。

オペレーターへの応答

リソースがオフラインであることを確認し、操作を再試行するか、**Force=1** パラメーターを使用してリソースを強制的に削除してください。

2661-0 2661-025 **25** **resource class name** クラスの **1** つ以上のリソースがオンラインであるため、操作を完了できません。

説明

1 つ以上のターゲット・ノードにおける **1** つ以上のリソースがオンラインであるため、操作（ノードの停止、ドメインの停止、またはドメインの除去）を完了できません。

オペレーターへの応答

リソースがオフラインであることを確認し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-026 リソース・クラス **resource class name** の **configCoordinationAll** アクション

に無効なパラメーター・フォーマットが渡されました。

説明

RM が、指定されたクラスの **configCoordinationAll** アクションを受け取りましたが、入力フォーマットが無効であるか、サポートされていません。

オペレーターへの応答

Electronic Support (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

2661-0 2661-027 リソースが「オフラインに失敗」状態にある場合は、オンライン操作またはオフライン操作は無効です。

説明

オンライン操作またはオフライン操作が、「オフラインに失敗」状態のリソースに対して実行されました。これは無効な要求です。「オフラインに失敗」状態で許可される制御操作はリセットのみです。

オペレーターへの応答

リソースに対してリセット操作を実行し、オンライン操作またはオフライン操作を再試行してください。コマンド「**resetsrc**」を使用して、リソースをリセットできます。

2661-0 2661-028 **28** **SendEIFevent** の受信側がオンラインでないか、構成要素リソースではありません。

説明

GblResRM の内部エラーです。

オペレーターへの応答

Electronic Support (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

2661-0 2661-029 リソースは開始コマンドを受け取りましたが、既にオンラインの保留中の状態です。

説明

オンライン操作が、「オンラインの保留中」状態のリソースに対して実行されました。これは無効な要求です。「オンラインの保留中」状態で許可される制御操作はリセットのみです。

オペレーターへの応答

リソースに対してリセット操作を実行し、オンライン操作を再試行してください。コマンド「resetsrc」を使用して、リソースをリセットできます。

2661-0 2661-030 リソースは停止コマンドを受け取りましたが、既にオフラインの保留中の状態です。

説明

オフライン操作が、「オフラインの保留中」状態のリソースに対して実行されました。これは無効な要求です。「オフラインの保留中」状態で許可される制御操作はリセットのみです。

オペレーターへの応答

リソースに対してリセット操作を実行してください。コマンド「resetsrc」を使用して、リソースをリセットできます。

2661-0 2661-031 クリーンアップ・コマンドがタイムアウトになりました。終了コードは「クリーンアップ・コマンドからの終了値」です。標準出力 = 「クリーンアップ・コマンドによって生成される標準出力」。標準エラー出力 = 「クリーンアップ・コマンドによって生成される標準エラー出力」。

説明

リソースをクリーンアップするための要求に対する応答で、関連するクリーンアップ・コマンドが実行されましたが、制限時間を超えて終了しました。終了コード、標準エラー出力、および標準出力がエラー・メッセージにリストされます。

オペレーターへの応答

コマンドからの出力によって識別される問題を修正し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-032 クリーンアップ・コマンドが正常に完了しませんでした。終了コードは「クリーンアップ・コマンドからの終了値」です。標準出力 = 「クリーンアップ・コマンドによって生

成される標準出力」。標準エラー出力 = 「クリーンアップ・コマンドによって生成される標準エラー出力」。

説明

リソースをクリーンアップするための要求に対する応答で、関連するクリーンアップ・コマンドが実行されましたが、正常に完了しませんでした。終了コード、標準エラー出力、および標準出力がエラー・メッセージにリストされます。

オペレーターへの応答

コマンドからの出力によって識別される問題を修正し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-033 移動完了コマンドがタイムアウトになりました。終了コードは「移動完了コマンドからの終了値」です。標準出力 = 「移動完了コマンドによって生成される標準出力」。標準エラー出力 = 「移動完了コマンドによって生成される標準エラー出力」。

説明

リソースを完了するための要求に対する応答で、関連する移動完了コマンドが実行されましたが、制限時間を超えたために終了しました。終了コード、標準エラー出力、および標準出力がエラー・メッセージにリストされます。

オペレーターへの応答

コマンドからの出力によって識別される問題を修正し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-034 移動完了コマンドが正常に完了しませんでした。終了コードは「移動完了コマンドからの終了値」です。標準出力 = 「移動完了コマンドによって生成される標準出力」。標準エラー出力 = 「移動完了コマンドによって生成される標準エラー出力」。

説明

移動を完了するための要求に対する応答で、関連する移動完了コマンドが実行されましたが、正常に完了しませんでした。終了コード、標準エラー出力、および標準出力がエラー・メッセージにリストされます。

オペレーターへの応答

コマンドからの出力によって識別される問題を修正し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-035 移動取り消しコマンドがタイムアウトになりました。終了コードは「移動取り消しコマンドからの終了値」です。標準出力 = 「移動取り消しコマンドによって生成される標準出力」。標準エラー出力 = 「移動取り消し

コマンドによって生成される標準エラー出力」。

説明

失敗した移動を取り消すための要求に対する応答で、関連する移動取り消しコマンドが実行されましたが、制限時間を越えたために終了しました。終了コード、標準エラー出力、および標準出力がエラー・メッセージにリストされます。

オペレーターの応答

コマンドからの出力によって識別される問題を修正し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-036 移動
36 取り消しコマンドが正常に完了しませんでした。終了コードは「移動取り消しコマンドからの終了値」です。標準出力 = 「移動取り消しコマンドによって生成される標準出力」。
標準エラー出力 = 「移動取り消しコマンドによって生成される標準エラー出力」。

説明

失敗した移動を取り消すための要求に対する応答で、関連する移動取り消しコマンドが実行されましたが、正常に完了しませんでした。終了コード、標準エラー出力、および標準出力がエラー・メッセージにリストされます。

オペレーターの応答

コマンドからの出力によって識別される問題を修正し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-037
37 CleanupList の少なくとも1つの項目が無効です。

説明

アプリケーション・リソースの作成または変更試行中に、無効なエントリを持つ CleanupList 属性が検出されました。

オペレーターの応答

CleanupList 属性の無効なエントリを訂正してください。

2661-0 2661-038 移動
38 準備、完了、キャンセル、およびクリーンアップの各アクションは、集合リソースに対して実行できません。

説明

集合リソースに対してこのいずれかのアクションを発行しようとしたことが拒否されました。

オペレーターの応答

集合リソースの構成要素に対してアクションを実行してください。

2661-0 2661-039
39 IBM.Application の開始と停止のコマンドがタイムアウトになりました。リソース名は **resource_name** です。

説明

リソース・マネージャーは、開始/停止コマンドが、指定された時間フレーム内に値を戻さなかったため、これを強制終了しました。

オペレーターの応答

開始/停止コマンドの完了に必要な時間を確認してください。必要場合は、StartCommandTimeout/StopCommandTimeout 属性を適応させます。

2661-0 2661-040
40 IBM.Application のモニター・コマンドがタイムアウトになりました。リソース名は **resource_name** です。

説明

リソース・マネージャーは、モニター・コマンドが、指定されたコマンドのタイムアウト値以内に値を戻さなかったため、これを強制終了しました。

オペレーターの応答

モニター・コマンドの完了に必要な時間を確認してください。必要場合は、MonitorCommandTimeout 属性を適応させます。

2661-0 2661-041
41 IBM.Application のヘルス・コマンドがタイムアウトになりました。リソース名は **resource_name** です。

説明

リソース・マネージャーは、ヘルス・コマンドが、

指定されたコマンドのタイムアウト値以内に値を戻さなかったため、これを強制終了しました。

オペレーターの応答

ヘルス・コマンドの完了に必要な時間を確認してください。必要場合は、HealthCommandTimeout 属性を適応させます。

2661-0 2661-042
42 IBM.Application は、モニター・コマンドを実行できませんでした。リソース名は **resource_name** です。

説明

リソース・マネージャーは、アクセス不能になっているか、十分なアクセス権を保持していないため、モニター・コマンドを実行できませんでした。

オペレーターの応答

リソース自体がオフラインの場合でも、リソース・マネージャーが操作中にモニター・コマンドにアクセスできることを確認してください。

2661-0 2661-043
43 IBM.Application はリセット要求を受け取りました。リソース名は **resource_name** です。

説明

IBM.Application リソースは、自動化または手動の resetrsrc コマンドによりリセット要求を受け取りました。

オペレーターの応答

自動化によるリセットの場合は、アプリケーション・リソースを確認してください。操作状態の保留のいずれかが長すぎると、自動化によりこのアプリケーションのエラー状態のリカバリーが試行される場合があります。

2661-0 2661-044

44 IBM.ServiceIP は、デバイスにアドレスを割り当てました。IP アドレスは *ip_address* です。

説明

IBM.ServiceIP は、ネットワーク・インターフェースに IP アドレスを割り当てました。

オペレーターの応答

IBM.ServiceIP は、ネットワーク・インターフェースに正常に IP アドレスを割り当てました。

2661-0 2661-045

45 IBM.ServiceIP は、デバイスに対するアドレス割り当てに失敗しました。IP アドレスは *ip_address* です。

説明

IBM.ServiceIP は、ネットワーク・インターフェースに対する IP アドレス割り当てに失敗しました。

オペレーターの応答

ServiceIP アドレスのセットアップを確認してください。IP アドレスをネットワーク・デバイスに割り当てられることを確認してください。

IBM.ServiceIP は、自動的

にデバイスを選択することも、ネットワーク・インターフェースの同値に接続することもできることに注意してください。

2661-0 2661-046

46 IBM.ServiceIP は、アドレスを削除しました。IP アドレスは *ip_address* です。

説明

IBM.ServiceIP は、ネットワーク・インターフェースから IP アドレスを除去しました。

オペレーターの応答

IBM.ServiceIP は、ネットワーク・インターフェースから正常に IP アドレスを除去しました。

2661-0 2661-047

47 IBM.ServiceIP は、アドレスの削除に失敗しました。IP アドレスは *ip_address* です。

説明

IBM.ServiceIP は、ネットワーク・インターフェースからの IP アドレスの除去に失敗しました。

オペレーターの応答

IP アドレスのセットアップを確認してください。ifconfig コマンドを使用して、ServiceIP アドレスを除去してください。

2661-0 2661-048

48 IBM.Application は、glibc バグが原因で、リソース *resource_name* のモニター停止コマンドを終了できませんでした。

説明

IBM.Application は、モニター停止コマンドを終了できませんでした。

オペレーターの応答

このバグは、既知の glibc バグが原因で発生します。

2661-0 2661-049

リソース・クラス *resource class name* の *action name* アクションに無効なパラメーター・フォーマットが渡されました。

説明

RM が、指定されたクラスのアクションを受け取りましたが、入力フォーマットが無効であるか、サポートされていません。

オペレーターの応答

アクションの定義に応じて、アクションのパラメーターを確認してください。

2661-0 2661-050

リソース *resource name* に対する *registerPIDs* アクションのセキュリティ・トークンが無効です。

説明

RM が、指定されたクラスのアクションを受け取りましたが、リソース状態を設定するセキュリティ・トークンが無効です。

オペレーターの応答

開始コマンドによってリソースに送信されたセキュリティ・トークンを確認してください。

2661-0 2661-051 ノード *node name* がダウンしているため、このノード上のリソース *resource name* に *command name* コマンドを実行できません。

説明

RM が、指定されたクラスのアクションを受け取りましたが、ターゲット・ノードがダウンしているため、コマンドをこのノードにルーティングできませんでした。

オペレーターの応答

コマンドによってターゲットになっているノードの状況を確認してください。

2661-0 2661-052

リソース「*resource_name*」は、操作状態が不明なため、削除できません。

説明

リソースは、操作状態が不明なため削除できません。

オペレーターの応答

リソースがオフラインであることを確認し、操作を再試行するか、Force=1 パラメーターを使用してリソースを強制的に削除してください。

2661-0 2661-053

属性 *ResourceType* に指定する値は 0 と 1 のいずれかでなければなりません。

説明

属性 ResourceType に対して無効な値が指定されました。

オペレーターの応答

指定された値を修正し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-054

54 **ProcessCommandString** が空のときは、PID プロンプの指定は許可されません。

説明

属性 RunCommandsSync に対して無効な値が指定されました。

オペレーターの応答

指定された値を修正し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-055 属性「**attribute_name**」は、**3.2** より低いバージョンの System Automation では使用できません。

説明

アプリケーション・リソースを作成しようとして、このバージョンの System Automation で定義することが許可されていない属性が検出されました。

接頭部 2662

2662-0 2662-001 新規リソースの定義時には、属性「**attribute_name**」は指定できません。

説明

アプリケーション・リソースを作成しようとして、定義することが許可されて

オペレーターの応答

アプリケーション・リソースを作成する場合は、この属性を指定しないでください。

2661-0 2661-056

56 **CleanupCommand** が設定されているときは、属性 **CleanupCommandTimeout** を **0** にすることは許可されません。

説明

属性 CleanupCommandTimeout に対して無効な値が指定されました。

オペレーターの応答

指定された値を修正し、操作を再試行してください。

2661-0 2661-057

属性 **SetHealthState** に指定する値は、**[0 から 33]** の範囲でなければなりません。

説明

属性 SetHealthState に対して無効な値が指定されました。

オペレーターの応答

指定された値を修正し、操作を再試行してください。

いない属性が検出されました。

オペレーターの応答

アプリケーション・リソースを作成する場合は、この属性を指定しないでください。

2662-0 2662-002

属性「**attribute_name**」が要求に **2** 回以上

使用されています。

説明

属性が要求に **2** 回以上使用されています。

オペレーターの応答

要求内では属性を **1** 回のみ指定してください。

2662-0 2662-003

クラス名「**class_name**」は、このリソース・マネージャーでは認識されません。

説明

リソース・マネージャーが、指定されたリソース・クラスをそれに属するものとして認識しません。これは内部エラーであるか、RMC 構成が破壊されていることを示します。

オペレーターの応答

Electronic Support (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

2662-0 2662-004

クラス「**class_name**」の制御点を初期化できませんでした。

説明

リソース・マネージャーが、指定されたリソース・クラスに対して RCCP を作成および初期化できませんでした。

オペレーターの応答

システムに十分なリソースがあることを確認してください (ページング・スペース、使用可能な /var

ファイルシステム・スペースなど)。

2662-0 2662-005

新規リソースの定義時には、属性「**attribute_name**」を指定する必要があります。

説明

必須属性が定義されていなかったため、リソース・マネージャーがリソースを作成できませんでした。

オペレーターの応答

リソースの作成時には必ずこの属性を指定してください。

2662-0 2662-006

属性の値は **0** か **1** でなければなりません。

説明

この属性の値は **0** か **1** でなければなりません。

オペレーターの応答

属性を **0** または **1** に変更してください。

2662-0 2662-007

属性 **ResourceType** の値は **0** か **1** か **2** でなければなりません。

説明

アプリケーション・リソースの作成または変更試行中に、無効な ResourceType 属性が検出されました。

オペレーターの応答

ResourceType 属性の値を、**0** (固定リソースの場合)、**1** (浮動リソースの場合)、または **2** (並行リソー

スの場合)のいずれかに修正してください。

2662-0 2662-008 Start/08 Stop/Move 属性の時間は0以上600(10分)未満でなければなりません。

説明

この属性に指定された値が、許可された範囲内ではありません。

オペレーターへの応答

値を0から600の間で指定してください。

2662-0 2662-009 09 ForceOpState の値は有効な RMC OpState (0、1、2、3、4、5、6、8)でなければなりません。

説明

指定された値は有効な RMC OpState と一致しません。

オペレーターへの応答

OpState に0、1、2、3、4、5、6、8のいずれかを指定してください。

2662-0 2662-010 10 リソースが移動プロトコルをサポートしていません。

説明

リソースが移動アクションを受け取りましたが、移動プロトコルをサポートしていません。

オペレーターへの応答

リソースを移動しないでください。

2662-0 2662-011 11 リソースは集合リソースではないため、移動できません。

説明

リソースが移動アクションを受け取りましたが、集合リソースではありません。集合リソースのみを移動できます。

オペレーターへの応答

リソースを移動しないでください。

2662-0 2662-012 12 リソースが準備アクションを受け取りましたが、その移動状態が NONE になっていません。

説明

リソースが「移動の準備」アクションを受け取りましたが、その移動状態が NONE ではありません。

オペレーターへの応答

別のアクションが進行中かどうかを確認してください。実行中のアクションが完了するまで待機してください。要求を再発行してください。

2662-0 2662-013 13 リソースが完了アクションを受け取りましたが、その移動状態が READY になっていません。

説明

リソースが「移動の完了」アクションを受け取りましたが、その移動状態が READY ではありません。

オペレーターへの応答

別のアクションが進行中かどうかを確認してください。実行中のアクションが完了するまで待機してください。要求を再発行してください。

2662-0 2662-014 14 完了/キャンセル・アクションまたはクリーンアップが既に進行中です。

説明

要求されたプロセスは既に実行されています。

オペレーターへの応答

アクションが完了するまで待機してください。

2662-0 2662-015 15 準備アクションが既に進行中です。

説明

要求されたプロセスは既に実行されています。

オペレーターへの応答

アクションが完了するまで待機してください。

2662-0 2662-016 16 リソースがキャンセル・アクションを受け取りましたが、READY または FAILED 状態になっていません。

説明

リソースが「移動のキャンセル」アクションを受け取りましたが、その移動状態が READY または Failed ではありません。

オペレーターへの応答

別のアクションが進行中かどうかを確認してください。実行中のアクションが完了するまで待機してください。要求を再発行してください。

2662-0 2662-017 17 新規リソースの定義時には、属性「*attribute_name*」は指定できません。

説明

テスト・リソースを作成しようとして、定義することが許可されていない属性が検出されました。

オペレーターへの応答

テスト・リソースを作成する場合は、この属性を指定しないでください。

2662-0 2662-018 18 アクションに対して誤った入力データが指定されました。

説明

TestRM の内部エラーです。

オペレーターへの応答

Electronic Support (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

2662-0 2662-019 19 IBM.Test はオンライン要求を受け取りました。リソース名は *resource_name* です。

説明

IBM.Test リソースはオンライン要求を受け取りました。

オペレーターの応答

IBM.Test は正常に開始されました。

2662-0 2662-020
20 IBM.Test はオフライン要求を受け取りました。リソース名は *resource_name* です。

説明

IBM.Test リソースはオフライン要求を受け取りました。

オペレーターの応答

IBM.Test は正常に停止されました。

2662-0 2662-021
21 IBM.Test はリセット要求を受け取りました。リソース名は *resource_name* です。

説明

IBM.Test リソースはリセット要求を受け取りました。

オペレーターの応答

IBM.Test は正常にリセットされました。

2662-0 2662-022
22 IBM.Test はオンラインです。リソース名は *resource_name* です。

説明

IBM.Test はオンラインです。

オペレーターの応答

IBM.Test は正常に開始されています。

2662-0 2662-023
23 IBM.Test はオフラインです。リソース名は *resource_name* です。

説明

IBM.Test はオフラインです。

オペレーターの応答

IBM.Test は正常に停止されています。

2662-0 2662-024
24 IBM.Test OpState は強制実行されています。リソース名は *ResourceNameForceOpState* です。

説明

IBM.Test OpState は強制実行されています。

オペレーターの応答

IBM.Test OpState は正常に強制実行されています。

2662-0 2662-025
25 IBM.Test MoveState は強制実行されています。リソース名は *ResourceNameForceMoveState* です。

説明

IBM.Test MoveState は強制実行されています。

オペレーターの応答

IBM.Test MoveState は正常に強制実行されています。

sampolicy のメッセージ

このトピックでは、`sampolicy` コマンドによって生成され、接頭部 SAMP で始まるメッセージをリストします。`sampolicy` コマンドは、接頭部 EEZ で始まるメッセージを生成する場合があります。

これらのメッセージは、「*IBM Tivoli System Automation Application Manager Reference and Problem Determination Guide*」でリストされています。

接頭部 SAMP

SAMP0001E クラス `className` のメソッド `methodName` で「`IOException`」がキャッチされました。受信したメッセージ: `message`。

説明

この例外により処理が中断され、完了できません。

システムの処置

タスクは終了します。

オペレーターの応答

例外メッセージに示されている問題を解決し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0002E 指定されたポリシー `policyLocation` は無効です。

説明

ポリシーが無効です。このポリシーではタスクを実行できません。

システムの処置

現行タスクが終了します。

オペレーターの応答

このメッセージに続くエラー・メッセージを調べ、ポリシーを有効にしてください。その後、コマンドの再実行を依頼してください。

SAMP0003E タイプ `Object-type` のオブジェクトを作成できません。ツリー・ノード名は `node-name` です。

説明

入力 XML の内部オブジェクトの作成中に問題が発生しました。

システムの処置

現行タスクが終了します。

オペレーターの応答

問題の根本原因を記述している可能性がある関連メッセージを調べてください。

SAMP0004E ポリシー情報を取得できません。

説明

ポリシーが無効であるため、ポリシー情報を取得できません。

システムの処置

現行タスクが終了します。

オペレーターの応答

すべてのエラー・メッセージを調べ、ポリシーを有効にしてください。

SAMP0005E ポリシーのアクティブ化の試行中にエラーを受け取りました。

説明

ポリシーのアクティブ化タスクの結果がエラーでした。

システムの処置

アクティブ化タスクが終了します。

オペレーターの応答

エラー・メッセージを調べ、問題を解決してください。

SAMP0006E 指定されたポリシー・ファイル `policyFile` が見つかりません。

説明

このロケーションからポリシーをロードできません。

システムの処置

現行タスクが終了します。

オペレーターの応答

ポリシー XML ファイル名とそのパスを確認してください。

SAMP0007E 元のパーサー例外:
exceptionMessage

説明

このポリシーの解析中に内部の問題が発生しました。

システムの処置

タスクを実行できません。

オペレーターの応答

製品が正常にインストールされているかどうかを確認してください。

SAMP0008E 現行ポリシーの非活動化の試行中に
エラーを受け取りました。

説明

ポリシーの非アクティブ化の結果がエラーでした。

システムの処置

非アクティブ化タスクが終了します。

オペレーターの応答

エラー・メッセージを調べ、問題を解決してください。

SAMP0009E ポリシー検査の試行中にエラーを受
け取りました。

説明

ポリシー検査タスクの結果がエラーでした。

システムの処置

検査タスクが終了します。

オペレーターの応答

エラー・メッセージを調べ、問題を解決してください。

SAMP0010E 現行ポリシー保存の試行中にエラー
を受け取りました。

説明

ポリシー保存タスクの結果がエラーでした。

システムの処置

保存タスクが終了します。

オペレーターの応答

エラー・メッセージを調べ、問題を解決してください。

SAMP0011E 名前が *resourceName*、クラスが
className のリソースが、複数のグ
ループのメンバーとして検出されま
した。

説明

リソースは1つのグループのみのメンバーでなければ
なりません。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできませ
ん。

オペレーターの応答

各リソースが、このポリシーの最大でも1つのグルー
プ・エレメントのみのメンバーであるかどうかを調べて
ください。

SAMP0012E 名前が *resourceName*、クラスが
className のリソースが、同値およ
びグループのメンバーとして検出さ
れました。

説明

リソースをグループのメンバーと同値のメンバーにす
ることはできません。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできませ
ん。

オペレーターの応答

各リソースが、グループまたは同値のいずれかのみ
のメンバーであることを確認してください。

SAMP0013E 指定されたメンバー *memberName*
が、同じ *<groupForm> groupName*
で複数回検出されました。

説明

1つのグループ内では、すべての *<Member>* 子エレメ
ントが固有でなければなりません。

システムの処置

このポリシーは無効です。

オペレーターの応答

このポリシーで、グループに重複する <Members> 子エレメントがないかどうかを調べてください。

SAMP0014E 指定された <groupForm> *groupName* が、このグループ自体のメンバーとして検出されました。

説明

グループをそのグループ自体のメンバーにすることはできません。

システムの処置

このポリシーは無効です。

オペレーターの応答

このポリシーで、グループがそのグループ自体のメンバーになっていないかどうかを調べてください。

SAMP0015E 名前 *resourceGroupName* のリソース・グループのネスト・レベルが 50 を超えています。

説明

リソース・グループのネスト・レベルは 50 に制限されています。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

このグループのネスト・レベルを削減し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0016E クラス *className* のメソッド *methodName* で「Exception」がキャッチされました。受信したメッセージ: *message*。

説明

この例外により処理が中断され、完了できません。

システムの処置

タスクは終了します。

オペレーターの応答

例外メッセージに示されている問題を解決し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0017E 名前 *sourceName*、タイプ *type* のソースの関係において、ターゲットが同じキーを持っています。

説明

関係ではソースとターゲットを同一にすることはできません。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

関係を訂正し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0018E 関係のソース (名前 *sourceName*、クラス *sourceClass* が、リソース・グループまたはリソース・グループのメンバーのいずれでもありません。

説明

関係のソースは、リソース・グループまたはリソース・グループのメンバーのいずれかでなければなりません。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

関係を訂正し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0019E クラス *className* のメソッド *methodName* でエラーが発生しました。エラーの詳細: *details*。

説明

このエラーにより処理が中断され、完了できません。

システムの処置

タスクは終了します。

オペレーターの応答

エラー詳細に示されている問題を解決し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0020E ポリシー文書で、指定した <Relationship> (<Type> 「*relationType*」、<Source> 名前

「**source**」、および <Target> 「名前 **target**」を持つ) が複数検出されました。

説明

すべての <Relationship> エLEMENTは固有である必要があります。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

このポリシーで、このタイプの <Relationship> が最大で1つまで指定されていることを確認してください。

SAMP0021E クラス *className* のメソッド *methodName* で「**UTFDataFormatException**」がキャッチされました。受信したメッセージ: *message*。

説明

この例外により処理が中断され、完了できません。

システムの処置

タスクを実行できません。

オペレーターの応答

UTF-8 準拠文書を作成するエディターのみを使用して、ポリシー文書のデータ・フォーマットが正しいことを確認してください。

SAMP0022E <Element> には <subElement1> または <subElement2> のいずれかのみを含めることができます。

説明

このELEMENTに両方のサブELEMENTを指定することはできません。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

このポリシーに、競合するサブELEMENTのいずれか1つのみが指定されていることを確認してください。

SAMP0023E <subElement1> が含まれている <Element> には、<subElement2> も含まれている必要があります。

説明

このELEMENTにこれらのサブELEMENTのいずれか1つのみを指定することはできません。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

このポリシーに両方のサブELEMENTが指定されていることを確認してください。

SAMP0024E <subElement1> が含まれている <Element> には、<subElement2> または <subElement3> も含まれている必要があります。

説明

このELEMENTにこれらのサブELEMENTのいずれか1つのみを指定することはできません。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

このポリシーに両方のサブELEMENTが指定されていることを確認してください。

SAMP0025E 名前 *referenceName* の <Element> が参照しているリソースが、クラスターに存在しません。

説明

ポリシーで参照されているリソースはすべてクラスターに存在している必要があります。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

クラスターでリソースを作成してから、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0026E 名前 *nodeName* のノードがクラスターに存在していません。

説明

ポリシーで参照されているノードはすべてクラスターに存在している必要があります。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

ポリシーでノードの値を修正してから、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0027E 名前 *nodeName* のノードがクラスターでオンラインではありません。

説明

リソース属性で参照されているノードはすべてクラスターでオンラインになっている必要があります。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

ポリシーでノードの値を修正するか、またはノードをオンラインにしてから、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0028E エレメント *<elementName>* の値 *domainName* が、クラスターの実名 *actualDomainName* に準拠していません。

説明

ポリシーで指定されているクラスターの名前は、実名と同じでなければなりません。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

ポリシーで値を修正してから、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0029E 指定されたエレメント *<element>* (名前 *groupName*) に、異なる名前 *memberName* のメンバーが含まれています。

説明

このようなグループでは、すべての *<Members>* 子エレメントの名前がグループ自体の名前と同一でなければなりません。

システムの処置

このポリシーは無効です。

オペレーターの応答

このポリシーで、グループ名がすべての *<Members>* 子エレメントの名前と同じであることを確認してください。

SAMP0030E 指定されたエレメント *<element>* が複数検出されました。

説明

このポリシーには、このタイプのエレメントを 0 または 1 つのみ指定できます。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

このポリシーに、このタイプのエレメントが最大で 1 つまで指定されていることを確認してください。

SAMP0031E 指定されたエレメント *<childElement>* が、*<parentElement>* の子エレメントとして複数検出されました。

説明

このタイプのエレメントは 0 または 1 つのみ指定できます。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

このポリシーに、このタイプのエレメントが最大で 1 つまで指定されていることを確認してください。

SAMP0032E 指定されたエレメント *<childElement>* が、*parentName* という名前の *<parentElement>* の子エレメントとして複数検出されました。

説明

このグループには、このタイプのエレメントを 0 または 1 つのみ指定できます。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターへの応答

このポリシーで、このグループにこのタイプのエレメントが最大で1つまで指定されていることを確認してください。

SAMP0033E エレメント <allowedNode> の値 *value* がノードとして存在していないか、またはこの名前で定義されている同値ではありません。

説明

この値は、ノードまたは同値の名前のいずれかでなければなりません。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターへの応答

ポリシーを訂正し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0034E 名前 *equivalencyName* のエレメント <element> をロケーション関係のターゲットにすることはできません。

説明

ロケーション関係には、このようなターゲット・エレメントを指定できません。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターへの応答

関係を訂正し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0035E エレメント <element> (値 *elementValue*) は、タイプ *isStartableType* の関係以外のロケーション関係でのみ使用できます。

説明

このような関係では、条件は使用できません。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターへの応答

関係を訂正し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0036E 名前 *elementValue* のエレメント <element> のメンバーの中に、同じリソース・クラスでないメンバーがあります。

説明

同値のすべてのメンバーのリソース・クラスは同一でなければなりません。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターへの応答

同値を訂正し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0037E 次の例外が発生したため、バックエンドの接続に失敗しました:
exception

説明

バックエンドでの操作実行の試行中に例外が発生しました。

システムの処置

ポリシーをアクティブにできません。

オペレーターへの応答

例外説明を調べ、問題を修正してください。

SAMP0038E 名前 *name* のエレメント <tie-breaker> がアクティブに設定されていますが、同じ種類の他のエレメントが少なくとも1つアクティブに設定されています。

説明

このようなエレメントは1つのみアクティブにできません。

システムの処置

ポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

ポリシーでこのようなエレメントが最大で1つのみアクティブになっていることを確認し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0039E 指定したエレメント `<element>` (サブエレメント `<subelement1>` の値が `value`) には、サブエレメント `<subelement2>` を含めることはできません。

説明

このようなエレメントの場合、特定のサブエレメント値では一部のサブエレメントを含めることができません。

システムの処置

このポリシーは無効です。

オペレーターの応答

無効なサブエレメントを削除するか、または他のサブエレメントの値を変更してから、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0040E ファイル `filename` へのポリシー書き込みの試行中に `IOException` がキャッチされました。例外メッセージ: `exception-message`。

説明

このファイルに書き込むことができません。

システムの処置

アクティブ・タスクが終了します。

オペレーターの応答

ディレクトリが存在しており、使用可能なディスク・スペースが十分であることを確認してから、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0041E 選択文字列 `selectString` の検証の試行中に例外が発生しました。選択文字列が無効であるか、またはバックエンドへの接続に失敗しました。例外メッセージ: `exception`。

説明

選択文字列の検証の試行中に例外が発生しました。

システムの処置

ポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

選択文字列が有効であることを確認してください。例外説明を調べ、問題を修正してください。

SAMP0042E 名前 `referenceName` の `<Element>` に、サブエレメント `<Sub-Element>` に対して無効な値があります。

説明

`<ResourceReference>` エレメントに、`<クラス>` サブエレメントに対する下記のいずれかの値がありません: `IBM.Application`、`IBM.ServiceIP`、`IBM.Test`。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

サブエレメント値を訂正し、コマンドの再実行を依頼してください。

SAMP0043E タイプ `value` の `<Element>` は、`value` システム上では使用できません。

説明

このエラーにより処理が中断され、完了できません。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

値を訂正し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0044E `<Element>` には、`<Subelement>` あるいは `<Subelement>` が必要です。

説明

このエラーにより処理が中断され、完了できません。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

エレメントを訂正し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0045E 組み込まれたポリシー・ファイル `filename` からの読み取りの試行中に `IOException` がキャッチされました。例外メッセージ: `exception-message`。

説明

このファイルを読み取ることができませんでした。

システムの処置

アクティブ・タスクが終了します。

オペレーターの応答

ファイルが存在すること、およびコマンドで使用したユーザー ID に十分なアクセス権があることを確認してから、コマンドの再実行を依頼してください。

SAMP0046E 入力ポリシー・ファイル *filename* の構文が無効です。エラーがある行は *invalid line* です。

説明

入力ポリシー・ファイルに無効な行があります。

システムの処置

アクティブ・タスクが終了します。

オペレーターの応答

入力ファイルの無効な行を訂正してから、コマンドの再実行を依頼してください。

SAMP0047E 行 *invalid line* の中で参照される変数が最上位 XML ファイルで見つかりません。変数は、ファイル *inputfilename* の中で参照されます。

説明

入力ポリシーに、最上位 XML ファイルで定義されていない変数があります。

システムの処置

アクティブ・タスクが終了します。

オペレーターの応答

この変数を最上位 XML ファイルに追加してから、コマンドの再実行を依頼してください。

SAMP0048E 最上位ファイル *policyLocation* から作成されたポリシーが無効です。結果のポリシーは、一時ファイル *temp-filename* で見つかります。

説明

結果のポリシーが無効です。このポリシーではタスクを実行できません。

システムの処置

現行タスクが終了します。

オペレーターの応答

このメッセージに続くエラー・メッセージを調べ、ポリシーを有効にしてください。その後、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0049E クラス *className*、メソッド *methodName* でエラーが発生しました。リソース *resourceName* を定義できませんでした。例外は発生していませんが、*define* 呼び出しからオブジェクトが戻されませんでした。

説明

この例外により現行プロセスが中断され、完了できません。

システムの処置

ポリシーのアクティブ化プロセスが停止し、このエラー・メッセージが戻されます。

オペレーターの応答

XML ポリシー文書でこのリソースが適切に記述されているかどうかを確認し、アクティブ化を再開してください。

SAMP0050E クラス *className*、メソッド *methodName* でエラーが発生しました。リソース *resourceName* を定義できませんでした。例外 *exception* を受け取りました。

説明

この例外によりプロセスが中断され、完了できません。

システムの処置

ポリシーのアクティブ化プロセスは停止し、完了できません。

オペレーターの応答

XML ポリシー文書でこのリソースが適切に記述されているかどうかを確認し、アクティブ化を再開してください。

SAMP0051E クラス *className*、メソッド *methodName* でエラーが発生しました。リソース *resourceName* をリソース・グループ *groupName* に追加で

きませんでした。例外 *exception* を受け取りました。

説明

この例外によりプロセスが中断され、完了できません。

システムの処置

ポリシーのアクティブ化プロセスは停止し、完了できません。

オペレーターの応答

例外メッセージに示されている問題を解決し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0052E クラス *className*、メソッド *methodName* でエラーが発生しました。リソース・グループ *groupName* を本来あるべき状態 *state* に設定できませんでした。例外 *exception* を受け取りました。

説明

この例外によりプロセスが中断され、完了できません。

システムの処置

ポリシーのアクティブ化プロセスは停止し、完了できません。

オペレーターの応答

例外メッセージに示されている問題を解決し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0053E クラス *className*、メソッド *methodName* でエラーが発生しました。リソース *resourceName* の定義を解除できませんでした。例外 *exception* を受け取りました。

説明

リソースが「オフライン」か「オフラインに失敗」、またはリソースが内部コマンドにより既に削除されている可能性があります。

システムの処置

ポリシーのアクティブ化または非アクティブ化が続行されます。

オペレーターの応答

リソースが存在しているかどうかを検証してください。例外を調べ、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0054E クラス *className*、メソッド *methodName* でエラーが発生しました。リソース *resourceName* を識別および検出できませんでした。これは例外が原因で発生したか、またはリソースを検出できませんでした。したがって、リソース *resourceName* をリソース・グループ *groupName* に追加できません。例外 *exception* を受け取りました。

説明

この例外によりプロセスが中断され、完了できません。

システムの処置

ポリシーのアクティブ化プロセスは停止し、完了できません。

オペレーターの応答

例外メッセージに示されている問題を解決し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0055E クラス *className*、メソッド *methodName* でエラーが発生しました。リソース・グループ *groupName* を識別および検出できませんでした。これは例外が原因で発生したか、またはリソースを検出できませんでした。したがって、リソース・グループ *groupName* を状態 *state* に設定できませんでした。例外 *exception* を受け取りました。

説明

この例外によりプロセスが中断され、完了できません。

システムの処置

ポリシーのアクティブ化プロセスは停止し、完了できません。

オペレーターの応答

例外メッセージに示されている問題を解決し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0056E クラス *className*、メソッド *methodName* でエラーが発生しました。リソース *resourceName* を識別および検出できませんでした。これは例外が原因で発生したか、またはリソースを検出できませんでした。リソース *resourceName* は、リソース *resourceName* を必要とするた

め、作成できません。例外 **exception** を受け取りました。

説明

この例外によりプロセスが中断され、完了できません。

システムの処置

ポリシーのアクティブ化プロセスは停止し、完了できません。

オペレーターの応答

例外メッセージに示されている問題を解決し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0057E クラス *className*、メソッド *methodName* でエラーが発生しました。リソース *resourceName* を識別および検出できませんでした。これは例外が原因で発生したか、またはリソースを検出できませんでした。したがって、リソース *resourceName* を削除できません。例外 **exception** を受け取りました。

説明

リソースが内部コマンドにより既に削除されている可能性があります。

システムの処置

現行プロセスが続行します。

オペレーターの応答

リソースが存在しているかどうかを検証してください。例外を調べ、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0058E クラス *className*、メソッド *methodName* でエラーが発生しました。リソース *resourceName* を識別および検出できませんでした。これは例外が原因で発生したか、またはリソースを検出できませんでした。したがって、リソース *resourceName* を変更できません。例外 **exception** を受け取りました。

説明

この例外によりプロセスが中断され、完了できません。

システムの処置

現行プロセスが続行します。

オペレーターの応答

リソースが存在しているかどうかを検証してください。例外を調べ、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0059E クラス *className*、メソッド *methodName* でエラーが発生しました。リソース *resourceName* を変更できませんでした。例外は発生していませんが、**define** 呼び出しからオブジェクトが戻されませんでした。

説明

この例外により現行プロセスが中断され、完了できません。

システムの処置

ポリシーのアクティブ化プロセスが停止し、このエラー・メッセージが戻されます。

オペレーターの応答

XML ポリシーでこのリソースが適切に記述されているかどうかを確認してください。

SAMP0060E クラス *className*、メソッド *methodName* でエラーが発生しました。リソース *resourceName* を変更できませんでした。例外 **exception** を受け取りました。

説明

この例外により現行プロセスが中断され、完了できません。

システムの処置

ポリシーのアクティブ化プロセスが停止し、このエラー・メッセージが戻されます。

オペレーターの応答

XML ポリシーでこのリソースが適切に記述されているかどうかを確認し、アクティブ化を再開してください。

SAMP0061E クラス *className*、メソッド *methodName* でエラーが発生しました。**IBM.TieBreaker** リソース *resourceName* を識別および検出できませんでした。例外 **exception** を受け取りました。

説明

この例外により現行プロセスが中断され、完了できません。

システムの処置

ポリシーのアクティブ化プロセスが停止し、このエラー・メッセージが戻されます。

オペレーターの応答

XML ポリシーでこのリソースが適切に記述されているかどうかを確認し、アクティブ化を再開してください。

SAMP0062E クラス *className*、メソッド *methodName* でエラーが発生しました。アクティブな **IBM.TieBreaker** リソースを識別および検出できませんでした。したがって、**IBM.TieBreaker** リソース *resourceName* を変更または作成できませんでした。例外 **exception** を受け取りました。

説明

この例外により現行プロセスが中断され、完了できません。

システムの処置

ポリシーのアクティブ化プロセスが停止し、このエラー・メッセージが戻されます。

オペレーターの応答

XML ポリシーでこのリソースが適切に記述されているかどうかを確認し、アクティブ化を再開してください。

SAMP0063E クラス *className*、メソッド *methodName* でエラーが発生しました。**IBM.TieBreaker** リソース *resourceName* をアクティブに設定できませんでした。例外 **exception** を受け取りました。

説明

この例外により現行プロセスが中断され、完了できません。

システムの処置

ポリシーのアクティブ化プロセスが停止し、このエラー・メッセージが戻されます。

オペレーターの応答

XML ポリシーでこのリソースが適切に記述されているかどうかを確認し、アクティブ化を再開してください。

SAMP0064E クラス *className*、メソッド *methodName* でエラーが発生しまし

た。コンシューマー **consumer** からリソース *resourceName* に対するサブスクリプションが失敗しました。例外 **exception** を受け取りました。

説明

この例外により現行プロセスが中断され、完了できません。

システムの処置

ポリシーのアクティブ化プロセスが停止し、このエラー・メッセージが戻されます。

オペレーターの応答

XML ポリシーでこのリソースが適切に記述されているかどうかを確認し、アクティブ化を再開してください。

SAMP0065E 現行の自動化ポリシーの更新を試行しましたが、エラーが検出されたために失敗しました。

説明

ポリシー更新タスクの結果がエラーでした。

システムの処置

ポリシー更新タスクが終了します。

オペレーターの応答

後続のエラー・メッセージを分析して、問題を解決してください。

SAMP0066E 名前が *elementName* の <エレメント> に、属性クラスに無効値 *className* を持つメンバーが存在します。

説明

この種類のエレメントでは、クラス属性の値は、そのすべてのメンバーと同じである必要があります。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

すべてのメンバーが、クラス属性の正しい値を保持していることを確認してください。

SAMP0067E クラス *className*、メソッド *methodName* でエラーが発生しました。リソース *resourceName* をリソ

ース・グループ *groupName* から除去できませんでした。例外 *exception* を受け取りました。

説明

この例外によりプロセスが中断され、完了できません。

システムの処置

ポリシーのアクティブ化プロセスは停止し、完了できません。

オペレーターの応答

例外メッセージに示されている問題を解決し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0068E 名前が *name* の指定されたリソース・グループには、*<subelement>* であるメンバーが含まれています。これは、サブエレメント *<subelement1>* の値が *value* であるリソース・グループにのみ許可されています。

説明

連結されているリソース・グループには、同時メンバーを含めることはできません。

システムの処置

このポリシーは無効です。

オペレーターの応答

無効なメンバーを削除するか、サブエレメントの値を変更して、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0070E クラス *className*、メソッド *methodName* でエラーが発生しました。

説明

この例外により現行プロセスが中断され、完了できません。

システムの処置

ポリシー非アクティブ化プロセスが停止し、このエラー・メッセージが戻されます。

オペレーターの応答

コマンドの実行を再依頼してください。

SAMP0071E クラス *className*、メソッド *methodName* でエラーが発生しました。

説明

この例外により現行プロセスが中断され、完了できません。

システムの処置

ポリシー保存プロセスが停止し、このエラー・メッセージが戻されます。

オペレーターの応答

コマンドの実行を再依頼してください。

SAMP0072E アクティブにされたポリシー・ファイル名 *fileName* に関する情報の設定に失敗しました。エラー・メッセージ: *error-message*。

説明

実際のポリシーのアクティブ化は正常に行われましたが、その名前および時刻の保存が失敗しました。

システムの処置

アクティブにされたポリシーのファイル名とアクティブ化時刻は保存されませんでした。

オペレーターの応答

コマンドの実行を再依頼してください。

SAMP0073E ポリシーの非アクティブ化に関する情報の設定に失敗しました。エラー・メッセージ: *error-message*。

説明

実際のポリシー非アクティブ化は正常に行われましたが、その事実の保存が失敗しました。

システムの処置

ポリシーが非アクティブにされたという事実は保存されませんでした。

オペレーターの応答

コマンドの実行を再依頼してください。

SAMP0074E 名前 *elementName* を持つエレメント *<Element>* は、IPv6 アドレスを記述するため、サブエレメント

<Subelement> が含まれる必要があります。

説明

必須サブエレメントが欠落しています。このエラーにより処理が中断され、完了できません。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

エレメントを訂正し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0075E 名前 *elementName* を持つエレメント <Element> に、サブエレメント <Subelement> とサブエレメント <Subelement> の両方が含まれています。

説明

両方のサブエレメントを指定することはできません。このエラーにより処理が中断され、完了できません。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

エレメントを訂正し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0076E 名前 *elementName* を持つエレメント <Element> に、長すぎるサブエレメント <Subelement> が含まれています。

説明

このエラーにより処理が中断され、完了できません。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

エレメントを訂正し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0077E 名前 *elementName* を持つエレメント <Element> に、リンク・ローカル・アドレスが含まれています。

説明

このエラーにより処理が中断され、完了できません。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

エレメントを訂正し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0078E 名前 *elementName* を持つエレメント <Element> に、マルチキャスト・アドレスが含まれています。

説明

このエラーにより処理が中断され、完了できません。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

エレメントを訂正し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0079E エレメント <Element> は、現行アクティブ・バージョン *avn* ではサポートされていません。

説明

このエラーにより処理が中断され、完了できません。

システムの処置

このポリシーをアクティブにできません。

オペレーターの応答

エレメントを修正するかアクティブ・バージョンを更新した後、コマンドを再び実行依頼してください。

SAMP0080E アクティブ化タスクは、既存のすべてのリソースを削除できませんでした。この理由は前のメッセージに示されています。

説明

既存リソースの削除に失敗しました。このエラーにより処理が中断され、完了できません。

システムの処置

アクティブ化タスクが終了します。

オペレーターへの応答

失敗の理由が、いくつかのリソースが、それぞれオフラインでないか、オフラインに失敗していることによる場合は、強制オプション `-f` を使用してコマンドを再試行できます。

SAMP0081E 非アクティブ化タスクは、既存のすべてのリソースを削除できませんでした。この理由は前のメッセージに示されています。

説明

リソースの削除に失敗しました。このエラーにより処理が中断され、完了できません。

システムの処置

非アクティブ化タスクが終了します。

オペレーターへの応答

失敗の理由が、いくつかのリソースが、それぞれオフラインでないか、オフラインに失敗していることによる場合は、強制オプション `-f` を使用して `sampolicy` コマンドを再試行できます。

SAMP0082E 更新タスクは、既存のすべてのリソースを削除できませんでした。この理由は前のメッセージに示されています。

説明

既存リソースの削除に失敗しました。このエラーにより処理が中断され、完了できません。

システムの処置

更新タスクが終了します。

オペレーターへの応答

失敗の理由が、いくつかのリソースが、それぞれオフラインでないか、オフラインに失敗していることによる場合は、強制オプション `-f` を使用してコマンドを再試行できます。

SAMP0083E *name* という名前の `var` エLEMENTの値 *value* は、指定されたタイプ *type* について無効であるか、拡張された値検査を通過しませんでした。

説明

指定されたタイプの値を指定する必要があります。指定した値は拡張された値検査を通過する必要があります。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターへの応答

値を訂正し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0084E *name* という名前の `var` エLEMENTの `value` 属性は、空であってははいけません。

説明

`value` 属性は空でははいけません。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターへの応答

値を指定し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0085E ファイル *file* を指す `include` エLEMENTの `attribute` 属性値は空であってははいけません。

説明

この属性値は空でははいけません。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターへの応答

値を指定し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0086E *name* という名前の `varoption` エLEMENTのネストされた `var` エLEMENTにおいて1つ以上の `value` 属性が、指定されたタイプで無効です。

説明

指定されたタイプの値を指定する必要があります。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターへの応答

値を訂正し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0087E *name* という名前の **var** エLEMENTの *element* 属性値を空にはいけません。

説明

この属性値は空ではいけません。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

値を指定し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0088E *name* という名前の **var** エLEMENTの *dynSelString* 属性は、含まれる **var** 名が **1** つのみではいけません。

説明

dynSelString 属性には複数の **var** 名が必要です。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

, で区切った 2 個の **var** 名を指定し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0089E *name* という名前の **var** エLEMENTの *dynSelString* 属性で参照されている **var** の **1** つ以上が存在しません。

説明

dynSelString 属性で参照されている **var** エLEMENTは、ポリシー用に存在している必要があります。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

, で区切った 2 個の **var** 名を指定し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0090E ファイル *name* を指す **include** エLEMENTの *multi* 属性で参照されている **var** エLEMENTが存在しません。

説明

multi 属性値で参照されている **var** エLEMENTは、ポリシー用に存在している必要があります。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

include エLEMENTを削除するか、または *multi* 属性の値を既存の **var** に変更してから、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0091E 2 つの **include** エLEMENTで同じファイル *file* を指してはいけません。

説明

2 つの **include** エLEMENTで 1 つの同じ **xml** ファイルを指してはいけません。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

include エLEMENTを 1 つ削除するか、指している **xml** ファイルを変更してから、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0092E *enumeration* 属性に *value=choice* を設定するときは、*validValues* 属性も指定する必要があります。また、この逆の場合も同様です。*name* という名前の **var** エLEMENTは、*enumeration=choice* と *validValue* のいずれか **1** つのみを含んでいます。

説明

enumeration 属性に *value=choice* を設定するときは、*validValues* 属性も指定する必要があります。*validValue* 属性を設定するときは、*enumeration* 属性に *value=choice* を指定する必要があります。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

両方の値を指定するか、指定した enumeration=choice または validValues 属性を削除してください。コマンドを再実行依頼してください。

SAMP0093E validValues 属性値の項目の 1 つ以上が、**name** という名前の var エlement に指定された type 属性値および/または min/max 属性値と一致しません。

説明

validValues 属性値のすべての項目が、指定された type 属性値および/または min/max 属性値と一致する必要があります。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

validValues 属性値を訂正し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0094E xml ファイル *file* を指す include エlement の multi 属性で参照されている 1 つ以上の var が存在しません。

説明

multi 属性で参照されている var エlement は、ポリシー用に存在している必要があります。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

既存の複数の var 名を、で区切って指定し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0095E *name* という名前の var option エlement の value 属性は空であっては いけません。

説明

value 属性は空ではいけません。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

はいといいえのいずれかを指定し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0096E アクティブにしようとしているポリシーで使用可能な有効なライセンスがありません。

説明

アクティブにしようとしているポリシーには、現在インストールされていない別のライセンスが必要です。

システムの処置

このポリシーは、欠落しているライセンスなしにアクティブにすることはできません。

オペレーターの応答

ライセンスをインストールし、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0097E *name* という名前の var エlement で、max 属性の値が min 属性の値より小さくなっています。

説明

max 属性の値は min 属性の値以上でなければなりません。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

min 属性および max 属性の値を訂正し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0098E 属性 enumeration=array の var エlement について、各値は var 名に指定された数と同じ数のサブ値を持つ必要があります。 *name* という名前の var エlement はこの規則に準拠していません。

説明

属性 enumeration=array の var エlement について、属性名には || で区切られた複数のサブelement が含ま

れています。属性 `enumeration=list` の `var` エレメントのように、値をそれぞれ、で区切って複数の値を指定できます。ただし、各値は属性名と同じ数のサブ値を持つ必要があります、`||` で区切る必要があります。例: `var` 名を `varOne||varTwo` とします。有効な値の項目は `valueOne_1||valueTwo_1,valueOne_2||valueTwo_2` のようになります。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

サブ値の数を訂正し、コマンドを再実行依頼してください。

SAMP0099E 属性 `matrix` が指定された `include` エレメントについて、`matrix` の最初の `var` 名前値は、属性 `ref` が設定された `var` を指す必要があります、2 番目の `var` 名前値は、列挙型多重リストの `var` エレメントを指す必要があります。XML ファイル `name` を指す `include` エレメントは、この規則に準拠していません。

説明

`include` エレメントの `matrix` 属性はちょうど 2 つの値を含む必要があります、最初の値は属性 `ref` が設定された `var` を指し、2 番目の値は列挙型多重リストの `var` エレメントを指す必要があります。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

`matrix` 属性の値を訂正し、コマンドを再実行依頼してください。

SAMP0100E 属性 `ref` が使用されている `var` エレメントについて、属性 `valuePrefix` も設定される必要があります。 `name` という名前の `var` エレメントはこの規則に準拠していません。

説明

属性 `ref` が設定された `var` エレメントでは、`valuePrefix` 属性も設定する必要があります。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

`valuePrefix` 属性を追加してください。

SAMP0101E 列挙多重リストの `var` エレメントについて、`type` 属性はブール値であってはなりません。 `name` という名前の `var` エレメントはこの規則に準拠していません。

説明

属性 `enumeration` が多重リストに設定された `var` エレメントでは、`type` 属性をブール値に設定してはいけません。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

`type` 属性を訂正してください。

SAMP0102E `name` という名前の `var` エレメントが持つ値の数は、`name` という名前の `var` エレメントが持つ値の数と異なっています。これは無効です。

説明

`include` エレメントの `multi` 属性で参照されるすべての `var` エレメントは、同じ数の値を持つ必要があります。`include` エレメントの `matrix` 属性で参照される、最初の `var` エレメントを除くすべての `var` エレメントは、同じ数の値を持つ必要があります。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

それぞれの `var` エレメントに対して同じ数の値を指定してください。

SAMP0103E ポリシー・プールが構成されていないため、`sampolicy` テンプレートの処理が停止されました。

説明

sampolicy テンプレートの処理には構成済みのポリシー・プールが必要です。ポリシー・プールが定義されていない場合、テンプレートの処理を実行できません。

システムの処置

このポリシーを処理できません。

オペレーターの応答

cfigsamadapter 構成ユーティリティーを使用してポリシー・プールを構成してください。

SAMP0104E このポリシー・テンプレートは最新バージョンではありません。このポリシーは、**sampolicy** ウィザードを使用して処理できません。このポリシーの現行バージョンは **version** で、このポリシー用の最小バージョンは **version** です。

説明

サポートされている最新バージョンよりも前のバージョンを持つポリシーは、ウィザードを使用して最新バージョンにマイグレーションする必要があります。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

sampolicy ウィザードのマイグレーション・オプションを使用して、現行のポリシーを最新バージョンにマイグレーションしてください。

SAMP0105E ポリシー・プールの構成ファイルを読み取れなかったため、**sampolicy** テンプレートの処理が停止されました。次の例外が発生しました:
exception

説明

sampolicy テンプレートの処理には構成済みのポリシー・プールが必要です。ポリシー・プールの構成ファイルを読み取れない場合、テンプレートの処理を実行することはできません。

システムの処置

このポリシーを処理できません。

オペレーターの応答

例外のメッセージを分析し、構成ファイルが存在して読み取り可能であることを確認してください。

SAMP0106E ポリシー・プール・ディレクトリー **dir** が存在しないか書き込み可能になっていないため、**sampolicy** テンプレートの処理が停止されました。

説明

sampolicy テンプレートの処理には構成済みのポリシー・プールが必要です。このディレクトリーが存在し、読み取りおよび書き込み操作が可能になっている必要があります。ポリシー・プールが存在しないか、読み取りおよび書き込みが可能になっていない場合は、テンプレートの処理を実行できません。

システムの処置

このポリシー・テンプレート・ファイルを処理できません。

オペレーターの応答

ポリシー・プール・ディレクトリーが存在し、読み取りおよび書き込みが可能になっている状態にしてください。

SAMP0107E このポリシー・テンプレートは最新バージョンではありません。このポリシーは、**sampolicy** ウィザードを使用して処理できません。このポリシーの現行バージョンは **version** で、このポリシー用の最小バージョンは **version** です。

説明

サポートされている最新バージョンよりも前のバージョンを持つポリシーは、ウィザードを使用して手動で最新バージョンにマイグレーションする必要があります。

システムの処置

このポリシーは無効であるため、アクティブにできません。

オペレーターの応答

sampolicy ウィザードを使用して、すべての値を現行ポリシーから最新バージョンに再挿入してください。

SAMP0500W ポリシーにリソース・グループが含まれていません。

説明

ポリシーは有効ですが、リソース・グループがないためアクティブな自動化がありません。

システムの処置

処理を続行します。

オペレーターの応答

これが意図している処理であることを確認してください。意図している処理でない場合は、1つ以上のリソース・グループが含まれるようにポリシーを変更し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0501W クラス *className* のメソッド *methodName* で「Exception」がキャッチされました。受信したメッセージ: *message*。

説明

この例外により処理が中断されますが、処理は続行可能です。

システムの処置

処理を続行します。

オペレーターの応答

例外メッセージに示されている問題を解決してください。

SAMP0502W <Type> StartAfter と <Type> StopAfter の 2 つの <Relationship> エlement に、同じ <Source> (名前 *source*) と <Target> (名前 *target*) が指定されていることが検出されました。

説明

<Type> StartAfter と <Type> StopAfter の 2 つの <Relationship> エlement には、異なった <Source> と <Target> が設定されている必要があります。この構成では、<Target> が <Source> より前に開始され、<Target> が <Source> より後に停止されます。

システムの処置

アプリケーションは続行します。

オペレーターの応答

この動作を確認してください。StartAfter と StopAfter を併せて使用する一般的な方法は、次のとおりです。1. StartAfter の <Source> が StopAfter の <Target> であ

る。2. StartAfter の <Target> が StopAfter の <Source> である。

SAMP0503W *groupName* という名前のグループのすべてのメンバーを連結する必要があります。これは、このグループがロケーション関係またはタイプ *dependsOnType* の関係の一部であるためです。グループ・タグ <memberLocation> の値を *collocatedValue* に設定してください。

説明

このような関係では、ソース・グループまたはターゲット・グループのすべてのメンバーが連結されている必要があります。

システムの処置

アプリケーションは続行します。

オペレーターの応答

このポリシーで、このグループのすべてのメンバーが連結されていることを確認してください。

SAMP0504W 指定した <Relationship> (<Type> *relationType*、名前 *Sourcename* の <Source>、および名前 *Target* の <Target> を持つ) がグループになっていることが検出されました。

説明

同じ <Type> の <Relationship> エlement で、1 つの <Relationship> エlement の <Target> が次の <Relationship> エlement の <Source> である場合、これらのエlement がグループを形成してはなりません。

システムの処置

アプリケーションは続行します。

オペレーターの応答

このポリシーで <Relationship> エlement がグループとして定義されていないことを確認します。

SAMP0505W <Type> *relationType* の <Relationship> に、100 を超えるリソースがリンクされていることが検出されました。

説明

関係にリンクされるリソースの数は 100 に制限されています。

システムの処置

アプリケーションは続行します。

オペレーターの応答

関係にリンクされているリソースの数を削減してください。

SAMP0506W 指定したエレメント <element> (サブエレメント <subelement1> の値が value) には、サブエレメント <subelement2> を含めることはできません。このサブエレメントは無視されます。

説明

このようなエレメントでは、特定のサブエレメント値では一部のサブエレメントがサポートされていません。

システムの処置

アプリケーションは続行します。サブエレメントは無視されます。

オペレーターの応答

無効なサブエレメントを削除するか、または他のサブエレメントの値を変更してください。

SAMP0507W 名前 *resourceGroupName* のリソース・グループがリンクするリソースが 100 を超えています。

説明

リソース・グループによりリンクされるリソースの数は 100 に制限されています。

システムの処置

アプリケーションは続行します。

オペレーターの応答

このグループによりリンクされているリソースの数を削減してください。

SAMP0508W クラス *className* のメソッド *methodName* でエラーが発生しました。エラーの詳細: *details*。

説明

このエラーにより処理が中断されますが、処理は続行可能です。

システムの処置

処理を続行します。

オペレーターの応答

エラー詳細に示されている問題を解決してください。

SAMP0509W 新規ポリシーのアクティブ化中に、クラス *className* のメソッド *methodName* で非クリティカル・エラーが発生しました。エラーの詳細: *details*。

説明

このエラーにより処理が中断されますが、処理は続行可能です。

システムの処置

活動化が続行します。

オペレーターの応答

エラー詳細に示されている問題を解決してください。ポリシーのアクティブ化を再試行し、エラーが再発するかどうかを確認してください。

SAMP0510W 現行ポリシーの非アクティブ化中に、クラス *className* のメソッド *methodName* で非クリティカル・エラーが発生しました。エラーの詳細: *details*。

説明

このエラーにより処理が中断されますが、処理は続行可能です。

システムの処置

非活動化が続行します。

オペレーターの応答

エラー詳細に示されている問題を解決してください。ポリシーの非アクティブ化を再試行し、エラーが再発するかどうかを確認してください。

SAMP0511W 現行ポリシーの保存中に、クラス *className* のメソッド *methodName* で非クリティカル・エ

ラーが発生しました。エラーの詳細: *details*。

説明

このエラーにより処理が中断されますが、処理は続行可能です。

システムの処置

保管処理が続行します。

オペレーターの応答

エラー詳細に示されている問題を解決してください。保存コマンドの再実行依頼を行って、エラーが再発するかどうかを確認してください。

SAMP0512W リソース・グループ・メンバー *name* は、**non-mandatory** と *value* の無効な属性の組み合わせで指定されています。

説明

この種のエレメントでは、この属性値の組み合わせは無効です。

システムの処置

処理を続行します。

オペレーターの応答

無効な値を訂正し、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP0513W リソース・グループ *groupName* はまだオフラインでなく、削除できません。

説明

更新/削除タスクは、削除するリソースをオフラインにしようとした。ただし、少なくとも1つのリソースがまだオンラインになっています。

システムの処置

このエラーにより処理が中断され、完了できません。

オペレーターの応答

エラー詳細に示されている問題を解決してください。更新/削除コマンドの再実行依頼を行って、エラーが再発するかどうかを確認してください。

SAMP0514W リソース *resourceName* の名前が許容長を超えています。

説明

ドメインでリソースを検出しましたが、名前が許容長を超えています。

システムの処置

処理を続行します。

オペレーターの応答

リソース名は許容長を超えない値に変更することをお勧めします。その後、コマンドの再実行依頼を行ってください。

SAMP1000I 使用方法: `sampolicy -h sampolicy [-T] [-V] [-q] [-f] [-forcecreate] -a filename sampolicy [-T] [-V] [-q] [-forcecreate] -u filename sampolicy [-T] [-V] [-q] [-f] [-forcecreate] -r filename sampolicy [-T] [-V] [-q] [-f] -d sampolicy [-T] [-V] -s [filename] sampolicy [-T] [-V] [-u] -c filename sampolicy [-T] [-V] -i filename sampolicy [-T] [-V] [-q] [-f] [-forcecreate] -a -t templatefilename sampolicy [-T] [-V] [-q] [-forcecreate] -u -t templatefilename sampolicy [-T] [-V] [-q] [-f] [-forcecreate] -r -t templatefilename sampolicy [-T] [-V] [-u] -c -t templatefilename sampolicy [-T] [-V] -i -t templatefilename sampolicy [-T] [-V] [-w templatefilename sampolicy [-T] [-V] -w -m templatefilenameNew templatefilenameOld`

説明

システムの処置

オペレーターの応答

SAMP1001I 指定されたポリシー *policyLocation* は有効です。

説明

ポリシーは有効であり、アクティブにできます。

システムの処置

処理を続行します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMP1002I ポリシーに次のポリシー情報があります:

説明

これはポリシーに関する情報です。

システムの処置

処理を続行します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMP1003I ポリシーのアクティブ化が正常に完了しました。

説明

現在ポリシーはドメインでアクティブにされています。

システムの処置

処理を続行します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMP1004I アクティブ化タスクが終了します。

説明

ユーザーがこのアクションを確認しなかったため、ポリシーがアクティブにされません。

システムの処置

処理は終了します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMP1005I アクティブ化タスクが終了します。

説明

自動化ポリシーをアクティブにできませんでした。

システムの処置

処理は終了します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMP1006I 現行ポリシーはファイル *filename* に保存されました。

説明

システムの処置

オペレーターの応答

SAMP1007I 自動化ポリシーが正常に非アクティブになりました。

説明

現在、ドメインでアクティブなポリシーはありません。

システムの処置

処理を続行します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMP1008I テンプレート処理は失敗しました。アクティブ・タスクが終了します。

説明

テンプレート処理が失敗したため、アクティブ・タスクは正常に完了できません。

システムの処置

処理は終了します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMP1009I 自動化ポリシーが正常に更新されました。

説明

現行の自動化ポリシーが新規ポリシーで更新されました。

システムの処置

処理を続行します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMP1010I アクションが確認されなかったため、更新タスクは終了します。

説明

現行の自動化ポリシーを更新できるのは、更新アクションが確認された場合のみです。

システムの処置

処理は終了します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMP1011I 現行の自動化ポリシーの更新を試行しましたが、失敗しました。

説明

現行の自動化ポリシーを更新できませんでした。

システムの処置

処理は終了します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMP1100I ポリシー *policyLocation* の検査を開始しています。

説明

システムの処置

オペレーターの応答

SAMP1101I ポリシーのロードを開始しています。

説明

システムの処置

オペレーターの応答

SAMP1102I *policyLocation* のポリシー情報を取得しています。

説明

システムの処置

オペレーターの応答

SAMP1103I 新規自動化ポリシーをアクティブにしますか? Yes (y) またはいいえ (n)?

説明

システムの処置

オペレーターの応答

SAMP1104I 非アクティブ化を実行すると、ポリシーのアクティブ化によって作成できるリソースがすべて削除されます。非アクティブ化を実行しても、次のクラスのリソースには変更はありません: **IBM.TieBreaker** 現行の自動化ポリシーを非アクティブにしますか? Yes (y) またはいいえ (n)?

説明

システムの処置

オペレーターの応答

SAMP1105I 次を入力してください: ルートパスワード:

説明

システムの処置

オペレーターの応答

SAMP1106I 必要なすべてのデータを取得するために、バックエンドを呼び出しています。

説明

システムの処置

SAMP1110I リソースを正常に作成および変更しました。

オペレーターの応答

説明

SAMP1107I ポリシーをアクティブにするために、バックエンドを呼び出しています。

システムの処置

説明

オペレーターの応答

システムの処置

SAMP1111I 現行の自動化ポリシーを更新しますか? Yes (y) またはいいえ (n)?

オペレーターの応答

説明

SAMP1108I ポリシーを非活動化するために、バックエンドを呼び出しています。

システムの処置

説明

オペレーターの応答

システムの処置

SAMP1112I 削除されるリソースの少なくとも 1 つがまだオフラインになっていません。待機を継続しますか? Yes (y) またはいいえ (n)?

オペレーターの応答

説明

SAMP1109I リソースを正常に削除しました。

説明

システムの処置

システムの処置

オペレーターの応答

オペレーターの応答

エンドツーエンド自動化アダプターのメッセージ

このセクションでは、エンドツーエンド自動化アダプターのプラグインによって生成され、接頭部が SAMA のメッセージをリストします。これらのアダプター・コマンドは、接頭部が EEZ のメッセージを生成する場合もあります。

これらのメッセージは、「IBM Tivoli System Automation Application Manager Reference and Problem Determination Guide」でリストされています。

接頭部 EEZA

EEZA0001E 行 *line number* に構文エラーがあります。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

説明

構成ファイル内で構文エラー (行の先頭に = がある場合など) が発生しました。

オペレーターの応答

構成ファイルで無効な構文を調べてください。

EEZA0002E キー *the key* のデータ・タイプが正しくありません。 *the desired type* が期待されましたが、値 *the value that was found* が検出されました。

説明

指定されたキーの値は、要求どおりのタイプとして解釈できません。例えば、システムはブール値を予期していたにもかかわらず、ストリング「hello」が検出された場合です。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

構成ファイルの無効なキー/値のペアを調べてください。

EEZA0003E キー *the key that was not found* が検出されず、デフォルト値がありませんでした。

説明

システムは構成ファイルから値を取得しようとしたが、この値が存在しておらず、デフォルト値も指定されていませんでした。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

構成ファイルでキーに値を指定してください。

EEZA0004E 整数がキー *the key* の範囲外です。 *the lower bound expected* から *the upper bound expected* までの範囲の値が期待されていましたが、 *the value parsed* が検出されました。

説明

システムは、示されているキーに示されている範囲内の整数値(境界を含む)を予想していましたが、この範囲外の値が検出されました。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

キーに指定された範囲内の値を指定してください。

EEZA0006E クラス *class name* が見つからないため、このクラスのインスタンスを作成できません。

説明

自動化アダプターがクラスをロードできません。

システムの処置

自動化アダプターは要求を拒否します。

オペレーターの応答

クラス名が有効であり、対応するクラスパスで使用可能なことを確認してください。

EEZA0007E メソッドが見つからないため、クラス *class name* のインスタンスを作成できません。

説明

自動化アダプターはクラスをロードできますが、インスタンスを作成できません。

システムの処置

自動化アダプターは要求を拒否します。

オペレーターの応答

クラスが有効であるかどうかを調べてください。

EEZA0008E 不明なエラーが原因で *class name* のインスタンスを作成できません。

説明

自動化アダプターがクラスをロードできないか、またはインスタンスを作成できません。

システムの処置

自動化アダプターは要求を拒否します。

オペレーターの応答

クラスが有効であるかどうかを確認し、付加されている元の例外を調べてください。

EEZA0009E アダプター・プラグインの呼び出しに失敗しました。 *plug-in=plug-in name*、*method=method name*、*internalRetcode=internal return code*、*taskRetcode=task return code*

説明

リモート・アダプターでタスクを実行するために自動化アダプター・クライアント API が呼び出されました。この呼び出しに失敗しました。エラー・カテゴリとして次の 3 種類があります。クライアントが接続エラーの影響を受けているか、自動化アダプター・バックエンド内でのタスク実行に失敗したか、あるいは、自動化アダプター・プラグインで実行に失敗したかです。

システムの処置

リモート・タスクの実行に失敗しました。

オペレーターの応答

戻りコードの説明を調べてください。内部エラーの場合は、エレクトロニック・サポート (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

EEZA0010E アダプターが要求をアダプター・プラグインに渡す前に、この要求の有効期限が切れました。タイムアウト期間は *timeout value* 秒です。

説明

すべての要求には、有効期限が関連付けられています。要求は実行スレッドにスケジュールされましたが、このスレッドで有効期限が切れていることが検出されました。

システムの処置

自動化アダプターは要求を拒否します。

オペレーターの応答

理由 (ワークロードが高すぎたなど) を調べてください。必要に応じて、タイムアウト期間を増やしてください。

EEZA0011E バックエンド・プログラム指定が無効です。

説明

バックエンド・プログラムが Java プログラムでないか、Java プログラム名が指定されていませんでした。

システムの処置

自動化アダプターは要求を拒否します。

オペレーターの応答

自動化アダプター・クライアント API を呼び出したプログラムを調べてください。

EEZA0012E 無効なパラメーターのリスト

説明

自動化アダプターで、無効なパラメーター・リストに関連付けられている要求が検出されました。

システムの処置

自動化アダプターは要求を拒否します。

オペレーターの応答

自動化アダプター・クライアント API を呼び出したプログラムを調べてください。

EEZA0013E ユーザー ID *user name* の認証に失敗しました。

説明

要求に関連付けられているユーザー ID とパスワードの検証に失敗しました。

システムの処置

自動化アダプターは要求を拒否します。

オペレーターの応答

システムに対してユーザー ID が許可されているかどうかと、セキュリティー・ポリシーを確認してください。

EEZA0014E 元の例外 *original-class* をリモート呼び出し元にトランスポートする必要があります。

説明

基礎となるコンポーネントからの例外をリモート呼び出し元にトランスポートする必要があります。

システムの処置

なし。

オペレーターの応答

このメッセージに付加されている元の例外を調べてください。

EEZA0015E メソッド *name of the missing method* はサポートされていません。

説明

自動化アダプターが不明なメソッド名を検出しました。有効なすべてのメソッド名のリストは、

EEZAdapterInteraction インターフェースで定義されています。

システムの処置

自動化アダプターは要求を拒否します。

オペレーターの応答

Electronic Support (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

EEZA0017E 要求 *name of the unsupported request* はサポートされていません。

説明

自動化アダプター・プラグインでは指定された要求がサポートされていません。

システムの処置

プラグインの動作によっては、要求が拒否されます。

オペレーターの応答

自動化ドメインがこのタイプの要求をサポートしているかどうかを確認してください。

EEZA0022E 例外 *the exception that was caught* が原因で、アダプター・クライアントが *host:port* でアダプターに接続できません。

説明

自動化アダプター・クライアントが、指定されたホストとポートのサーバーに接続できません。元の例外テキストが提供されます。

システムの処置

接続が確立されません。

オペレーターの応答

元の例外を調べてください。

EEZA0023E キャッシュ・ディレクトリーが無効です。

説明

EIF キャッシュ・ディレクトリーがディレクトリーではありません。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

構成ファイルを修正してください。

EEZA0024E EIF 送信側と受信側を同じにすることはできません

説明

EIF 構成パラメーターが相互を指すことはできません。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

構成ファイルを修正してください。

EEZA0025E プラグイン構成ファイル *configuration file name* が見つかりません。

説明

マスター構成ファイルに記述されているプラグイン構成ファイルが見つかりません。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

構成ファイルを修正してください。

EEZA0026E プラグイン構成ファイルが指定されていません。

説明

マスター構成ファイルには1つ以上のプラグイン構成ファイルを記述する必要があります。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

構成ファイルを修正してください。

EEZA0027E 構成ファイル *configuration file name* をロードできません。

説明

指定された構成ファイルをロードできません。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

構成ファイルを修正してください。

EEZA0028E プラグイン構成ファイル *configuration file name* に記述されていない必須パラメーターがあります。

説明

指定された構成ファイルに、一部の必須パラメーターが含まれていません。プラグインは使用されません。

システムの処置

自動化アダプターはプラグインをデプロイしません。

オペレーターの応答

構成ファイルを修正してください。

EEZA0029E プラグイン・クラス *class name* の最初のインスタンスを作成できません。

説明

初期化中にプラグインの最初のインスタンスを作成しようとした。作成操作は失敗しました。

システムの処置

自動化アダプターはプラグインをデプロイしません。

オペレーターの応答

構成ファイルを修正してください。

EEZA0030E プラグイン構成ファイル *plug-in configuration file name* のイベント・サブスクリプション・リストをセットアップできません。

説明

プラグイン構成ファイルでの EIF イベント・クラスの指定が無効です。

システムの処置

自動化アダプターはプラグインをデプロイしません。

オペレーターの応答

構成ファイルを修正してください。

EEZA0031E *plug-in configuration file name* から構成ファイルをロードできません。

説明

構成ファイルが存在していないか、または無効な構成ファイルが指定されているため、自動化アダプターが指定された構成ファイルをロードできません。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

構成ファイルの名前が正しいかどうかを調べてください。

EEZA0032E アダプターの初期化に失敗しました。 *original exception*

説明

自動化アダプターの初期化ステップでエラーが発生しました。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

関連する例外を調べてください。このメッセージに例外テキストがない場合には、以前に送信された追加メッセージを検索してください。

EEZA0033E *type of factory SocketFactory* を作成できません。

説明

自動化アダプター・サーバーまたはクライアントで、リモート接続のためのソケット・ファクトリーを作成できません。

システムの処置

自動化アダプター・クライアントで接続を作成できないか、または自動化アダプター・サーバーで接続を受信できません。

オペレーターの応答

直前のメッセージを使用して理由を調べてください。

EEZA0036E アダプターで予期しない割り込みが生じました。 *original exception*

説明

自動化アダプターは、終了コマンドを待機します。予期しない割り込みが発生しました。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

元の例外を調べてください。

| | |
|------------------|--|
| EEZA0037E | プラグインの初期化が正常に完了していないため、アダプターが実行停止しました。 |
|------------------|--|

説明

1つ以上のプラグインの初期化が正常に完了している必要があります。正常に完了していないと、自動化アダプターが停止します。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

失敗したプラグインが発行した、以前のメッセージと例外を調べてください。

| | |
|------------------|---|
| EEZA0038E | (SSL) ソケット構成エラーが発生しました。 <i>exception text</i> |
|------------------|---|

説明

(SSL) ソケット関連構成データのロードまたは処理中にエラーが発生しました。SSL ハンドシェイク例外は、初期接続中のみ報告されます。

システムの処置

自動化アダプター・クライアントで接続を作成できないか、または自動化アダプター・サーバーで接続を受信できません。

オペレーターの応答

例外テキストを調べてください。必要に応じて SSL 構成ファイルを調べてください。

| | |
|------------------|---|
| EEZA0039E | ソケットから読み取られなかったデータがあります。 <i>number of bytes expected</i> バイトが読み取られる必要がありますが、読み取られたのは <i>number of bytes read</i> バイトのみです。 |
|------------------|---|

説明

受信要求にバイト単位の長さがありますが、すべてのバイトを読み取ることができません。

システムの処置

自動化アダプターは要求を拒否します。

オペレーターの応答

データ転送中にソケット接続が切断された理由を調べてください。

| | |
|------------------|---|
| EEZA0040E | アダプター・クライアントがアダプターとの接続を確立できませんでした。 <i>string representation of the connection</i> |
|------------------|---|

説明

接続をオープンできませんでした。自動化アダプターに要求を送信できません。接続のストリング表記に接続に関する詳細が記述されています。

システムの処置

自動化アダプター・フロントエンドに失敗しました。

オペレーターの応答

接続情報を調べてください。

| | |
|------------------|--|
| EEZA0041E | アダプター・クライアントがアダプター要求を呼び出すことができません。 <i>InternalRC=internal return code</i> 、 <i>TaskRC=task return code</i> |
|------------------|--|

説明

自動化アダプターへの接続が正常に確立されました。自動化アダプター・フロントエンドが自動化アダプターに要求を送信しましたが、要求に失敗しました。内部戻りコードまたはタスク戻りコードが適用されない (n/a) 場合は、何らかの予期しない例外が発生しています。

システムの処置

自動化アダプター・フロントエンドに失敗しました。

オペレーターの応答

内部戻りコードとタスク戻りコードを調べてください (戻りコードの説明については EEZA0009E を参照)。

| | |
|------------------|--|
| EEZA0042E | アダプターからリモート例外 (<i>InternalRC=internal return code</i> 、 <i>TaskRC=task return code</i>) がスロー |
|------------------|--|

されました。元のエラー・メッセージ: *message text*

説明

自動化アダプターへの接続が正常に確立されました。自動化アダプター・フロントエンドが自動化アダプターに要求を送信しましたが、プラグインから例外がスローされました。

システムの処置

なし。

オペレーターの応答

内部戻りコードとタスク戻りコードを調べてください (戻りコードの説明については EEZA0009E を参照)。

EEZA0043E 必要なコマンド行パラメーターが不足しています。

説明

必要なコマンド行パラメーター (-start、-stop、-terminate など) の 1 つが不足しています。

システムの処置

自動化アダプター・フロントエンドに失敗しました。

オペレーターの応答

必要なコマンド行パラメーターを指定して再試行してください。

EEZA0045E 正しくない引数が原因でアダプターがサーバー・ソケットを確立できません。 *exception text*

説明

自動化アダプターが受信側スレッドを確立できず、着信接続を受け入れることができません。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

構成ファイルで無効な IP アドレスを調べてください。

EEZA0047E ソケット例外 *exception* が原因で、アダプターが接続を受け入れることができません。

説明

自動化アダプターが着信接続を受け入れるときに例外が発生しました。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

例外テキストを調べてください。

EEZA0051W 例外が原因でアダプターの終了に失敗しました。 *error message*

説明

受信側スレッドを停止しようとしたのですが、例外が発生したために失敗しました。

システムの処置

なし。

オペレーターの応答

例外テキストを調べてください。

EEZA0052E ストレージ内 EIF 構成ファイルを作成できません。 *exception text*

説明

Java クラス ByteArrayInputStream のインスタンスの作成または書き込みを実行できません。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

これは内部エラーである可能性があります。例外テキストに問題の理由が記述されていることがあります。

EEZA0053E コマンド行パラメーター *the parameter* の引数が欠落していません。

説明

コマンド行パラメーター (-start など) に必要な引数が欠落しています。例えば、-start には引数が必要であるため、AdapterCmd -start は誤りです。正しい例は AdapterCmd -start com.ibm.ing.sapplugin.INGXPluginInvocation になります。

システムの処置

このコマンドの処理は終了します。

オペレーターの応答

有効なコマンド行引数とそれらのパラメーターについての詳細は、資料を参照してください。

EEZA0055E リモート接続の非アクティブしきい値を超えました。経過秒数=*elapsed seconds*、しきい値=*threshold*

説明

自動化アダプターにより、最後の同期要求受信以降の経過秒数が計算されます。この秒数がパラメーター *eez-remote-contact-activity-interval-seconds* に指定されている数値を超えると、自動化アダプターは停止します。着信イベントが計算のトリガーとして使用されません。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

パラメーター *eez-remote-contact-activity-interval-seconds* に指定されている秒数を増加させてください。このパラメーターを 0 (ゼロ) に設定すると、期限が切れることはありません。

EEZA0056I 初期接続が使用可能であり、管理サーバーへの接続が確立されました。

説明

パラメーター *eez-initial-contact* が *true* に設定されており、自動化アダプターが管理サーバーへの接続を試行しました。管理サーバーとのハンドシェイクが正常に完了しました。

システムの処置

なし。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

EEZA0057E 管理サーバーとの接続を確立できません。

説明

タイムアウト・インターバルを経過したため、自動化アダプターは管理サーバーへの接続試行を停止します。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

パラメーター *eez-initial-contact-retry-interval-minutes* に指定されている分数を増加させてください。再試行を永続的に実行するには、値 0 (ゼロ) を指定してください。

EEZA0058E プラグイン (*name of the Java plugin class*) がデプロイされていないか、まだ開始されていません。

説明

自動化サーバーが、不明なプラグインまたは開始されていないプラグインに対する要求を自動化アダプターに発行しようとした。

システムの処置

自動化アダプターは要求を拒否します。

オペレーターの応答

自動化アダプター・サイトのプラグイン構成ファイルでパラメーター *plugin-impl-class* を調べてください。このパラメーターを、メッセージに示されているプラグイン・クラス名と比較します。一致しない場合、この問題の原因としてインストールの問題が考えられます。その他のアダプター・メッセージ (例: EEZA0115I) を分析してください。

EEZA0059E 内部エラーが発生しました

説明

自動化アダプターが内部エラーを検出しました。

システムの処置

なし。

オペレーターの応答

Electronic Support (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

EEZA0060I アダプターの終了が *duration of the delay in seconds* 秒遅延しました。

説明

自動化アダプターが適切なドメイン切り離しイベントを送信するまで、自動化アダプターの停止が少しの時間遅延します。この遅延時間を構成するには、*eez-stop-delay-seconds* パラメーターを使用します。

システムの処置

自動化アダプターがドメイン切り離しイベントの送信を試行します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

EEZA0061E ポート *eez-remote-contact-port* でアドレス *eez-remote-contact-hostname* にソケットをバインドできません。原因: *message of the exception*

説明

自動化アダプターがこのアドレスまたはポートを使用できませんでした。この問題の原因としては、1) ポートが既に別のプログラムにより使用されている、2) アドレスを割り当てることができない、が考えられます。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

他のプログラム (既に実行中の自動化アダプター) がこのポートを使用していないことを確認してください。別のプログラムでこのポートが必要な場合は、自動化アダプターが別のポートを使用するように (マスター構成ファイルの *eez-remote-contact-port* パラメーターで) 構成してください。アドレスが有効であることを確認してください。

EEZA0062I 自動化プラグイン *name of the Java plug-in class* の開始コマンドが正常に完了しました。

説明

選択されている自動化プラグインが正常に開始されました。

システムの処置

自動化アダプターが自動化プラグインを開始しました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

EEZA0063I 自動化プラグイン *name of the Java plug-in class* の停止コマンドが正常に完了しました。

説明

選択されている自動化プラグインが正常に停止しました。

システムの処置

自動化アダプターが自動化プラグインを停止しました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

EEZA0064I アダプターの終了コマンドが正常に完了しました。

説明

自動化アダプターが正常に停止しました。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

EEZA0070E ホスト名 *eez-remote-contact-hostname* が不明です。

説明

自動化アダプターがこのホスト名を解決できません。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

有効なホスト名を指定してください。

EEZA0071E ドメイン名がヌルまたは空です。

説明

プラグインから無効なドメイン名 (ヌルまたは空) が戻されました。

システムの処置

プラグインを開始できません。

オペレーターの応答

プラグイン構成ファイルに有効なドメイン名を指定してください。

EEZA0100I アダプターが開始されました。

説明

これは、自動化アダプターが作動可能になるまでに順に表示される 3 つのメッセージのうち、1 つ目のメッセージです。 `eez-initial-contact=true` の場合、自動化アダプターは初期化を開始し、管理サーバーへの接続を試行します。

システムの処置

なし。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

EEZA0101I アダプターがアクティブです。

説明

管理サーバーへの接続が正常に確立された後に、自動化アダプターがアクティブになります。自動化アダプターは初期化を継続し、すべてのプラグインを検出して開始します。

システムの処置

なし。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

EEZA0102I アダプターが作動可能です。

説明

自動化アダプターの始動シーケンスが完了しました。

システムの処置

なし。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

EEZA0103I アダプターを停止中です。

説明

内部停止コマンドまたは外部停止コマンドを受信しました。

システムの処置

自動化アダプターを停止しています。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

EEZA0104I アダプターが停止しました。

説明

自動化アダプター終了処理が完了しました。考えられるすべての停止遅延期間が経過しました。処理は即時に停止します。

システムの処置

自動化アダプターは停止しました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

EEZA0105I 障害が原因で、アダプターが停止しました。 `rc=return code`

説明

エラーが発生したため、自動化アダプターが停止しました。考えられるすべての停止遅延期間が経過しました。処理は即時に停止します。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

以前に出されたエラー・メッセージを検索してください。z/OSでは、戻りコード 28 の原因として 64 ビット JVM が考えられます。代わりに 32 ビット JVM を使用する必要があります。アダプターに対して停止コマンドが実行された場合、アダプターが管理サーバーに対して初期コンタクトを確立する間に、アダプターは戻りコード 12 または 13 で停止します。これは、アダプターが停止コマンドを受信する前の期間に初期コンタクトを確立できなかったことを示します。メッセージ EEZA0057E も参照してください。

EEZA0111I プラグイン (*name of the Java plugin class*) を開始中です。

説明

自動化アダプターによりプラグイン・クラスのインスタンスが既に正常に作成されており、関数 `INIT_DOMAIN` が呼び出されます。

システムの処置

なし。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

EEZA0112I プラグイン (*name of the Java plugin class*) が開始されています。

説明

自動化アダプター・プラグインによるドメインの初期化 (INIT_DOMAIN) が正常に完了しました。

システムの処置

なし。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

EEZA0113I プラグイン (*name of the Java plugin class*) を停止中です。

説明

自動化アダプターによりプラグイン関数 TERM_DOMAIN が呼び出されます。

システムの処置

なし。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

EEZA0114I プラグイン (*name of the Java plugin class*) が停止しました。

説明

自動化アダプター・プラグインによるドメインの停止 (TERM_DOMAIN) が正常に完了しました。

システムの処置

なし。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

EEZA0115I プラグイン (*name of the Java plugin class*) を開始できませんでした。

説明

このメッセージは EEZA0111I の後に表示されることがありますが、関数 INIT_DOMAIN を使用したプラグイン

開始の試行に失敗しました。自動化アダプター・プラグインは自動的に開始されません。

システムの処置

プラグインは使用不可になります。結合イベントは送信されませんでした。

オペレーターの応答

自動化アダプター開始コマンドを使用してプラグインを再始動することをお勧めします。その他のプラグイン・メッセージを調べてください。

EEZA0116I イベント送信側の状況が変更されました: アドレス=*Address*、ポート=*Port*、状況=*Status*

説明

このメッセージは、EIF 接続の状況が変更された場合に表示されます。原因として、新しい EIF 接続が作成された、または既存の EIF 接続が失われたことが考えられます。原因は状況に示されています。「接続がタイムアウトになりました」という状況は、SA Application Manager が停止した場合 (例えば、SA Application Manager を他のシステムに移動したため、アダプターで EIF 送信側宛先の変更が必要になった場合) に予想されます。

システムの処置

なし。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

EEZA9991E メッセージ・ファイルがインストールされていません。

説明

英語のメッセージ・ファイルが使用可能である必要があります。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。

オペレーターの応答

クラス・パスにメッセージ・ファイルが含まれていることを確認してください。

EEZA9992E EEZAdapterLogger が使用できません。

説明

自動化アダプター・ロギング・コンポーネントが初期化されていません。

システムの処置

自動化アダプターは停止します。自動化アダプター・クライアント API を使用する他のプロセスが、ログ・

ファイルとトレース・ファイルにメッセージを書き込むことができなくなります。

オペレーターの応答

Electronic Support (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

高可用性ポリシーのメッセージ

このセクションでは、SAP、NFS、および Oracle の高可用性ポリシーによって生成され、接頭部が SAMS のメッセージをリストします。

接頭部 SAMS

SAMS0001E オンライン・ドメインが見つかりませんでした。

説明

オンライン・ドメインのみが取得されます。

オペレーターの応答

ポリシーをアクティブにするドメインを開始し、取得を再実行してください。

SAMS0002E ノードが見つかりませんでした。

説明

コマンド `lsrpnod` を使用してノードが見つかりませんでした。

オペレーターの応答

少なくとも 1 つのノードがあるドメイン内で取得コマンドを実行していることを確認してください。

SAMS0003E **SAPSID** *SAPSID* が複数見つかりました。

説明

取得時に **SAPSID** が複数見つかりました。自動取得できません。

オペレーターの応答

ウィザードの値編集機能を使用して、使用可能な **SAPSID** の 1 つを手動で指定してください。

SAMS0004E **SAPSID** が見つかりませんでした。

説明

システムで **SAPSID** が見つかりませんでした。

オペレーターの応答

SAP がディレクトリー `/usr/sap` にインストールされていることを確認してください。

SAMS0005E 指定されたパラメーターの数が無効です。パラメーター *parameter* が欠落しています。

説明

パラメーターが欠落している場合は、取得を正常に実行できません。

オペレーターの応答

ポリシー・テンプレート内のすべての以前のパラメーターが指定されていることを確認し、取得を再実行してください。

SAMS0006E **SAP** バージョン *SAP version* はサポートされていません。

説明

この SAP バージョンは取得できません。

オペレーターの応答

サポートされる SAP バージョンがインストールされていることを確認してください。

SAMS0007E 有効な **SAP** バージョンが見つかりませんでした。

説明

SAPADMIN として `disp+work` コマンドを使用して有効な SAP バージョン情報が見つかりませんでした。

オペレーターの応答

SAP が正しくインストールされていることを確認してください。

SAMS0008E ノード *node name* 上の *instance type* のインスタンス・ディレクトリーが見つかりませんでした。

説明

SAP インスタンス・ディレクトリーが見つかりませんでした。

オペレーターの応答

SAP が正しくインストールされていることを確認してください。

SAMS0009E *instance type* のインスタンス・ディレクトリーが複数見つかりました。

説明

インスタンス・ディレクトリーが複数見つかりました。これは SAP 構成エラーです。

オペレーターの応答

SAP が正しくインストールされていることを確認してください。

SAMS0010E **ResourceType** が 1 でクラスが **IBM.AgFileSystem** であるリソースが見つかりませんでした。

説明

ResourceType が 1 でクラスが IBM.AgFileSystem であるリソースが見つかりませんでした。

オペレーターの応答

IBM.AgFileSystem として表される共有ディスクが構成されていることを確認してください。

SAMS0011E ネットワーク・インターフェースが見つかりませんでした。

説明

ネットワーク・インターフェースが見つかりませんでした。ループバック・インターフェースを除くすべての外部ネットワーク・インターフェースを検索しました。

オペレーターの応答

少なくとも 1 つの外部ネットワーク・インターフェースが構成されていることを確認してください。

SAMS0012E SAP インスタンス *instance name* のホスト名が複数見つかりました。次のうちいずれかのホスト名を選択してください: *hostnames*

説明

ホスト名が複数見つかりました。見つかったいずれかのホスト名を選択してください。

オペレーターの応答

ポリシーに対して、見つかったいずれかのホスト名を選択してください。

SAMS0013E SAP インスタンス *instance name* のホスト名が見つかりませんでした。

説明

仮想ホスト名が見つかりませんでした。

オペレーターの応答

SAP インスタンスのプロファイル・ファイル /usr/sap/<SAPSID>/SYS/profile があることを確認してください。

SAMS0014E *instance name* のインスタンス・ディレクトリーが複数見つかりました。見つかったディレクトリーのインスタンス番号のうちいずれかを選択してください: *instance directories*

説明

インスタンス・ディレクトリーが複数見つかりました。

オペレーターの応答

リストされたインスタンス・ディレクトリーのインスタンス番号のうちいずれかを選択してください。

SAMS0015E ノード *node name* のアプリケーション・サーバー・インスタンス・ディレクトリーが複数見つかりました。インスタンス・ディレクトリーは次のとおりです: *instance directories*。これは取得できません。必要なインスタンス・ディレクトリーをすべて手動で入力してください。

説明

ノード上でインスタンス・ディレクトリーが複数見つかりました。

オペレーターの応答

必要なインスタンス・ディレクトリーをすべて手動で入力してください。

SAMS0016E 指定された **IBM.AgFileSystem** 名のうち 1 つ以上に対して、**SysMountPoint** 属性と **MountPoint** 属性のどちらも定義されていないため、これを取得できません。

説明

指定された **IBM.AgFileSystem** 名のマウント・ポイントを取得するには、**SysMountPoint** 属性または **MountPoint** 属性のいずれかを定義する必要があります。

オペレーターの応答

資料に従って **SysMountPoint** 属性または **MountPoint** 属性を定義してください。

SAMS0017I ローカル・システム上で以下のネットワーク・インターフェースが使用可能です。

説明

ローカル・システムで現在使用可能なネットワーク・インターフェースが、このメッセージの後の行に表示されています。

オペレーターの応答

ポリシー・セットアップ・ウィザードの指示に従って先に進みます。

SAMS0018I 以下の *node type* ノードが表示された順序で定義されています。

説明

現在定義されているノードを表示します。現在定義されているノードが、このメッセージに続く行に表示されます。

オペレーターの応答

ポリシー・セットアップ・ウィザードの指示に従って先に進みます。

SAMS1001I **Start process name** プロセスの開始が正常に完了しました。

説明

示されているプロセスの開始が正常に実行されたことを表示しています。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1002E *process name* プロセスの開始に失敗しました。

説明

示されているプロセスの開始が失敗したことを表示しています。

オペレーターの応答

プロセスについてエラー・ログを分析し、開始を再試行してください。

SAMS1003I *process name* プロセスの停止が正常に完了しました。

説明

示されているプロセスの停止が正常に実行されたことを表示しています。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1004E *process name* プロセスの停止に失敗しました。フラグは **SA_RESET=SA_RESET flag** です。

説明

示されているプロセスの停止が失敗したことを表示しています。

オペレーターの応答

プロセスについてエラー・ログを分析してください。

SAMS1005E 誤ったアクション *Action* が指定されました。

説明

パラメーター *Action* が正しくありません。

オペレーターの応答

正しいパラメーター *Action* (start, stop, または status) を使用してください。

SAMS1006E *Script name* がサポートされていないオペレーティング・システム **Operating system** で実行されていません。

説明

このオペレーティング・システムでは、このスクリプトはサポートされません。

オペレーターの応答

このオペレーティング・システムではこのスクリプトを使用しないでください。

SAMS1007I *instance profile name* インスタンス・プロファイルのインスタンスの開始が正常に完了しました。

説明

示されているインスタンスの開始が正常に実行されたことを表示しています。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1008E *instance profile name* インスタンス・プロファイルのインスタンスの開始に失敗しました。

説明

示されているインスタンスの開始が失敗したことを表示しています。

オペレーターの応答

このインスタンスについてエラー・ログを分析し、開始を再試行してください。

SAMS1009I *instance profile name* インスタンス・プロファイルのインスタンスの停止が正常に完了しました。

説明

示されているインスタンスの停止が正常に実行されたことを表示しています。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1010E *instance profile name* インスタンス・プロファイルのインスタンスの停止に失敗しました。フラグは **SA_RESET=SA_RESET flag** です。

説明

示されているインスタンスの停止が失敗したことを表示しています。

オペレーターの応答

このインスタンスについてエラー・ログを分析してください。

SAMS1011I *instance profile name* インスタンス・プロファイルの **SAP** コマンド「**SAP command name**」が直ちに開始します。

説明

示されたコマンドが即時に開始されます。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1012I *instance profile name* インスタンス・プロファイルの **SAP** コマンド「**SAP command name**」が正常に終了しました。コマンド出力: **SAP command output**

説明

示されたコマンドが正常に終了します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1013E *instance profile name* インスタンス・プロファイルの **SAP** コマンド「**SAP command name**」が **rc return_code** で失敗しました。コマンド出力: **SAP command output**

説明

示されたコマンドが失敗しました。

オペレーターの応答

このインスタンスについてエラー・ログを分析してください。

SAMS1014E コマンド「**command name**」が **rc return_code** で失敗しました。コマンド出力: **command output**

説明

示されたコマンドが失敗しました。

オペレーターの応答

このインスタンスについてエラー・ログを分析してください。

SAMS1015E 引き継ぎコマンドの完了後に **HDB** システム複製モードが主要に切り替わりませんでした。 (**HDB system replication mode did not switch to**

primary after takeover command completed.) 現在のシステム複製モード: system replication mode (Current system replication mode: system replication mode)

説明

引き継ぎが正常に終了しませんでした。

オペレーターの応答

このインスタンスについてエラー・ログを分析してください。

SAMS1201I NFS サーバーの開始 - 開始セクション内

説明

NFS サーバーの開始が進行中です。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1202I NFS サーバーの開始 - IP アドレス TCP IP が DNS に見つかりません。/etc/hosts を探します。

説明

TCP IP アドレスが DNS に見つかりませんでした。/etc/hosts を探します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1203I NFS サーバーの開始 - IP アドレス TCP IP が /etc/hosts に見つかりません。rpc.statd の IP アドレスを使用します。

説明

TCP IP アドレスが /etc/hosts に見つかりませんでした。rpc.statd の IP アドレスを使用します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1204I NFS サーバーの開始。デーモンを開始しようとしています - 開始試行回数: *The number of the NFS server start attempt*。

説明

NFS サーバーの開始時にデーモンを開始しようとしています。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1205I NFS サーバーが開始されました。

説明

NFS サーバーが開始されました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1207I NFS サーバーの停止。デーモンを停止しようとしています。

説明

NFS サーバーの停止時にデーモンを停止しようとしています。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1208I NFS サーバーが停止しました。

説明

NFS サーバーが停止しました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1209I NFS サーバーはオフラインです。

説明

NFS サーバーはオフラインです。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1210I NFS サーバーはオンラインです。

説明

NFS サーバーはオンラインです。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1211I NFS サーバーの開始命令が実行されました。

説明

NFS サーバーの開始命令が実行されました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1212I NFS サーバーが開始されました。

説明

NFS サーバーが開始されました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1213I NFS サーバーの停止命令が実行されました。

説明

NFS サーバーの停止命令が実行されました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1214I NFS サーバーが停止しました。

説明

NFS サーバーが停止しました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1215I NFS サーバーの開始 - 戻りコードが *The return code of the NFS server start script* です。

説明

NFS 開始スクリプトは、エラーの場合は 1、正常開始の場合は 0 を戻します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1216I NFS サーバーの停止 - 戻りコードが *The return code of the NFS server stop script* です。

説明

NFS 停止スクリプトは、エラーの場合は 1、正常停止の場合は 0 を戻します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1251E ファイル */etc/exports* が存在しないか読み取り不可です。 *exportonline* であるファイル・システム *Mount point* をエクスポートする必要があるかどうか判断できません...

説明

ファイル */etc/exports* が存在しないか読み取り不可です。ファイル・システムをエクスポートする必要があるかどうか判断できません。

オペレーターの応答

/etc/exports が存在するかどうか、および十分なファイル権限があるかどうかを確認してください。

SAMS1252E エラー: パラメーター *Action* が正しくありません。
Usage description

説明

パラメーター「*Action*」の使用 방법이正しくありません。

オペレーターの応答

使用方法の説明を参照して、正しいパラメーターを使用してください。

SAMS1253E NFS サーバーの開始 - ファイル */etc/init.d/nfslock* が見つかりません。NFS サーバーを開始できません。

説明

ファイル */etc/init.d/nfslock* が見つかりません。NFS サーバーを開始できません。

オペレーターの応答

/etc/exports が存在するかどうか、および十分なファイル権限があるかどうかを確認してください。

SAMS1301I データベース *Oracle system ID* を開始しています。

説明

データベースを開始しています。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1302I データベース *Oracle system ID* は既に開始されています。

説明

データベースは既に開始されています。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1303W データベース *Oracle system ID* はシステムの停止時に実行されたままになっている可能性があります(システムが異常終了した場合など)。

説明

データベースはシステムの停止時に実行されたままになっている可能性があります(システムが異常終了した場合など)。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1304W データベース *Oracle system ID* は開始されていません。

説明

データベースは開始されていません。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1305I データベース *Oracle system ID* は開始されています。

説明

データベースは開始されています。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1306I データベース *Oracle system ID* はバックアップの完了後に開始されました。

説明

データベースはバックアップの完了後に開始されました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1307I データベース *Oracle system ID* を停止しています。

説明

データベースを停止しています。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1308I データベース *Oracle system ID* はシャットダウンされました。

説明

データベースはシャットダウンされました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1309W データベース *Oracle system ID* をシャットダウンできませんでした。

説明

データベースを System Automation によってシャットダウンできませんでした。

オペレーターの応答

データベースがこの操作のために必要な正しい状態であることを確認してください。データベースを System Automation によってシャットダウンできることを確認してください。

SAMS1310I リスナー *Listener name* の開始、*rc: Return code*

説明

アクション START がリスナーの戻りコードを戻しました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1311I プロセス・ストリングで識別されたリスナーを強制終了します:
Command line

説明

指定されたプロセス・ストリングを使用して、リスナーを強制終了します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1312I リスナー *Listener name* の強制終了
プロセス、**rc: Return code**

説明

アクション KILL がリスナーの戻りコードを戻しました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1313I リスナー *Listener name* の停止、**rc: Return code**

説明

アクション STOP がリスナーの戻りコードを戻しました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1351E データベース *Oracle system ID* の
init ファイルが見つかりません
データベース *Oracle system ID* は開
始されていません。

説明

データベースの **init** ファイルが見つかりません。

オペレーターの応答

ポリシー・セットアップ中に Oracle ホーム・ディレクトリーが正しく指定されたかどうかを確認してください。

SAMS1352E エラー: パラメーター *Action* が正しくありません。

説明

パラメーター *Action* が正しくありません。

オペレーターの応答

正しいパラメーター *Action* (start、stop、または status) を使用してください。

SAMS1401E SA MP クラスター・コネクター - 必要なクラスター・コマンド
cluster_command が欠落しています。

説明

SA MP クラスター・コネクターに必要なコマンドが使用不可です。

オペレーターの応答

SA MP が正しくインストールおよび構成されていることを確認してください。

SAMS1401I SA MP クラスター・コネクターが正
常にロードされました。SA MP のバ
ージョン: *sa_mp_version*

説明

SA MP クラスター・コネクターの初期化が正常に行われました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMS1402E SA MP クラスター・コネクター - SA
MP ドメインが存在しないかオフラ
インになっています。

説明

SA MP ドメインが存在しないか、状況がオフラインです。

オペレーターの応答

オンラインの SA MP ドメインが存在していることを確認してください。

SAMS1402I SA MP クラスター・コネクター - リ
ソースが見つかりません (**SID:**
sap_sid、インスタンス番号:
instance_number)。)

説明

SA MP クラスター・コネクターが、示されている SID およびインスタンス番号の自動化リソースを見つけることができませんでした。

オペレーターへの応答

アクションは不要です。

SAMS1403E SA MP クラスター・コネクター - SA MP のバージョンを取得できませんでした。

説明

SA MP クラスター・コネクターが SA MP のバージョンを判別できませんでした。

オペレーターへの応答

オンラインの SA MP ドメインが存在していることを確認してください。

SAMS1403I SA MP クラスター・コネクターが起動されました (アクション: **connector_action**、リソース: **resource**、クラスター・アクション: **cluster_action**、出力: **output_file**、SID: **sap_sid**、インスタンス番号: **instance_number**、ノード: **cluster_node**)。

説明

示されているパラメーターを指定して SA MP クラスター・コネクターが起動されました。

オペレーターへの応答

アクションは不要です。

SAMS1404E SA MP クラスター・コネクター - アクション: **action** の起動時にエラーが発生しました。無効な値「**value**」がパラメーター「**parameter**」に指定されています。

説明

パラメーター値が無効であるため、SA MP クラスター・コネクターが、示されているアクションを実行できませんでした。

オペレーターへの応答

パラメーター値が有効であることを確認してください。

SAMS1404I SA MP クラスター・コネクターのアクション: **connector_function** から **rc: return_code** が返されました。

説明

SA MP クラスター・コネクターが処理を完了しました。

オペレーターへの応答

アクションは不要です。

Extended Disaster Recovery (xDR) フィーチャーのメッセージ

Extended Disaster Recovery (xDR) フィーチャーが生成するメッセージの詳細情報 (説明やオペレーターへの応答など) を取得します。

xDR メッセージには、SAMX という接頭部が付いています。これらのメッセージの説明は、ここには記載していませんが、コマンド `xdrhelpmsg` を次の構文で使用するによって取得することができます。

```
xdrhelpmsg SAMXnnnnn
```

アダプター・メッセージ

接頭部 SAMA

SAMA0001E ライブラリー (**lib**) をロードできませんでした。メッセージ: **message**。

説明

ライブラリーをロードできませんでした。ライブラリーまたは前提条件ライブラリーのいずれかが使用できません。

システムの処置

自動化アダプターは開始されません。

オペレーターへの応答

ロードできなかったライブラリーを次の手順で確認してください。「**find -name**」を使用してライブラリーを見つけます。「**ldd library**」を使用して、使用不可のライブラリーを判別します。

SAMA0002E ドメイン **domain** がオフラインに切り替わり、自動化アダプターが停止しました。

説明

イベントが、ドメインがオフラインに切り替わったことを示しました。自動化アダプターは、オンラインのドメインのみで動作できます。このため、自動化アダプターが停止しました。

システムの処置

自動化アダプターはこれ以降の要求を受け入れません。自動化アダプターは停止しました。

オペレーターの応答

自動化アダプターが自動化されている場合、アクションは不要です。ドメインがオンラインに戻った時点で、自動化アダプターが再始動します。自動化アダプターが自動化されていない場合は、ドメインがオンラインに戻った後で、「samadapter start」コマンドを使用して自動化アダプターを再始動してください。自動化アダプターが自動化されているかどうかを確認するには、コマンド「samadapter status」を使用します。

SAMA0003E 自動化アダプター・リソース *resource* に要求 *request* を適用しないでください。

説明

アダプターを制御する自動化リソースは、このような要求を受け入れることができません。これは、samadapter を正しく自動化できなくなるためです。例えば、samadapter に対して「Offline」になるように要求すると、IBM System Automation Application Manager のエンドツーエンド自動化サーバーからドメインにアクセスできなくなります。

システムの処置

要求は実行されませんでした。

オペレーターの応答

SAMP ドメインのいずれかのノードから samadapter を制御するには、提供されているスクリプト「samadapter start」および「samadapter stop」のみを使用してください。

SAMA0004E リソース *resource* で要求 *request* に失敗しました。メッセージ: *message*。

説明

リソースで要求を実行できませんでした。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

要求は実行されませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、要求に失敗した理由を調べてください。

SAMA0005E リソース *resource* に対する要求 *request* からコマンドを作成できません。

説明

リソースに対する要求を作成できませんでした。この理由は、このタイプのリソースではコマンドが許可されていないためです。

システムの処置

要求は実行されませんでした。

オペレーターの応答

Electronic Support (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

SAMA0006E リソース *resource* をリセットできませんでした。メッセージ: *message*。

説明

リカバリー不可としてマークされているリソースのリセット中にエラーが発生しました。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

リソースのリセット要求は実行されませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、リセットに失敗した理由を調べてください。

SAMA0007E グループ *resource* のメンバーを取得できませんでした。メッセージ: *message*。

説明

リソースのメンバーを取得しようとしたときにエラーが発生しました。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

エラーが原因で、リソースに含まれるメンバーが戻されませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、含まれているリソースの取得に失敗した理由を調べてください。

SAMA0008E 最上位リソースを取得できませんでした。メッセージ: *message*。

説明

他のリソースに含まれていないリソースの取得中にエラーが発生しました。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

エラーが原因でリソースが戻されませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、最上位リソースの取得に失敗した理由を調べてください。

SAMA0010E ノード *node* を自動化対象から除外できません。メッセージ: *message*。

説明

自動化対象からのノードの除外中にエラーが発生しました。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

ノード除外操作は実行されませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、ノードの除外に失敗した理由を調べてください。

SAMA0011E リソース *resource* をアンサブスクライブできませんでした。メッセージ: *message*。

説明

リソースのサブスクリプションの削除中にエラーが発生しました。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

サブスクリプションが削除されていない可能性があります。

オペレーターの応答

メッセージに示された、サブスクリプションの削除に失敗した理由を調べてください。

SAMA0013E セッションを確立できませんでした。メッセージ: *message*。

説明

バックエンドとの RMC セッションを確立できませんでした。このため、要求を満たすことができません。

システムの処置

RMC とのセッションを確立できません。

オペレーターの応答

メッセージを調べ、RMC セッションの確立に失敗した理由を確認してください。

SAMA0016E ノード *node* を自動化対象に組み込むことができませんでした。メッセージ: *message*。

説明

自動化対象へのノードの組み込み中にエラーが発生しました。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

ノード組み込み操作は実行されませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、ノードの組み込みに失敗した理由を調べてください。

SAMA0018E リソース *resource* をサブスクライブできませんでした。メッセージ: *message*。

説明

リソースのサブスクリプションを要求中にエラーが発生しました。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

サブスクリプションを作成できません。

オペレーターの応答

メッセージに示された、サブスクリプションの要求に失敗した理由を調べてください。

SAMA0019E ドメイン *domain* の詳細を取得できませんでした。メッセージ: *message*。

説明

ドメインが正常に検索されましたが、関連付けられているクラス情報の取得の試行に失敗しました。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

ドメインの情報がありません。

オペレーターの応答

メッセージに示された、追加情報の取得に失敗した理由を調べてください。

SAMA0020E リソース *grp* を検証できませんでした。

説明

要求対象のリソースが存在していません。

システムの処置

要求は実行されません。

オペレーターの応答

リスト・コマンドを使用してリソースが存在しているかどうかを検証してください。存在していない場合は、リソースは削除されています。存在している場合は、要求を繰り返してください。

SAMA0022E リソース関係を取得できませんでした。メッセージ: *message*。

説明

リソース間の関係の取得中にエラーが発生しました。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

関係が戻されませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、要求に失敗した理由を調べてください。

SAMA0023E リソースを検索できませんでした。メッセージ: *message*。

説明

リソースの識別中にエラーが発生しました。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

リソースが戻されませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、要求に失敗した理由を調べてください。

SAMA0024E フィルター *filter* に基づいてリソースを取得できませんでした。メッセージ: *message*。

説明

フィルターに基づいてリソースを取得中にエラーが発生しました。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

フィルタリングされたリソースが戻されませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、要求に失敗した理由を調べてください。

SAMA0025E *resource* の親リソースを取得できませんでした。メッセージ: *message*。

説明

リソースの親の取得中にエラーが発生しました。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

親リソースが戻されませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、要求に失敗した理由を調べてください。

SAMA0026E ノード *node* でリソースを取得できませんでした。メッセージ: *message*。

説明

ノードで実行されている可能性のあるリソースの取得中にエラーが発生しました。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

ノードのリソースが戻されませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、要求に失敗した理由を調べてください。

SAMA0027E リソースをリフレッシュできませんでした。メッセージ: *message*。

説明

リソースのリフレッシュ中にエラーが発生しました。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

リソースがリフレッシュされませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、要求に失敗した理由を調べてください。

SAMA0028E ドメインのノードを取得できませんでした。メッセージ: *message*。

説明

ドメインでのノードの取得中にエラーが発生しました。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

ノードが戻されませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、要求に失敗した理由を調べてください。

SAMA0029E 同値からノードを取得できませんでした。メッセージ: *message*。

説明

同値からのノードの取得中にエラーが発生しました。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

ノードが戻されませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、要求に失敗した理由を調べてください。

SAMA0033E 自動化対象から除外されたノードを取得できませんでした。メッセージ: *message*。

説明

自動化対象から除外されたノードの取得中にエラーが発生しました。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

ノードが戻されませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、要求に失敗した理由を調べてください。

SAMA0034E 第1レベル自動化マネージャーでイベント・パブリッシュを使用可能に設定できませんでした。メッセージ: *message*。

説明

作動不能な IBM.RecoveryRM が原因でパブリッシュを使用可能にできなかった可能性があります。メッセージに詳細が示されています。

システムの処置

イベント・パブリッシュは使用可能になりませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、イベント・パブリッシュを使用可能にできなかった理由を調べてください。

SAMA0035E ドメイン *domain* がオフラインに切り替わったため、アダプターが停止しました。

説明

イベントにより、ドメインがオフラインへ切り替えられることがアダプターに通知されました。ドメインがオフラインの場合、アダプターは継続できません。このため、アダプターは停止しました。

システムの処置

アダプターが停止している。

オペレーターの応答

予期しない状態でドメインがオフラインに切り替わった場合は、理由を判別してください。ドメインを再始動するには、コマンド「startprpdomain <domain-name>」を使用します。ドメインがオンラインで、アダプターが自動化されている場合は、アダプターは自動的に再始動します。それ以外の場合には、コマンド

「samadapter start」を実行してアダプターを再始動してください。

SAMA0036E 要求 *request* はインプリメントされていません。

説明

要求は現在サポートされていません。

システムの処置

要求は実行されません。

オペレーターの応答

要求をサポートする新しいバージョンの自動化アダプターが使用可能であるかどうかを調べてください。

SAMA0037E オンラインであるドメインが検出されませんでした。自動化アダプターは停止しました。

説明

オンライン・ドメインが検出されなかったか、またはドメインの照会中にエラーが発生しました。自動化アダプターは、オンラインのドメインのみで動作できます。このため、自動化アダプターが停止しました。

システムの処置

自動化アダプターはこれ以降の要求を受け入れません。自動化アダプターは停止しました。

オペレーターの応答

自動化アダプターが自動化されている場合、アクションは不要です。ドメインがオンラインに戻った時点で、自動化アダプターが再始動します。自動化アダプターが自動化されていない場合は、ドメインがオンラインに戻った後で、「samadapter start」コマンドを使用して自動化アダプターを再始動してください。自動化アダプターが自動化されているかどうかを確認するには、コマンド「samadapter status」を使用します。

SAMA0038E リソース *resource* に対する要求 *request* が、コード *return-code* とエラー・メッセージ *error* で戻りました。

説明

要求が、ゼロ以外の戻りコードで戻されました。このコードは、要求が正常に実行されなかったことを示します。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

要求は実行されませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、要求に失敗した理由を調べてください。

SAMA0039E リソース *resource* に対する要求 *request* が結果なしで戻りました。

説明

要求が戻りコードとメッセージをともなって応答しませんでした。

システムの処置

要求が実行されなかった可能性が高いです。

オペレーターの応答

エラーが解決しない場合は、ログでその他のエラー発生時点前後のメッセージを調べてください。

SAMA0040E ユーザー ID *user* のログインが不明な理由で失敗しました。メッセージ: *message*

説明

PAM がエラーで戻ったことが原因で、ユーザー ID とパスワードの検証を実行できませんでした。

システムの処置

このユーザー ID の要求は受け入れることができません。

オペレーターの応答

メッセージを調べてください。ログインを再試行してください。入力は大文字小文字が区別されるため、ユーザー ID とパスワードを正しい大/小文字で指定してください。

SAMA0041E ユーザー ID *user* のログインに失敗しました。メッセージ: *message*

説明

ログイン実行ノードでユーザー ID とパスワードの検証に失敗しました。

システムの処置

このユーザー ID の要求は受け入れることができません。

オペレーターの応答

メッセージを調べてください。ログインを再試行してください。入力は大文字小文字が区別されるため、ユーザー ID とパスワードを正しい大/小文字で指定してください。

SAMA0042E ユーザー・アカウントの有効期限が切れていることが原因で、ユーザー ID *user* のログインに失敗しました。メッセージ: *message*

説明

ユーザー・アカウントの有効期限が切れています。

システムの処置

要求は実行されませんでした。

オペレーターの応答

システム管理者に、ユーザー・アカウントの有効期限を変更するよう依頼してください。

SAMA0043E パスワードの有効期限が切れていることが原因で、ユーザー ID *user* のログインに失敗しました。メッセージ: *message*

説明

パスワードの有効期限が切れています。システム管理者に、有効期限を変更するよう依頼してください。

システムの処置

要求は実行されませんでした。

オペレーターの応答

パスワードの変更を依頼してください。

SAMA0044E プログラミング・エラーが検出されました。エラー・メッセージ: *error-message*。

説明

自動化アダプターが、処理できないエラーを検出しました。

システムの処置

要求は処理されなかった可能性があります。

オペレーターの応答

Electronic Support (<http://www.ibm.com/support/entry/portal/>) の追加情報を確認してください。

SAMA0045E リソース・グループ *resource* のノードを取得できませんでした。メッセージ: *message*。

説明

リソース・グループが実行されている可能性のあるノードの取得中にエラーが発生しました。メッセージに理由が示されています。

システムの処置

ノードが戻されませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、要求に失敗した理由を調べてください。

SAMA0046E リソース・グループ *resource* がノード *node* で既にオンラインになっています。

説明

リソース・グループは既にそのノードでオンラインであるため、リソース・グループを開始しようとして失敗しました。オンライン要求が選択された時点でリソース・グループの状態はオフラインでしたが、要求の処理が試行されたときにオンラインに変わりました。

システムの処置

リソース・グループが既にオンラインであるため、オンライン要求は実行されません。

オペレーターの応答

目的はリソース・グループをノードでオンラインにすることであるため、アクションは不要です。

SAMA0047E リソース・グループ *resource* はノード *online-node* で既にオンラインになっているため、ノード *requested-node* で開始できません。

説明

リソース・グループは、既に別のノードでオンラインになっているため、指定されたノードで開始する試行は失敗しました。

システムの処置

オンライン要求は実行されません。

オペレーターの応答

リソース・グループがオンラインになっているノードを確認してください。リソース・グループを別のノードでオンラインにする必要がある場合、まずオンラインになっているノードでオフラインにします。次に、別のノードでオンライン要求を繰り返します。

SAMA0048E ドメイン *domain* がオフラインに切り替わったため、アダプターが停止しました。

説明

イベントにより、クラスター・サービスが表すドメインが停止したことがアダプターに通知されました。クラスター・サービスが停止したノードでアダプターは継続できません。このため、アダプターは停止しました。

システムの処置

アダプターが停止している。

オペレーターの応答

予期しない状態でクラスター・サービスが停止した場合は、理由を判別してください。クラスター・サービスは、`smitty hacmp` を使用して再開できます。クラスター・サービスが開始され、アダプターが自動化されると、自動的に再開されます。それ以外の場合には、コマンド「`hacadapter start`」を実行してアダプターを再始動してください。

SAMA0049E オンラインであるドメインが検出されませんでした。自動化アダプターは停止しました。

説明

クラスター・サービスが表すドメインがオンラインであることが検出されなかったか、ドメインの照会中にエラーが発生しました。自動化アダプターは、オンラインのドメインのみで動作できます。このため、自動化アダプターが停止しました。

システムの処置

自動化アダプターはこれ以降の要求を受け入れません。自動化アダプターは停止しました。

オペレーターの応答

自動化アダプターが HACMP によって自動化されている場合、アクションは不要です。ドメインがオンラインに戻った時点で、自動化アダプターが再始動します。自動化アダプターが自動化されていない場合は、「`hacadapter start`」コマンドを使用して自動化アダプターを再始動してください。自動化アダプターが自動化

されているかどうかを確認するには、コマンド「`hacadapter status`」を使用します。

SAMA0050E 要求 *request* は許可されません。ドメイン *cluster* の副状態が *substate* であるためです。副状態 **STABLE** であることが必要です。

説明

ドメイン (クラスター) の副状態が **STABLE** である場合のみ、要求を実行できます。

システムの処置

自動化アダプターが要求を受け取りません。

オペレーターの応答

ドメインの副状態が **STABLE** になるまで待ちます。IBM System Automation Application Manager エンドユーザーエンド自動化サーバーで副状態を確認するには、ドメインを選択して、「追加情報」タブで「クラスターの副状態」を調べます。「クラスターの副状態」を調べる前に、再度「すべてリフレッシュ」を選択してください。妥当な時間内に副状態 **STABLE** に変わらない場合、「`smitty hacmp`」>「問題判別」を使用して状態を解決してください。

SAMA0051E リソース *resource* に対する要求 *request* は既に実行依頼され、現在実行されています。

説明

要求の処理は保留中であるため、再実行依頼されません。

システムの処置

要求は実行されませんでした。

オペレーターの応答

保留中のコマンドが完了するまで待ってください。リソースの状態変更によって完了が示される可能性があります。ログで注意が必要な場合、ログを表示して、要求に失敗していないかどうかを確認してください。

SAMA0052E 現行の自動化ポリシーの非アクティブ化はエラー・メッセージ *error* で失敗しました。

説明

現在アクティブな自動化ポリシーを非アクティブにする要求がエラーで戻りました。

システムの処置

ポリシーは正しく非アクティブにされませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、ポリシーを非アクティブにできなかった理由を調べてください。ドメインの「ログの表示」を使用して、その他のエラー・メッセージを検索します。

SAMA0053E ファイル *file* からの自動化ポリシーのアクティブ化は、エラー・メッセージ *error* で失敗しました。

説明

自動化ポリシーをアクティブにする要求がエラーで戻りました。

システムの処置

ポリシーはアクティブにされませんでした。

オペレーターの応答

メッセージに示された、ポリシーをアクティブにできなかった理由を調べてください。ドメインの「ログの表示」を使用して、その他のエラー・メッセージを検索します。

SAMA0054E 自動化ポリシー要求 *request* を実行できません。ポリシー要求 *current-req* が進行中であるためです。

説明

まだ別の要求が進行中であるため、自動化ポリシー要求を実行できません。

システムの処置

ポリシー要求は拒否されました。

オペレーターの応答

現行のポリシー要求が終了するまで待ってください。ドメインの「ログの表示」を使用して、ポリシー要求の結果に関する追加情報を検索してください。

SAMA0055E 自動化アダプター・リソース *resource* に要求 *request* を適用しないでください。

説明

アダプターを制御する自動化リソースは、このような要求を受け入れることができません。これは、*hacadapter* を正しく自動化できなくなるためです。例えば、

hacadapter を「Offline」にすると、オペレーション・コンソールからドメインにアクセスできなくなります。

システムの処置

要求は実行されませんでした。

オペレーターの応答

HACMP クラスターのいずれかのノードからアダプターを制御するには、提供されているスクリプト「*hacadapter start*」および「*hacadapter stop*」のみを使用してください。

SAMA0056E 現在のアクティブなポリシーに関する情報を取得できませんでした。エラー・メッセージ: *error-message*。

説明

現在のアクティブなポリシーに関する情報を取得しようとして失敗しました。

システムの処置

現在のアクティブなポリシーに関する情報は提供されません。

オペレーターの応答

エラー・メッセージを評価してください。コマンドの実行を再依頼してください。

SAMA0057E ポリシー・ファイル「*policyFile*」が見つかりません。

説明

ポリシーが存在しません。

システムの処置

ポリシーがアクティブにされていません。

オペレーターの応答

そのパスと名前のポリシー XML ファイルが存在することを確認してください。

SAMA0058E ポリシー・プール *directory* に、自動化ドメイン *domain* に対して使用可能な自動化ポリシーがありません。

説明

ポリシー・プール・ディレクトリーにポリシー・ファイルがありません。

システムの処置

ポリシーはリストされません。

オペレーターの応答

ポリシーの処理を試行する前に、ポリシー・プールにポリシー・ファイルが入っていることを確認してください。

SAMA0059E 現在のアクティブ・ポリシーのポリシー・ファイル「*policyFile*」が見つかりません。

説明

これ以前に、アクティブ・ポリシーはこのファイルから正常にアクティブにされていました。しかし現在ファイルが見つかりません。

システムの処置

ファイルが見つからないため、現在のアクティブ・ポリシーを確認できませんでした。このため、ポリシー情報が不完全です。

オペレーターの応答

ファイルを誤って削除してしまった場合、「*sampolicy -s filename*」コマンドを使用してポリシーを保存してください。それ以外の場合は、ファイルを該当パスに移動するか、*cfgsamadapter* を使用してポリシー・プール・パスを訂正し、そこからポリシーをアクティブにしてください。

SAMA0060E ローカル・ノード「*localNode*」からリモート・ノード「*remoteNodes*」にポリシー・ファイル「*fileName*」を複製しようとしたましたが、失敗しました。元のエラー:「*errorMessage*」。

説明

リモート・ノードでポリシー・ファイルの複製を試行中に、エラーが発生しました。詳細については、元のエラーを参照してください。

システムの処置

詳細については、元のエラーを参照してください。

オペレーターの応答

詳細については、元のエラーを参照してください。

SAMA0061E ローカル・ノード「*localNode*」でポリシー・ファイル「*fileName*」を保管しようとしたましたが、失敗しました。元のエラー:「*errorMessage*」。

説明

ローカルでポリシー・ファイルの保管を試行中に、エラーが発生しました。詳細については、元のエラーを参照してください。

システムの処置

ローカル側でのポリシー・ファイルの保管に失敗しました。ポリシー・ファイルは作成されませんでした。

オペレーターの応答

ローカル・ノードに十分なスペースがあるかどうかを確認してください。詳細については、元のエラーを参照してください。

SAMA0062E ノード *localNode* 上のポリシー・ファイル *fileName* を検索できませんでした。

説明

ポリシー・プール・ディレクトリーにポリシー・ファイルが存在しません。

システムの処置

ポリシー・ファイルは読み取られませんでした。

オペレーターの応答

ポリシー・プール・ディレクトリーにポリシー・ファイルが確実に存在するようにしてください。

SAMA0063E リソース・グループが別のリソース・グループに含まれているため、リソース・グループ「*resourcegroup*」に対する移動要求は許可されません。

説明

移動要求は、他のリソース・グループに含まれないリソース・グループに対してのみ許可されます。

システムの処置

移動要求は実行されません。

オペレーターの応答

可能な場合は、リソース・グループが含まれるトップレベルのリソース・グループを移動します。

SAMA0064E リモート・ノード「*remoteNodes*」上でポリシー・ファイル「*fileName*」を削除しようとしたましたが、失敗しました。元のエラー:「*errorMessage*」。

説明

リモート・ノードでポリシー・ファイルの削除を試行中に、エラーが発生しました。

システムの処置

現行タスクが終了します。

オペレーターの応答

詳細については、元のエラーを参照してください。

SAMA0065E ポリシーが現在アクティブなため、ポリシー・ファイル「*fileName*」の削除は許可されていません。

説明

現在アクティブなポリシーのファイルは削除できません。

システムの処置

ポリシー・ファイルは削除されていません。

オペレーターの応答

現在のポリシーを非アクティブにします。その後、ファイルの削除を試行してください。

SAMA0066E 自動化ポリシー・プールのロケーションがノード *node* に指定されませんでした。

説明

ポリシー・プールのロケーションが構成ダイアログで指定されませんでした。

システムの処置

操作は取り消されます。

オペレーターの応答

構成ダイアログ「*cfgsamadapter*」を使用して「ポリシー・プールのロケーション」を指定します。これは、アクティブにするための自動化ポリシー・ファイルが保管されているディレクトリです。そのロケーションからのポリシーがアクティブなポリシーとして示されている場合、ポリシー・プールが置かれているドメイン内の別のノードからアクティブにされている可能性があります。構成およびポリシーがドメイン内のその他すべてのノードにコピーされていることを確認してください。

SAMA0500W このバージョンではタイプ *type* のイベントは処理されません。

説明

このタイプのイベントはサポートされていません。

システムの処置

イベントは処理されません。

オペレーターの応答

このタイプのイベントをサポートする新しいバージョンの自動化アダプターが使用可能であるかどうかを調べてください。

SAMA0501W セッション終了に失敗しました。

説明

RMC とのセッション終了時にエラーが検出されました。

システムの処置

セッションが終了していない可能性があります。

オペレーターの応答

アクションは不要です。

SAMA0502W リソース (名前 *name*、クラス *class*、ノード *node*) が見つかりませんでした。

説明

イベントで名前、クラス、およびノードを使用して示されているリソースが見つかりませんでした。

システムの処置

リソースはイベント情報により更新されません。

オペレーターの応答

リソースが存在しているかどうかを確認してください。リソースの状況を確認してください。

SAMA0503W ドメイン *domain* の自動化モードが *mode1* から *mode2* に変更されました。

説明

自動化モードは、Auto (リソースの自動化) または Manual (リソースのモニターのみ) です。

システムの処置

なし。

オペレーターの応答

自動化モードの変更が意図的なものかどうかを確認してください。

SAMA0504W 自動化ポリシー・プールのロケーション *location* がノード *node* で見つかりませんでした。

説明

使用可能なポリシーのリストを表示しようとしたとき、現在アダプターが実行されているノードでポリシー・プールのロケーションが見つかりませんでした。

システムの処置

アクティブ化のポリシーは提供されません。

オペレーターの応答

構成ダイアログ「cfigsamadapter」を使用して「ポリシー・プールのロケーション」を指定します。これは、アクティブにするための自動化ポリシー・ファイルが保管されているディレクトリーです。そのロケーションからのポリシーがアクティブなポリシーとして示されている場合、ポリシー・プールが置かれているドメイン内の別のノードからアクティブにされている可能性があります。ポリシーがドメイン内のその他すべてのノードにコピーされていることを確認してください。

SAMA0505W 現在のアクティブ・ポリシーのポリシー・ファイル「*policyFile*」が、ポリシー・ファイル・プール「*policyPool*」にありません。

説明

これ以前に、アクティブ・ポリシーは、構成済みポリシー・プールでないパスのファイルから正常にアクティブにされていました。

システムの処置

現在のアクティブ・ポリシーが、ポリシー・プール内のポリシー・リストに追加されていません。

オペレーターの応答

ファイルがアクティブにされている場合、コマンド「*sampolicy -a filename*」を使用してファイルをポリシー・プールに移動し、該当のポリシー・パスからポリシーを再度アクティブにしてください。それ以外の場合は、*cfigsamadapter* を使用して、ポリシー・プール・パスを現在のアクティブ・ポリシーのファイル・パスに訂正してください。

SAMA0610I ユーザー *userid* の代わりに、回復不能エラーからのコマンドのリセット

がリソース *resource* で実行されました。

説明

ユーザーは、自動化によって回復不能のエラーのフラグが設定されたリソースを検出しました。これは、ユーザーがリセットを実行するまでリソースが自動化されないことを意味します。

システムの処置

リソースに対しリセットが実行されました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。IBM System Automation Application Manager エンドツーエンド自動化サーバーを使用して、リソースがエラー状態でないかどうかを確認できます。

SAMA0611I ユーザー *userid* の代わりに、コマンド *request* がリソース *resource* 上でコメント *comment* を指定して実行され、戻りコード *return-code* が戻されました。

説明

リソースの状態変更を要求するコマンドをユーザーが実行しました。指定されたリソース上で、自動化によりこのコマンドが実行されました。

システムの処置

リソースに対してコマンドが実行されました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。IBM System Automation Application Manager エンドツーエンド自動化サーバーを使用して、リソースの状態が変更されたかどうかを確認できます。

SAMA0612I ユーザー *userid* の代わりに、ノード *node* が自動化対象から除外されました。

説明

ユーザーが自動化対象からのノードの除外を要求しました。以下の『システム・アクション』を参照してください。

システムの処置

このノードのリソースが自動化により停止されました。自動化によりドメイン内の他のノードのリソースの再始動が試行されます。

オペレーターの応答

アクションは不要です。IBM System Automation Application Manager エンドツーエンド自動化サーバーを使用して、ドメイン内の他のノードでリソースが再始動されたこと、またはリソースの新しい状態を受け入れ可能であることを検証できます。

SAMA0613I ユーザー *userid* の代わりに、ノード *node* が自動化対象に組み込まれました。

説明

ユーザーが自動化対象へのノードの組み込みを要求しました。以下の『システム・アクション』を参照してください。

システムの処置

ノードが自動化対象に組み込まれると、自動化はノードのリソースの開始を試行します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。IBM System Automation Application Manager エンドツーエンド自動化サーバーを使用して、組み込まれたノードでリソースが自動化されているかどうかを確認できます。

SAMA0614I ノード *node* からリソース・グループ *resource* を移動する要求が実行され、戻りコードは *return-code*、実行したユーザーは *userid*、コメントは *comment* でした。

説明

ユーザーは、リソース・グループを1つ以上のノードから移動する要求を発行しました。コマンドは自動化により実行されます。

システムの処置

リソースに対して移動要求が実行されました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。IBM System Automation Application Manager エンドツーエンド自動化サーバーで、リソースが移動されたかどうかを検証できます。

SAMA0615I リソース・グループ *resource* をノード *node* に移動する要求が実行され、戻りコードは *return-code*、実行したユーザーは *userid*、コメントは *comment* でした。

説明

ユーザーは、リソース・グループを別のノードに移動する要求を発行しました。コマンドは自動化により実行されます。

システムの処置

リソースに対して移動要求が実行されました。

オペレーターの応答

アクションは不要です。IBM System Automation Application Manager エンドツーエンド自動化サーバーで、リソースが移動されたかどうかを検証できます。

SAMA0616I ユーザー *userid* によって、ノード *node* が自動化から除外されました。
コメント: *comment*。

説明

ユーザーが自動化対象からのノードの除外を要求しました。以下の『システム・アクション』を参照してください。

システムの処置

このノードのリソースが自動化により停止されました。自動化によりドメイン内の他のノードのリソースの再始動が試行されます。

オペレーターの応答

アクションは不要です。オペレーション・コンソールを使用して、ドメイン内の他のノードでリソースが再始動されたこと、またはリソースの新しい状態を受け入れ可能であることを検証できます。

SAMA0617I ユーザー *userid* によって、ノード *node* が自動化に組み込まれました。
コメント: *comment*。

説明

ユーザーが自動化対象へのノードの組み込みを要求しました。以下の『システム・アクション』を参照してください。

システムの処置

ノードが自動化対象に組み込まれると、自動化はノードのリソースの開始を試行します。

オペレーターの応答

アクションは不要です。オペレーション・コンソールで、組み込まれたノードでリソースが自動化されているかどうかを確認できます。

IBM Support Assistant の使用

以下は英語のみの対応となります。IBM Support Assistant は、任意のワークステーションにインストールできる、フリーのスタンドアロン・アプリケーションです。IBM Support Assistant を使用することで、製品、サポート、および教育リソースを検索する時間が節約され、問題管理レコード (PMR) または Electronic Tracking Record (ETR) を開く必要がある場合に情報を収集するために役立ちます。これらのレコードは問題の追跡に使用できます。

次に、ご使用の IBM 製品に対応する製品固有のプラグイン・モジュールをインストールして、このアプリケーションを機能強化できます。Tivoli System Automation for Multiplatforms 用の製品固有プラグインは、以下のリソースを提供します。

- サポート・リンク
- 教育リンク
- 問題管理レポートを送信する機能
- トレース収集機能

IBM Support Assistant および Tivoli System Automation for Multiplatforms プラグインのインストール

IBM Support Assistant V 4.1 をインストールするには、以下のステップを実行します。

- IBM Support Assistant Web サイトにアクセスします。

www.ibm.com/software/support/isa/

- ご使用のプラットフォームに対応するインストール・パッケージをダウンロードします。IBM のユーザー ID (例えば、MySupport または developerWorks ユーザー ID) およびパスワードを使用してサインインする必要があることに注意してください。IBM ユーザー ID をお持ちでない場合は、登録処理 (無料) を完了することにより入手できます。
- インストール・パッケージを一時ディレクトリーに解凍します。
- インストール・パッケージに含まれている「*Installation and Troubleshooting Guide*」の指示に従って、IBM Support Assistant をインストールします。

Tivoli System Automation for Multiplatforms のプラグインをインストールするには、以下の手順を実行します。

1. IBM Support Assistant アプリケーションを始動します。IBM Support Assistant は、システムに構成されているデフォルトの Web ブラウザーに表示される Web アプリケーションです。
2. IBM Support Assistant 内の「**アップデーター(Updater)**」タブをクリックします。
3. 「**新規製品およびツール (New Products and Tools)**」タブをクリックします。製品ファミリーごとにプラグイン・モジュールがリストされます。
4. 「**Tivoli**」 > 「**Tivoli Tivoli System Automation for Multiplatforms**」を選択します。
5. インストールする機能を選択し、「**インストール**」をクリックします。ライセンス情報および使用法の説明を必ずお読みください。
6. IBM Support Assistant を再始動します。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation

Mail Station P300

2455 South Road

Poughkeepsie New York 12601-5400

U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

- IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、ibm.com/trademark をご覧ください。
- Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft、Windows、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。
- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の商標または登録商標です。
- Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。
- Red Hat およびすべての Red Hat ベースの商標は、Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。
なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アダプター・メッセージ [261](#)
エラー分析 [12](#)
演算子の優先順位 [139](#)
演算子優先順位 [139](#)

[カ行]

環境変数
 設定 [31](#)
基本データ・タイプ、サポートされる [134](#)
高可用性ポリシー
 生成されるメッセージ [253](#)
構造化データ・タイプ [134](#)
コマンド
 情報収集 [7](#)
 installSAM [52](#)
 rmrgmbr [103](#)
 RSCT [30](#)
 samlog [127](#)

[サ行]

式
 演算子 [136](#)
 使用 [133](#)
 サポートされるパターン・マッチング [141](#)
式でサポートされるパターン・マッチング [141](#)
式で利用できる演算子 [136](#)
式における選択文字列の使用 [133](#)
システム・ログ [4](#)
自動化マネージャー [2](#)
商標 [278](#)
資料 [xi](#)
新機能
 4.1 [xiii](#)
スタック・ダンプ [6](#)

[タ行]

定義済みの式
 変更 [133](#)
定義済みの式の変更 [133](#)
データ・タイプ
 リテラル値に使用される [135](#)
 基本 [134](#)
 構造化 [134](#)
デバッグ・データ [3](#)
電子メール・アドレス [xii](#)
トラブルシューティング [1](#)
トレース・データ [3](#)

[ナ行]

内部リソース状態 [2](#)

[ハ行]

バインド・プログラム [2](#)
ブランク、式における使用 [136](#)
変数名 [136](#)
ポリシー XML リファレンス [141](#)
ポリシー、高可用性
 生成されるメッセージ [253](#)
本ガイドの対象読者 [xi](#)
本ガイドの前提知識 [xi](#)
本書について [xi](#)

[マ行]

メッセージ
 高可用性ポリシーによって生成される [253](#)
 自動化アダプターによって生成される [242](#)
 接頭部 [2621](#) [167](#)
 接頭部 [2622](#) [167](#)
 接頭部 [2661](#) [167](#)
 接頭部 [2662](#) [167](#)
 接頭部 EEZA [242](#)
 接頭部 SAMP [219](#)
 接頭部 SAMS [253](#)
 2621-001 [167](#)
 2621-002 [167](#)
 2621-003 [167](#)
 2621-004 [167](#)
 2621-005 [167](#)
 2621-006 [167](#)
 2621-007 [167](#)
 2621-008 [167](#)
 2621-009 [167](#)
 2621-010 [168](#)
 2621-011 [168](#)
 2621-012 [168](#)
 2621-013 [168](#)
 2621-014 [168](#)
 2621-015 [168](#)
 2621-016 [168](#)
 2621-017 [168](#)
 2621-018 [168](#)
 2621-019 [168](#)
 2621-020 [169](#)
 2621-021 [169](#)
 2621-022 [169](#)
 2621-023 [169](#)
 2621-024 [169](#)
 2621-025 [169](#)
 2621-026 [169](#)
 2621-027 [169](#)
 2621-028 [169](#)
 2621-029 [169](#)

メッセージ (続き)

[2621-030](#) [169](#)
[2621-031](#) [170](#)
[2621-032](#) [170](#)
[2621-050](#) [170](#)
[2621-051](#) [170](#)
[2621-052](#) [170](#)
[2621-053](#) [170](#)
[2621-054](#) [170](#)
[2621-055](#) [170](#)
[2621-056](#) [170](#)
[2621-057](#) [170](#)
[2621-058](#) [171](#)
[2621-059](#) [171](#)
[2621-060](#) [171](#)
[2621-061](#) [171](#)
[2621-062](#) [171](#)
[2621-063](#) [171](#)
[2621-064](#) [171](#)
[2621-065](#) [171](#)
[2621-066](#) [171](#)
[2621-067](#) [171](#)
[2621-068](#) [171](#)
[2621-069](#) [172](#)
[2621-070](#) [172](#)
[2621-071](#) [172](#)
[2621-072](#) [172](#)
[2621-073](#) [172](#)
[2621-074](#) [172](#)
[2621-075](#) [172](#)
[2621-076](#) [172](#)
[2621-077](#) [172](#)
[2621-078](#) [172](#)
[2621-079](#) [173](#)
[2621-101](#) [173](#)
[2621-102](#) [173](#)
[2621-103](#) [173](#)
[2621-104](#) [173](#)
[2621-105](#) [173](#)
[2621-106](#) [173](#)
[2621-107](#) [173](#)
[2621-108](#) [173](#)
[2621-109](#) [173](#)
[2621-110](#) [174](#)
[2621-111](#) [174](#)
[2621-112](#) [174](#)
[2621-113](#) [174](#)
[2621-114](#) [174](#)
[2621-115](#) [174](#)
[2621-116](#) [174](#)
[2621-117](#) [174](#)
[2621-118](#) [174](#)
[2621-119](#) [174](#)
[2621-120](#) [174](#)
[2621-121](#) [174](#)
[2621-122](#) [175](#)
[2621-123](#) [175](#)
[2621-124](#) [175](#)
[2621-125](#) [175](#)
[2621-126](#) [175](#)
[2621-128](#) [175](#)
[2621-150](#) [175](#)
[2621-151](#) [175](#)
[2621-152](#) [175](#)

メッセージ (続き)

[2621-153](#) [175](#)
[2621-154](#) [175](#)
[2621-155](#) [176](#)
[2621-156](#) [176](#)
[2621-157](#) [176](#)
[2621-158](#) [176](#)
[2621-159](#) [176](#)
[2621-160](#) [176](#)
[2621-161](#) [176](#)
[2621-162](#) [176](#)
[2621-163](#) [176](#)
[2621-200](#) [176](#)
[2621-201](#) [176](#)
[2621-202](#) [177](#)
[2621-203](#) [177](#)
[2621-204](#) [177](#)
[2621-205](#) [177](#)
[2621-206](#) [177](#)
[2621-207](#) [177](#)
[2621-208](#) [177](#)
[2621-209](#) [177](#)
[2621-210](#) [177](#)
[2621-211](#) [177](#)
[2621-212](#) [177](#)
[2621-213](#) [177](#)
[2621-214](#) [178](#)
[2621-215](#) [178](#)
[2621-216](#) [178](#)
[2621-217](#) [178](#)
[2621-218](#) [178](#)
[2621-219](#) [178](#)
[2621-300](#) [178](#)
[2621-301](#) [178](#)
[2621-302](#) [178](#)
[2621-303](#) [178](#)
[2621-304](#) [178](#)
[2621-305](#) [178](#)
[2621-306](#) [179](#)
[2621-307](#) [179](#)
[2621-308](#) [179](#)
[2621-309](#) [179](#)
[2621-310](#) [179](#)
[2621-311](#) [179](#)
[2621-312](#) [179](#)
[2621-313](#) [179](#)
[2621-314](#) [179](#)
[2621-315](#) [180](#)
[2621-316](#) [180](#)
[2621-317](#) [180](#)
[2621-318](#) [180](#)
[2621-319](#) [180](#)
[2621-320](#) [180](#)
[2621-321](#) [180](#)
[2621-322](#) [180](#)
[2621-323](#) [181](#)
[2621-324](#) [181](#)
[2621-325](#) [181](#)
[2621-326](#) [181](#)
[2621-327](#) [181](#)
[2621-328](#) [181](#)
[2621-400](#) [184](#)
[2621-401](#) [184](#)
[2621-402](#) [184](#)

メッセージ (続き)

2621-403 [185](#)
 2621-404 [185](#)
 2621-405 [185](#)
 2621-406 [185](#)
 2621-450 [185](#)
 2621-451 [185](#)
 2621-452 [185](#)
 2621-453 [185](#)
 2621-454 [185](#)
 2621-455 [185](#)
 2621-456 [185](#)
 2621-457 [185](#)
 2621-458 [186](#)
 2621-459 [186](#)
 2621-460 [186](#)
 2621-461 [186](#)
 2621-462 [186](#)
 2621-463 [186](#)
 2621-464 [186](#)
 2621-500 [186](#)
 2621-501 [186](#)
 2621-502 [186](#)
 2621-503 [186](#)
 2621-504 [187](#)
 2621-505 [187](#)
 2621-506 [187](#)
 2621-550 [187](#)
 2621-551 [187](#)
 2621-552 [187](#)
 2621-553 [187](#)
 2621-554 [187](#)
 2621-750 [181](#)
 2621-751 [181](#)
 2621-753 [181](#)
 2621-754 [182](#)
 2621-755 [182](#)
 2621-756 [182](#)
 2621-758 [182](#)
 2621-759 [182](#)
 2621-760 [182](#)
 2621-761 [182](#)
 2621-770 [182](#)
 2621-771 [182](#)
 2621-772 [182](#)
 2621-773 [182](#)
 2621-775 [182](#)
 2621-776 [183](#)
 2621-778 [183](#)
 2621-779 [183](#)
 2621-780 [183](#)
 2621-781 [183](#)
 2621-784 [183](#)
 2621-785 [183](#)
 2621-786 [183](#)
 2621-788 [183](#)
 2621-789 [183](#)
 2621-790 [184](#)
 2621-791 [184](#)
 2621-792 [184](#)
 2621-793 [184](#)
 2621-794 [184](#)
 2621-795 [184](#)
 2621-796 [184](#)

メッセージ (続き)

2622-001 [188](#)
 2622-002 [188](#)
 2622-003 [188](#)
 2622-004 [188](#)
 2622-005 [188](#)
 2622-006 [188](#)
 2622-007 [188](#)
 2622-008 [188](#)
 2622-009 [188](#)
 2622-010 [188](#)
 2622-011 [188](#)
 2622-012 [189](#)
 2622-013 [189](#)
 2622-014 [189](#)
 2622-015 [189](#)
 2622-016 [189](#)
 2622-017 [189](#)
 2622-018 [189](#)
 2622-019 [189](#)
 2622-020 [189](#)
 2622-021 [189](#)
 2622-022 [189](#)
 2622-023 [189](#)
 2622-024 [190](#)
 2622-025 [190](#)
 2622-026 [190](#)
 2622-027 [190](#)
 2622-028 [190](#)
 2622-029 [190](#)
 2622-030 [190](#)
 2622-031 [190](#)
 2622-032 [190](#)
 2622-033 [190](#)
 2622-034 [190](#)
 2622-035 [191](#)
 2622-036 [191](#)
 2622-037 [191](#)
 2622-038 [191](#)
 2622-039 [191](#)
 2622-040 [191](#)
 2622-041 [191](#)
 2622-042 [191](#)
 2622-061 [191](#)
 2622-062 [191](#)
 2622-063 [191](#)
 2622-081 [191](#)
 2622-082 [192](#)
 2622-083 [192](#)
 2622-101 [192](#)
 2622-102 [192](#)
 2622-103 [192](#)
 2622-104 [192](#)
 2622-105 [192](#)
 2622-106 [192](#)
 2622-107 [192](#)
 2622-108 [193](#)
 2622-109 [193](#)
 2622-110 [193](#)
 2622-111 [193](#)
 2622-112 [193](#)
 2622-113 [193](#)
 2622-121 [193](#)
 2622-122 [193](#)

メッセージ (続き)

[2622-123](#) [193](#)
[2622-124](#) [193](#)
[2622-125](#) [193](#)
[2622-126](#) [193](#)
[2622-127](#) [194](#)
[2622-128](#) [194](#)
[2622-141](#) [194](#)
[2622-142](#) [194](#)
[2622-161](#) [194](#)
[2622-162](#) [194](#)
[2622-163](#) [194](#)
[2622-164](#) [194](#)
[2622-165](#) [194](#)
[2622-166](#) [194](#)
[2622-167](#) [194](#)
[2622-168](#) [194](#)
[2622-169](#) [195](#)
[2622-170](#) [195](#)
[2622-171](#) [195](#)
[2622-172](#) [195](#)
[2622-181](#) [195](#)
[2622-182](#) [195](#)
[2622-183](#) [195](#)
[2622-184](#) [195](#)
[2622-185](#) [195](#)
[2622-186](#) [195](#)
[2622-187](#) [195](#)
[2622-188](#) [195](#)
[2622-189](#) [196](#)
[2622-190](#) [196](#)
[2622-191](#) [196](#)
[2622-201](#) [196](#)
[2622-202](#) [196](#)
[2622-203](#) [196](#)
[2622-204](#) [196](#)
[2622-205](#) [196](#)
[2622-206](#) [196](#)
[2622-207](#) [196](#)
[2622-208](#) [196](#)
[2622-209](#) [196](#)
[2622-210](#) [197](#)
[2622-211](#) [197](#)
[2622-212](#) [197](#)
[2622-213](#) [197](#)
[2622-214](#) [197](#)
[2622-221](#) [197](#)
[2622-222](#) [197](#)
[2622-223](#) [197](#)
[2622-224](#) [197](#)
[2622-225](#) [197](#)
[2622-226](#) [197](#)
[2622-227](#) [197](#)
[2622-228](#) [197](#)
[2622-229](#) [198](#)
[2622-261](#) [198](#)
[2622-262](#) [198](#)
[2622-263](#) [198](#)
[2622-264](#) [198](#)
[2622-265](#) [198](#)
[2622-266](#) [198](#)
[2622-267](#) [198](#)
[2622-268](#) [198](#)
[2622-269](#) [198](#)

メッセージ (続き)

[2622-270](#) [198](#)
[2622-271](#) [198](#)
[2622-272](#) [199](#)
[2622-273](#) [199](#)
[2622-281](#) [199](#)
[2622-282](#) [199](#)
[2622-283](#) [199](#)
[2622-284](#) [199](#)
[2622-285](#) [199](#)
[2622-286](#) [199](#)
[2622-287](#) [199](#)
[2622-301](#) [199](#)
[2622-302](#) [199](#)
[2622-303](#) [200](#)
[2622-304](#) [200](#)
[2622-305](#) [200](#)
[2622-306](#) [200](#)
[2622-307](#) [200](#)
[2622-308](#) [200](#)
[2622-321](#) [200](#)
[2622-322](#) [200](#)
[2622-323](#) [200](#)
[2622-341](#) [200](#)
[2622-342](#) [200](#)
[2622-343](#) [200](#)
[2622-344](#) [201](#)
[2622-345](#) [201](#)
[2622-346](#) [201](#)
[2622-347](#) [201](#)
[2622-348](#) [201](#)
[2622-349](#) [201](#)
[2622-361](#) [201](#)
[2622-362](#) [201](#)
[2622-363](#) [201](#)
[2622-381](#) [201](#)
[2622-401](#) [201](#)
[2622-402](#) [201](#)
[2622-403](#) [201](#)
[2622-421](#) [202](#)
[2622-422](#) [202](#)
[2622-423](#) [202](#)
[2622-424](#) [202](#)
[2622-425](#) [202](#)
[2622-426](#) [202](#)
[2622-427](#) [202](#)
[2622-428](#) [202](#)
[2622-429](#) [202](#)
[2622-441](#) [202](#)
[2622-442](#) [202](#)
[2622-443](#) [202](#)
[2622-444](#) [203](#)
[2622-445](#) [203](#)
[2622-446](#) [203](#)
[2622-461](#) [203](#)
[2622-462](#) [203](#)
[2622-463](#) [203](#)
[2622-481](#) [203](#)
[2622-482](#) [203](#)
[2622-483](#) [203](#)
[2622-484](#) [203](#)
[2622-485](#) [203](#)
[2622-486](#) [204](#)
[2622-501](#) [204](#)

メッセージ (続き)

2622-502 [204](#)
 2622-503 [204](#)
 2622-519 [204](#)
 2622-521 [204](#)
 2622-522 [204](#)
 2622-523 [204](#)
 2622-524 [204](#)
 2622-525 [204](#)
 2622-526 [205](#)
 2622-541 [205](#)
 2622-561 [205](#)
 2622-562 [205](#)
 2622-572 [205](#)
 2622-573 [205](#)
 2622-574 [205](#)
 2622-575 [205](#)
 2622-576 [205](#)
 2622-577 [205](#)
 2622-578 [205](#)
 2622-579 [206](#)
 2622-580 [206](#)
 2622-581 [206](#)
 2622-582 [206](#)
 2622-583 [206](#)
 2622-584 [206](#)
 2622-585 [206](#)
 2622-591 [206](#)
 2622-592 [206](#)
 2622-593 [206](#)
 2622-594 [206](#)
 2622-595 [206](#)
 2622-596 [206](#)
 2622-597 [207](#)
 2622-611 [207](#)
 2622-612 [207](#)
 2622-613 [207](#)
 2622-614 [207](#)
 2622-615 [207](#)
 2622-616 [207](#)
 2622-617 [207](#)
 2622-618 [207](#)
 2622-901 [207](#)
 2622-902 [207](#)
 2622-903 [208](#)
 2622-904 [208](#)
 2622-905 [208](#)
 2622-906 [208](#)
 2622-907 [208](#)
 2622-908 [208](#)
 2622-909 [208](#)
 2622-910 [208](#)
 2622-911 [208](#)
 2622-912 [208](#)
 2622-913 [209](#)
 2622-914 [209](#)
 2622-915 [209](#)
 2622-916 [209](#)
 2622-917 [209](#)
 2622-918 [209](#)
 2661-001 [209](#)
 2661-002 [209](#)
 2661-003 [209](#)
 2661-004 [209](#)

メッセージ (続き)

2661-005 [210](#)
 2661-006 [210](#)
 2661-007 [210](#)
 2661-008 [210](#)
 2661-009 [210](#)
 2661-010 [210](#)
 2661-011 [210](#)
 2661-012 [210](#)
 2661-013 [211](#)
 2661-014 [211](#)
 2661-015 [211](#)
 2661-016 [211](#)
 2661-017 [211](#)
 2661-018 [211](#)
 2661-019 [211](#)
 2661-020 [212](#)
 2661-021 [212](#)
 2661-022 [212](#)
 2661-023 [212](#)
 2661-024 [212](#)
 2661-025 [212](#)
 2661-026 [212](#)
 2661-027 [212](#)
 2661-028 [212](#)
 2661-029 [213](#)
 2661-030 [213](#)
 2661-031 [213](#)
 2661-032 [213](#)
 2661-033 [213](#)
 2661-034 [213](#)
 2661-035 [213](#)
 2661-036 [214](#)
 2661-037 [214](#)
 2661-038 [214](#)
 2661-039 [214](#)
 2661-040 [214](#)
 2661-041 [214](#)
 2661-042 [214](#)
 2661-043 [214](#)
 2661-044 [215](#)
 2661-045 [215](#)
 2661-046 [215](#)
 2661-047 [215](#)
 2661-048 [215](#)
 2661-049 [215](#)
 2661-050 [215](#)
 2661-051 [215](#)
 2661-052 [215](#)
 2661-053 [215](#)
 2661-054 [216](#)
 2661-055 [216](#)
 2661-056 [216](#)
 2661-057 [216](#)
 2662-001 [216](#)
 2662-002 [216](#)
 2662-003 [216](#)
 2662-004 [216](#)
 2662-005 [216](#)
 2662-006 [216](#)
 2662-007 [216](#)
 2662-008 [217](#)
 2662-009 [217](#)
 2662-010 [217](#)

メッセージ (続き)

[2662-011](#) [217](#)
[2662-012](#) [217](#)
[2662-013](#) [217](#)
[2662-014](#) [217](#)
[2662-015](#) [217](#)
[2662-016](#) [217](#)
[2662-017](#) [217](#)
[2662-018](#) [217](#)
[2662-019](#) [217](#)
[2662-020](#) [218](#)
[2662-021](#) [218](#)
[2662-022](#) [218](#)
[2662-023](#) [218](#)
[2662-024](#) [218](#)
[2662-025](#) [218](#)
[EEZA0001E](#) [242](#)
[EEZA0002E](#) [243](#)
[EEZA0003E](#) [243](#)
[EEZA0004E](#) [243](#)
[EEZA0006E](#) [243](#)
[EEZA0007E](#) [243](#)
[EEZA0008E](#) [243](#)
[EEZA0009E](#) [243](#)
[EEZA0010E](#) [244](#)
[EEZA0011E](#) [244](#)
[EEZA0012E](#) [244](#)
[EEZA0013E](#) [244](#)
[EEZA0014E](#) [244](#)
[EEZA0015E](#) [244](#)
[EEZA0017E](#) [245](#)
[EEZA0022E](#) [245](#)
[EEZA0023E](#) [245](#)
[EEZA0024E](#) [245](#)
[EEZA0025E](#) [245](#)
[EEZA0026E](#) [245](#)
[EEZA0027E](#) [245](#)
[EEZA0028E](#) [246](#)
[EEZA0029E](#) [246](#)
[EEZA0030E](#) [246](#)
[EEZA0031E](#) [246](#)
[EEZA0032E](#) [246](#)
[EEZA0033E](#) [246](#)
[EEZA0036E](#) [246](#)
[EEZA0037E](#) [247](#)
[EEZA0038E](#) [247](#)
[EEZA0039E](#) [247](#)
[EEZA0040E](#) [247](#)
[EEZA0041E](#) [247](#)
[EEZA0042E](#) [247](#)
[EEZA0043E](#) [248](#)
[EEZA0045E](#) [248](#)
[EEZA0047E](#) [248](#)
[EEZA0051W](#) [248](#)
[EEZA0052E](#) [248](#)
[EEZA0053E](#) [248](#)
[EEZA0055E](#) [249](#)
[EEZA0056I](#) [249](#)
[EEZA0057E](#) [249](#)
[EEZA0058E](#) [249](#)
[EEZA0059E](#) [249](#)
[EEZA0060I](#) [249](#)
[EEZA0061E](#) [250](#)
[EEZA0062I](#) [250](#)

メッセージ (続き)

[EEZA0063I](#) [250](#)
[EEZA0064I](#) [250](#)
[EEZA0070E](#) [250](#)
[EEZA0071E](#) [250](#)
[EEZA0100I](#) [250](#)
[EEZA0101I](#) [251](#)
[EEZA0102I](#) [251](#)
[EEZA0103I](#) [251](#)
[EEZA0104I](#) [251](#)
[EEZA0105I](#) [251](#)
[EEZA0111I](#) [251](#)
[EEZA0112I](#) [252](#)
[EEZA0113I](#) [252](#)
[EEZA0114I](#) [252](#)
[EEZA0115I](#) [252](#)
[EEZA0116I](#) [252](#)
[EEZA9991E](#) [252](#)
[EEZA9992E](#) [252](#)
[SAMA0001E](#) [261](#)
[SAMA0002E](#) [261](#)
[SAMA0003E](#) [262](#)
[SAMA0004E](#) [262](#)
[SAMA0005E](#) [262](#)
[SAMA0006E](#) [262](#)
[SAMA0007E](#) [262](#)
[SAMA0008E](#) [263](#)
[SAMA0010E](#) [263](#)
[SAMA0011E](#) [263](#)
[SAMA0013E](#) [263](#)
[SAMA0016E](#) [263](#)
[SAMA0018E](#) [263](#)
[SAMA0019E](#) [263](#)
[SAMA0020E](#) [264](#)
[SAMA0022E](#) [264](#)
[SAMA0023E](#) [264](#)
[SAMA0024E](#) [264](#)
[SAMA0025E](#) [264](#)
[SAMA0026E](#) [264](#)
[SAMA0027E](#) [265](#)
[SAMA0028E](#) [265](#)
[SAMA0029E](#) [265](#)
[SAMA0033E](#) [265](#)
[SAMA0034E](#) [265](#)
[SAMA0035E](#) [265](#)
[SAMA0036E](#) [266](#)
[SAMA0037E](#) [266](#)
[SAMA0038E](#) [266](#)
[SAMA0039E](#) [266](#)
[SAMA0040E](#) [266](#)
[SAMA0041E](#) [266](#)
[SAMA0042E](#) [267](#)
[SAMA0043E](#) [267](#)
[SAMA0044E](#) [267](#)
[SAMA0045E](#) [267](#)
[SAMA0046E](#) [267](#)
[SAMA0047E](#) [267](#)
[SAMA0048E](#) [268](#)
[SAMA0049E](#) [268](#)
[SAMA0050E](#) [268](#)
[SAMA0051E](#) [268](#)
[SAMA0052E](#) [268](#)
[SAMA0053E](#) [269](#)
[SAMA0054E](#) [269](#)

メッセージ (続き)

[SAMA0055E 269](#)
[SAMA0056E 269](#)
[SAMA0057E 269](#)
[SAMA0058E 269](#)
[SAMA0059E 270](#)
[SAMA0060E 270](#)
[SAMA0061E 270](#)
[SAMA0062E 270](#)
[SAMA0063E 270](#)
[SAMA0064E 270](#)
[SAMA0065E 271](#)
[SAMA0066E 271](#)
[SAMA0500W 271](#)
[SAMA0501W 271](#)
[SAMA0502W 271](#)
[SAMA0503W 271](#)
[SAMA0504W 272](#)
[SAMA0505W 272](#)
[SAMA0610I 272](#)
[SAMA0611I 272](#)
[SAMA0612I 272](#)
[SAMA0613I 273](#)
[SAMA0614I 273](#)
[SAMA0615I 273](#)
[SAMA0616I 273](#)
[SAMA0617I 273](#)
[SAMP0001E 219](#)
[SAMP0002E 219](#)
[SAMP0003E 219](#)
[SAMP0004E 219](#)
[SAMP0005E 219](#)
[SAMP0006E 219](#)
[SAMP0007E 220](#)
[SAMP0008E 220](#)
[SAMP0009E 220](#)
[SAMP0010E 220](#)
[SAMP0011E 220](#)
[SAMP0012E 220](#)
[SAMP0013E 220](#)
[SAMP0014E 221](#)
[SAMP0015E 221](#)
[SAMP0016E 221](#)
[SAMP0017E 221](#)
[SAMP0018E 221](#)
[SAMP0019E 221](#)
[SAMP0020E 221](#)
[SAMP0021E 222](#)
[SAMP0022E 222](#)
[SAMP0023E 222](#)
[SAMP0024E 222](#)
[SAMP0025E 222](#)
[SAMP0026E 222](#)
[SAMP0027E 223](#)
[SAMP0028E 223](#)
[SAMP0029E 223](#)
[SAMP0030E 223](#)
[SAMP0031E 223](#)
[SAMP0032E 223](#)
[SAMP0033E 224](#)
[SAMP0034E 224](#)
[SAMP0035E 224](#)
[SAMP0036E 224](#)
[SAMP0037E 224](#)

メッセージ (続き)

[SAMP0038E 224](#)
[SAMP0039E 225](#)
[SAMP0040E 225](#)
[SAMP0041E 225](#)
[SAMP0042E 225](#)
[SAMP0043E 225](#)
[SAMP0044E 225](#)
[SAMP0045E 225](#)
[SAMP0046E 226](#)
[SAMP0047E 226](#)
[SAMP0048E 226](#)
[SAMP0049E 226](#)
[SAMP0050E 226](#)
[SAMP0051E 226](#)
[SAMP0052E 227](#)
[SAMP0053E 227](#)
[SAMP0054E 227](#)
[SAMP0055E 227](#)
[SAMP0056E 227](#)
[SAMP0057E 228](#)
[SAMP0058E 228](#)
[SAMP0059E 228](#)
[SAMP0060E 228](#)
[SAMP0061E 228](#)
[SAMP0062E 229](#)
[SAMP0063E 229](#)
[SAMP0064E 229](#)
[SAMP0065E 229](#)
[SAMP0066E 229](#)
[SAMP0067E 229](#)
[SAMP0068E 230](#)
[SAMP0070E 230](#)
[SAMP0071E 230](#)
[SAMP0072E 230](#)
[SAMP0073E 230](#)
[SAMP0074E 230](#)
[SAMP0075E 231](#)
[SAMP0076E 231](#)
[SAMP0077E 231](#)
[SAMP0078E 231](#)
[SAMP0079E 231](#)
[SAMP0080E 231](#)
[SAMP0081E 232](#)
[SAMP0082E 232](#)
[SAMP0083E 232](#)
[SAMP0084E 232](#)
[SAMP0085E 232](#)
[SAMP0086E 232](#)
[SAMP0087E 233](#)
[SAMP0088E 233](#)
[SAMP0089E 233](#)
[SAMP0090E 233](#)
[SAMP0091E 233](#)
[SAMP0092E 233](#)
[SAMP0093E 234](#)
[SAMP0094E 234](#)
[SAMP0095E 234](#)
[SAMP0096E 234](#)
[SAMP0097E 234](#)
[SAMP0098E 234](#)
[SAMP0099E 235](#)
[SAMP0100E 235](#)
[SAMP0101E 235](#)

メッセージ (続き)

[SAMP0102E](#) [235](#)
[SAMP0103E](#) [235](#)
[SAMP0104E](#) [236](#)
[SAMP0105E](#) [236](#)
[SAMP0106E](#) [236](#)
[SAMP0107E](#) [236](#)
[SAMP0500W](#) [236](#)
[SAMP0501W](#) [237](#)
[SAMP0502W](#) [237](#)
[SAMP0503W](#) [237](#)
[SAMP0504W](#) [237](#)
[SAMP0505W](#) [237](#)
[SAMP0506W](#) [238](#)
[SAMP0507W](#) [238](#)
[SAMP0508W](#) [238](#)
[SAMP0509W](#) [238](#)
[SAMP0510W](#) [238](#)
[SAMP0511W](#) [238](#)
[SAMP0512W](#) [239](#)
[SAMP0513W](#) [239](#)
[SAMP0514W](#) [239](#)
[SAMP1000I](#) [239](#)
[SAMP1001I](#) [239](#)
[SAMP1002I](#) [240](#)
[SAMP1003I](#) [240](#)
[SAMP1004I](#) [240](#)
[SAMP1005I](#) [240](#)
[SAMP1006I](#) [240](#)
[SAMP1007I](#) [240](#)
[SAMP1008I](#) [240](#)
[SAMP1009I](#) [240](#)
[SAMP1010I](#) [241](#)
[SAMP1011I](#) [241](#)
[SAMP1100I](#) [241](#)
[SAMP1101I](#) [241](#)
[SAMP1102I](#) [241](#)
[SAMP1103I](#) [241](#)
[SAMP1104I](#) [241](#)
[SAMP1105I](#) [241](#)
[SAMP1106I](#) [241](#)
[SAMP1107I](#) [242](#)
[SAMP1108I](#) [242](#)
[SAMP1109I](#) [242](#)
[SAMP1110I](#) [242](#)
[SAMP1111I](#) [242](#)
[SAMP1112I](#) [242](#)
sampolicy によって生成される [219](#)
[SAMS0001E](#) [253](#)
[SAMS0002E](#) [253](#)
[SAMS0003E](#) [253](#)
[SAMS0004E](#) [253](#)
[SAMS0005E](#) [253](#)
[SAMS0006E](#) [253](#)
[SAMS0007E](#) [253](#)
[SAMS0008E](#) [254](#)
[SAMS0009E](#) [254](#)
[SAMS0010E](#) [254](#)
[SAMS0011E](#) [254](#)
[SAMS0012E](#) [254](#)
[SAMS0013E](#) [254](#)
[SAMS0014E](#) [254](#)
[SAMS0015E](#) [254](#)
[SAMS0016E](#) [255](#)

メッセージ (続き)

[SAMS0017I](#) [255](#)
[SAMS0018I](#) [255](#)
[SAMS1001I](#) [255](#)
[SAMS1002E](#) [255](#)
[SAMS1003I](#) [255](#)
[SAMS1004E](#) [255](#)
[SAMS1005E](#) [255](#)
[SAMS1006E](#) [255](#)
[SAMS1007I](#) [256](#)
[SAMS1008E](#) [256](#)
[SAMS1009I](#) [256](#)
[SAMS1010E](#) [256](#)
[SAMS1011I](#) [256](#)
[SAMS1012I](#) [256](#)
[SAMS1013E](#) [256](#)
[SAMS1014E](#) [256](#)
[SAMS1015E](#) [256](#)
[SAMS1201I](#) [257](#)
[SAMS1202I](#) [257](#)
[SAMS1203I](#) [257](#)
[SAMS1204I](#) [257](#)
[SAMS1205I](#) [257](#)
[SAMS1207I](#) [257](#)
[SAMS1208I](#) [257](#)
[SAMS1209I](#) [257](#)
[SAMS1210I](#) [257](#)
[SAMS1211I](#) [258](#)
[SAMS1212I](#) [258](#)
[SAMS1213I](#) [258](#)
[SAMS1214I](#) [258](#)
[SAMS1215I](#) [258](#)
[SAMS1216I](#) [258](#)
[SAMS1251E](#) [258](#)
[SAMS1252E](#) [258](#)
[SAMS1253E](#) [258](#)
[SAMS1301I](#) [258](#)
[SAMS1302I](#) [259](#)
[SAMS1303W](#) [259](#)
[SAMS1304W](#) [259](#)
[SAMS1305I](#) [259](#)
[SAMS1306I](#) [259](#)
[SAMS1307I](#) [259](#)
[SAMS1308I](#) [259](#)
[SAMS1309W](#) [259](#)
[SAMS1310I](#) [259](#)
[SAMS1311I](#) [260](#)
[SAMS1312I](#) [260](#)
[SAMS1313I](#) [260](#)
[SAMS1351E](#) [260](#)
[SAMS1352E](#) [260](#)
[SAMS1401E](#) [260](#)
[SAMS1401I](#) [260](#)
[SAMS1402E](#) [260](#)
[SAMS1402I](#) [260](#)
[SAMS1403E](#) [261](#)
[SAMS1403I](#) [261](#)
[SAMS1404E](#) [261](#)
[SAMS1404I](#) [261](#)

文字列の選択 [133](#)
問題分析 [16](#)

[ラ行]

論理デック [2](#)

A

addrgmbr [32](#)
AutomationPolicy [145](#)
AutomationPolicyTemplate XML エレメント [143](#)

C

cfigsamadapter [35](#)
chequ [37](#)
chrel [40](#)
chrg [46](#)
chrgmbr [48](#)
ConcurrentGroup XML エレメント [149](#)
ConstituentResource XML エレメント [150](#)
ControlInformation XML エレメント [147](#)

D

Description XML エレメント [163](#)

E

Equivalency XML エレメント [154](#)

I

IBM.AgFileSystem
作成 [23](#)
IBM.AgFileSystemAttributes XML エレメント [156](#)
IBM.Application
リソース [23](#)
IBM.ServiceIP XML エレメント [159](#)
IBM.Test [160](#)
IBM.TieBreaker XML エレメント [160](#)
include XML エレメント [145](#)
InfoLink XML エレメント [163](#)
installSAM [52](#)
installSAM コマンド [52](#)
ISO 9000 [xii](#)

L

lsequ [54](#)
lsrel [57](#)
lsrg [62](#)
lsrgreq [67](#)
lssam [70](#)
lssamctrl [74](#)

M

Members XML エレメント [162](#)
mkequ [76](#)
mkrel [80](#)
mkrq [84](#)
MoveGroup XML エレメント [148](#)

O

Owner XML エレメント [163](#)

P

pidmon [87](#)
PolicyInformation XML エレメント [146](#)
prereqSAM [89](#)

R

Relationship XML エレメント [152](#)
Resource XML エレメント [148](#)
ResourceGroup XML エレメント [151](#)
ResourceReference XML エレメント [155](#)
rgmbrreq [90](#)
rgreq [93](#)
rmequ [96](#)
rmrel [97](#)
rmrg [101](#)
rmrgmbr [103](#)
rmrgmbrg コマンド [103](#)
RSCT
関連情報 [xii](#)
RSCT コマンド [30](#)

S

samadapter [106](#)
samcc [107](#)
samctrl [111](#)
samdiag [114](#)
samlicm [116](#)
samlog [118](#)
samlog コマンド [127](#)
samnonrootuser [131](#)
sampolicy [122](#)
samsimul [125](#)
samwhy [127](#)
setupAdapterNonRoot.sh [128](#)
SQL
制約事項 [134](#)
SQL 構文 [133](#)

U

uninstallSAM [132](#)

V

var XML エレメント [144](#)

X

xDR メッセージ [261](#)
XML
特殊文字 [143](#)
XML エレメント
IBM.ApplicationAttributes [157](#)
関係 [152](#)
グループの移動 [148](#)

XML エレメント (続き)

製品バージョン別の使用可能性 [141](#)

説明 [163](#)

同値 [154](#)

リソース [148](#)

リソース・グループ [151](#)

AutomationPolicyTemplate [143](#)

ConcurrentGroup [149](#)

ConstituentResource [150](#)

ControlInformation [147](#)

IBM.AgFileSystemAttributes [156](#)

IBM.ServiceIP [159](#)

IBM.TieBreaker [160](#)

include [145](#)

InfoLink [163](#)

Members [162](#)

Owner [163](#)

PolicyInformation [146](#)

ResourceReference [155](#)

var [144](#)

XML ポリシー

コーディング [141](#)

例 [164](#)

[特殊文字]

強調表示 [xi](#)

IBM.Application XML エレメント [157](#)



部品番号:
プログラム番号: 5724-M00

SA88-7251-05



(1P) P/N: